# 首 里 城 跡

一京の内跡発掘調査報告書(V)ー 平成6年度調査の遺物編(2)

平成26(2014)年 3月 沖縄県立埋蔵文化財センター

首里城跡は、500 有余年に亘って琉球王国の王城として、沖縄の歴史・文化の中心的な核となって、個性豊かな沖縄の歴史と文化の礎を築き上げてきたグスクであると同時に沖縄独自の建築技術や石積みなどの土木技術の粋を集めて完成された県内最大規模のグスクでありましたが、昭和 20 年の太平洋戦争末期に起きた沖縄戦による戦過で旧国宝(昭和8年1月23日指定)であった首里城正殿、歓会門、瑞泉門、白銀門などの多くの建造物や城壁の石積みはことごとく破壊され、消失しました。戦災で灰燼に帰した首里城跡には、琉球大学が昭和25年に創設されますが、当時の琉球政府文化財保護委員会によって昭和30年11月29日付で首里城跡は、史跡に指定されます。その後、本土復帰の昭和47年5月15日に国指定の史跡として指定されています。

県民の首里城復元に対する熱い期待と要請により昭和 60 年度から沖縄開発庁(現:内閣府)、建設省(現:国土交通省)、文部省(現:文部科学省)の三機関からの助言や補助を得ながら、沖縄県によって首里城跡の復元整備事業が開始され古都首里城の歴史的風土にふさわしい区域として位置付け、今日まで継続的に内閣府沖縄総合事務局沖縄記念公園事務所からの受託による遺構確認調査が進められています。

首里城跡の復元整備の中で、平成4年度には首里城正殿の復元と北殿、南殿、奉神門などの施設が再建され、在りし日の姿(1712 年に再建された首里城)を現在に写し出す形で首里城公園として一部公開されています。その後、平成 11 年に白銀門、平成 12 年が系図座・用物座及び二階御殿、平成 15 年には京の内、平成 19 年が書院・鎖之間などの新たな建造物群が復元されました。特に書院・鎖之間については、平成 21 年7月 23 日付で国の名勝として指定されています。その間、平成 12 年 12 月 2 日には首里城跡を含む9資産がユネスコ世界遺産条約に基づき「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として、「世界遺産」(文化遺産)に登録されています。

本書に収録された首里城の「京の内」と称された区域は、正殿、北殿、南殿、奉神門の存在する政治的建造物空間が集中する区域とは離れた内郭の南西地域にあります。京の内には、文献や伝承に拠ると首里城築城以前に古いグスクがあった場所としても考えられています。琉球王国時代は、聖域的空間として国王即位の儀式をはじめ琉球王国の重要な儀式や祭祀がおこなわれた空間として位置付けられています。

このような中で、「京の内」跡の復元整備事業に必要となる京の内の位置確認と規模、そして、遺構の変遷などを解明する目的で平成6年度から平成9年度まで継続的に発掘調査が沖縄県教育委員会によって実施されました。特に平成6年度の調査では、1459年の火災で消失した倉庫跡が発見され、当時の琉球王国の海外交易によって将来された中国をはじめとする東南アジア(タイ、ベトナム)、本土を含めた各地域の陶磁器1,162個体と、多くの金属製品やガラス製品が確認されました。これらの陶磁器類は、平成12年6月27日付で国の重要文化財(考古資料の部)「沖縄県首里城京の内跡出土陶磁器518点」として戦前・戦後をとおして、沖縄県ではじめて指定されました。

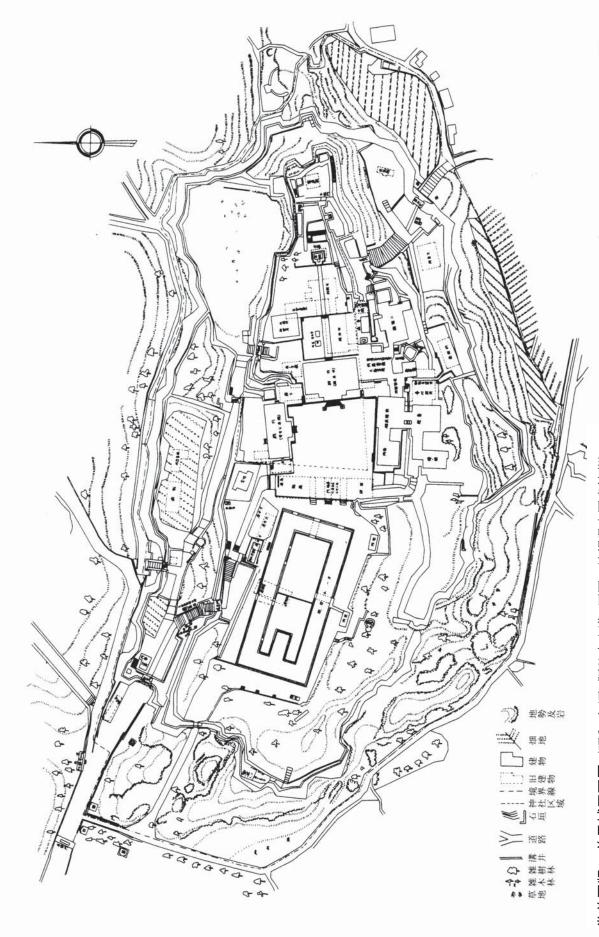
さて、今回の報告書に掲載した内容は、平成22年度に報告した平成6年度調査の遺構編に続くものであります。平成6年度の調査で検出された各種の遺構に伴って出土した陶磁器などから遺構の構築された時期を時期毎に整理し、第 I期(14世紀前半~14世紀後半)から第VI期(19世紀終末~昭和58年)までの6時期に時間軸を設定して報告をおこないます。平成23年度は、第 I期から第Ⅲ期(15世紀中頃)までの遺構に伴う出土品について報告をおこないました。平成25年度は第Ⅳ期(15世紀後半~16世紀初頭)~第 V期(16世紀前半~19世紀後半)までの二時期について報告をします。陶磁器などの出土品は、構築された遺構の時代を相対的に決定する事のできる重要な資料であると同時に祭祀空間であった京の内の性格を理解する上で欠くことのできない中国華南彩釉陶器や青磁茶托などが出土しています。本書が首里城跡の城郭研究や考古学、民俗学、歴史の各研究分野に寄与することができれば幸いに存じます。

末尾ながら内閣府沖縄総合事務局沖縄記念公園事務所首里出張所をはじめとする関係機関、並びに発掘調査や遺構の解釈および出土品の分析指導にご協力をいただきました関係各位には、深く敬意を表すとともに心より厚く御礼申し上げます。

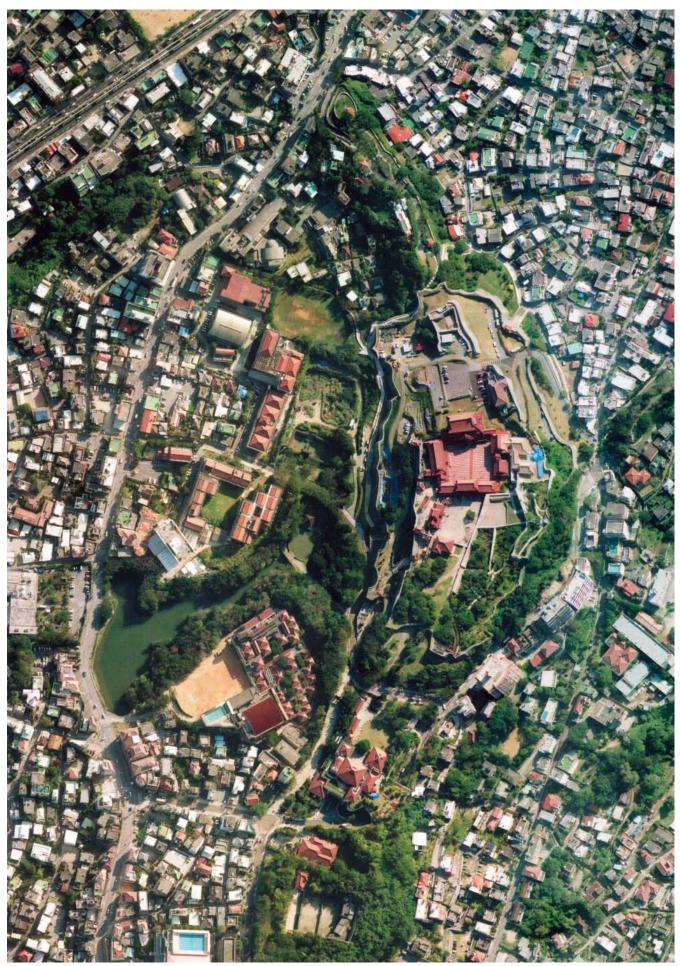
平成 26 年 3月



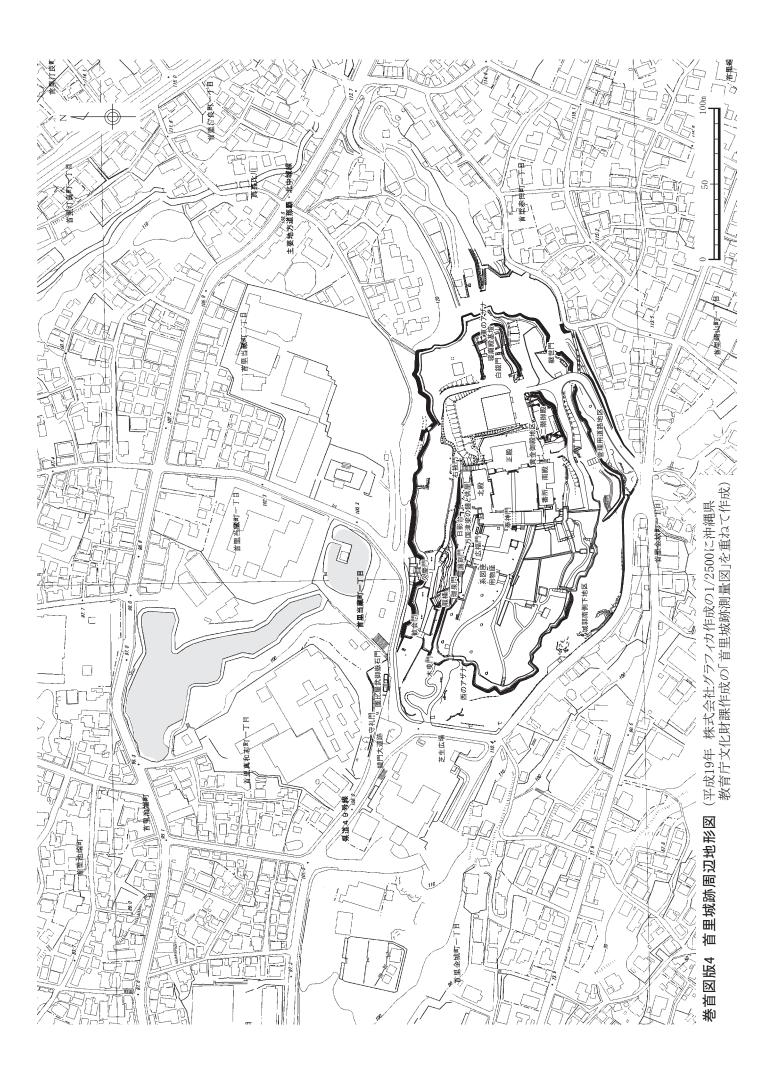
巻首図版1 1945年4月2日 米軍撮影(CV20-103-63)の首里城周辺 (沖縄県教育委員会 文化財課 史料編集班 所蔵)



巻首図版2 首里城平面図(昭和6年頃 阪谷良之進 原図、沖縄県立図書館蔵)



巻首図版3 2009年 首里城跡の航空写真 (「首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅲ)-」2011年3月より複写掲載)









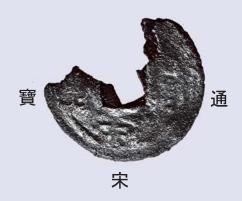


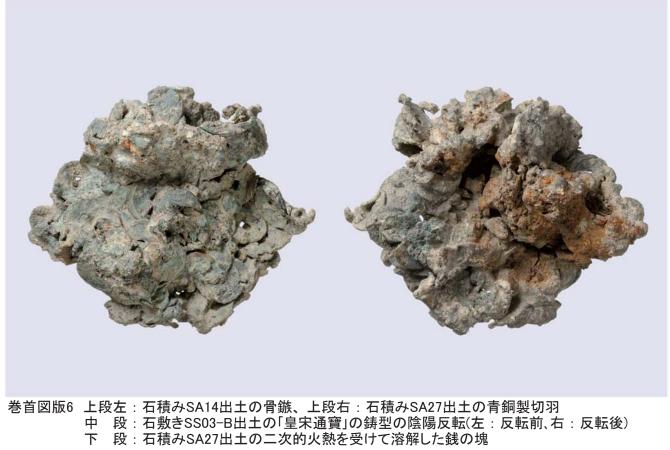
巻首図版5 上段左:石積みSA04出土の青磁雷文帯碗 上段右:石積みSA14出土の茶托(上)・石積みSA04出土の茶托(下) 下段左:石積みSA27出土の「顧氏」名入り青磁皿、下段右:石敷きSS03-B出土の凝灰岩製砥石







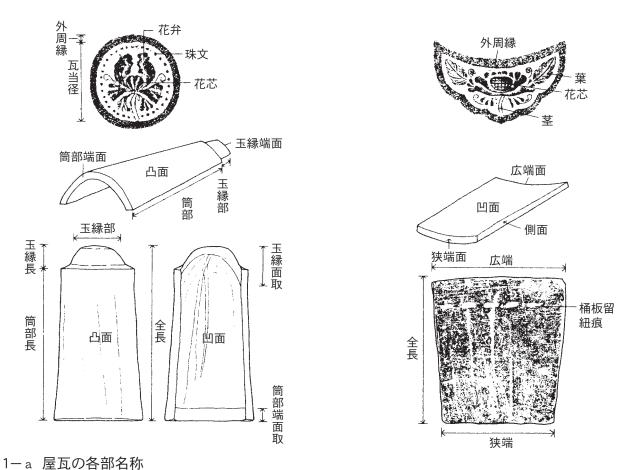




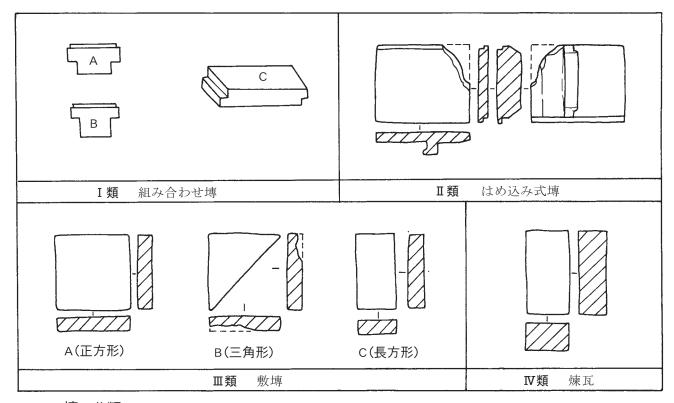
## 例 言

- 1 本事業は、国営首里城公園整備事業に伴うもので内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所からの委託 (受託) を受けて沖縄県教育委員会が実施したものである。なお、発掘調査事業の総括及び業務調整等は所管課の沖縄県教育庁文化財課が行い、発掘調査及び資料整理等については沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 2 本報告書は、平成6年度に実施した国営首里城公園(約4ha)の京の内北側地区(調査面積約2,000 ㎡)で検出された遺構を整理して、平成22年度に「首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(Ⅲ) 平成6年度調査の遺構編」を、平成23年度には「首里城跡 京の内跡発掘調査報告書(Ⅳ) 平成6年度調査の遺物編(1)」を刊行した。今回の報告は、平成22年度報告の遺構編で記した第Ⅰ期から第Ⅵ期までの6時期の内、平成23年度報告(第Ⅰ期~第Ⅲ期までの出土品)に続く第Ⅳ期から第Ⅴ期までの出土品について報告をおこなっている。なお、報告した出土品と遺構との時代関係について整合性は諮っていない。従って今後の出土品の報告によっては、遺構の時代観において変更もあり得る。
- 3 本報告書で掲載した航空写真は、白黒写真が沖縄県教育委員会文化財課史料編集室所蔵の1945年4月2日米 軍撮影(CV20-103-63)の航空写真を掲載した。カラー写真は、株式会社グラフィカの2009年撮影の航空写 真を掲載した。また、本書に掲載した地図は、那覇市都市計画部都市計画課発行の1/10,000の地形図を使 用した。首里城周辺地形図については、平成19年株式会社グラフィカ作成の1/2500に、平成16年度沖縄 県教育庁文化課作成の「首里城跡測量図」と沖縄県企画部情報政策課委託作成の地形図を重ねて作成した。
- 4 報告書抄録に掲載した座標系は、地形測量及び写真測量業務で委託した成果をインターネットで公開 (http://Vldb.gsi.jp/sokuchi/tky2jgd/) されている Web 版 TKY2JGD を利用した。日本測地系から世界 測地系に変換した。入力方法を例示すると、入力値は平面直角座標を選択し、日本測地系「15 系」を選択後 に「X座標: 23598.267m、Y座標: 21971.191m」を入力後に変換方法を「世界測地系→日本測地系」を選択した。計算結果は「北緯: 26°12′32.15599″、東経:127°43′18.24229″」が求められたものを記した。
- 5 本報告書は、金城亀信を中心に、瑞慶覧尚美・伊藤恵美利・赤嶺雅子ほかの協力を得て、編集を行った。 なお、発掘調査・資料整理などの調査体制については、第 I 章の第 3 節に記してある。
- 6 本報告書の原稿は、すべて金城亀信が執筆し、出土遺物の観察には25倍のルーペを使用した。その他、実測 図および文様表現等の修正点検も金城がおこなった。
- 7 本報告書に掲載された出土遺物の撮影及び現像・焼付けは矢舟章浩・伊佐えりな・島袋久美子が担当した。 また、軟X線写真撮影と現像は、知念隆博主任専門員がおこなった。
- 8 出土品の名称及び計測部位などは、凡例に記したとおりであるが表現上、やむを得ない場合は別の名称や表現を使用した。
- 9 発掘調査で出土した遺物及び実測図、写真等の記録は、すべて沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

- 1 屋瓦の名称は、『渡地村跡-臨海道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告書-』(沖縄県立埋蔵文化 財センター調査報告書 第46集 平成19年7月発行)より複写して掲載した。その他、塼瓦の分類に際して は、『湧田古窯跡(I)-県庁舎行政棟建設に係る発掘調査-』(沖縄県教育委員会 文化財調査報告書 第 111集 平成5年3月発行)より分類の基準となった実測図を複写して掲載した。
- 2 黒釉天目茶碗の分類に際しては、森本朝子の「博多遺跡群出土の天目」『唐物天目ー福建省建窯出土天目と日本伝世の天目ー』(茶道資料館 1994 年)より城間 肇が作成した『首里城跡一京の内跡発掘調査報告書 (I) ー』(沖縄県教育委員会 文化財調査報告書 第132 集 平成10年3月発行)を複写し、分類のI類 ~IX類までの年代観は金城亀信が追記した。
- 3 金属製品の分類、名称、計測箇所については、下記の文献より引用並びに参考にして図面を作成した。
  - ① 金属製品の分類は、小川 望の「工具類1 大工道具」、「工具類2 接合具」、「工具類3 その他」『図説 江戸考古学研究事典』(江戸遺跡研究会 柏書房株式会社 2001年4月発行)を参考にして、分類基準表を金城亀信が作成し、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第49集 平成21年3月)に掲載した表を利用した。
  - ② 札の各部の名称は、上原 靜氏が作成した『勝連城跡-北貝塚、二の郭および三の郭の遺構調査-』(勝連町教育委員会 勝連町の文化財 第11 集 1990 年3月発行)より複写して掲載した。
  - ③ 銭貨の各部計測点は、永井久美男編『中世の出土銭-出土銭の調査と分類-』(兵庫埋蔵銭調査会 株式会社ぎょうせい 関西支店 1994 年 10 月発行)を参考にして、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(II)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第 49 集 平成 21 年 3 月)収録の「永樂通寶(中国明朝:初鋳造年 1408 年)」を掲載し、これに計測部位を表示した。
  - ④ 銭貨の各部名称については、上記した③の「永樂通寶」に陸原 保 編集「東洋古銭価格図譜例言(和漢泉彙)」『改訂版 東洋古銭価格図譜』(1975年5月発行)掲載の例言より使用頻度の高い用語のみを掲載し使用した。
  - ⑤ 兜および立物の各部名称と大鎧の各部名称については、金城亀信が作図した『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第49集平成21年3月)を再度掲載した。
  - ⑥ 簪の名称と計測部位は、西銘 章・片桐千亜紀・青山奈緒ほかの『与那国島 嘉田地区古墓群-嘉田地区圃 場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第21集 平成16年3 月発行)に掲載して使用した。
  - ⑦ 煙管の部位名称は、西銘 章の『ヤッチのガマ カンジン原古墓群-県営かんがい排水事業(カンジン地区) に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第6集 平成13年3月発行)に掲載の図を加筆、修正して使用した。名称については、たばこと塩の博物館『キセル』(1988年発行)を参考にした。
- 4 ガラス玉の分類概念および計測は、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第49集 平成21年3月)に掲載したものを使用した。
- 5 陶磁器の碗の部位名称は、京の内跡出土品の中から「青磁雷文帯碗(14世紀後半~15世紀前半頃)」を図 化して、名称を当て嵌めた。
- 6 図化を省略した青磁碗と盤の高台資料については、本報告書に掲載した実測図を使用して模式図を作成し、 青磁碗は高台の横断面の形状から a~h までの8種類に分けて集計をおこなった。同様に青磁盤(大皿)に ついても高台形状から a・b の二種類に大別して集計をおこなった。
- 7 タイ産土器(半練)の蓋の分類については、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(I)-』(沖縄県教育委員会 文化財調査報告書 第132集 平成10年3月発行)のP64第11表に掲載したⅠ類〜Ⅷ類までの8分類に準じて、今回確認された7種類(Ⅰ類〜Ⅷ類)のみの模式図を作成して掲載した。
- 8 明代華南三彩鶴型水注のカラー写真は、平成元(1989)年に金城亀信撮影のカラープリントより複写した。



『渡地村跡―臨海道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告書―』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成19年7月)より複写掲載。



1- b **塼の分類**: 博瓦の厚さは、a (厚さ: 2.5~3.9cm)、b (厚さ: 4.0~6.0cm) の2種類に分けて分類した。 『湧田古窯跡(I)—県庁舎行政棟建設に係る発掘調査—』(沖縄県教育委員会 平成5年3月)より分類のため、実測図を複写掲載。

分類	器 型	特徵	実測図(縮小1/3)
I類	断面逆三角形の平茶碗 (推定時期12c前半)	底から口に向かってほぼ直線的に大きく開く平 茶碗である。大きく次の三つに分けられる。 I 一① 胎土は黒灰色に白砂を含み、黒色の厚い 釉。 I - ② 胎土は灰白色、釉は黒褐色を呈す。 I - ③ 底径は大きく、白覆輪である。	
Ⅱ類	外反口縁の碗 (推定時期12c前半)	I 類同様、底から口に向かってほぼ直線的に開くが、全体はより深目の器形で、口だけ外反して開く。	
Ⅲ類	断面逆三角形の深碗 (推定時期12c前半)	口縁は外反するが、一度口縁下で押さえ、目立たない程の浅いくぼみを作るいわゆる建盞なりの天目茶碗に特有のひねった口縁の萌芽と言える。口径と器高の比が3:2前後、5:2前後のものとでⅢ-①、②に分けられる。	
IV類	いわゆる「 <b>建盞</b> 」なりの茶碗 (推定時期12c後半~13c前半)	ことこれとのはころもはこといるのでのか	
V類	誇張的に表現された天目茶碗 (推定時期13c)	身は大きく開き、口縁下で角度を変えて立ち上がる。内底をくぼめ、内面が曲線的に複雑になる。これは典型的な建盞の各部を誇張的に表現した天目茶碗である。小ぶりのものと、大ぶりのものとでVー①、②に分けられる。	
VI類	口縁のくびれの強い茶碗 (推定時期13c)	V類より、口縁のくびれが強く誇張されたタイプの天目茶碗である。浅い碗とやや深めの碗とでⅥ-①、②に分けられる。	C2-
WI類	口の内湾する平茶碗 (推定時期13c後半~14c初)	体は大きく開き、半ばで曲線的に立ち上がり内 湾気味に終わる。比較的浅い碗である。底部は 上げ底であるが、輪高台らしく作るものもある。	
WI類	高台脇を水平に削る深目の例 (推定時期14c終末~15c)	高台脇を水平に切る茶碗は広い底からほぼ直線 的に開き、口縁で軽く角度を変えて立つ。口縁 のくびれは弱い。外底は浅く上げ底風に削る。	
IX類	丸碗 (推定時期14c後半~15c)	底部から口縁に丸みをもって立ち上がり、その まま直口で終わる。	

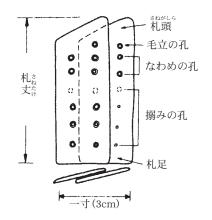
## 2 黒釉天目茶碗の分類

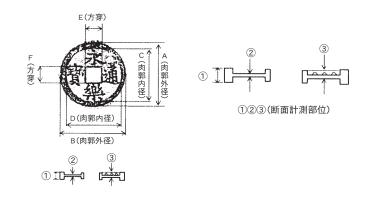
『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅰ)-』(沖縄県教育委員会平成10年3月発行)より複写掲載。

接続・固定金具 A. 工具類・生産用具 -釘・鎹など 蝶番・錠 (飾金具) 生産用具 刀子・鎌など B. 装身具 簪・指輪など 鏡・香炉・鈴・柄杓 (銚子) など C. 祭祀用具 D. 生活用具 E. 武具 鎧金具(札・八双金物・鎖籠手・骨牌鉄鎖具足など) 兜金具 (鉢・立物など) F. 武器 刀剣 (鍔・切羽など) 石火矢 (弾・砲身ほか)

## 3一① 金属製品の分類基準表

『図説 江戸考古学研究事典』(江戸遺跡研究会 柏書房株式会社 2001年4月発行)を参考にして、分類基準表を作成した。 当該表は『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成21年3月)に掲載。



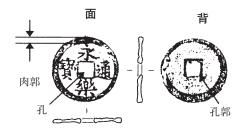


## 3一② 札の各部の名称

『勝連城跡-北貝塚、二の郭および三の郭の 遺構調査-』(勝連町教育委員会 1990年3月 発行) 上原 静氏作成の原図を複写掲載。

## 3一③ 銭貨の各部計測点(左:平面、断面 右:断面拡大図) 『中世の出土銭-出土銭の調査と分類-』(兵庫埋蔵銭調査会 株式会社ぎょうせい

1994年10月発行)を参考にして、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(II)-』 (沖縄県立埋蔵文化財センター 平成21年3月)収録の「永楽通寶 (中国明朝:初鋳造年1408年)」の拓影図に計測部位を表示。



~。 **面**:表の意味。**背**:裏の意味。

画・衣い息外。 **月・**表い息外。

型 せい 型 せい 型 ネッセン 孔:穴のこと。穿、好とも言う。四角い穴は「方穿」とも言う。

コウカク ナイカク コウカク

孔郭:穴の縁のこと。内郭、好郭とも言う。

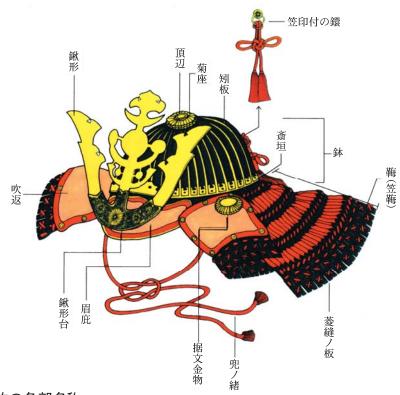
肉郭:外の縁。輪郭、周郭とも言う。外縁の縁幅が細いものを「細縁」と言い、

逆に縁の幅のないものを「濶縁」と言う。

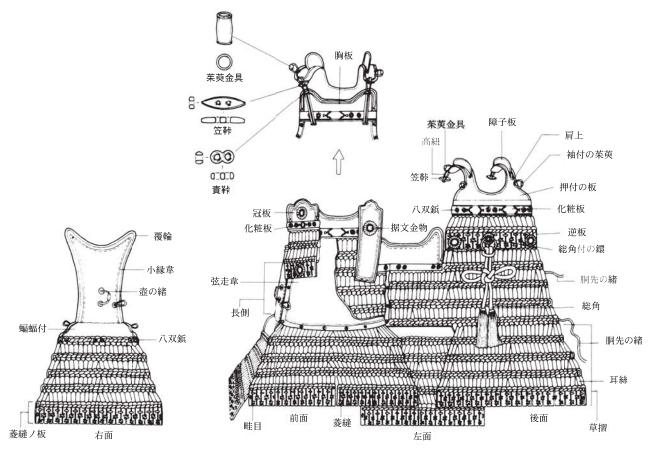
郭に肉(四角の穴の縁)がないものを「無輪郭」と言う。

3一④ 銭貨の各部名称

『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(II)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成21年3月)掲載の「永楽通竇(明:初鋳造年1408年)」の拓影図に「東洋古銭価格図譜例言(和漢泉彙)」『改訂版 東洋古銭価格図譜』(1975年5月発行)例言より銭貨の用語を掲載。

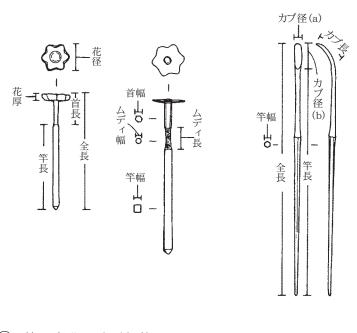


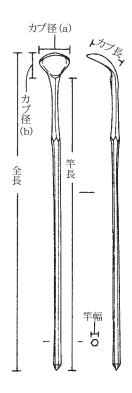
3-5a 兜および立物の各部名称



3-5b 大鎧の各部名称

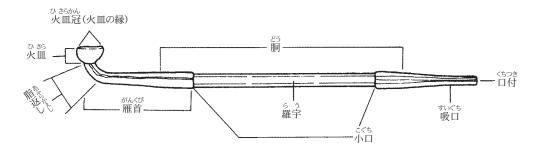
3-⑤a 兜および立物の各部名称、3-⑤b 大鎧の各部名称については、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書( $\Pi$ )-』 (沖縄県立埋蔵文化財センター 平成21年3月)の掲載図を複写掲載。





## 3一⑥ 簪の名称と計測部位

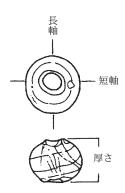
『与那国島 嘉田地区古墓群-嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書-』 (沖縄県立埋蔵文化財センター 平成16年3月)の掲載図を複写掲載。



## 3一⑦ 煙管の部位名称

『ヤッチのガマ カンジン原古墓群-県営かんがい排水事業(カンジン地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』 (沖縄県立埋蔵文化財センター 平成13年3月)の掲載図に加筆修正をおこなって作成した。名称については、たばこと塩の博物館『キセル』 (1988年発行)を参考にした。

種類	形状	特徴など
I類		側面観が正円、若しくは円形となるもの
Ⅱ類		側面観が臼形となるもの若しくは扁楕円形 のもの
Ⅲ類		側面観が隅丸三角形、若しくはこれに近 似するもの
IV類		側面観が成形時に崩れて歪な形状となるもの
V類		火熱を受け癒着・溶解したガラス玉の塊で 不定形となるもの

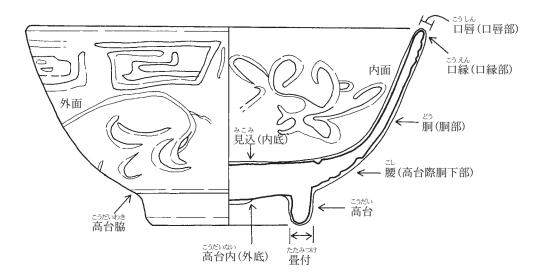


## 4-a ガラス玉の分類概念

4-a ガラス玉の分類概念・4-b ガラス玉の計測は、『首里城跡-京の内跡 発掘調査報告書(II)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター平成21年3月)に掲載

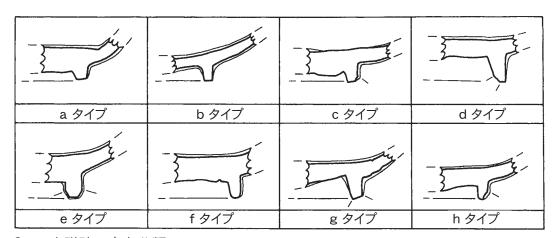
された分類概念表と図を使用。

4-b ガラス玉の計測



## 5 碗の部位名称

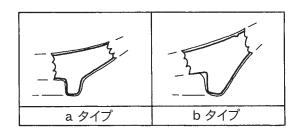
京の内跡出土品の中から「青磁雷文帯碗(14世紀後半~15世紀前半頃)」を図化して、名称を当て嵌めた。 『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成24年3月)の掲載図を複写掲載。



## 6-a 青磁碗の高台分類

主に京の内跡出土品の中から高台資料を抜き出して模式図を作成した。

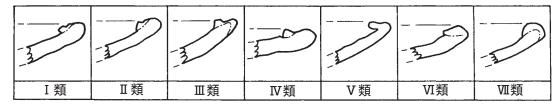
『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成24年3月)の掲載図を複写掲載。



## 6-b 青磁盤の高台分類

主に京の内跡出土品の中から高台資料を抜き出して模式図を作成した。

『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV)-』(沖縄県立埋蔵文化財センター 平成24年3月)の掲載図を複写掲載。

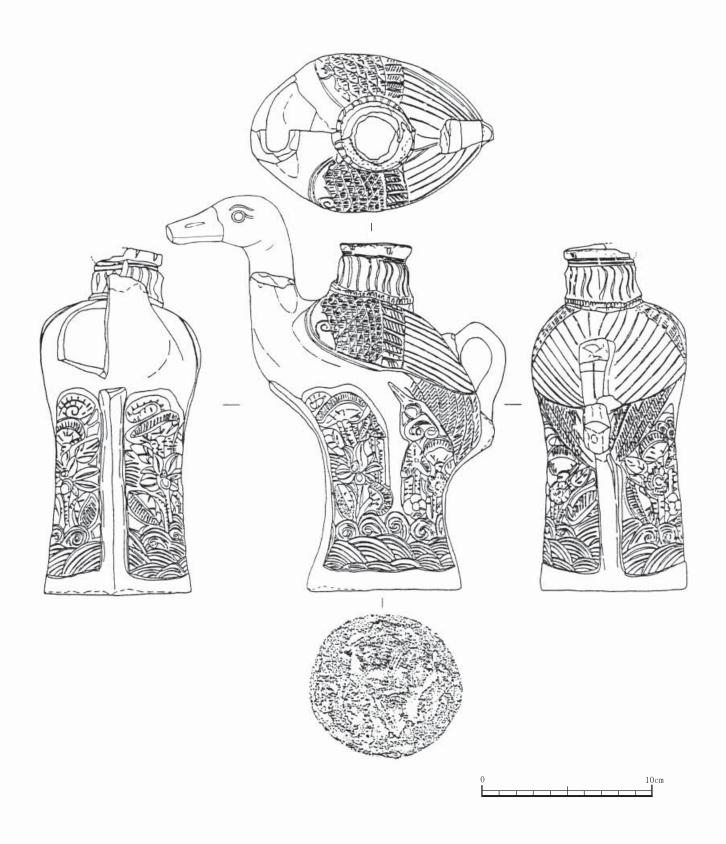


#### 7 タイ産土器(半練)の蓋縁分類

『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅰ)-』(沖縄県教育委員会 平成10年3月発行)より複写し、再編集して掲載。



8-a 明代華南三彩鶴形水注(参考資料:金城亀信撮影) 金城亀信「豊見城村内確認の明代三彩鶴形水注」『文化課紀要』第6号 1990年3月掲載に向けて1989年に撮影した カラー写真を複写して編集した。



8-b 明代華南三彩鶴形水注(参考資料) 金城亀信「豊見城村内確認の明代三彩鶴形水注」『文化課紀要』第6号1990年3月掲載した実測図に首里城跡木曳門地 区出土の鶴形水注の頭部(県立埋蔵文化財センター調査報告書 第3集2001年3月発行)を参考にして実測図を修正した。

## 目 次

序
巻首図版
例言
凡例
第 $I$ 章 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第1節 調査区の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第2節 事業の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第3節 調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第Ⅱ章 遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第1節 遺構の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第Ⅲ章 遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
イ. 第IV期(15 世紀後半~16 世紀初頭)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
(1)石積み SA04 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
(2)石積み SA35 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(3)石積み SA05-B の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(4)石積み SA07 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
(5)石積み SA11 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
(6)石積み SA12 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
(7)石積み SA14 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(8)石積み SA27 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
(9)石積み SA30 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
(10) 石積み SA27・30 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・127
(11) 石敷き SS01 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・130
(12) 石敷き SS03-B の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
(13) 石敷き SS02 の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
(14) 石敷き SS04-A の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・173
(15) 石敷き SS04-B の出土遺物・・・・・・・・・・・・183
報告書抄録· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

## 挿図目次

## 図目次

fata .	-	and the arm to be to			-	
第 1	凶	発掘調査地域4				石積み SA27 出土品② 青磁:1~12 ······ 104
第 2	义	「京の内」跡遺構配置図およびグリット設定5				石積み SA27 出土品③ 青磁:13~21 ··········· 106
		遺構全体図11	第	32	义	石積み SA27 出土品④ 白磁:1~3、青花:4·5
第 4	义	京の内北地区第Ⅳ期(15世紀後半~16世紀				黒釉陶器:6108
		初頭)遺構の推定復元15	第	33	図	石積み SA27 出土品⑤ 中国産褐釉陶器:
第 5	137	石積み SA04 出土品① 瓦類 屋瓦:1~3、	213	00		1~5
対り		博瓦:4·······23	hh	0.4		
			弗	34	凶	石積み SA27 出土品⑥ タイ産土器(半練):
		石積み SA04 出土品② 青磁:1~1026				1・2、タイ産褐釉陶器:3、中世陶器:4、沖縄産
第 7	义	石積み SA04 出土品③ 青磁:11~14、				施釉陶器:5、円盤状製品:6112
		青花:15~19、中国產褐釉陶器:20~2228	第	35	义	石積み SA27 出土品⑦ 金属製品:1~5 ······· 114
笙 8	议	石積み SA04 出土品④ タイ産土器(半練):1、				石積み SA27 出土品® 銭貨:1~7 116
N) O		タイ産炻器:2、タイ産褐釉陶器:3~630				石積み SA27 出土品⑨ 溶解銭貨の塊:8、
<i>hh</i> : 0	l-val		邪	01		有傾か 3A21 山上町 (9) 俗牌
第 9	凶	石積み SA04 出土品⑤ 本土産磁器:1、				ガラス玉:9~11、溶解したガラスの塊:12117
		沖縄産施釉陶器:2・3、沖縄産無釉陶器:4・5、	第	38		石積み SA30 出土品 青磁:1・2、白磁:3・4、
		金属製品:6.733				骨製品:5、金属製品:6・7、ガラス玉:8~11 126
第 10	図	石積み SA04 出土品⑥ 銭貨:1~7、	第	39		石積み SA27・30 出土品 青磁:1・2、ガラス玉:
>14	-	ガラス製品:835	/14	-		3.4
空 11	22	石積み SA35 出土品 銭貨:1 ·······41	15/5	40		- 5 4
第 11		石根か 5A55 山上田	邪	40		石
第 12		石積み SA05-B 出土品① 塼瓦:1、青磁:2·3、	弗	41	凶	石敷き SS01 出土品② 瓦質土器:1~6 ······· 132
		青花:4·5、彩釉陶器:6·7、石器:8、	第	42	义	石敷き SS01 出土品③ 瓦類 屋瓦:1~3、
		石造製品:944				塼瓦:4、煉瓦:5135
第 13	図	石積み SA05-B 出土品② 銭貨1~8 ·······47	笛	43		石敷き SS01 出土品④ 青磁:1~11 ············· 138
第 14	<u>  [52]</u>	石積み SA05-B 出土品③ 銭貨:9~11 ···········48				石敷き SS01 出土の資料の重ね図140
弗 I 5		石積み SA07 出土品 青磁:1・2、本土産陶器:	邪	45		石敷きSS01 出土品⑤ 青花:1~5、彩釉陶器:
		3、銭貨:452				6・7、中国産褐釉陶器:8・9、タイ産土器
第 16	図	石積み SA12 出土品 陶質土器:1・2、瓦質				(半練):10
		土器:3、青磁:4·5、彩釉陶器:6、中国産褐釉	第	46	义	石敷き SS01 出土品⑥ 本土産磁器:1~5、
		陶器:7、沖縄産施釉陶器:8・9、沖縄産無釉	//•			本土産陶器:6.7143
		陶器:10、金属製品:11	结	47	<u> </u>	石敷き SS01 出土品⑦ 沖縄産施釉陶器:
<i>bb</i> 1 □	- Isal		邪	41	凶	1 私合 3301 山上町① 伊穂 座 旭 柚 岡 倫・
現 Ⅰ (	凶	石積み SA14 出土品① 土器:1・2、瓦質土器:				$1 \sim 13 \cdots 146$
		3.4、屋瓦:562	第	48	凶	石敷き SS01 出土品® 沖縄産無釉陶器:
第 18	図	石積み SA14 出土品② 青磁:1~10 ······68				$1 \sim 3 \cdots 147$
第 19	図	石積み SA14 出土品③ 青磁:11~19 ······70	第	49	义	石敷き SS01 出土品⑨ 貝製品:1、石製品:
第 20		石積み SA14 出土品④ 青磁:20~26 ······72	/14			2~4、円盤状製品:5·6149
			14	ΕΛ	ज्य	2 元月金仏衣師.0 0 157 ア動き CCO1 山上日面   本屋制日.1。0 151
界 41	凶	石積み SA14 出土品⑤ 白磁:1、青花:2、	宏 然	50	凶	石敷き SS01 出土品⑩ 金属製品:1~8 ········ 151
		彩釉陶器:3·4·······74	弟	51	図	石敷き SS01 出土品⑪ 銭貨:1~8 ·······154
第 22	义	石積み SA14 出土品⑥ 中国産褐釉陶器:	第	52	义	石敷き SS01 出土品⑫ 銭貨:9~12、ガラス
		石積み SA14 出土品⑥ 中国産褐釉陶器: 1~10 ···································				石敷き SS01 出土品⑫ 銭貨:9~12、ガラス 製品:13・14156
			第	53	図	皇宋通寶の銭形(第 54 図8)の拓影を陰影から
N1 20		石積み SA14 出土品⑦ 中国産褐釉陶器 11~15·······78	213	00		陽影に変換165
			M	E 4		
弗 24	凶	石積み SA14 出土品⑧ タイ産土器(半練):	弗	Э4	凶	石敷き SS03-B 出土品 青磁:1、沖縄産無釉
		1・2、タイ産炻器:3、タイ産褐釉陶器:4・5、				陶器:2、貝製品:3、石器:4、金属製品:5、銭貨:
		高麗青磁:680				6~8 ······ 167
第 25	図	石積み SA14 出土品⑨ 本土産陶器:1・2、	第	55	义	石敷き SS02 出土品 青磁:1、白磁:2、
×1.		沖縄産施釉陶器:3、沖縄産無釉陶器:4・582	71.			金属製品:3~5、銭貨6~8172
<b>第 96</b>	[27]	石積み SA14 出土品⑩ 貝製品:1~3、骨	笜	56	77	五敷き SS04-A 出土品① タイ産土器(半練):
A 20			Y1	50		
ht o-		製品:4.5、石製品:6、円盤状製品:7.884	April par			1、タイ産褐釉陶器:2、円盤状製品:3 173
第 27	図	石積み SA14 出土品⑪ 金属製品:1~11 ·······87	弟	57	凶	石敷き SS04-A 出土品② 銭貨:1~8 ········· 177
第 28	図	石積み SA14 出土品⑫ 銭貨:1~9、ガラス	第	58	义	石敷き SS04-A 出土品③ 銭貨:9~17179
		玉:10、鍛冶関連 鉄滓:11、おはじき:1290	第	59	义	石敷き SS04-B 出土品① 青磁:1、中国産
第 29	図	石積み SA27 出土品① 土器:1、瓦質土器:	214			褐釉陶器:2・3、タイ産土器(半練):4184
N1 20		2~4······101	绺	60		石敷き SS04-B 出土品② 銭貨1~8188
		2 34				
			邪	61	凶	石敷き SS04-B 出土品③ 銭貨9~16 ······190
		表目	次			
		X H	ンヽ			
笛 1	丰	平成6(1994)年度「京の内」跡検出遺構件数	笜	6	丰	石積み SA04 屋瓦·塼瓦観察一覧24
<b>売</b> Ⅰ	1	十八八(133年)十尺「不い[1]	第一			
haba :	_ ·	の新旧関係3				) 石積み SA04 青磁出土状況 ················· 24
第 2	表	切り石積み(区画石積み・御嶽)の外面と内面	第	7	表(2	)石積み SA04 青花・中国産褐釉陶器
		の関係9				出土状況
第 3	表	平成6年度 京の内地区検出遺構と遺構の	第	8	表(1	) 石積み SA04 青磁観察一覧 ·······25
	-	時期10				) 石積み SA04 青磁・青花・中国産褐釉陶器
笙 4	丰	第Ⅳ期出土遺物状況21	/17	_		観察一覧27
		元				则不 见 21
来 こ	オゲ	- 4 LAPLのき 3/10/14 - JS: N.・JS N. iTi T オル /元・・・・・・・・・・・・ //				

第 9表 石積み SA04 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・	88
タイ産褐釉陶器出土状況29	第 48 表③ 石積み SA14 銭貨観察一覧 ·················89
/ 1/12   4   H   H   12   / 1/2	第 49 表 石積み SA14 出土遺物状況(図版外) ············91
第 10 表① 石積み SA04 タイ産土器(半練)・タイ産	第 50 表 石積み SA27 土器·瓦質土器出土状況 100
第 10 衣① 有 惧 の 3AU4	
炻器·夕イ産褐釉陶器観察一覧29	第 51 表 石積み SA27 土器·瓦質土器観察一覧 ········ 100
第 10表② 石積み SA04 タイ産褐釉陶器観察一覧30	第 52 表 石積み SA27 青磁出土状況 ······ 101
第 11 表 石積み SA04 本土産磁器・沖縄産施釉陶器・	第53表 石積み SA27 青磁観察一覧 ·······103
沖縄産無釉陶器·金属製品出土状況31	第54表 石積みSA27 白磁·青花·黒釉陶器
第12表① 石積み SA04 本土産磁器·沖縄産施釉	出土状況107
为 12 X ① 有限。 / 5/10 1	
陶器·沖縄產無釉陶器観察一覧32	第 55 表 石積み SA27 白磁·青花·黒釉陶器
第 12 表② 石積み SA04 金属製品観察一覧32	観察一覧107
第 13 表① 石積み SA04 二次的火熱溶解銭貨 ·······33	第56表 石積みSA27 中国産褐釉陶器出土状況108
第 13 表② 石積み SA04 ガラス製品出土状況 ······33	第57表 石積み SA27 中国産褐釉陶器観察一覧109
第 14 表① 石積み SA04 銭貨観察一覧34	第 58 表 石積み SA27 タイ産土器(半練)・タイ産褐釉
第 14 表② 石積み SA04 ガラス製品観察一覧34	陶器·中世陶器·沖縄産施釉陶器·円盤状
第 15 表	四 命 " 中 巴 四 命 " 中 虺 庄 心 相 四 命 " 口 盆 小
第 15 表 石積み SA04 出土遺物状況(図版外) ···········36	製品出土状況111
第 16 表 石積み SA35 二次的火熱溶解銭貨·······41	第 59 表 石積み SA27 タイ産土器(半練)・タイ産褐釉
第 17 表 石積み SA35 出土遺物状況(図版外)······41	陶器·中世陶器·沖縄産施釉陶器·円盤状
第 18 表 石積み SA35 銭貨観察一覧 ·············41	製品観察一覧111
第 19 表 石積み SA05-B 塼瓦·青磁·青花·彩釉陶器·	第 60 表 石積み SA27 金属製品出土状況 ··············· 113
石器·石製品·石材出土状況42	第 00 X 有限の 3N21 並構教師田上仏仇 113
	第 61 表 石積み SA27 金属製品観察一覧113
第 20 表 石積み SA05-B 塼瓦·青磁·青花·彩釉陶器·	第 62 表 石積み SA27 二次的火熱溶解銭貨 ············· 114
石器•石製品観察一覧43	第63表 石積み SA27 ガラス玉・ガラス製品出土状況 ·· 115
第 21 表 石積み SA05-B 二次的火熱溶解銭貨 ···········45	第 64 表① 石積み SA27 銭貨観察一覧 ····················115
第 22 表 石積み SA05-B 銭貨観察一覧 ····································	第64表② 石積み SA27 ガラス製品(玉・溶解したガラス
第 22 衣 4 慎 グ 3AU5 D	第0年X2 4 傾か 3A21 カノハ教師(上・俗牌しにカノハ
第 23 表 石積み SA05-B 出土遺物状況(図版外) ········48	の塊)観察一覧117
第 24 表① 石積み SA07 青磁·本土産陶器出土状況…51	第65表 石積み SA27 出土遺物状況(図版外) ········ 118
第 24 表② 石積み SA07 二次的火熱溶解銭貨 ········51	第 66 表① 石積み SA30 出土遺物状況124
第25表① 石積み SA07 青磁·本土産陶器	第 66 表② 石積み SA30 二次的火熱溶解銭貨 ·········· 125
観察一覧51	第 67 表 石積み SA30 青磁·白磁·骨製品·金属製品·
1,22,41	カリ 久 石頂 グラハラッ 月版 日版 日衣田 亚内衣田 195
第 25 表② 石積み SA07 銭貨観察一覧 ··················52	ガラス玉観察一覧
第 26 表 石積み SA07 出土遺物状況(図版外)······53	第 68 表 石積み SA27・30 青磁・ガラス玉観察一覧 127
第 27 表 石積み SA11 出土遺物状況 ······55	第 69 表 石積み SA27·30 出土遺物状況128
第 28 表 石積み SA12 出土遺物状況56	第70表 石敷きSS01 陶質土器·瓦質土器出土状況…130
第 29 表① 石積み SA12 陶磁器類観察一覧57	第 71 表 石敷き SS01 陶質土器観察一覧 130
第 29 表② 石積み SA12 金属製品観察一覧 ··············58	第72表 石敷き SS01 瓦質土器観察一覧131
第 30 表① 石積み SA14 屋瓦出土状況 ······60	第73表 石敷きSS01 屋瓦·塼瓦出土状況133
第 30 表② 石積み SA14 土器·瓦質土器·塼瓦	第74表 石敷き SS01 屋瓦·塼瓦·煉瓦観察一覧 ······· 134
出土状況61	第 75 表 石敷き SS01 青磁・青花・彩釉陶器・中国産
第 31 表 石積み SA14 土器·瓦質土器·屋瓦	褐釉陶器·夕/產土器(半練)出土状況···········136
観察一覧61	第 76 表 石敷き SS01 青磁観察一覧137
	第 10 衣 有放さ 3301 再燃既宗 見
第 32 表 石積み SA14 青磁出土状況 ·······63	第77表 石敷き SS01 青花・彩釉陶器・中国産褐釉
第 33 表 石積み SA14 青磁観察一覧 ······67	陶器・タイ産土器(半練)観察一覧139
第 34 表 石積み SA14 白磁・青花・彩釉陶器出土状況	第 78 表 石敷き SS01 本土産陶磁器出土状況 ········ 142
73	第79表 石敷き SS01 本土産陶磁器観察一覧 ·········· 142
第 35 表 石積み SA14 白磁·青花·彩釉陶器	第 80 表 石敷き SS01 沖縄產陶器出土状況 144
観察一覧73	第81表 石敷き SS01 沖縄産施釉陶器観察一覧 ······· 144
第 36 表 石積み SA14 中国産褐釉陶器出土状況74	第82表 石敷き SS01 沖縄産無釉陶器観察一覧 ······· 147
第 37 表 石積み SA14 中国産褐釉陶器観察一覧75	第83表 石敷きSS01 貝製品·石製品·石材·円盤状
第 38 表 石積み SA14 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・	製品出土状況
タイ産褐釉陶器・高麗青磁出土状況79	第84表 石敷き SS01 貝製品·石製品·円盤状製品
第 39 表① 石積み SA14 夕イ産土器(半練)・タイ産	観察一覧148
炻器·夕/產褐釉陶器観察一覧 ·············79	第85表 石敷きSS01 金属製品観察一覧 ············150
第 39 表② 石積み SA14 タイ産褐釉陶器・高麗青磁	第 86 表 石敷き SS01 金属製品出土状況
観察一覧80	第87表 石敷き SS01 二次的火熱溶解銭貨 ············ 152
第 40 表 石積み SA14 本土産陶器・沖縄産施釉陶器・	第88表 石敷き SS01 ガラス製品出土状況 ······ 153
沖縄產無釉陶器出土状況81	第 89 表①·② 石敷き SS01 銭貨観察一覧153
作肥度流和門前日上小儿 -	第 05 衣(1) 位 有放さ 3301
第 41 表 石積み SA14 本土産陶器・沖縄産施釉陶器・	第 89 表③ 石敷き SS01 ガラス製品観察一覧 ······· 155
沖縄産無釉陶器観察一覧81	第90表 石敷きSS01 出土遺物状況(図版外) ···········156
第 42 表 石積み SA14 貝製品·骨製品·石器·石製品·	第 91 表① 石敷き SS03-B 青磁·沖縄産無釉陶器・
円盤状製品出土状況83	貝製品・石器・石製品・石材・金属製品
第 43 表 石積み SA14 貝製品·骨製品·石製品·円盤	
カコ X 14 惧の NA11 只 只 表 m * 月 表 m * 17 表 m * 17 色 。	出土状況
状製品観察一覧·······83	第 91 表② 石敷き SS03-B 二次的火熱溶解銭貨 165
第 44 表 石積み SA14 金属製品出土状況85	第 92 表 石敷き SS03-B 青磁・沖縄産無釉陶器・貝製
第 45 表 石積み SA14 金属製品観察一覧 ······86	品・石製品・金属製品・銭貨観察一覧 166
第 46 表 石積み SA14 二次的火熱溶解銭貨 ················88	第 93 表 石敷き SS03-B 出土遺物状況(図版外) ········· 168
第 47 表 石積み SA14 鍛冶関連・ガラス玉・ガラス製品	第94表① 石敷きSS02 出土遺物状況170
男 47 衣 石積み SA14 敷石関連・カノヘ玉・カノへ製品 出土状況 ····································	
	第 94 表② 石敷き SS02 二次的火熱溶解銭貨 ·········· 171
第 48 表① 石積み SA14 ガラス玉観察一覧88	第 95 表① 石敷き SS02 青磁・白磁・金属製品
第48表② 石積みSA14 鍛冶関連・おはじき観察一覧	観察一覧 171

第 95 表② 石敷き SS02 銭貨観察一覧	第 100 表 石敷き SS04-B 青磁・中国産褐釉陶器・ タイ産土器(半練)出土状況
図版	目次
巻首図版 1 1945 年4月2日 米軍撮影(CV20-103-63) の首里城周辺	図版 20 石積み SA14 出土品⑩ 貝製品:1~3、骨製品: 4・5、石製品:6、円盤状製品:7・897
巻首図版2 首里城平面図 巻首図版3 2009年 首里城跡の航空写真 巻首図版4 首里城跡周辺地形図	図版 21 石積み SA14 出土品⑪ 金属製品:1~11·······98 図版 22 石積み SA14 出土品⑫ 銭貨:1~9、ガラス 玉:10、ガラス質鉄滓:11、おはじき:12 ·········99
巻首図版5 上段左:石積み SA04 出土の青磁雷文帯碗 上段右:石積み SA14 出土の茶托(上)	図版 23 石積み SA27 出土品① 土器:1、瓦質土器: 2~4 ························119
石積み SA04 出土の茶托(下) 下段左:石積み SA27 出土の「顧氏」銘入青	図版 24 石積み SA27 出土品② 青磁:1~12··········119 図版 25 石積み SA27 出土品③ 青磁:13~21········120 図版 26 石積み SA27 出土品④ 白磁:1~3、青花:
磁皿 下段右:石敷き SS03-B 出土の凝灰岩製 砥石	図版 26 有積み SA27 田工品④ 日極:1~3、青花: 4・5、黒釉陶器:6 ·················120 図版 27 石積み SA27 出土品⑤ 中国産褐釉陶器:
巻首図版6 上段左:石積み SA14 出土の骨鏃 上段右:石積み SA27 出土の青銅製切羽	1~5 ····································
中 段:石敷きSS03-B 出土の「皇宋通寶」の 鋳型の陰陽反転	1·2、タイ産褐釉陶器:3、中世陶器:4、沖縄産 施釉陶器:5、円盤状製品:6 ·········121
下 段:石積み SA27 出土の二次的火熱を	図版 29 石積み SA27 出土品⑦ 金属製品:1~5122 図版 30 石積み SA27 出土品®・⑨ 銭貨:1~7、溶解 銭貨の塊:8、ガラス玉:9~11、溶解したガラス
受けて溶解した銭の塊 図版1 石積み SA04 出土品① 瓦類:屋瓦1~3、 塼瓦:4	
図版2 石積み SA04 出土品② 青磁:1~10 ***********************************	骨製品:5、金属製品:6・7、ガラス玉:8~11·····126 図版32 石積みSA27・30出土品 青磁:1・2、ガラス玉:
15~19、中国産褐釉陶器:20~22······39 図版4 石積みSA04出土品④ タイ産土器(半練):	3・4 ········129 図版 33 石敷き SS01 出土品① 陶質土器:1~4·······157 図版 34 石敷き SS01 出土品② 瓦質土器:1~6·······157
1、タイ産炻器:2、タイ産褐釉陶器:3~6 ········39 図版5 石積み SA04 出土品⑤ 本土産磁器:1、沖縄 産施釉陶器:2·3、沖縄産無釉陶器:4·5、	図版 35 石敷き SS01 出土品② 瓦類 屋瓦:1~3、 塼瓦:4、煉瓦:5158
金属製品:6・7 40 図版 6 石積み SA04 出土品⑥ 銭貨:1~7、ガラス	図版 36 石敷き SS01 出土品④ 青磁:1~11 ············158 図版 37 石敷き SS01 出土品⑤ 青花:1~5、彩釉陶器:
製品:8 40 図版7 石積み SA35 出土品 銭貨:1 41 図版8 石積み SA05-B 出土品① 塼瓦:1、青磁:2・3、	6・7、中国産褐釉陶器:8・9、タイ産土器 (半練):10159 図版38 石敷きSS01出土品⑥ 本土産磁器:1~5、
青花:4·5、彩釉陶器:6·7、石器:8、 石造製品:9 ···········49	本土産陶器:6・7
図版 9 石積み SA05-B 出土品②・③ 銭貨:1~11 ····· 50 図版 10 石積み SA07 出土品 青磁:1・2. 本土産陶器:	1~13 ············160 図版 40 石敷き SS01 出土品⑧ 沖縄産無釉陶器: 1~3 ···········160
3、銭貨:4 54 54 54 54 54 54 54 54 54 54 54 54 54	図版 41 石敷き SS01 出土品⑨ 貝製品:1、石製品: 2~4、円盤状製品:5·6·······161
器:7、沖縄産施釉陶器:8·9、沖縄産無釉陶器: 10、金属製品:11·······59	図版 42 石敷き SS01 出土品⑩ 金属製品:1~8162 図版 43 石敷き SS01 出土品⑪・⑫ 銭貨:1~12、
図版 12 石積み SA14 出土品① 土器:1・2、瓦質土器: 3・4、屋瓦:5 92	ガラス製品:13・14 ························163 図版 44 石敷き SS03-B 出土品 青磁:1、沖縄産無釉 陶器:2、貝製品:3、石器:4、金属製品:5、
図版 13 石積み SA14 出土品② 青磁:1~10 ······92 図版 14 石積み SA14 出土品③ 青磁:11~19 ·····93 図版 15 石積み SA14 出土品④ 青磁:20~26 ·····94	銭貨:6~8 ·······169 図版 45 石敷き SS02 出土品 青磁:1、白磁:2、金属
図版 16 石積み SA14 出土品⑤ 白磁:1、青花:2、彩釉 陶器:3・494	製品:3~5、銭貨:6~8 ············172 図版 46 石敷き SS04-A 出土品① タイ産土器(半練):
図版 17 石積み SA14 出土品⑥·⑦ 中国産褐釉陶器: 1~15	1、タイ産褐釉陶器:2、円盤状製品:3181 図版47 石敷き SS04-A 出土品② 銭貨:1~8181 図版48 石敷き SS04-A 出土品③ 銭貨:9~17182
図版 18 石積み SA14 出土品 ® タイ産土器 (半練):1・2、 タイ産炻器:3、タイ産褐釉陶器:4・5、高麗青磁:6 	図版 49 石敷 3 SS04 A 山上品 ③ 践員. 9 6 17 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
図版19 石積み SA14 出土品⑨ 本土産陶器:1·2、 沖縄産施釉陶器:3、沖縄産無釉陶器:4·5 ··· 96	図版 50 石敷き SS04-B 出土品②·③ 銭貨:1~16·····192

## 第1章 調査の概要

## 第1節 調査区の設定

調査区の設定に関する詳細については『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(III)-平成6年度調査の遺構編』 〔沖縄県立埋蔵文化財センター平成23(2011)年3月〕に掲載を参照(註1)されたい。併せて調査区の設定の 概略については『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV)-平成6年度調査の遺物編(1)』〔沖縄県立埋蔵 文化財センター平成24(2012)年3月〕(註2)を参照されたい。

本節では、平成23年度報告書の調査区の設定を再度掲載した。

平成6年度の京の内跡の発掘調査地区は、第1図と第2図にあるように京の内北地区2,000㎡が発掘調査の対象となった。首里城およびその周辺の地下には、昭和20(1945)年のアジア・太平洋戦争末期に起きた沖縄戦の際に第32軍司令部壕が昭和19(1944)年に構築されたことにより米軍の集中砲火を受けている事から事前に調査区内に不発弾等の有無確認を目的とした磁気探査を実施し、磁気異常箇所の有無を確認後に本格的な発掘調査を平成6(1994)年11月21日から開始して、平成7(1995)年の3月28日までの約5ヶ月間実施した。

発掘調査で検出された遺構のプランを基に京の内の復元整備の計画がなされるため遺構保護を目的として、調査地区内全域に保護砂の白砂を厚さ 10cm~15cm を敷きならした後に廃土で埋め戻した。

埋め戻しによって遺構の位置関係が直接的に把握できなくなるので、調査地区及びその周辺に基準点測量の三点(基-1、基-2、基-3)を測量業務に委託した。基準点の成果は下記のとおりである。

	X = 23622.856		X = 23594.909		X = 23606.382
基一1	Y = 21998.541	基-2	Y = 21985.276	基-3	Y = 22047.613
	H = 125.009 m		H = 126.486 m		H = 125.054 m

グリッドの設定(第2図)は、1グリッドの規模が $10m \times 10m$ を単位とした。基準となった杭は、下之御庭の南側にあった東西に延びるコンクリート製側溝の南側縁より50cmの地点に基準杭A-11を設定した。以下、側溝と平行させながら東西方向に10m間隔でA-12からA-17の杭を設定した。南北方向には基準杭A-11からA-17を視準し、これを軸線としてA-17からW90°0′00″Sに振って10m間隔でB $-11 \cdot C - 11 \cdot D - 11$ の杭を設置し、グリット番号は東から西へ $10 \cdot 11 \cdot 12 \cdot \cdot \cdot \cdot$ と数字を冠した。グリッドの番号はアルファベットを採用し、北から南へA $\cdot$ B $\cdot$ C $\cdot \cdot \cdot$ とした。グリッド名は記号と番号を組み合わせてA $-10 \cdot$ B $-10 \cdot \cdot \cdot \cdot$ と標記した。なお、グリッド名はグリット内の東南隅の杭に冠して、将来の調査に使用できるように設定した。

基準杭A-11 とA-17 を結ぶ軸線(南北基準座標軸 $N^\circ$  19′00″ Wに偏る座標軸)からW180 $^\circ$  0′00″ Eへ振って、A-11 から東側へ170cm の箇所にある奉神門基檀と丁度かち合うように基準杭A-11 を設定した。

調査地区のA-11(北東)、A-17(北西)、D-10(南東)、D-18(南西)の4点のX座標とY座標については、写真測量図の読み取りから下記の結果が得られた(第2図)。

A-11 (X=23604.474 Y=22047.078) A-17 (X=23623.565 Y=21990.239) D-10 (X=23572.885 Y=22047.018) D-18 (X=23598.267 Y=21971.191)

その他、A-11 から東側にある奉神門基壇とかち合う接点(170cm)から奉神門南側階段がとり付けられた基

その他、A-11 から東側にある奉神門基壇とかち合う接点 (170cm) から奉神門南側階段がとり付けられた基壇 (階段南側縁と基壇との接点) までの直線距離は6 mと判読した。

#### 註文献

- 註1. 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第56集『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅲ) -平成6年度調査の遺構編』沖縄県立埋蔵文化財センター平成23 (2011) 年3月。
- 註2. 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第62集『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV) -平成6年度調査の遺物編(1)』沖縄県立埋蔵文化財センター平成24(2012)年3月。

## 第2節 事業の体制

京の内跡の発掘調査は、平成6 (1994) 年度~平成8 (1996) 年度までの三カ年実施した。資料整理については今回の報告書刊行に係った平成25 (2013) 年度に限定して、下記のような体制で実施した。

#### ◎ 平成25(2013)年度 組織 (「京の内跡発掘調査報告書(V)」報告書刊行年度)

○ 事業主体	沖縄県教育委員会	教育	長 請	諸見里 明
	同 上	教育管理統	括監	島田・勉
	同 上	教育指導統	括監	兵口 茂樹
○ 事業総括	沖縄県教育庁文化則	才課 課 县	<b></b>	新垣 悦男
○ 事業事務	沖縄県教育庁文化調	果 管理班	班 長	仲宗根 英之
	同 上	"	主 査	渡邊 利恵子
	同 上	IJ	主 任	比嘉 睦
	同 上	IJ	主 任	上原 明香
○ 事業事務	沖縄県教育庁文化調	果 記念物班	班 長	盛本 勲
	同 上	IJ	指導主事	田場直樹
	同 上	"	主任専門員	山本正昭
○ 事業実施	沖縄県立埋蔵文化則	オセンター	所 長	下地 英輝
	同 上		副参事	島袋 洋
	同 上	総 務 班	班 長	新垣 勝弘
	同 上	"	主 査	西島 康二
	同 上	"	主 任	平良 広海
	同 上	"	再任用主查	次呂久 長英
	同 上	"	事務補助員	安里綾子・砂川美樹・下地 麻利恵
	同 上	調査班	班 長	金城 亀信 (資料整理・報告書作成担当)
	同 上	"	主 任	新垣 力(発掘調査担当)
	同 上	"	専 門 員	山城 勝(臨任)

○ 資料整理指導(平成25年度)

佐賀県立九州陶磁文化館 館長 大橋 康二 (陶磁器)

○ 資料整理作業及び協力者 (平成 25 年度)

沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 主 任 知念隆博(金属製品:軟 X 線写真撮影)

文化財調査嘱託員 天久瑞香・玉城 綾

埋蔵文化財資料整理嘱託員 赤嶺雅子・池原直美・伊佐えりな・石嶺敏子・伊藤恵美利・上原美穂子・

大村由美子・小渡直子・久保田有美・後田多昌代・島袋久美子・瑞慶覧尚美・

野村知子・又吉志麻子・宮里絵里・仲里由利・高良三千代・玉寄智恵子・

宮城初枝・屋我尚子・矢舟章浩・吉村綾子

## 第3節 調査の経緯

平成6 (1994) 年度の調査の経緯についての詳細は、『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書 (Ⅲ) -』〔沖縄県立埋蔵文化財センター 平成 23 (2011) 年3月〕 (註1) を、調査の経緯についての概要は『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書 (Ⅳ) -』〔沖縄県立埋蔵文化財センター 平成 24 (2012) 年3月〕 (註2) を併せて参照されたい。本節では、前記報告書 (Ⅳ) から調査の経緯を再度掲載した。

平成6 (1994) 年度に実施した首里城京の内跡の発掘調査は、同年 11 月 21 日から着手し、翌年の 3 月 28 日までの約5  $\sigma$ 月間にわたって実施した(第1図)。

調査地区の発掘前の状況は、平成4(1992)年の首里城正殿、北殿、南殿、奉神門、廣福門などの復元整備が完了し、首里城公園として一部が開園した。開園に伴って京の内地域は、北側の下之御庭から南側の斜面地まで客土がなされ、全面に芝張りで暫定的な仮整備が行われていた。客土は琉球大学の基礎跡より上位に実施されていて、調査は仮整備の芝の除去から始まり、次に客土の除去をバックホウでおこない琉球大学の旧地表面まで剥ぎ取った後に磁気探査をおこなった。磁気探査の結果、琉球王国時代の遺物や沖縄戦で使用された不発弾等は検出されなかった。

この時点で磁気探査を終了したが、琉大地盤を東側から西側へバックホウで慎重に旧表土を削平しながら掘り下げたところ手榴弾4発、砲弾2発が検出された為、関係機関に連絡を入れて処理を依頼した。その後、遺構内の崩れた栗石を手作業による除去をおこなっていた調査員が持ち上げた石の下から完形の信管付の不発弾が見つかり、警察署をとおして自衛隊へ不発弾の処理を依頼した。

このような状況で琉球王国当時の地表面と首里第一尋常高等小学校(明治 45 年~昭和 20 年:1912 年~1945年)当時の地盤までバックホウや手掘りで掘り下げたが、調査地区の南側半分は琉球大学校舎(短大管理棟、理科実験室、教育校舎及び同ビル別館、法文校舎及び同ビル別館 B など)建築の際の造成により琉球石灰岩の掘削や削平がなされ、遺構の残り具合は悪かった。逆に北側は琉大校舎地盤のレベルより低い地域は、道路、中庭、各校舎への通路と利用されたことと校舎などの構築物が建設される事がなかった事が幸いして、旧表土レベル内での軽微な攪乱を受けている程度で、全体的に遺構の保存状態は良好であった。遺構検出に際しては、遺構直上までバックホウで慎重に削平しながら遺構の確認と掘り下げを行った。この辺はオペレーターの技術と経験が生かされ5cm前後の誤差で剥ぎ取りが可能となり、調査がスムーズに進行していった。遺構直上より下部の発掘調査は、人力による手作業で遺構を露出させながら掘り下げていった。

遺構の検出に際しては確認され次第、第2図のように遺構の形状などから記号と番号を検出順に冠していった。また、遺構の性格や時期を具体的に把握する目的で、遺構沿いにトレンチを入れながら発掘調査を進行させた。結果として検出された遺構は51基(調査終了時点で、遺構番号に重複が発生)を数えた(註3)。その後、遺構の整理(途切れた石積み遺構同士が繋がり一つの遺構として整理、SA19・SA20・SA28 が土壙 SK01 の倉庫跡となるなど)と検討をすすめたところ平成12(2000)年度の段階で39基(註4)となった(第1表)。

第1表 平成6(1994)年度「京の内」跡検出遺構件数の新旧関係

NO.	種類	遺構の記号と番号	旧件数(1994年時点)	新件数(2000年時点)
1.	石積み	SA01~SA27 · SA29~SA34	33基	17基
2.	石 列	SR01 • SR02	2基	2基
3.	石敷き・塼敷き	SS01~SS03	3基	6 基
4.	溝	SD01~SD07	7基	10基
5.	土 壙	SK01~SK03	3基	3 基
6.	建物	SB01 • SB02	2基	1 基
7.	階 段	SA28	1基	0 基
	遺構	合 計	51基	39基

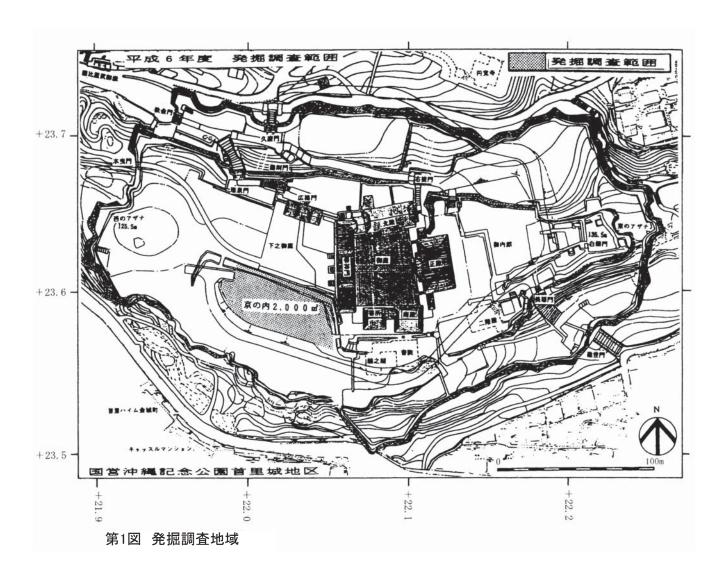
平成 6 (1994) 年に実施した京の内北地区 (約 2,000 ㎡) の埋め戻しは、平成 8 (1996) 年 2 月 29 日に遺構や往時の面を保護するために白砂を 15cm 前後の厚さで岩盤の石灰岩を含む調査区 2,000 ㎡に敷いて、その上に残土を  $50\sim70$ cm の厚さで盛って埋め戻した。この埋め戻しに際しては、重機(バックホウ、タイヤショベル、ローラー)を使用するため、埋め戻しの方法について協議しながら行った。遺構面については調査員立ち会いのもとで人力による埋め戻しを実施した。

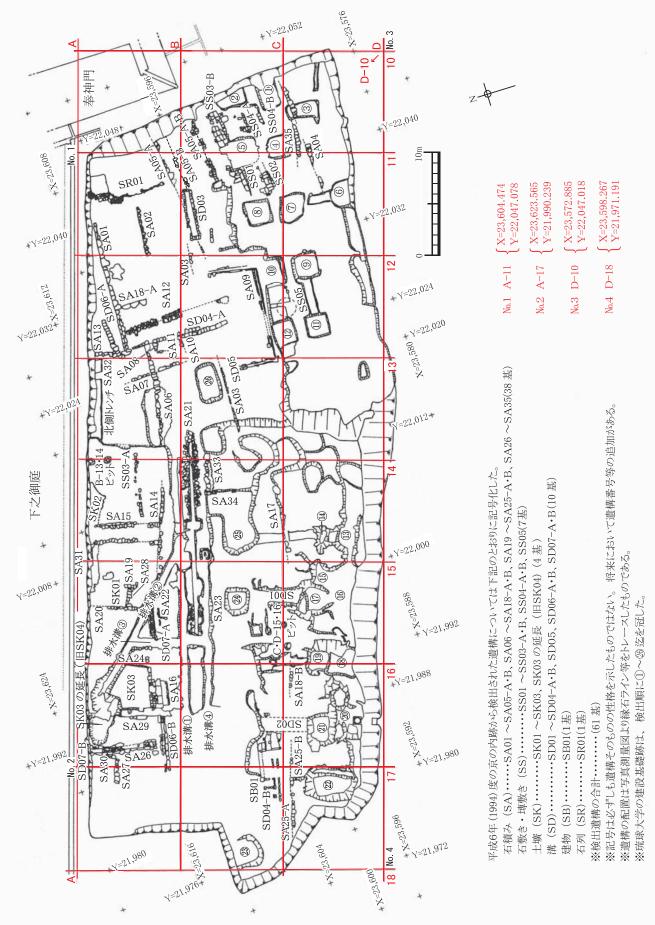
#### 註文献

- 註1. 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第56集『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅲ)-平成6年度調査の遺構編』沖縄県立埋蔵文化財センター 平成23(2011)年3月。
- 註2. 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第62集『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(IV) 平成6年度調査の遺物編(1)』 沖縄県立埋蔵文化財センター 平成24(2012)年3月。
- 註3. 沖縄県文化財調査報告書第132集『首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(I)ー』沖縄県教育委員会 平成10(1998)年3月。
- 註4. 金城亀信「首里城「京の内」跡の発掘調査概要」重要文化財指定記念 特別企画展 『首里城京の内展ー貿易陶磁からみた大交易時代ー』 沖縄県立埋蔵文化財センター 平成13 (2001) 年3月。

#### 引用及び参考文献

- 1. 財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 『国営沖縄記念公園首里城地区整備計画』平成7 (1995) 年3月。
- 2. 金城亀信「首里城跡「京の内」跡出土の輸入陶磁器-紅釉水注を中心に一」『特集 琉球考古学最新情報』考古学ジャーナル NO. 437 1998 年。
- 3. 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 49 集『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)-』沖縄県立埋蔵文化財センター 平成 21 (2009) 年 3 月。





第2図「京の内」跡遺構配置図およびグリッド設定

## 第Ⅱ章 遺 構

## 第1節 遺構の概要

#### A. 遺構の種類と概略

平成6年度の京の内地区の発掘調査で遺構と共に出土した陶磁器類などを理解する上で、欠くことのできない遺構についても『首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(III) - 平成6年度調査の遺構編』〔沖縄県立埋蔵文化財センター平成23(2011)年3月〕(註1)の表現等を修正後に『首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(IV) - 平成6年度調査の遺物編(1)』〔沖縄県立埋蔵文化財センター平成25(2013)年3月〕(註2)に掲載したものを本節では再度掲載して使用した。

平成6年度の首里城京の内跡発掘調査で検出された遺構には石積み(階段を含む)、石敷き(塼敷きを含む)、 土壙、溝、建物、石列などがある。検出された遺構のほとんどは真北に対し、やや西に振れるものと西よりに振れるものが存在した(第2図・第3図)。

各種の遺構は発掘直前に推定された遺構の種類や性格によって記号化し、検出された順に番号を冠した。

具体的には、建物と付属する溝、石敷き、石積みの外面や内面にも個別に記号と番号を付した。また、個別の遺構として取り扱っていたものが完掘後に一連の遺構となり、種類や性格も明らかとなった遺構もある。これについては古い記号と番号を尊重しながら新しい記号と番号を付して、新旧の番号と記号を併用した。基本的に同一遺構であっても調査時点に冠した記号や番号の改正などは実施しなかった。これは記号や番号の改正などによって図面整理や資料整理(ナンバーリングの変更など)で時間を費やし、資料整理の進捗に支障を来すことが予想されたからであった。遺構の記号は以下のとおりであるが必ずしも遺構の種類と性格を示すものではないことを付する。なお、今回の報告で新たに遺構が3基確認されたことは、大きな成果であった。

遺構の種類は石積み(SA)、石敷き・塼敷き(SS)、土壙(SK)、溝(SD)、建物(SB)、石列(SR)の6種類である。以下、遺構別に性格などを略記する。

#### 石積み(SA)

石積みの大部分はその上部を欠くため上部の構造は判っていない。石積みは外面と内面を並行に南北方向や東 西方向に配置する区画石積みが主であった。古絵図にみられた区画石積みに空けられた通用門は戦後の造成(岩 盤の削平と掘り下げ)で破壊され確認されていない。他に基壇状の建物の縁石や倉庫の壁石などのように外面の みが検出されたものもある。これは石積みの位置変更や幾度となる造成による嵩上げ等による内面の破壊や石積 みの際に直接岩盤上に積み上げた事に起因するようである。その他に完掘の結果、階段や階段の脇石積みとして 判明した石積みもある。石積みも大半が根石のみが存在する状況にあった。根石は粗加工の切り石や野面石に粗 い加工を加えたものを用いて造成土盤(遺物包含層を二次的に使用)や削平した岩盤上に直接的に配置し、その 上から切り石を積み上げているものが主であった。石積みの外面と内面において、外面は切り石で、内面が野面 積みを用いたものがある。内面に野面積みを用いた理由として、内面側の土盤の仕上げ高が高い位置にあったた め、野面石を基礎石として積み上げ途中から設定された土盤近くから切石に変更がなされたからであろう。この 方法を用いた例は二例のみ確認されている。他にも例外的ではあるが野面積みを積み上げ途中から裏込目石の代 りに礫混りの土砂を投入する特殊な例があった。発掘調査の結果、明確な石積み(区画石積み・御嶽・倉庫・琉 大の石積み)となったものと今回の整理で新たに確認された2基(SA05-Bの内・外面)を加えると、切り石 積みでは東西方向に延びる石積みが 15 基(SA03、SA04、SA05-Bの内・外面、SA06、SA08、SA10、 SA14、SA17、SA18-B、SA25-A、SA27、SA31、SA33、SA35) で、南北方向に延びるものは 12 基(SA07、SA11~SA13、SA15、SA18-A、SA19、SA20、SA25-B、SA30、SA32、SA34) が確認されている。これらの切り石積みの対比・相関関係については、第2表で整理した。野面積みは1基(S A24)のみで南北方向に延びていたようである。その他に建物の基壇の縁石や建物の縁石が4基(SA01、SA 01 背面、SA02、SA09)、階段およびその脇石積み3基(SA16、SA19、SA28)、側溝の縁石2基(SA

26、SA29)、石積みの裏込目石の集石が 2基(SA21、SA23)があった。以上の 38 基が石積み(SA)として取り扱ったものである。

なお、資料整理をとおして、平成9 (1997) 年2月20日~3月21日迄の期間で実施された下之御庭の首里森御嶽復元整備に係る遺構確認のための発掘調査(註3)で、下之御庭の首里森御嶽下部石積みが京の内の石積み(SD04-AとSA18-A)と繋がっていく事を改めて確認[調査期間中に下之御庭の首里森御嶽下部石積みが京の内を南北に横断して最高位にある首里森御嶽へ繋がっていく事を現地で確認した。下之御庭の首里森御嶽は京の内にある首里森御嶽(本体)への遙拝所であることが石積み遺構からも推定できた]した。

#### 註文献

- 註1. 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査報告書 第56集 『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書 (Ⅲ) -平成6年度調査の遺構編』 平成23 (2011) 年3月。
- 註2. 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査報告書 第47集 『首里城跡-下之御庭首里森御嶽地区発掘調査報告書-』平成20(2008)年3月。
- 註3. 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査報告書 第62集 『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書 (IV) -平成6年度調査の遺物編(1)』 平成24 (2012) 年3月。

#### 参考文献

- 1. 金城亀信 首里城「京の内」跡の発掘調査概要 重要文化財指定記念 特別企画展『首里城京の内展ー貿易陶磁からみた大交易時代ー』 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001年3月。
- 2. 金城亀信 「首里城京の内跡検出遺構について一平成6年度の遺構を中心に一」第50回文化講座『聖域へのアプローチ~考古学から何が見えてきたのか~』 沖縄県立埋蔵文化財センター 平成24年2月13日。

#### 石敷き・塼敷き (SS)

石敷きは細粒砂岩製(俗称・ニービヌフニ)と琉球石灰岩製の二種類が存在し、板状に薄く仕上げたものである。主に細粒砂岩製のものが主流であった。石敷きの方向は東西方向に途切れながら検出されている。これは後代の造成で破壊されたためである。 塼敷きとしたものは塼瓦が敷かれた状態で検出されたのではなく、 塼敷きが破壊されたままの状態で検出されたものである。

石敷きの細粒砂岩製のものは建物の縁石と礎石を伴うものであり、建物に付属する取り付けの回廊・踊り場などの施設であったものとして推察されるところである。石灰岩製の石敷きは側溝の底板であった。

石敷きの細粒砂岩製のものは5基(SS01、SS02、SS03-B、 $SS04-A\cdot B$ )が存在し、小規模な構築物を囲む回廊様な遺構とみられ、当該遺構は切り合っている事から新旧、二時期が存在するようである。石敷きの石灰岩製のものは1基(SS03-A)のみであったが、後述する首里第一尋常高等小学校の排水溝と関係し、一連のものとみられる。 塼敷きは1基(SS05)のみで、戦災やその後の造成で破壊された状態で検出されている。以上の6基を石敷き・塼敷き(SS)とした。

#### 土壙 (SK)

人為的な堀り込みや自然地形の部分的な落ち込みなどを総称して土壙とした。土壙は北西側に集中する傾向が窺え、検出直後に他の遺構と同レベルで確認されたもの、掘り下げの途中から確認されたもの、完掘後に確認されたものの3種類があった。これらの土壙は3基( $SK01 \sim SK03$ )が確認されている。SA19、SA20、SA200 と名称を付けたものもある。

SK02は岩盤の窪みなどを利用し、造成土(遺物包含層を二次的に使用)で埋めたものである。造成土(SK02)直上にSA15、SA31の石積みがなされている。

SK03 はSA24 の石積みと同レベルで検出されたものであるが、SA24 の西側を一帯の窪地を埋めた造成土(遺物包含層を埋土に用いる)である。SK03 を発掘した結果、SA24 の外面の石積みが検出された。以上の3基を土壙(SK)として処理した。その他、SK03 と同時期の土砂が北西側にもある程度の広がりを持って分布していたことなどから "SK03 の延長(旧名称:SK04)"として取り扱った。

#### 溝 (SD)

建物や石積みに付属する溝と最終的に便所となったものなどをSDと記号で表記した。建物に付属する排水溝で東西方向に延びるものは3基(SD06-A・B、SD07-A)が存在する。南北方向に延びるものも3基(SD04-A、SD05、SD07-B)が確認された。他に岩盤を溝状に掘り込んだ琉大の建物基礎(布堀り基礎跡)2基(SD01、SD02)や近代~現代の便所跡2基(SD03、SD04-B)が存在していた。以上の10基を溝とした。

#### 建物 (SB)

首里第一尋常高等小学校の頃の便所に伴う施設(基礎石、縁石、踊り場など)がセットで検出されたものを建物とした。1基(SB01)のみであった。SB01の建物の中にはSD04-Bの便所跡が伴っている。

#### 石列 (SR)

擁壁跡の裏込目石や建物の縁石が列状に検出されたものを石列とした。擁壁の裏込目石は北東隅から南北方向に弧状に曲がりながら延びていたものであり、1 基(S R 01)が確認されている。建物の縁石は石敷き遺構(S S 01、S S 02、S S 03 - B、S S 04 - A・B)の東南隅から検出された。京の内跡発掘調査報告書(I)で、東西方向にの延びたものが 1 基(S R 02)と報告したが検討の結果、前述した石敷き遺構(S S 01 ほか 3 基)と関連する一連のものと判断されたことから当該遺構はS R 01 の 1 基となった。

以上の 58 基の遺構は一連のものもあるが個別の機能を尊重したため重複するものなども含まれている。大雑把に大別すると以下の a ~ d までの 4 種類に分類と整理ができるようである。

#### a. 石積み (31 基)

イ. 切り石積み(SA03、SA04、SA05-B内・外面、SA06~SA08、SA10~SA15、SA17、SA18-A・B、SA19、SA20、SA25-A・B、SA27、SA30~SA35)・・・27 基。

- 口. 野面石積み (SA24) · · · 1 基。
- ハ. 排水施設を伴う切り石積みと関連する遺構 (SD04-A、SD06-A) ··· 2基。
- 二. 拝所の一部となる切り石積みと関連する遺構 (SA25-A・B) ・・・2基。

#### b. 建物および付属遺構 (9棟)

- イ. 基壇を有する建物の面石(SA01・SA01背面)・・・1棟。
- ロ. 排水溝や階段に取り付けられた建物2棟。1棟目(SA09、SD05)、2棟目(SA26、SD07-B、SD06-B、SA16、SA22、SD07-A、SS03-A)・・・2棟。
- ハ. 便所を伴う建物遺構は3棟が存在する。1棟目(SA02、SD03)、2棟目(SD03、SD03 関連施設)、3棟目(SB01、SD04-B)・・・3棟。
- 二. 石敷き・縁石・礎石を伴う遺構 (SS01、SS02、SS03-B、SS04-A・B) · · · · 2 棟。
- ホ. 倉庫遺構(取り付け階段を含む) (SA19・SA20、SA28) · · · 1 棟。

#### c. 土壙 (3基)

- イ. 倉庫遺構と重複するSK01 (SA19、SA20、SA28) · · · 1 基。
- ロ. 土壙直上に遺構が存在するSK02(SA15、SA31)···1基。
- ハ. 石積みを埋めたSK03 (SA24) · · · 1 基。

#### d. その他 (6基)

- イ. 塼敷き遺構 (SS05) ・・・1基。
- 口. 石積みの裏込目石の集石遺構 (SA21、SA23) · · · 2基。
- ハ. 擁壁の裏込目石の集石遺構 (SR01) ・・・1 基。
- 二. 建物の基礎 (布堀り基礎) 跡。溝 (SD01、SD02) ・・・2基。

以上のように大別すると49基が遺構として整理ができる。

次に切り石積みの外面と内面の対応関係について第2表で整理した場合、上記 a. イの切り石積み 27 基の内、 倉庫跡の石積み SA19・20 の2基、琉大の石積み SA03 の1基の合計 3基を除外して、新たに確認された SA05 - B (内・外面) の2基を追加すると 26 基となるが、切り石積みの対比・相関関係について検討したところ第2表のような結果が得られた。

第2表 切り石積み(区画石積み・御嶽)の外面と内面の関係

713-									
南北軸方向			東西軸方向						
NO.	外面(外側)	内面(内側)	NO.	外面(外側)	内面(内側)				
1	SD04-AとSA32か	SA18-A	1	SA04 未確認					
2	SA07	SA12	2	SA05-A (外面) SA05-A (内面)					
3	既に破壊され消失	SA11	3	SA05-B (外面) SA05-B (内面)					
4	既に破壊され消失	SA13	4	SA06	SA10か				
⑤	SA15 (西側)	SA15 (東側)	⑤	SA10カュ					
6	消失	SA25-B (御嶽)	6	SA14	既に破壊か。SA21・23か				
7	SA30	未確認	7	SA21 (既に破壊か)	SA33				
8	未検出	SA31	8	SA17・SA18-B・SA25-A(御嶽)	既に破壊				
9	既に破壊され消失	SA32	9	SA27	未確認				
10	既に消失	SA34	10	SA31	未確認				
			11)	SA35	既に破壊				
	合 計 10基			合 計 11基					

#### B. 各時期別の遺構

発掘調査時点で出土した陶磁器を基本に各時期別に遺構に時間軸を設けて整理すると、第 I 期~第 VI 期(第 3 図)までの 6 時期に大別されるようであるが各遺構のトレンチ内から出土した陶磁器類を主とする遺物の整理が終了しないと正式な時期を絞り込むことができないので暫定なものとして考慮されたい(第 3 図)。

- イ. 第 I 期(14 世紀前半~14 世紀後半)・・・・(『首里城跡 京の内跡発掘調査報告書(IV) 平成 6 年度調査 の遺物編(1)』収録の第 7 図参照。)
- □. 第Ⅱ期(14世紀終末~15世紀前半)・・・・・(『首里城跡 京の内跡発掘調査報告書(IV) 平成6年度調査の遺物編(1)』収録の第38図参照。)
- ハ. 第Ⅲ期(15 世紀中頃)・・・・・・・・・・(『首里城跡 京の内跡発掘調査報告書(IV) 平成 6 年度調査 の遺物編(1)』収録の第 69 図参照。)
- 二. 第IV期(15世紀後半~16世紀初頭)·····(第3図)
- ホ. 第V期(16世紀前半~19世紀後半)
- へ. 第VI期 (19世紀終末~昭和58年)
  - a. 同期前半(19世紀終末~昭和20年)
  - b. 同期後半 (昭和 24 年~昭和 58 年)

### 第3表 平成6年度 京の内地区検出遺構と遺構の時期

第 I 期 (14世紀前半~ 14世紀後半)	第Ⅱ期 (14世紀終末~ 15世紀前半)	第Ⅲ期 (15世紀中頃)	第IV期 (15世紀後半~ 16世紀初頭)	第 V 期 (16世紀前半~ 19世紀後半)	第VI期前半 (19世紀終末~ 昭和20年)	第VI期後半 (昭和24年~ 昭和58年)
SA24	SA01	SA08,SA10	SA04,SA35	SA06	SA26,SD07-B	SA03
SK03	SA05-A	SA17	SA05-B	SA13	SA29、排水溝⑤	排水溝①~④
SK03の延長 (旧SK04)	SK02	SA18-B	SA07, SA11, SA12	SA15	SA16,SD06-B	SD01,SD02, SR01
B−13•14ピット		SA25-A,SA25-B	SA14	SA21,SA23	SA22,SD07-A	フーチン
C・D-15ピット		SA33,SA34	SA27,SA30	SA31	SS03-A	
		SA18-A,SA32, SD04-A	SS01,SS02,SS03-B SS04-A,SS04-B	SS05	SA02	
		SD06-A		B-12・13 北側トレンチ	SD03	
		SK01			SA09,SD05	
					SB01,SD04-B	

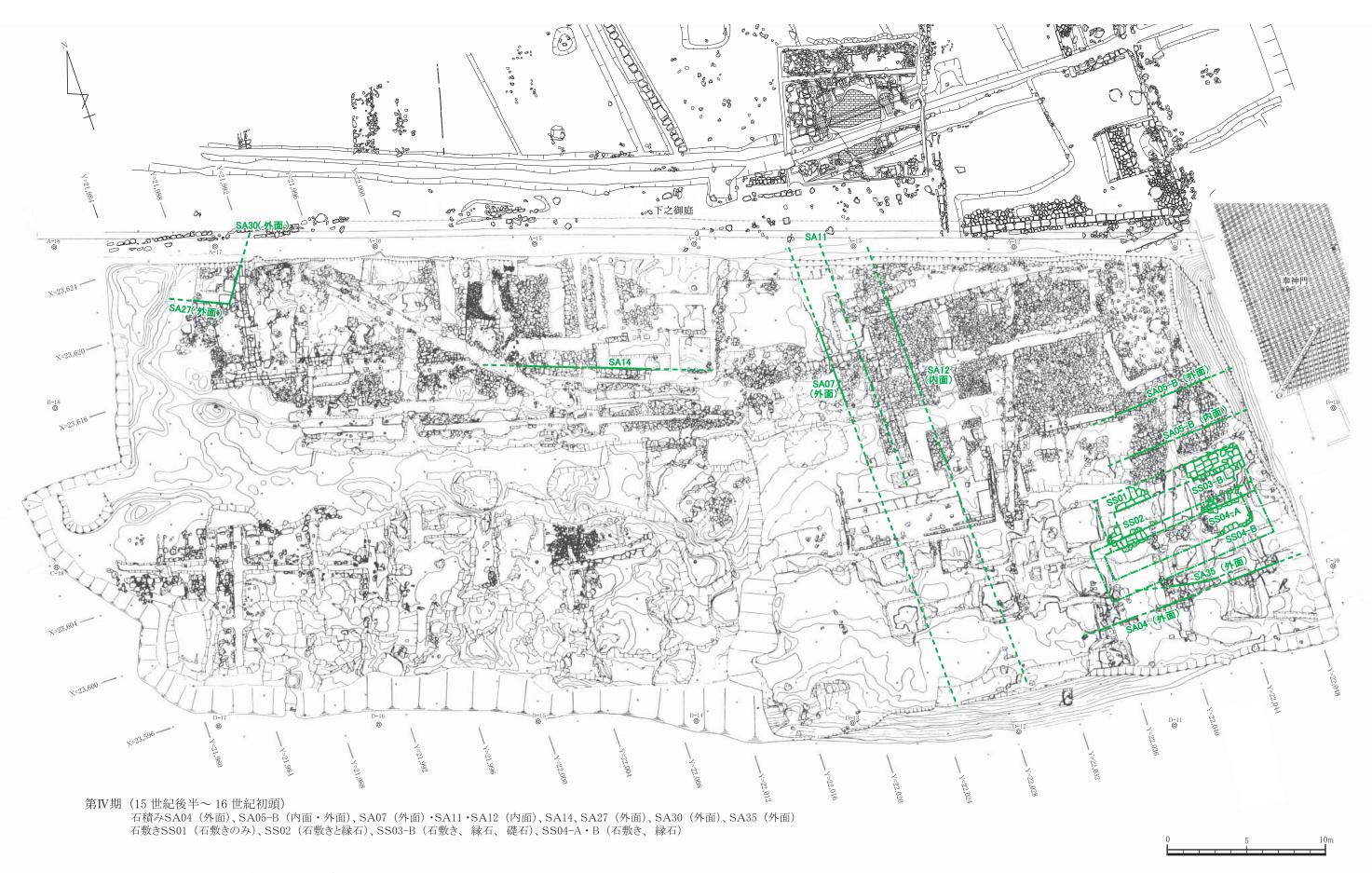
以下、第IV期の各遺構周辺に設定した試掘トレンチ及び試掘坑内や遺構に伴う出土遺物や、遺構と関連する遺物について報告する。

遺構検出の目的で、遺構周辺に設定した試掘トレンチ及び試掘坑から出土した遺物が直接的に遺構の時代と特定することはできないが、遺構の構築時期や造成時期を出土した陶磁器類などから相対年代として、ある程度は推定する事ができる。

首里城内の他の地区と同様に京の内地区内の遺構についても、遺構周辺に設定した試掘トレンチ及び試掘坑内からも造成層(造成土盤や埋土を含む)や攪乱層(沖縄戦の砲弾着弾及び炸裂による再堆積を含む)などが、複数枚の堆積層となって確認されている。これらの遺物を含む造成層や攪乱層から出土した遺物からも遺構の履歴(構築の時期から遺構の廃棄時期)を知る上で、貴重な遺物である事から当該層より出土した遺物も掲載した。なお、第V期以降は、次回の報告に委ねることとする。



第3図 遺構全体図



第4図 京の内北地区第Ⅳ期 (15世紀後半~16世紀初頭) 遺構の推定復元

## 第Ⅲ章 遺物

#### イ. 第Ⅳ期(15世紀後半~16世紀初頭)・(第4図~第61図)

当該期の遺構として、SA04、SA35、SA05-B、SA07、SA11、SA12、SA14、SA27、SA30、SS01、SS02、SS03-B、SS04-A、SS04-Bの14基の遺構がある。出土した遺物の取り扱いについては、重複遺構の切り合い関係を把握する目的で設定した試掘トレンチや試掘坑より出土した遺物の中で、単一遺構に帰属すると判断された遺物は、該当する遺構に取り込んである。その為、遺構はあるが遺物が出土していない遺構もあるのでこれに留意されたい。

以上、これらの遺構出土の遺物で当該遺構の時期に比定できる資料や特徴的な遺物を抽出して以下に記述する。 石積み SA04 からは、当該遺構の遺物として青磁茶托(第7図14)、青花外反口縁碗(同図15)、中国産褐釉 陶器壷(同図20~22)、タイ産(土器・炻器・褐釉陶器。第8図1~6)などが出土している。その中で、青磁 茶托については、首里城跡黄金御殿地区(註1)や那覇市の渡地村跡(註2)などから出土しているが、復元資 料が皆無であった。今後の類似資料の発見や資料の増加を期待して、参考までに青磁茶托の図上復元を試みた。 その他に注目される資料として、第5図4の塼瓦に団扇形(軍配形)の刻印を施して器面に赤茶色の塗料を施し たものが確認されている。同様の団扇形(軍配形)の窯印が湧田古窯跡(註3)から出土している。

石積み SA35 の時期を明確に特定できる資料は得られていない。

石積み SA05-B の時期に比定できる遺物として、青花皿(第 12 図 5)と華南彩釉陶器(同図 6 ・ 7)などが出土している。石積み SA05-B は、東西方向に一部は削平された岩盤の上から野面石積みを二列に積み上げた時期(14世紀後半~15世紀前半)と第IV期(15世紀後半~16世紀初頭)の二時期に渡って利用(註 4)したようである。なお、第 12 図 4 の青花碗口縁破片は岩盤直上の褐色土層から出土となっているが、石積み SA05-B を検出するため、周辺の栗石除去作業中か調査時の降雨などで流れ込んできたようである。

石積み SA07 の遺構の時期を特定できる資料は得られていない。

石積み SA11 の時期を示す資料として、華南彩釉陶器とタイ産土器(半練)が得られているが、細片資料の為、図化を省略して第27表に示した。

石積み SA12 の時期に比定できる資料として、青磁碗及び皿(第 16 図 4 ・ 5 )、華南彩釉陶器(同図 6 )などが得られている。

石積み SA14 の時期として比定した資料は、青磁酒会壷(第20図21~24)及び青磁茶托(同図26)、白磁杯(第21図1)、華南彩釉陶器(同図3・4)、タイ産(土器、炻器、褐釉陶器。第24図1~5)などが得られている。その他に当該遺構の時期から外れるが、第17図2のグスク系土器の底部に藁筵の圧痕がみられる資料や高麗青磁の皿か碗(第24図6)が得られている。

石積み SA27 の時期に比定できた資料は、青磁直口口縁皿(第 30 図 10・11)、青花碗(第 32 図 4)及び同壷(同図 5)、中国産褐釉陶器壷(第 33 図 4・5)、タイ産(土器、褐釉陶器。第 34 図 1~3)などがある。当該遺構の時期から外れる資料で特徴的な資料として、青磁皿の見込みに「顧氏」(註 5)の銘が陽刻で施された資料が得られている。その他に二次的な火熱で溶解した銭貨の塊(第 37 図 8)が得られている。この銭貨の塊を「洪武通寶(明、1368 年初鋳造)」一枚の重量を 4.5 g を基準にして、銭貨の塊の重さ 1246.84 g を 4.5 g で割ると、洪武通寶 277 枚相当分の重量であることが確認できた。銭貨の塊の中には洪武通寶が 2・3 枚確認できる。銭の重なり具合から銭の孔に縄などの紐と通して袋や容器に保管されたものとみられる。二次的な火熱を受けて溶解したガラス小玉の塊(第 37 図 12)も出土している。

石積み SA30 と上記の石積み SA27 と直角に切り合いの関係にある。その為、両遺構から出土した遺物を可能な限り堆積層の層序を検討して分別を行ったが、分別ができない資料については、「石積み SA27・SA30」と項目を追加して両者を整理して報告する。

石積み SA30 の時期に比定できる資料は得られていないが、当該時期から外れた資料の中には、青磁大合子の身部口縁破片(第38図2)や骨製賽子の未製品(同図5)などが出土している。

前記したように切り合い関係にある石積み SA27・SA30 から分別ができなかった資料で、両遺構に時期に比定された遺物は確認できなかったが、当該遺構の時期から外れた資料の中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料として、青磁雷文帯碗と大鉢(第 39 図 1・2)を図化した。その他にガラス小玉 2 点(同図 3・4)を図示した。

石敷き SS01、SS02、SS03-B、SS04-A、SS04-B の五つの遺構は、重複した形で遺構が利用されている。その為、石敷き I 期と石敷き II 期に分けられている(註 6)。石敷き I 期は SS01・SS03-B、SS02・SS04-A の四つ遺構で、石敷き II 期が SS02・SS04-A、SS04-B の三つの遺構で構成され、石敷き I 期と II 期の二つの時期において共通して利用された石敷きは SS02・SS04-A の二つの遺構である。これらの石敷き SS01、SS02、SS03-B、SS04-A、SS04-B の遺構から出土した遺物は、時代幅が大きく遺構の時期を 15 世紀末~18 世紀と幅を持たせてある。これらの石敷き遺構で最も古い時期と思慮された資料を基にして第IV期(15 世紀後半~16 世紀初頭)に設定した。以下、石敷き SS01、SS02、SS03-B、SS04-A、SS04-B の五つの遺構については、石敷き I 期と石敷き II 期に分けて記載する。

石敷き SS01 (石敷き I 期) の時期に比定できる主な資料として、青花碗及び小碗 (第 45 図 3 ・ 4 )、華南彩 釉陶器 (同図 6 ・ 7 ) などがある。次に石敷き SS03-B (石敷き I 期) の時期を示す資料は確認されていないが、注目される資料が出土している。これは第 52 図 12 の「洪武通寶 (明、1368 年初鋳造) の背面に重なって出土した「皇宋通寶 (北宋、1038 年初鋳造)」の銭鋳型の原型 (原本)である。銭鋳造の際の銭形の基となる資料で、完全に「宋」・「通」・「寳」の字款の左右が反転して陰影の字款となっている。そこで当該資料の拓影を陰影と陽影を反転 (白を黒に変換) し、『日本出土銭総覧 1996 年版 (永井久美男編集 兵庫埋蔵銭調査会 1996 年 6 月 10 日第 2 刷発行)』で照合を実施したところ「皇宋通寶」の銭鋳型であることが確認できた。

この発見により首里城内で渡来銭である中国の公鋳銭(官鋳銭、或いは正規銭)を鋳写した模鋳銭(島銭)でもって新たに鋳造(複製の銭を鋳造)を行ったことを示す重要な資料である。

石敷き SS02 (石敷き I 期と II 期の時期で重複) の時期に比定される資料として、白磁直口口縁皿 (第 55 図 2) のみが出土している。石敷き SS04-A (石敷き I 期と II 期の時期で重複) の時期に比定される遺物として、タイ産土器 (第 56 図 1) ・タイ産褐釉陶器壷 (同図 2) が揚げられる。石敷き SS04-B (石敷き II 期) に比定できる資料として、中国産褐釉陶器 (第 59 図 2 ・ 3) とタイ産土器 (同図 4) が得られている。

#### 註文献

- 註1. 仲座久宜・羽方 誠・小橋川 剛『首里城跡-黄金御殿地区発掘調査報告書』沖縄県立埋蔵文化財センター 平成19(2007)年3月。
- 註2. 中山 晋・片桐千亜紀ほか『渡地村跡-臨港道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告-』沖縄県立埋蔵文化財センター 平成19(2007) 年3月。
- 註3. 大城 慧・島袋 洋・金城亀信ほか『湧田古窯跡(I) -県庁舎行政棟建設に係る発掘調査-』沖縄県教育委員会 1993 年 3 月。
- 註4. 金城亀信『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(Ⅲ) -平成6年度調査の遺構編』沖縄県立埋蔵文化財センター 平成23 (2011) 年3月。
- 註5-a. 亀井明徳「日本出土の明代青磁碗の変遷」『鏡山先生古希記念古文化論攷』1980 年発行によると亀井氏は、「顧氏」銘の落款をもつ碗については、15世紀後半を遡らないことを指摘している。
- 註5-b. 沈 岳明・小林 仁ほか『国際交流企画展 碧緑の華・明代龍泉窯青磁-大窯楓洞岩窯址発掘成果展』大阪市立東洋陶磁美術館 2011 年9月刊行に、小林 仁氏の作品解説で青磁刻花蓮唐草文 "顧氏" 銘碗の解説で「・・顧氏といえば、『乾隆龍泉県志』に記載のある 正統年間 (1435~49年) に龍泉で青磁生産を行った顧仕成が想起されます。楓洞岩窯址の主に明代早期の地層から「顧氏」あるいは 「顧」銘の資料が少なからず出土しており、顧氏一族は龍泉において早くから力のある窯主であった・・」と記している。
- 註6. 註4と同じ。

#### 参考文献

○永井久美男編 1. 中世の民間鋳造銭「島銭」と「線刻銭」第3章 中世の出土銭をめぐる考察『中世の出土銭 補遺Ⅰ』兵庫埋蔵銭調査会 1996 年4月5日発行。

第4表 第Ⅳ期 出土遺物状況

<u> </u>	4表 第Ⅳ	期は	土道	物状	<u>况</u>	1	1					1		1	1			ı
# ·	7 田田	SA04	SA35	SA05 -B	SA07	SA11	SA12	SA14	SA27	SA30	SA27 •30	SS01	SS03- B	SS02	SS04 -A	SS04 -B	合計	割合
遺物	土器	4			8		3	22	25	5	2	4	3			3	79	1.20%
		1		1			10	4	1			8					25	0.38%
ъ.	瓦質土器	2					1	7	16	1		9	2	1			39	0.59%
沖縄	屋瓦	100		24	11	3	32	624	238	2	23	574	29	6	5	56	1727	26.34%
産	塼瓦	6		2			3	13	5		1	78	2	1		6	117	1.78%
	漆喰			1	1												2	0.03%
	焼土							2									2	0.03%
	青磁	59	2	3	9	3	8	169	191	8	12	47	5	5	3	3	527	8.04%
	白磁	2			1			10	7	6		1	1	1			29	0.44%
中	青花	12		2	1		1	12	10			10	1				49	0.75%
玉	彩釉陶器	1		2	1	1	1	4				6					16	0.24%
産	瑠璃釉											1					1	0.02%
	黒釉陶器	3						1	4			1					9	0.14%
	中国産 褐釉陶器	173		15	30		36	433	637	18	27	410	40	20	89	201	2129	32.47%
タイ	タイ産土器(半練)	3				1		5	2			2			1	1	15	0.23%
産	タイ産炻器	2						2									4	0.06%
· 朝 鮮	タイ産 褐釉陶器	63		6	10	10	6	50	127	2	4	71	6	9	4	8	376	5.73%
産	高麗青磁							1									1	0.02%
	須恵器							2									2	0.03%
本土	中世陶器								2								2	0.03%
産	本土産磁器	9					2	5	2			43	1			1	63	0.96%
	本土産陶器	1		1	1		3	5				6	2			1	20	0.31%
沖縄	沖縄産 施釉陶器	8					11	5	10			42	1	1		1	79	
産	沖縄産 無釉陶器	20			4	3	3	13	4		1	27	1				76	1.16%
貝製								3				1	1				5	0.08%
骨製								2	1	1							4	0.06%
	石器·石製品	8		12	3	1	1	32	43	2		68	19	22	1	7	219	3.34%
	と状製品							8	1		3	3			1		16	0.24%
	製品	63		2	4	3	2	104	89	12	6	81	3	12	1	13	395	6.02%
銭貨		15	1	99	3			12	9	4		52	23	10	132	111	471	
	讨関連							1				1					2	
	ス玉							3	3	9	3						18	
	ス製品	7		2				7	3			6	6	1	1		33	
	現代	2											1				3	
炭化	とした木片											2					2	0.03%
	合計	564	3	172	87	25	123	1561	1430	70		1554	147	89	238	412	6557	100%
	割合	8.60%	0.05%	2.62%	1.33%	0.38%	1.88%	23.81%	21.81%	1.07%	1.25%	23.70%	2.24%	1.36%	3.63%	6.28%		

#### 第Ⅳ期(15世紀後半~16世紀初頭)・(第5図~第61図)

#### (1) 石積み SA04 の出土遺物 (第5図~第10図、第5表~第15表、図版1~図版6)

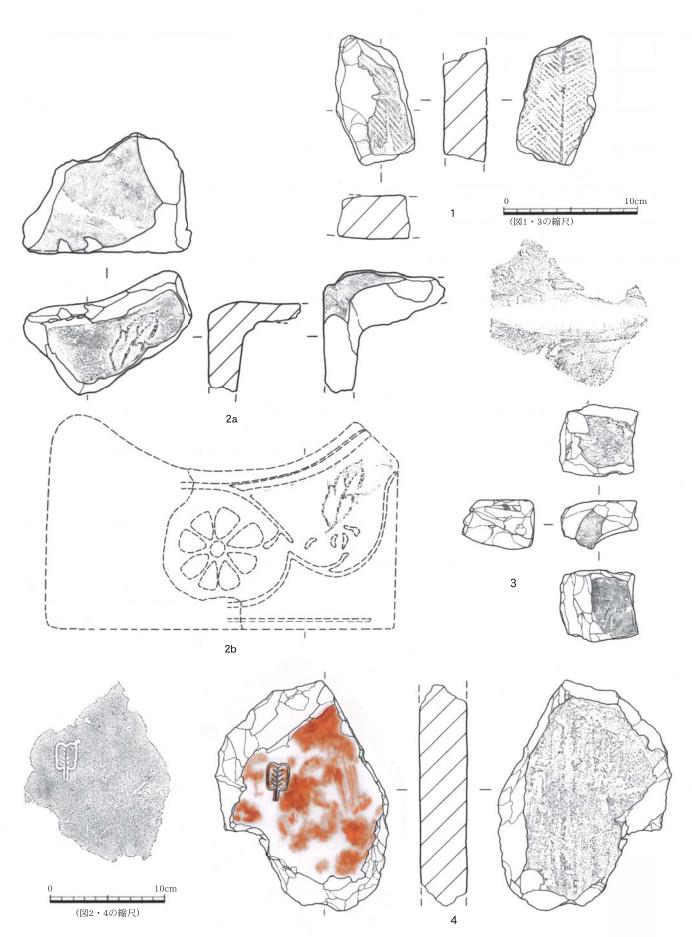
石積み SA04 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で564点 (≒100%) が得られている。 出土遺物の内訳は、土器4点 (0.71%)、瓦類 (屋瓦・塼瓦) 106点 (18.79%)、青磁 59点 (10.46%)、白磁 2点 (0.35%)、青花 12点 (2.13%)、黒釉陶器 3点 (0.53%)、中国産褐釉陶器 173点 (30.67%)、タイ産 (土器・炻器・褐釉陶器) 67点 (11.88%)、本土産磁器 9点 (1.60%)、沖縄産施釉陶器 8点 (1.42%)、沖縄産無釉陶器 20点 (3.55%)、金属製品 63点 (11.17%)、ガラス製品 7点 (1.24%)の 24種類 (第4表)が確認されている。輸入陶磁器(中国産、タイ産)の占める割合は、56.38%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として呈示ができる資料は、青磁茶托(第7図14)と青花外反口縁碗(同図15)、中国産褐釉陶器壷(第7図20~22)、タイ産(土器・炻器・褐釉陶器。第8図1~6)などがある。

なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第5図~第10図) した。

第5表 石積みSA04 屋瓦·塼瓦出土状況

		AU4		<b>育序</b>		C•D	-10, D-1	1			$\neg$
							SA04				
		種類・分类	Į.		第1層	琉大の送水管内 第1層客士 (淡黄茶色 混礫土層)	第2層 石積み 外側 暗褐色 土層	内側東南部 第2層 黒色土層	裏込め 石内 第3層	合	計
		軒平	,		1				2		3
		丸瓦					1		1		2
	高麗系	平瓦 (整形処理)	灰色	漆喰無し					1		1
		平瓦			1		2				3
	大和(古)	平瓦	灰色	漆喰無し	4			3	1		8
	大和	平瓦	灰色	漆喰有り(両面)					1		1
	大和 (近代のもの)	丸瓦	灰色	漆喰有り(片面)					1		1
		軒平	赤色	漆喰有り(片面)					1		1
			灰色	漆喰有り(片面)			1		3		4
屋瓦				漆喰無し		2			3		5
		丸瓦	褐色	漆喰無し		1	1		2		4
		YUAL		漆喰有り(両面)	1	1					2
			赤色	漆喰有り(片面)		1			1		2
	明朝系			漆喰無し		1			1		2
	21491VI			漆喰有り(両面)					1		1
			灰色	漆喰有り(片面)					4		4
				漆喰無し	1	5	1		30		37
		平瓦	褐色	漆喰無し					1		1
				漆喰有り(両面)		2					2
			赤色	漆喰有り(片面)		4	1				5
				漆喰無し	4	7					11
		合 計			12	24	7	3	54	]	100
		Ab	灰色	漆喰無し					1		1
		形状不明a	灰色	漆喰無し					1		1
塼瓦	Ⅲ類		赤色			1			1		2
			灰色						1		1
			赤色			1					1
		合 計			0	2	0	0	4		6



第5図 石積み SA04出土品① 瓦類 屋瓦:1~3、塼瓦:4 \*屋瓦2bは、上原靜「沖縄諸島出土の高麗系瓦について」 『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第26号2002年3月刊行などを参考にして作成した。

### 第6表 石積みSA04 屋瓦·塼瓦観察一覧

挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	観察事項	出土地点 出土層
第5図 図版1 1	高麗系・	軒平瓦の凸面に有軸羽状文を施す。羽状文が部分的に交差して格子目状となる。羽状文のうえに指圧痕が一部観察される。凹面には糸切り痕と布目圧痕がみられる。素地:灰色の細粒子で、微細な石英を多量に含む。稀に茶褐色の物質を含む。色調:表面が灰褐色で、裏面は灰色を主体とするが部分的に灰褐色を帯びている。焼成:堅緻。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 2	屋瓦• 高麗系• 軒平瓦	幅広瓦当型。瓦当面の上縁に沿うように平瓦が取り付けられている。瓦当面中央にある蓮華文を欠いているが、瓦当面右側に型で起こした葉を上向きに施している。上原靜分類の幅広弧状形瓦当(I型)蓮華文4類(註1)である。瓦当内面は篦削りを主体に施し部分的に指ナデがみられる。平瓦の凹面部分には布目圧痕を篦で部分的にナデ消す。瓦当との接合部分は篦削りで成形する。平瓦右側面は瓦当側面と同様に平坦に篦で削り取って瓦当と一体化させている。素地:灰色の細粒子で、微細な石英を少量含む。粗い石英と茶褐色の物質を僅かに含む。色調:外面は淡茶色で、内面が淡茶褐色を帯びる。焼成:良好で堅い。	C·D-10 SA04 第1層 覆土
" " 3	新平式 瓦当	"。"。瓦当面右側上面のみが僅かに残存。上原靜分類の幅広弧状形瓦当(I型)の範疇にある。瓦当上面縁は篦削りで調整。平瓦の凹面部分および瓦当接合部分は篦削りで成形する。平瓦右側面と瓦当側面部分は平坦に篦で削り取っている。平瓦凸面部分は篦削り以外に部分的な指ナデがみられる。素地:灰褐色の細粒子で、微細な石英を少量含む。稀に粗い茶褐色の物質を含む。色調:外面は灰褐色で、内面が暗褐色を帯びる。焼成:良好で堅い。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 4	塼瓦 Ⅲ類 Ab	方塼(正方形)の平敷式の塼瓦とみられる。表面は平坦な滑面となる。表面には朱色を意識した赤茶色のきめの細かい粘土を薄く塗布するが大半が剥落する。団扇形(軍配形)の刻印(註2)を施す。裏面は雑な成形で指ナデを主体とし部分的に箆ナデや指圧痕がみられる。素地:明灰色の細粒子で、粗い灰黒色の物質を多く含む。微細な石英を少量含む。僅かに粗い雲母片が混入する。色調:表面は暗灰色、裏面が灰褐色を帯びる。焼成:良好で堅い。	SA04 裏込め 石内 第3層

#### 註文献

註1. 上原 靜「沖縄諸島出土の高麗系瓦について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』

註2-a. 団扇形瓦質製品が湧田古窯跡から出土している。『湧田古窯跡(I)-県庁舎行政棟建設に係る発掘調査-』沖縄県教育委員会 1993年 3月。同様の団扇形瓦質製品が塼に窯印として刻印されたようである。

註2-b. 上原 靜「琉球の塼と煉瓦」『南島考古』第30号 沖縄考古学会 2011年5月。

#### 第7表① 石積みSA04 青磁出土状況

× 1	. — н т.	貝のOAU4	<b>⊢</b> ΗΔ/4	層序	1/10			C•D-10	D 11			г
				僧戶				SA				
							make I XX I feet I.					^ =
		_				第1層	琉大の送水管内	第2層石積	内側東南	裏込め	間層(灰黒色混	台 討
		00.00	den til.			覆土	第1層客土(淡黄	み外側暗筒	部第2層	石内	貝土層)第3層	
		器種	•部位				茶色混礫土層)	色土層	黒色土層	第3層	bの直下	
		口縁部~底部	直口		片切り彫り					1		1
				cタイプ	有文 無文			0		_		
			外反		無又 片切り彫り	1		2		5		8
				雷文	不明			1		1		2
				₩ ≠	 雷文・片切り彫り					1		1
		口縁部	直口	グト田:	苗又・F 切り彫り 引花文・片切り彫り					1		1
				PYIII.多	無文	1						1
						1				1		1
			玉縁	蓮弁	片切り彫り					1		1
	碗		上水水		弁·鎬					1		1
	H/L		外i		限り、内面:有文					1		1
		胴部	/11		有文					3		3
		мир			文不明					1		1
					無文	2	1	4		5	1	13
			í	aタイプ°	無文					1		1
		底部	(	cタイプ。	有文					1		1
青磁			eタイプ゜		有文	1						1
育怭			1	fタイプ゜	無文					1		1
			1	ュタイプ゜	有文					1		1
					文様不明					1		1
			口折		ド·不明、内面:無文					1		1
		口縁部			蓮弁・片切り彫り					1		1
		H //3/ H /3	外反		菊花文・丸彫り					1		1
	ш			外面:無3	文、内面:有文不明					1		1
		胴部			無文					2		2
					魚文					1		1
		底部		有:	文不明					1		1
			-C-1014-0		無文					3		3
	血血	口縁部			文、内面:有文不明	1				0		1
	盤	胴部			内面:蓮弁・丸箆					3		3
			グト国		大内面: 蓮弁・丸箆					1		1
	大鉢	口縁部	外面: 蓮弁・片切り彫り							1		1
	おとし蓋?		直口   内面:刻花文・片切り彫り   無文					1				1
	茶托	 口縁部			<u>無 又</u> ・片 切り彫り			1		1		1
			計	<b>火116</b> 义	/ 1 多4ソ周ンソ	6	1	8	0		1	59
		日	βI			0	1	0	0	43	1	1 99

第7表② 石積みSA04 青花·中国産褐釉陶器出土状況

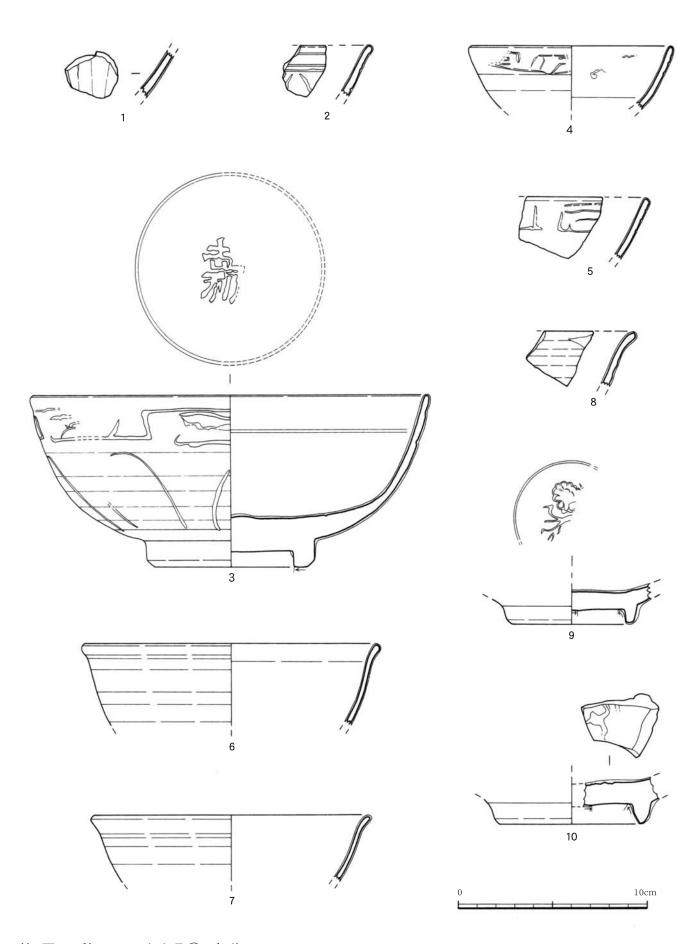
777 200		THE STATE OF		<u> </u>		- 17 1770							
			層序		(	C·D-10,D-11							
		_			SA04								
	種類・岩	トート 器種・部位	Ĭ.	第1層 覆土	琉大の送水管内第1層客 土(淡黄茶色混礫土層)	第2層石積み外 側暗褐色土層	内側東南部第2 層黒色土層	裏込め石内 第3層	合 計				
		口縁部	外反			1		1	2				
	碗	口形(可)	直口					2	2				
青花	11912	J	胴部		1			3	4				
月化		J	底部					2	2				
	$\blacksquare$	J	底部					1	1				
	合子			1					1				
	É	計		1	1	1	0	9	12				
		口縁部	方形	1					1				
		디 1056 디	「ク」の字状	1				1	2				
中国産	壺	3	頸部					2	2				
褐釉陶器	52.	J	胴部		2	18	1	101	166				
		胴部	有文	1					1				
		J	<b>医部</b>			1			1				
	É	計		47	2	19	1	104	173				

# 第8表① 石積みSA04 青磁観察一覧

単位:cm

					- 1-1 CIII			
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層			
第6図 図版2 1	鎬 蓮 弁 文	胴部	_ _ _	器形:逆「ハ」の字状に開く鎬蓮弁文。文様:箆彫りで鎬蓮弁文を描く。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子で微細な気泡痕が多くみられる。釉色:淡黄緑色で、貫入はない。龍泉窯系。13c後半~14c前半。	SA04 裏込め石内 第3層			
" " 2	無鎬連弁文	口縁部	_ _ _	器形:口縁部が僅かに玉縁状に肥厚する無鎬蓮弁文碗。文様:口縁部の肥厚帯直下に幅広の篦(4mm幅)削りを加えて肥厚を強調する。当該篦削りの直下に片切彫りで二条の界線で区画し、その直下に片切彫りの蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の微粒子で微細な気泡痕が多くみられる。釉色:淡黄緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c中頃~15c前半。	SA04 裏込め石内 第3層			
)) )) 3	電田	口縁部~底部	21.2 9.1 9.0	器形:高台分類cタイプ。内湾直口口縁の雷文帯碗。文様:高台脇から片切彫りで弁先のあいた連弁文を描き、連弁文の直上に片切彫りの雷文を描く。雷文は雑で反時計回りと時計回りに描いている。雷文の中心部の文様も雑で漢数字の歪な「二」の字状に描く。見込みに圏線と「嘉」、若しくは「吉」・「利」とも判読できる文字を印刻する。素地:淡灰色の微粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が僅かにみられる。釉色:淡黄緑色で、貫入はない。釉は畳付まで達している。龍泉窯系の地方窯。14c後半~15c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層+SA01 石積み周辺			
" " 4	文 帯 碗	口縁部	10.8 — —	器形:内湾気味の雷文帯碗。文様:口縁部に片切彫りで雑な雷文を反時計回りと時計回りに描いている。内面には片切彫りで刻花文を描く。素地:光沢のある淡灰色の微粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が僅かにみられる。釉色:明黄緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層			
" " 5					_ _ _	器形:直口口縁の雷文帯碗。文様:口縁部に片切彫りで雑な雷文を描いている。素地:灰褐色の細粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が多くみられる。釉色:明黄緑色で、細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層	
" " 6	無文外		15.8 — —	器形:無文外反口縁碗で、口縁部は小さな玉縁状の肥厚をつくる。文様:なし。素地:灰褐色の細粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が多くみられる。釉色:明黄緑色で、細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層			
11 11 7	一反口縁	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	14.8 — —	器形:無文外反口縁碗。文様:なし。素地:灰褐色の細粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が多くみられる。釉色:淡青緑色で、細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SA04 第1層 覆土
,, ,, 8	碗		_ _ _	器形:無文外反口縁碗。文様:なし。素地:灰褐色の細粒子で、微細な黒色鉱物や気泡が多くみられる。釉色:淡青緑色で、細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14世紀終末~15世紀中頃。	SA04 裏込め石内 第3層			
" " 9			- - 7.0	器形:高台分類cタイプ。蓮弁文、若しくは雷文帯碗の底部とみられる。文様:見込みに陽圏線と菊花花文を施す。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:濃緑色を外底面まで施釉後に輪状に掻き取って蛇の目状とする。貫入はない。龍泉窯。14c中頃~15c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層			
" " 10	碗	碗 底部	底部	- 8.2	器形:高台分類c9イプ。連弁文、若しくは雷文帯碗の底部とみられる。文様:見込みに花文を施す。素地:淡灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色:淡緑色を外底面まで施釉後に輪状に掻き取って蛇の目状とする。細かい貫入がみられる。龍泉窯系。14 c後半~15c中頃。	SA04 第1層 覆土		

注「一」:計測不可、「+」:接合の意



第6図 石積みSA04出土品② 青磁:1~10

# 第8表② 石積みSA04 青磁·青花·中国産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

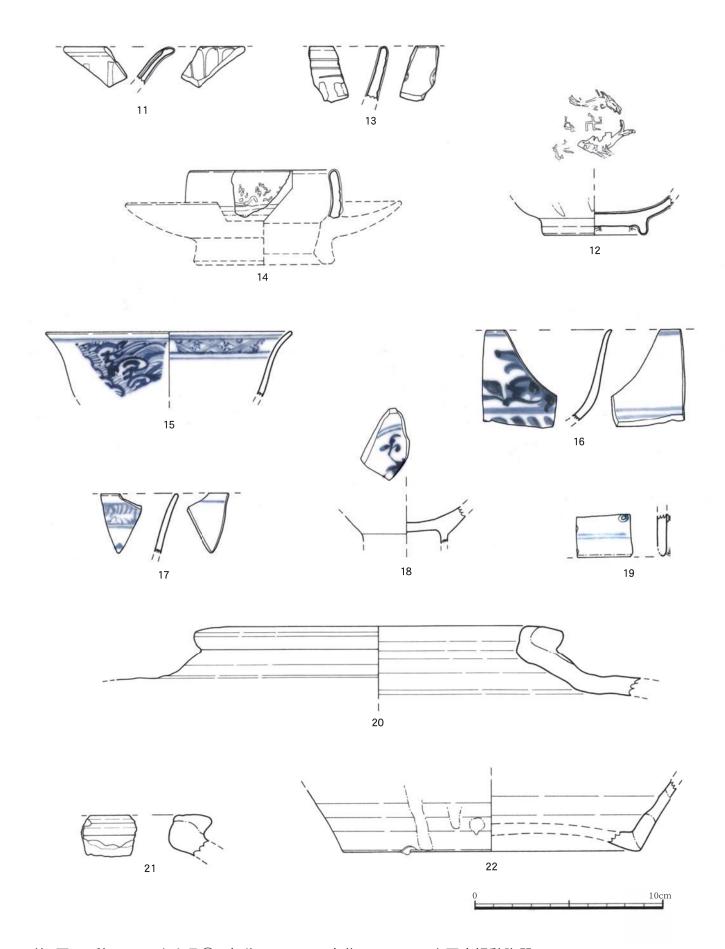
男8衣区	<u> </u>	付見のプ	SAU4	月似红	育化 中国座椅栅陶奋観祭一頁	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称	•仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第7図 図版3 11		蓮弁	口縁部	_ _ _	器形:外反口縁皿。文様:外面は片切彫りで弁先のあいた蓮弁文を雑に描く。内面には深い丸彫りの菊花文と片切彫りの弁先を描くが雑である。素地:淡白色の微粒子で、微細な気泡痕が僅かにみられる。釉色:濃緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c前半。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 12	青	文皿	底部	_ _ 5.6	器形: 口折皿の底部。 文様: 外面は片切彫りで高台際から蓮弁文を描く。 内面の見込みには「卍文」を中央に配置し、その周辺に「双魚文」や「水草」を展開させた印刻を施す。 素地: 光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色: 淡緑色で、貫入はない。 龍泉窯系。 14c中頃~15c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 13	磁	無 編 蓮 弁 文	口縁部	_ _ _	器形:直口口縁の無鎬蓮弁文の大鉢。文様:口縁直下に片切彫りで三条の界線で区画し、その直下に片切彫りの蓮弁文を描く。内面にも片切彫りで刻花文を描く。素地:淡灰白色の微粒子で、微細な気泡痕が僅かにみられる。釉色:淡緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c中頃~15c前半。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 14		茶托	口縁部	7.8 _ _	器形: 茶托の口縁部分。類例は黄金御殿跡(註1)や渡地村跡(註2)などから出土している。文様: 外面は片切彫りで刻花文とみられる文様を描く。 素地: 淡灰橙色の細粒子で、微細な黒色鉱物が少量含まれる。 釉色: 淡緑青色で、細かい貫入がみられる。 龍泉窯系。 15c終末~16c。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 15		外反口	口縁部	13.0  _	器形:外反口縁碗。文様:外面の口縁直下に呉須で二条の界線を施し、その直下に波濤文を描く、内面の口縁には二条の界線の間に四方襷文を描く。素地:淡灰白色の細粒子。釉色:淡灰白色で、細かい貫入がみられる。景徳鎮窯系。15c後半~16c前半。	SS02南側 第2層+ SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層
" " 16		縁 碗		- - -	器形:外反口縁碗。文様:外面の口縁直下に呉須で一条の界線を施し、その直下に主文となる草花文を描いている。主文直下に二条の界線と蓮弁文を描く。内面は界線を口縁端部(一条)と腰部(二条)を描く。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色で、貫入はない。福建・広東系。18c頃。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 17	青花		口縁部	- - -	器形:直口口縁碗。文様:外面の口縁に波濤文と界線を施し、胴部にアラベスク文の花文の一部を描く。内面の口縁部に幅広の界線を一条描く。素地:淡灰白色の細粒子。釉色:淡灰白色で、貫入はない。景徳鎮窯系。15c末~16c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 18			底部	_ _ _	器形:外反口縁碗の底部とみられる。二次的な火熱を受けて劈開面が全体的に煤けていて釉上にも釉が溶けたことを示す微細な気泡が部分的にみられる。文様:見込みにのみ文様が残存し、二重圏線と草花文を描いている。素地:淡灰白色の細粒子。 釉色:淡灰白色で、貫入はない。景徳鎮窯系。15c中頃。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 19		合子	蓋 or 器台	_ _ _	器形:合子の蓋、若しくは器台。二次的な火熱を受けて劈開面が全体的に煤けている。全体的に釉が溶けて微細な気泡がみられる。文様:外面に二条の界線と小さな丸文(文様は、直径4.7mmの円形貼り付けの突起に描かれている)。素地:淡灰色の粗粒子で、微細な気泡が多くみられる。釉色:火熱を受けて黄灰色となる。細かい貫入がみられる。釉は外面から内面まで施釉後に下位及び内外下端部の釉を掻き取って露胎とする。景徳鎮窯系。15c後半~16c。	SA04 第1層覆土
" " 20	中		口縁部	19.6 _ _	器形:口縁部の肥厚は、断面が歪な「ク」の字状を呈する怒り肩の壷。文様:なし。素地:灰褐色の粗粒子で、粗細な石英や粗い茶褐色の物質を多く含む。釉色:茶褐色の釉を内外面に施した後に口唇部の釉を刷毛状の工具で雑に掻き取って露胎とする。中国南部の窯。15c~16c。	SA04 第1層覆土
" " 21	国産褐釉陶	壺	口豚司)	_ _ _	器形: "。上記20と同一個体とみられる。文様:なし。素地:灰褐色の粗粒子で、粗細な石英や粗い茶褐色の物質を多く含む。釉色:茶褐色の釉を内外面に施した後に口唇部の釉を刷毛状の工具で雑に掻き取って露胎とする。中国南部の窯。15 c~16c。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 22	器		底部	_ _ 15.8	器形:薄手のナデ肩の壷の底部。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、粗細な石英を多く含む。釉色:黄緑色の釉が二次的な火熱を受けて釉が白濁する部分がみられる。釉は外面にのみ残存し、外面の底部近くまで垂れている。外底面と内面の一部には鉄分や鉄片が付着し錆びている。中国南部の窯。15c~16c。	SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層

注「一」:計測不可

#### 註文献

註1.『首里城跡-黄金御殿地区発掘調査報告書-』沖縄県立埋蔵文化財センター 2007年3月。天目台で報告。

註2.『渡地村跡-臨港道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告書-』沖縄県立埋蔵文化財センター 2007年3月。茶たく茶受けで報告。



第7図 石積みSA04出土品③ 青磁:11~14、青花:15~19、中国産褐釉陶器:20~22

第9表 石積みSA04 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・タイ産褐釉陶器出土状況

710 X H I	д • 7 О,			\ 1 NA	/ / III	1711 / 1/12	他们的一个	ハル
		層	序		С	•D-10,D-11		
						SA04		
種	i類·器種	重·部位		第1層 覆土	第2層 石積み外側 暗褐色土層	裏込め石内 第3層	間層 (灰黒色混貝土層) 第3層bの直下	合 計
タイ産土器	蓋	蓋端部	I類		1		1	2
(半練)	血.	胴音	¶3			1		1
	合言	計		0	1	1	1	3
タイ産炻器	壺	口縁	部	1				1
グイ圧和命	52.	胴部		1				1
	合言	計		2	0	0	0	2
		口縁	部			1		1
タイ産	タイ産 頸部 壺							1
褐釉陶器	<u> </u>	胴部		2	12	44		58
		底部				3		3
	合言	<b>+</b>		3	12	48	0	63

# 第10表① 石積みSA04 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・タイ産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

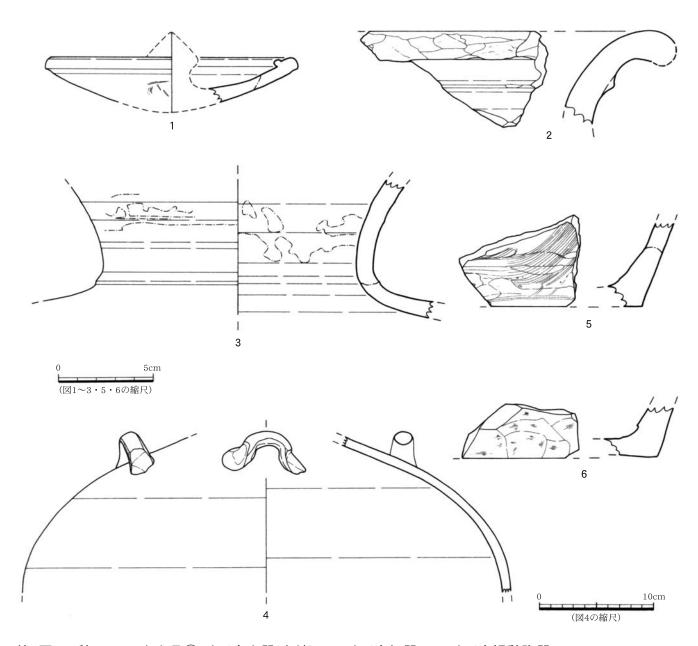
20101X	<u> </u>	只で人	J/ (O I	<u> </u>	- 伽(十林) ノー生 川 伽 ノー生 10 伽 剛 明 既 宗 一 見	<b>卑1</b> 址∶cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称•	仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第8図 図版4 1	タイ産土器	蓋	端部	端部径 13.4 高さ (4.2)	器形: 落し蓋。蓋縁分類の I 類。内面の縁沿いに貼り付けによる肥厚帯を造る。肥厚帯端部を微弱に摘まみ出して歪な隅丸方形状に成形する。器面調整: 外面は雑な篦ナデで調整する。縁沿い及び縁辺部には丁寧な指圧による面取り成形で仕上げている。素地: 淡灰色の粗粒子で、粗い石英を主体とする。稀に粗い茶褐色の物質を含む。色調: 両面とも淡橙白色を帯びる。焼成: 良好で堅い。15c~16c。	SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層
" " 2	タイ産炻器	壺	口縁部	_ _ _	器形:外反口縁の炻器壷。口縁が大きく外側に反り返る。口唇部が剥落する。頸部には断面が三角形状となる陽界線を一条囲繞。器面調整:外側の器面は大部分が剥落し、口縁部に僅かに篦ナデの痕跡がみられる。内面は丁寧なナデで仕上げている。素地:淡灰白色の細粒子で、微細な石英を少量含む。稀に粗い茶褐色の物質がみられる。色調:両面とも淡灰白色を帯びる。焼成:良好で堅い。バンプーン村窯産。15c後半~16c。	SA04 第1層 覆土
" " 3	タイ産		頸部	_ _ _	器形:外反口縁の壷。口縁部が欠落する。頸下部には断面が三角形状となる 凸帯(陽界線)を一条囲繞。素地:茶紫色の細粒子で、粗細な石英を多量に 含む。釉色:薄い茶紫色の釉を薄く塗布した後に黒褐色の釉を外面から内面 の頸部まで施すが、内面の釉掛けは雑で流し込んだ状態にあり、釉の垂れや 釉の掛からないところが多くみられる。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c 後半~16c前半。	SA04 第1層 磨土
" " 4	褐釉陶器	梅	胴部	_ _ _	器形:外反口縁の壷の胴部。肩部に陶土を紐状にして貼り付けた把手(把手幅74.6mm、把手中央の縦長15.4mm、厚み12.0mm)が良好な状態で残存する。素地:茶紫色の細粒子で、粗細な石英を多量に含む。釉色:黒褐色の釉が外面に施釉するが、把手の部分のみ所々に薄い茶紫色の釉が露呈している。内面は露胎であるが胴上部に僅かに黒褐色の釉と下地に塗布された茶紫色の化粧釉がみられる。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c後半~16c前半。	SA04 第1層 覆土

注「一」:計測不可、():推定

### 第10表② タイ産褐釉陶器観察一覧

第10表②	) タ	イ産	褐釉陶	器観察	一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号		名称・ 仮称			観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第8図 図版4 5	タイ産褐	竔	底部	_	器形:外反口縁の壺の底部。素地:茶紫色の細粒子で、粗細な石英を多量に含む。釉色:外面は無釉であるが、内面には薄く茶紫色の釉が塗布されている。器面調整:外面は雑な輪積みの積み痕をナデ消す。内面は回転篦削りを施す。外底面は平坦面であるが器面の保持が悪くアバタ状となる。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c後半~16c前半。	SA04 裏込め石内 第3層
" " 6	1	굒	以司	_	器形:外反口縁の壷の底部。素地:茶紫色の細粒子で、粗細な石英を多量に含む。細かい茶褐色の鉱物が僅かに混入する。釉色:両面とも無釉。器面調整:外面は丁寧なナデ仕上げ。内面は雑な回転篦削りで、部分的に削りによって陶土が起こされて浮き立っている。外底面は平坦面であるが器面の保持が悪くアバタ状となる。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c後半~16c前半。	SA04 裏込め石内 第3層

注「一」:計測不可



第8図 石積みSA04出土品④ タイ産土器(半練):1、タイ産炻器:2、タイ産褐釉陶器:3~6

第11表 石積みSA04 本土産磁器・沖縄産施釉陶器・沖縄産無釉陶器・金属製品出土状況

	· X H IX	V / O/LOT	<b>平上连燃</b> 看序	± /٣1	<b>电</b> /生》	ママロ アロング	器·沖縄産無釉	1 <b>尚命"立周</b> C·D-10、D-11		入が	
			/百/1~					SA04			
			_				Table 1 . (D. 3)/. 1 . Andre 1		J. /m/	幸いつ	合 計
		種類·器	<b>種·</b> 部位			第1層 覆土	琉大の送水管内 第1層客士(淡黄 茶色混礫土層)	第2層 石積み外側 暗褐色土層	内側東南部 第2層 黒色土層	裏込め 石内 第3層	
	印判染付	碗								b. 1	1
		小碗	胴	部		e. 1				e. 1	2
本	印判	$\blacksquare$								a.1	1
土産	へ「口藍	器種不明	胴							1	1
磁	クロム青磁	筒型茶碗	胴							1	1
器		小碗	口縁部							1	1
	近現	Ш	胴部							1	1
							1			_	1
				Lo		1	1	0	0	7	
沖	6		底							1	1
縄	金金金		底							1	1
産施	」 並	(F)	胴							2	2
釉	急	須	選								1
陶			胴							1	1
器	酒	器	底							1	1
		合				0	0	0	0	8	8
沖	砭	范	口綅	k部						1	1
縄	金	+-	口續	計						2	2
産無	j 	4	底	部						1	1
釉	擂		胴						1	1	
陶		Ē	胴						4	4	
器	器種		胴部					2		9	
		合				0	0	2	0	18	
			完形	,			1				1
		丸釘	先端部欠損	中	鉄				1		1
			頭部欠損				1	0			1
			完形	<u>中</u> 小	鉄	9		2		1	12 2
	工具類・			<u>小</u> 中		2		1			
	生産用具	角釘	先端部欠損	小	鉄			5			2 5
金		/ 121	頭部欠損	中	鉄	2		2			4
属			先端+	中		1		9			10
製品			頭部欠損	不明	鉄			2			2
			/ミの先端		鉄					1	1
	武具		术L		鉄					5	5
	武器		 薬莢		青銅					1	1
	近現		針金		鉄		1			1	1
						2	1	5	4	2	
	分類不明							1			1
		合	計			17	4	27	5	10	63

注 本土産磁器: 印判染付・印判 [a:印判染付、b:型紙摺り、e:銅版転写] 釘のサイズは、大:5寸半以上(15.75cm以上)、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)、小:1寸まで(3.75cm未満)

# 第12表① 石積みSA04 本土産磁器·沖縄産施釉陶器·沖縄産無釉陶器観察一覧

単位:cm

为1210	/ H	I尺 V	3704	7T1-1-1-	主磁体 不伸生心和阿格 不能生恶和阿格氏宗 • 克	単位∶cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名仮	, .	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第9図 図版5 1	磁 松 土 産	小碗	口縁部~底部	7.9 4.6 3.6	器形:腰丸直口の小碗。文様:胴部に金彩で文様を施すが金彩が剥落して構図不詳となる。高台脇にも金彩で二条の界線を施すが大半が剥落する。畳付は、焼成時の設置面となった為、釉がアバタ状となる。素地:光沢のある白色の微粒子。産地不明の近現代の本土産磁器。	SA04 裏込め 石内 第3層
)) )) 2	沖縄産	碗	底部	- 6.4	器形:腰部が直行する碗。文様:なし。畳付と内外面高台下端に煤が付着する。 外底面の中央は円形状に煤、若しくは墨汁とみられるものがみられる。素地:黄白色の細粒子で、粗細な気泡痕がみられる。釉色:黄灰色で、微細な貫入がみられる。釉は高台際に施されている。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 3	施 釉 陶 器 器 器		底部	- - 7.0	器形:側面観が扁楕円形となる酒器(俗称:カラカラ)の底部。高台内刳りが斜目に入る蛇の目状の高台。畳付の部分が尖り気味となる。文様:胴部に呉須と黄緑色の釉薬で、文様を描くが構図は不詳である。素地:黄白色の細粒子で、粗細な気泡痕がみられる。釉色:淡灰白色の釉を高台脇まで施釉。淡灰白色の釉の大半が黄白色の失透釉となり白濁する。微細な貫入がみられる。 壷屋焼。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 4	沖縄	碗	口縁部	12.4	器形:初期沖縄産無釉陶器で、直口口縁碗。両面に回転擦痕跡がみられる。文様:なし。素地:灰褐色の細粒子で、粗細な石英を多く含む。劈開面に白色の陶土が縞状に入っている。器色:外面は暗茶色で、内面が暗褐色を呈している。湧田焼。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 5	産無釉陶器	鉢	口縁部	_ _ _	器形:水鉢、若しくは植木鉢の口縁部。口縁部の側面観が逆「L」状に肥厚する。 口唇部を幅広く成形するが途中から欠落する。器面調整:外面は粗い擦痕とナ デがみられる。口唇部は篦ナデで仕上げる。文様:外面肥厚に丸彫り(幅2.5mm) の界線を二条施した後に下端界線部を指圧で所々押しつぶして肥厚帯下端を 波状突帯とする。素地:茶褐色の細粒子で、微細な石英を多く含む。劈開面に粗 細な気泡痕が僅かにみられる。器色:外面は黄茶色で、口唇部が暗褐色を呈し ている。	SA04 裏込め 石内 第3層

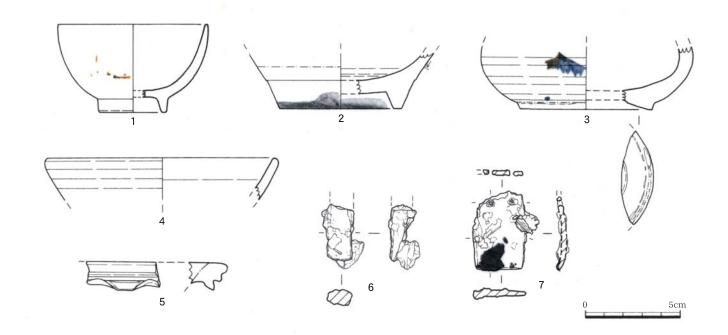
注「一」:計測不可

### 第12表② 石積みSA04 金属製品観察一覧

単位:mm/g

77727		1,50,0			-7071		平11.11111/ g
挿図番号 図版番号 遺物番号	分類	名称· 仮称	素材	残存長(縦)残存幅(横)	残存最大厚 残存最小厚 残存重量	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第9図 図版5 6	生産用具・	ノミの先端	鉄製	34.0 22.0	8.81 2.30 9.3	鉄鑿の先端部分とみられる。刃部は直刃であるが、左刃縁が使用により斜位に偏っている。刃の幅は13.1mmを測る。鑿の断面は胴下部が楕円形で、刃部へ移行する部分で長方形状となる。表裏面及び両側面には錆汁の発生により錆膨れがみられる。裏面には大きな錆瘤がみられ破裂している。表面にはサカナの棘が錆により取り込まれている。	SA04 裏込め 石内 第3層
" " 7	武具	机	农品	42.0 28.0	2.16 1.44 9.2	札頭が欠落した資料。札足近くが外側に湾曲して反っている。 表面の札足付近には、錆止めの黒漆が錆で持ち上がっている。 紐縄をとおす孔は三孔(残存する孔で良好なものは孔のサイズが1.3mmを測る)のみ開いている。他の孔は錆で塞がっている。表裏面には錆汁や微細な錆瘤がみられ、細片となった木片が付着し鉄汁により置換され鉄化している。	SA04 裏込め 石内 第3層

注 「一」: 計測不可



第9図 石積みSA04出土品⑤ 本土産磁器:1、沖縄産施釉陶器:2・3、沖縄産無釉陶器:4・5 金属製品:6・7

第13表① 石積みSA04 二次的火熱溶解銭貨

銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
開元通寶(唐621年初鋳) or (唐845年初鋳)	1片	1.46	「開」・「通」の二字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
淳化元寶(北宋990年初鋳)	1片	1.74	「淳」・「寳」の二字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
咸平元寶(北宋998年初鋳)	1片	1.58	「咸」・「平」の二字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
景德元寶(北宋1004年初鋳)	1片	1.30	「德」の一字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
大観通寶(北宋1107年初鋳)	1枚	2.76	完形	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
元祐通寶?(北宋1086年初鋳)	1片	0.96	「通」の一字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
大中通寶(明1361年初鋳)	1片	1.23	「大」・「通」の二字が残存	SA04裏込め石内第3層
洪武通寶(明1368年初鋳)	1片	1.17	「武」・「通」の二字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
	1片	1.21	判読不可	
	1片	1.81	「寳」の一字が残存	
	1片	1.24	「通」・「寳」の二字が残存	
不明銭貨	1片	1.20	「元」・「寳」の二字が残存	C·D-10·11、D-11 SA04第1層覆土
	1片	1.47	「寳」の一字が残存	
	1片	1.81	「元」・「寳」の二字が残存	
	1片	0.69	「通」の一字が残存	
승 計	15			

## 第13表② 石積みSA04 ガラス製品出土状況

371037	ロリタック	AU4 カラへ表明田エ	- DCDC								
	層序		C·D-10, D-11								
		SA04									
器種・音	部位	琉大の送水管内第1層 第2層石積み 裏込め石内 客土(淡黄茶色混礫土層) 外側暗褐色土層 第3層			台	計					
瓶	口縁部		1			1					
ЛЦ	底部	1		1		2					
蓋				1		1					
板力	ラス	2	1			3					
合	計	3	2	2		7					

# 第14表① 石積みSA04 銭貨観察一覧

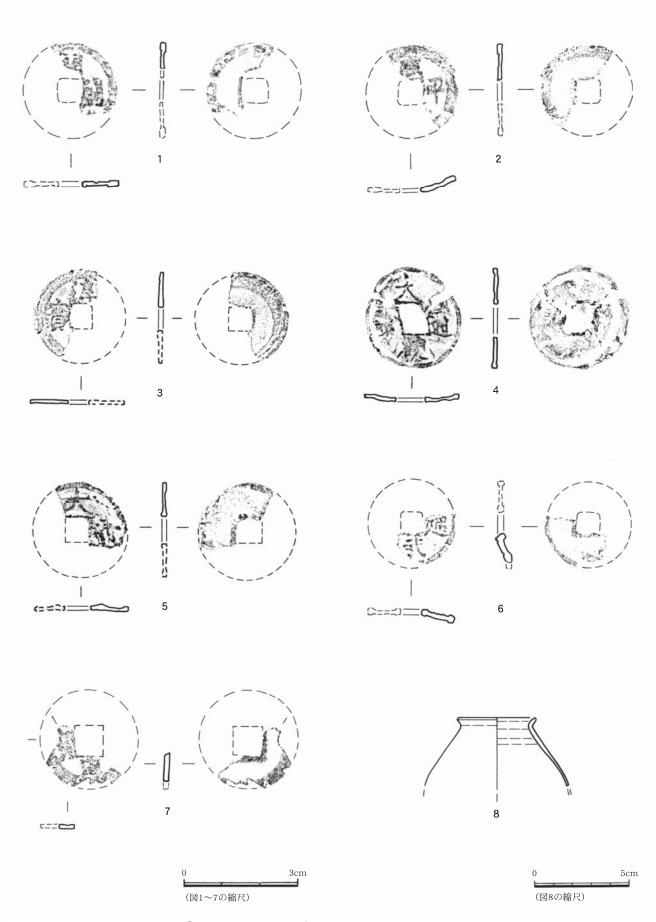
単位:mm/g

<u> </u>	<u>り</u> ,	11 T	<b>ラクトOAU</b>	4	蚁	<b>貝</b> 街	尔	一見								単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭	鋳造賃	初鋳	素は	読み	状態	書生	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断面	計測	部位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	出土層
第10図 図版6 1	開元通寶	公鋳銭	唐621 年・ 845年	銅銭	対読	破損	篆書	<u>-</u>	_		1.63	1.02	1.59	1.46	2/3程度が残存、字款は「開」・「通」の二字が確認できるが、「開」の字款が半分程度欠損。面の肉郭の幅は2.25~2.56mmを測る。背の肉郭の幅は面よりも幅広であり、2.62mmを測る。両面に緑青がみられ、特に背の肉郭部分で多くみられ、錆で膨れている。	SA04 第1層 覆土
" " 2	咸平通寶	公鋳銭	北宋 998年	銅銭	回読	破損	真書	_ _		_ _	1.52	1.02	1.52	1.58	1/2弱が残存、字款は「咸」・「平」の二字が確認できる。面の 肉郭の幅は2.80~3.38mmと幅 広である。背の肉郭の幅は 2.54mmを測るが、肉郭が不鮮明 である。二次的な火熱を受けて 変形する。火熱の影響で面や背 で微細なアバタ状となる。背の 一部はケロイド状となる。破断面 や銭縁沿いに緑青がみられる。	SA04 第1層 覆土
)) )) 3	淳化元寶	公鋳銭	北宋 990年	銅銭		破損	行書				1.26	0.50	1.17	1.74	面の右側が1/2強欠落し、「淳」・「寶」の字款のみが残存。背の 肉郭の最大は幅で4.7mmを測 る。両面に緑青がみられる。	SA04 第1層 覆土
" " 4	大観通寶	不明	北宋 1107年	銅銭		破損	行書	26.47 25.9	23.87 23.0		1.63	0.51	0.94	2.76	歪に変形し、面及び背が微弱な 凹凸がみられる銭である。背の 肉郭がズレて肉郭沿いが深い溝 状となる。面と背の肉郭一部に は金鋏や鏨による使用で溝状に 窪んでいる。両面に緑青がみら れる。	SA04 第1層 覆土
" " 5	大中通寶	不明	明 1361年	銅銭	対読	破損	不明	_	_		1.41	0.71	1.10	1.23	面の1/2以上が欠落した銭で、「大」・「通」の二字が残存。両面に緑青による浸食で微細なアバタ状となる。	SA04 裏込め 石内 第3層
,, ,, 6	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭		破損	行書	_ _	_ _	_	1.84	0.94	1.40	1.17	1/4弱が残存。字款は「武」・ 「通」の二字が残存。両面に緑 青による浸食で微細なアバタ状 となる。破断面に緑青がみられ る。外周縁は緑青により微細な 剥離がみられる。	SA04 第1層 覆土
)) )) 7	不明	不明	不明	銅銭	回読	破損	行書		_ _	_ _ _	1.14	0.79	1.15	1.24	「通」・「寶」が残存。銭の縁沿いを鋸歯状に歪に加工された転用製品とみられるが用途は不明である。	SA04 第1層 覆土

|\_\_\_\_\_| 注「一」:計測不可

### 第14表② 石積みSA04 ガラス製品観察一覧

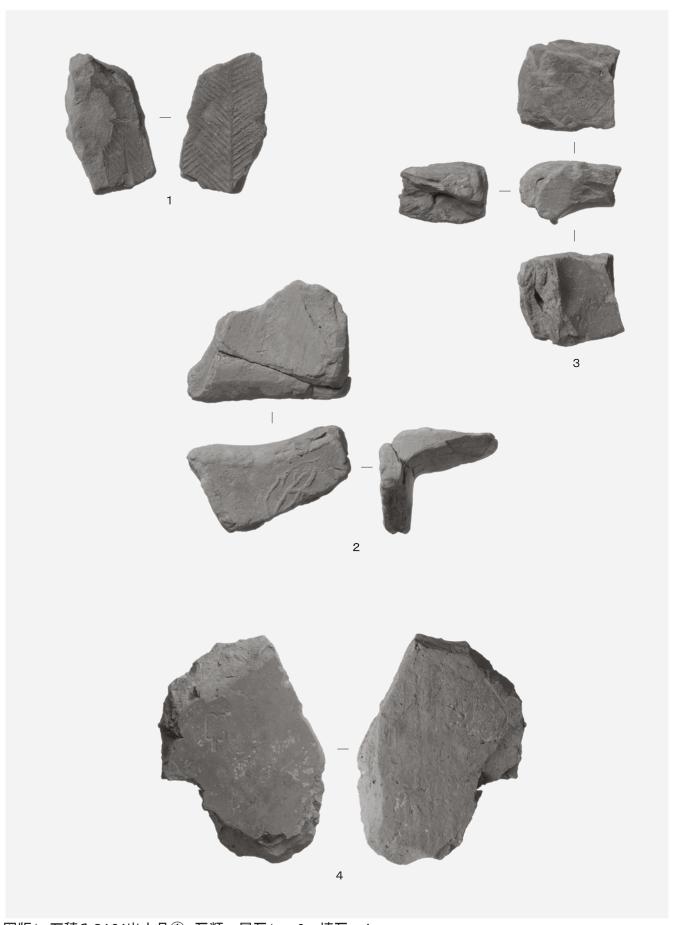
77.12	H IX*	70,101 75 71 农品成次 完	
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	観察事項等	出土地点 出土層
第10図 図版6 8	ガラス 製品	内傾する透明ガラスの瓶で、口縁部が強く外反する。内外面に擦痕がみられることから型物成形ではない。口径4.2cm。近現代。	SA04 第2層 石積み外側 暗褐色土層



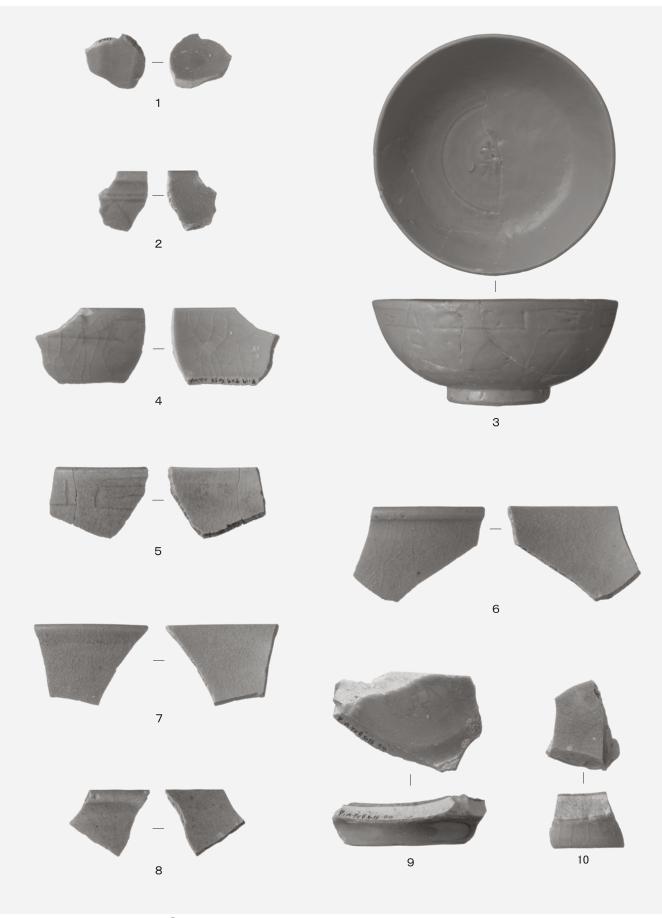
第10図 石積みSA04出土品⑥ 銭貨:1~7、ガラス製品:8

第15表 石積みSA04 出土遺物状況(図版外)

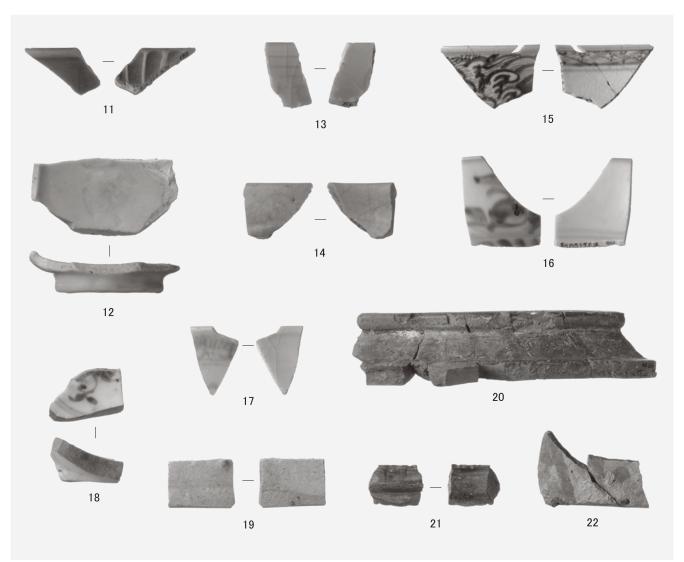
<u>第15表 石</u> 種	責みSA04	出土遺物状态	况(凶协	<i>ኒያ</i> ኑ <i>)</i>					
		層序			C·D-	10、D-11			
					S	SA04			
file and the state of the state	重類·器種·部	(1)	第1層	琉大の 送水管内 第1層 客土 (淡黄茶色 混礫土層)	第2層	第2層 石積み 外側 暗褐色 土層	裏込め 石内 第3層	間層 (灰黒色 混貝土層) 第3層b の直下	合 計
土器	器種不明	胴部			1		3		4
	合 計		0	0	1	0	3	0	4
陶質土器	器種不明	部位不明				1			1
	合 計		0	0	0	1	0	0	1
T 66   111	鉢	II 수 7				1			1
瓦質土器	器種不明	胴部					1		1
	合 計		0	0	0	1	1	0	2
白磁	碗	胴部					1	1	2
	合 計		0	0	0	0	1	1	2
彩釉陶器	瓶	胴部					1		1
	合 計		0	0	0	0	1	0	1
黒釉陶器	碗	胴部				1	2		3
	合 計		0	0	0	1	2	0	3
本土産 陶器	Ш	口縁部					1		1
	合 計		0	0	0	0	1	0	1
	角閃	安山岩		1					1
石材片	溶結(鹿	吉凝灰岩 児島産)					1		1
	細粒碩	少岩(ニービ)	2	1			3		6
	合 計		2	2	0	0	4	0	8
近現代		タイル		1			1		2
	合 計		0	1	0	0	1	0	2



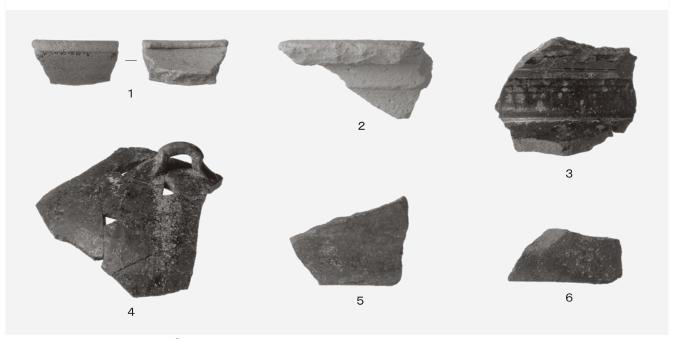
図版1 石積みSA04出土品① 瓦類:屋瓦1~3、塼瓦:4



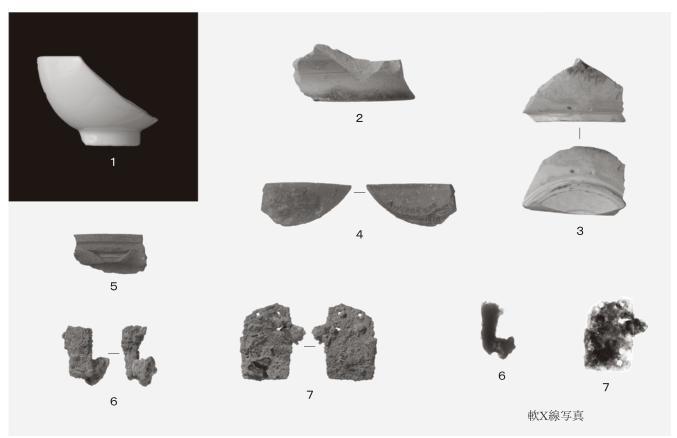
図版2 石積みSA04出土品② 青磁:1~10



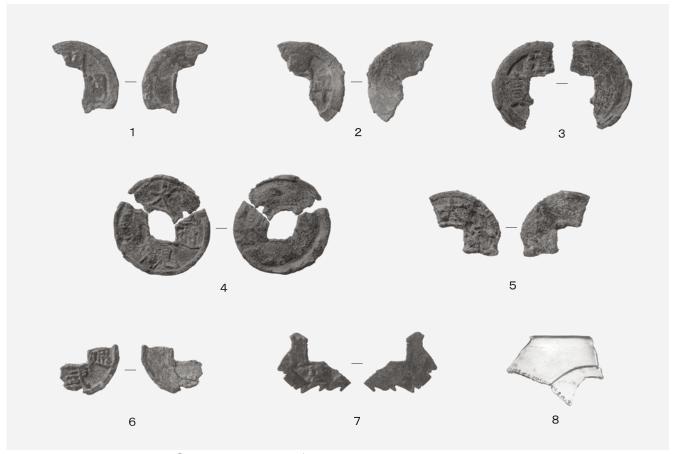
図版3 石積みSA04出土品3 青磁:11~14、青花:15~19、中国産褐釉陶器:20~22



図版4 石積みSA04出土品④ タイ産土器(半練):1、タイ産炻器:2、タイ産褐釉陶器:3~6



図版5 石積みSA04出土品⑤ 本土産磁器:1、沖縄産施釉陶器:2・3、沖縄産無釉陶器:4・5、 金属製品:6・7



図版6 石積みSA04出土品⑥ 銭貨:1~7、ガラス製品:8

#### (2) 石積み SA35 の出土遺物 (第11図、第16表~第18表、図版7)

石積み SA35 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で3点が得られている。 出土遺物の内訳は、青磁2点と銭貨1点の2種類が確認されている。

当該遺構の時期を明確に呈示できる資料はない。細片資料が多く、特徴的な資料として無文銭(第 11 図)を図示した。

## 第16表 石積みSA35 二次的火熱溶解銭貨

713 · · DC F	- 12C- 7 -		> 1 - 3 > 1 / W / H	731 200 200
銭名	片数	重量 (g)	残存状況	出土層
無文銭	1片	0.33	-	D-10·11 SA35第1層覆土

#### 第17表 石積みSA35 出土遺物状況(図版外)

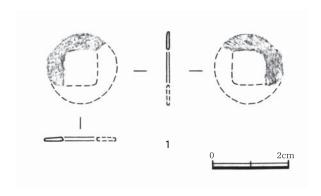
为1710	111月07	10000 I	山上退1	201人ル(			
				層序	D-10	0.11	_
					SA	.35	合
					第1層	栗石内	計
	種類・器	骨種・部位			覆土	第3層	
青磁	碗	口縁部	外反	無文	1	·	1
FJ 1023	酒会壺	胴部	有文	不明		1	1
		合 計			1	1	2

## 第18表 石積みSA35 銭貨観察一覧

単位:mm/g

		-														T-1:: 1 1 1 5
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読み	状	書	肉郭 外径		方穿	断面詞	計測	部位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	里里	既示 护"只	出土層
第11図 図版7 1	無文銭	模鋳銭	中世不明	銅銭	_	破損	_	_ _	<u> </u>		0.60	_	_	0.33	無文銭で1/2以上が欠落する。肉郭や 孔郭のない平坦な薄手の銭。残存する 孔の対角線上の長さは11.1mmと大き い。	SA35 第1層 覆土

注「一」:計測不可



第11図 石積みSA35出土品 銭貨:1



図版7 石積みSA35出土品 銭貨:1

#### (3) 石積み SA05-B の出土遺物 (第12図~第14図、第19表~第23表、図版8・9)

石積み SA05-B から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で172点(≒100%)が得られている。

出土遺物の内訳は、瓦類 26 点 (15.11%) 、青磁 3 点 (1.74%) 、中国産褐釉陶器 15 点 (8.72%) 、タイ産 褐釉陶器 6 点 (3.49%) 、ガラス製品 2 点 (1.16%) 、銭貨 99 点 (57.56%) などの 14 種類 (第4表) が確認 されている。輸入陶磁器 (タイ産、中国産) の占める割合は、16.28%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として呈示ができる資料は、青花皿(第12図5)と華南彩釉陶器(同図6・7)、などがある。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第12図~第14図)した。

第19表 石積みSA05-B 塼瓦·青磁·青花·彩釉陶器·石器·石製品·石材·自然石出土状況

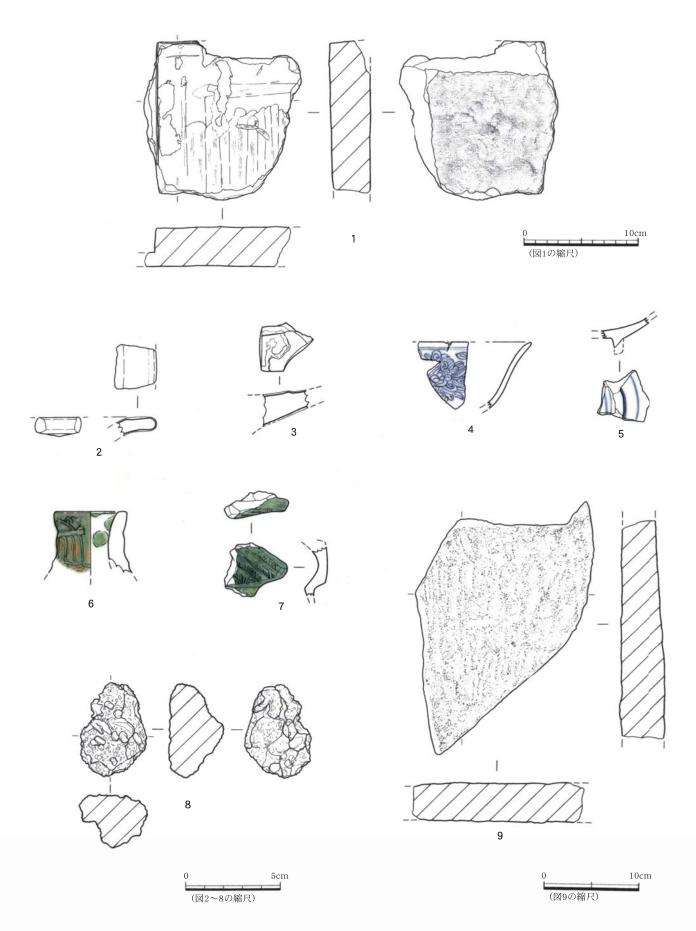
73.0-1	D IDV O TO			月16 杉相阿る	<u>, 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 </u>	1 20 H H 17	<u> </u>	<u> </u>
		F	<b></b>			B•C-10•11		
						SA05-B		
	種類・	器種·部位			造成土3	造成土4 (明褐色混土 礫層)	地山(岩盤) 直上の 褐色土層	合 計
塼瓦	Ⅱ類	-	灰色	漆喰有り(片面)	1			1
净几	L Ⅲ類 Db 赤色 漆喰無し							1
	î	合 計			2	0	0	2
	碗	胴部		無文	1			1
青磁	盤	口縁部	鍔縁	有文不明	1			1
	int.	胴部	有	文(パルメット様)		1		1
	î	合 計			2	1	0	3
青花	碗	口縁部		外反			1	1
HIL	Ш		底	部	1			1
	î	合 計			1	0	1	2
彩釉陶器	型物水注		口糸	<b>录</b> 部	1			1
水之不四种的有床	(鶴か鴨)		胴	部	1			1
	î	合 計			2	0	0	2
石器•	砥石		軽	石	1			1
石製品	石造製品(敷石)	Ť	細粒砂岩	昔(ニービ)	1			1
	î	合 計	2	0	0	2		
石材		緑色		1			1	
H-lk1		細粒砂岩		4	4		8	
自然石		河原	1			1		
	í	合 計			6	4	0	10

# 第20表 石積みSA05-B 塼瓦·青磁·青花·彩釉陶器·石器·石製品観察一覧

単位:cm

弗20衣	11 作	/ NOAL	12-R	学儿	有做"有化"彩柮陶奋"石奋"石裂品観祭一見	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称•	·仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第12図 図版8 1	其			_ _ _ _	左側面の上段途中から段差を設けた塼瓦。漆喰が表面(縦位に二条並列)と上面(一部)に漆喰が付着する。表面は丁寧なナデ仕上げで、裏面は雑な篦削りで調整する。左側面は外面左上の調整よりも雑なナデ調整である。胎土:泥質で細かい。混入物:粗細な石英を主体に微細な黒色や雲母片を含む。稀に茶褐色の物質(焼土片)がみられる。色調:表裏面とも灰褐色を帯びるが、裏面が部分的に淡灰色となる。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 2	青	鍔縁盤	口 縁 部	_ _ _	器形: 鍔上面が浅く窪む盤。文様: 劈開面から外面の頸部に片切彫りで文様を施すが、釉が厚く施釉されて不明である。素地: 光沢のある灰白色の細粒子で、粗細な気泡痕が少量みられる。 釉色: 両面に青緑色の釉を施釉。 貫入: なし。 龍泉窯系。 14c後半~15c前半。	B-10 SA05-B 造成土3
" " 3	磁	盤	胴部	_ _ _	器形:盤の底部近くの破片。文様:見込みに浮き文のパルメット様の文様を貼り付ける。素地:光沢のある灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が少量みられる。釉色:両面に青緑色の釉を厚く施釉。貫入:ない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SA05-B 造成土4 (明褐色 混土礫層)
" " 4	青	碗	日縁部	_ _ _	器形:外反口縁碗。文様:口縁に二条の界線を描き、界線直下から花文の輪郭のみを鮮明に描く。素地:光沢のある灰白色の細粒子。釉色:淡灰白色の釉を施釉。貫入:なし。景徳鎮窯。18c後半~19c前半。	B-10 SA05-B 地山(岩盤)直 上の褐色土層
" " 5	花		底部	_ _ _ _	器形: 畳付が欠落した皿で、高台脇から微弱に丸味を持って外側に開く。文様: 高台際と高台脇に各一条の界線を施す。外底面にも界線を一条施している。素地: 光沢のある白色の微粒子。 釉色: 両面に淡灰白色の釉を施釉。 貫入: なし。景徳鎮窯系。15c後半~16c後半。	B-10 SA05-B 造成土3
" " 6	彩釉陶器	水注	口 縁 部	3.8 _ _	器形:鶴型か鴨型の型物水注の口縁。文様:口縁部の上位に間弁のある二重描きの蓮弁文、その下位に二条の圏線と逆さ蓮弁文を型で起こしている。裏面はナデを主体に雑な指圧痕がみられる。型合わせの接合面から外れている。素地:淡黄白色の細粒子で、少量ながら茶褐色や黒色鉱物などがみられる。稀に粗い石英(2.1~3.7mm)が含まれている。釉色:緑色の釉が内面口縁から外面まで施釉され、部分的に外面に黄褐色の釉が施釉されている。貫入:微細な貫入がみられる。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。	SA05-B 造成土3
" " 7	46		胴部	_ _ _	器形:型物水注で、鶴型か鴨型の羽の先端と尾の破片。文様:羽(沈線文と短沈線文を組み合わせて表現)を型で起こしている。裏面は篦ナデとナデがみられる。型合わせの接合面から外れている。素地:灰色の細粒子で、粗細な黒色鉱物と粗い石英がみられる。釉色:外面にのみ緑色の釉が施釉。貫入:微細な貫入がみられる。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。	SA05-B 造成土3
" " 8	石岩砥		_	_	金属製品の錆落としと磨きを目的とした砥石とみられる。手頃な軽石を砥石として使用した為、利用面が一面に限定されて平坦面となっている。長軸49.6mm、短軸35.0mm、厚さ28.0mm、重量22.5g。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 9	石造	製品	_	_	平坦に成形された敷石とみられる破片資料。表面を鑿(刃幅21.8mm)で面を調整し、平坦に仕上げている。鑿による器面調整は、主に左から右方向に実施されている。裏面は節理面を利用して剥離がなされたようであるが、半分程度は破損面となっている。長軸26.8cm、短軸17.9cm、厚さ4.25~4.8cm、重量2.84kg。細粒砂岩製。	B-11 SA05-B 造成土3

注「一」:計測不可



第12図 石積みSA05-B出土品① 塼瓦:1、青磁:2・3、青花:4・5、彩釉陶器:6・7、石器:8、 石造製品:9

# 第21表 石積みSA05-B 二次的火熱溶解銭貨

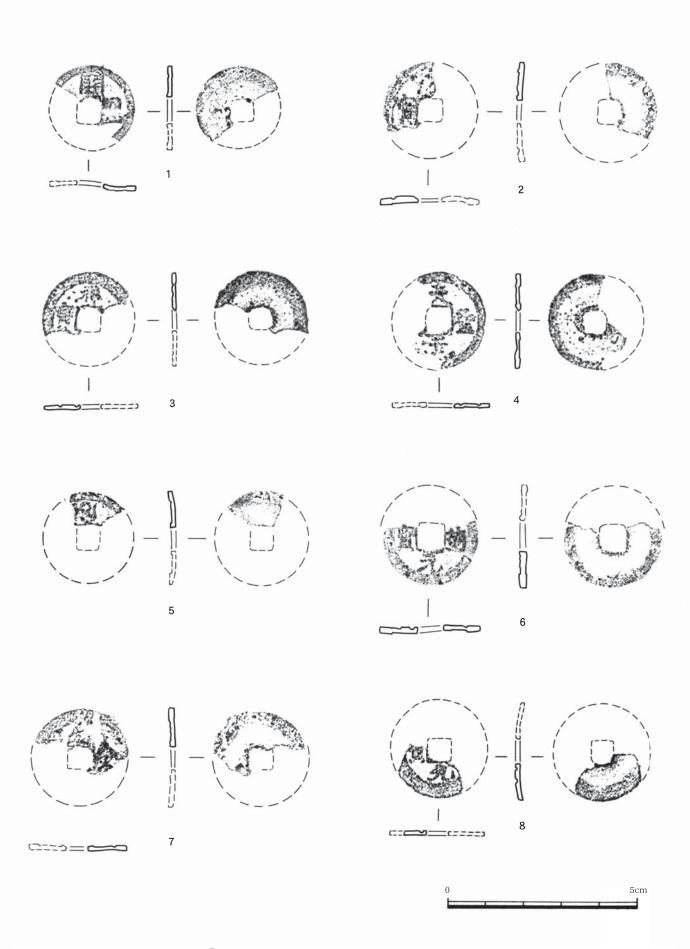
<u>第21表 石積みSA05-B</u>		、熱溶解錶		
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
開元通寶(唐621年初鋳)				
or				
(唐845年初鋳)	1片	1.53	「開」・「通」の二字が残存	B•C-10•11造成土3
or				
(南唐960年初鋳)				
宋通元寶(北宋960年初鋳)	1片	0.82	「宋」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
宋通元寶(北宋960年初鋳)	1片	0.72	「宋」の一字が残存	B•C-10•11造成土3
淳化元寶(北宋990年初鋳)				
or			「淳」の三水部分と「寳」	
淳熈元寶(南宋1174年初鋳)	1片	1.01	の二字が残存	B•C-10·11造成土3
Or 流社二案(表皮1041左初妹)			3 = 1 % 2011	
淳祐元寶(南宋1241年初鋳)				
祥符元寶(北宋1009年初鋳)	4.10			D C 40 4434 D L 0
or 祥符通寶(北宋1009年初鋳)	1片	1.57	「祥」・「寳」の二字が残存	B·C-10·11造成土3
件付进賃(北木1009年初薪)	4.11.	0.40		D 0 10 1124 D 10
天聖元寳(北宋1023年初鋳)	1片	2.40	「天」・「聖」・「元」の三字が残存	B·C-10·11造成土3
プチュー (京/川・(ナ 1 OF 4 / 2 + 17 / 2 )	1片	0.90	「天」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
至和元寶(北宋1054年初鋳)	1片 1片	0.78	「至」の一字が残存 「平」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
治平元寶(北宋1064年初鋳) 治平通寶(北宋1064年初鋳)	1万 1片	0.77 0.64	「平」の一字が残存 「平」の一字が残存	B·C-10·11造成土3 B·C-10·11造成土3
·	1/7	0.04	「十」り一十分が大行	D.C 10.111百以工9
熈寧元寶(北宋1068年初鋳)	1片	1 05	「寧」・「元」・「寳」の三字が	B.C_10.11, 生产上2
or 祥符元寶(北宋1009年初鋳)	1/7	1.95	残存するが不鮮明	B•C-10•11造成土3
元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1 1	1.07	「祐」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
	1片 1片	1.07 1.06	<del>_</del>	
紹聖元寶(北宋1094年初鋳)	1万	1.06	「紹」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
紹聖元寶(北宋1094年初鋳)	1片	0.00	「知」の「点が発力	D C 10 11 7 + 1.9
or 紹興元寶(南宋1131年初鋳)	1万	0.88	「紹」の一字が残存	B•C-10•11造成土3
	1 1	1.50	「ニ」「炊」のご壹お母女	B·C-10·11造成土3
元符通寶(北宋1098年初鋳)	1片 1片	1.58	「元」・「符」の二字が残存 「宋」の一字が残存	B·C-10·11 垣成工3
聖宋元寳(北宋1101年初鋳)	1片	0.9	「元」・「寳」の二字が残存 「元」・「寳」の二字が残存	B•C-10•11造成土3
	1万 1片	1.03 2.25	「洪」・「寶」の二子が残存 「洪」・「寶」の二字が残存	
	1片	1.42	「洪」・「寶」の二字が残存	
洪武通寳(明1368年初鋳)	1片	0.55	「武」の一字が残存	B•C-10·11造成土3
八四世章(9,1000年7)	1片	1.82	「武」・「寳」の二字が残存	D C 10 112/2/20
	1片	1.01	「武」・「通」の二字が残存	
	1片	0.69	「樂」の一字が残存	
永樂通寶(明1408年初鋳)	1片	0.87	「樂」の一字が残存	B•C-10·11造成土3
7,10,100   1,100	1片	1.36	「樂」の一字が残存	B 0 10 11x2//(120
	1片	1.48	「元」・「寳」の二字が残存	
	1片	1.43	「元」・「寳」の二字が残存	
	1片	1.20	「元」の一字が残存	
	1片	0.80	「寶」の一字が残存	
	1片	1.12	「寶」の一字が残存	
	1片	0.77	「寶」の一字が残存	
	1片	1.60	「寶」の一字が残存	
	1片	1.34	「寶」の一字が残存	
	1片	0.98	「寶」の一字が残存	
	1片	0.73	「寶」の一字が残存	
不明銭貨	1片	0.97	「寶」の一字が残存	B·C-10·11造成土3
1771线桌	1片	0.77	「通」の一字が残存	D C 10 11 12 11 12 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13
	1片	0.88	「通」の一字が残存	
	1片	1.00	「通」の一字が残存	
	1片	0.69	「通」の一字が残存	
	1片	0.80	「通」の一字が残存	
	1片	0.88	「通」の一字が残存	
	1片	1.22	「通」の一字が残存	
	1片	1.12	不明文字の一字が残存	
	44片+X	41.15	一片は鉄釘の残片が溶着	
	11片+X	14.45		
	-	1.25	- -	
合 計	99+X	<b>※</b> 「X」:片数	个明	

### 第22表 石積みSA05-B 銭貨観察一覧

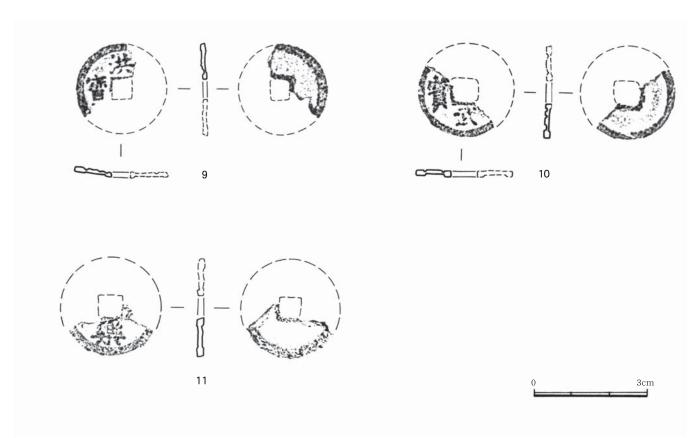
単位:mm/g

第22表	<u>口</u> 介	貝の	⊁SA05-	ъ	吏	を見	(街)	深一	覧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭種	鋳造種	初鋳年	素材	読み方	状態	書休	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断证	i計測	部位	重量	観察事項	出土地点 出土層
遺物番号		類		421	方	Ē	144	A B	C D	E F	1	2	3			ш.т./в
第13図 図版9 1	開元		唐 621年 • 845年 南唐 960年	銅銭	対読	破損		_ _		_	1.18	0.79	1.10	1.53	1/2程度が欠損する。字款は「開」・「通」の二字が残存し、「通」の文字を横断する沈線(長6.7mm、幅0.6mm)様の工具痕が面の肉郭内縁縁近くから孔までみられる。工具によって内側に強く窪んでいて、背まで微弱に盛り上がっている。面の外縁の一部は人為的に「V」の字状に抉られている。背の肉郭は、幅広(幅3.89mm)で所謂濶縁である。二次的な火熱を受けて微弱な溶解がみられる。緑青が面・背で部分的にみられる。	B-10 SA05-B 造成土3
" " 2	① 化寶②熙寶③祐寶	公鋳銭	①北宋 990年 ②南宋 1174年 ③南宋 1241年	銅銭	回読	破損	草書	<del>-</del> -		<u> </u>	1.30	0.90	1.69	1.01	2/3程度が欠落する。字款は「淳」のさんずい部分と「寶」の二字が残存。面の肉郭の幅は3.2mmを測る。背は全体的に摩滅し肉郭の境目が潰れて不鮮明となる。背は面よりも緑青が多く観察できる。破損部分は緑青による地金の浸食で脆くなっている。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 3	祥寶 or 祥寶	模鋳銭	北宋 1009年	銅銭	回読	破損	真書	<u>-</u> -		_ 4.92	1.06	0.60	0.89	1.57	1/2程度が欠落する。字款は「祥」・「寶」の二字が残存。面の肉郭の幅は2.59mmを測るが、背は全体的に摩滅し肉郭の境目が潰れて不鮮明となる。二次的な火熱を受けて部分的に溶解する。背には罅割れや緑青が面よりも多く観察できる。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 4	天聖 元寶	公鋳銭	北宋 1023年	銅銭	回読	破損	真書	_ _	_	7.18 7.24	1.26	0.61	1.03	2.40	面の左側が欠落する。字款は「天」・「聖」・「元」の三字が残存。二次的な火熱を受けて部分的な溶解や緑青による微弱な浸食がみられる。背の孔の左下から罅割れがみられる。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 5	至和元寶	模鋳銭	北宋 1054年	銅銭	回読	破損	篆書	_ _	_	1 1	1.44	0.94	1.36	0.78	2/3以上が欠落する。字款は「至」の一字が残存。面の肉郭の縁幅は2.5mmを測る。背は全体的に摩滅し肉郭の境目がルーズで不鮮明となる。面よりも背が緑青による浸食で灰白色に変色する。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 6	景徳元寶	公鋳銭	北宋 1004年	銅銭	回読	破損	真書	_ 25.63	_ 19.70	6.49	1.63	0.97	1.55	1.95	面の上面が欠落する。字款は「徳」・「元」・ 「寶」の三字が残存するが字款は緑青などの 影響を受けて潰れて不鮮明である。面の肉郭 は濶縁(縁幅:3.0mm)を測る。背の肉郭は面 よりもやや不鮮明であるが肉郭の幅が3.1mm と若干幅広となる。折損部分は緑青による地 金の浸食を受けている。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 7	元符 通寶	公鋳銭	北宋 1098年	銅銭	回読	破損	行書	-	_	_ 5.22	1.30	0.98	1.34	1.58	面の2/3が欠落する。字款は「元」・「符」の二字が残存する。面の肉郭は濶縁(縁幅:3.4mm)を測る。背の肉郭は平坦で不鮮明である。背は緑青による錆膨れがみられ、一部の錆は銭縁からはみ出している。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 8	聖宋 元寶		北宋 1101年	銅銭	回読	破損	行書	<u>-</u> -	_	_ _	1.18	0.50	0.89	1.03	1/4弱が残存。字款は「元」・「寶」の二字が確認できる。面・背ともに肉郭が濶縁(面の縁幅:3.5mm、背の縁幅:3.6mm)である。背の肉郭は内側の境目が不鮮明である。両面とも緑青の影響で微細なアバタ状となる。	B-10 SA05-B 造成土3
第14図 図版9 9	洪武 通寶	模鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書	<u>-</u>	_	_ _	1.43	0.76	1.31	1.42	1/3強が残存。字款は「洪」・「寶」の二字が残存。両面に亀裂がみられる。面背とも緑青による腐食が著しい。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 10	洪武 通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書	_ _	_ _	_ _	1.80	0.79	1.41	1.82	"。字款は「武」・「寶」の二字が残存。 両面とも緑青による腐食がみられる。 その他、縁の一部が剥離する。	B-11 SA05-B 造成土3
" " 11	永樂通寶	公鋳銭	明 1408年	銅銭	対読	破損	楷書	<u>-</u>	_ _	_ _	1.58	0.86	1.47	1.36	面の2/3が欠落する。字款は「樂」の一字が残存する。字款の銭形は深く鋳造され鮮明である。面の肉郭の幅は2.1mmを測る。背の肉郭の幅は2.4mmを測り、面よりも幅広である。背は緑青により器面が微細なアバタ状となり細かい砂粒や石英、鉄さびなどが付着する。	B-11 SA05-B 造成土3

注「一」:計測不可



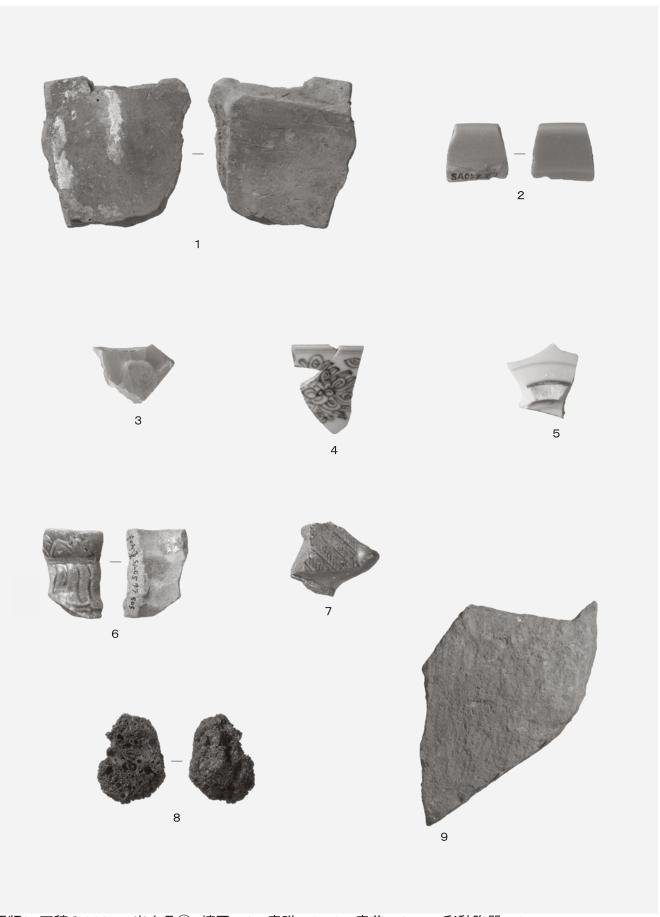
第13図 石積みSA05-B出土品② 銭貨:1~8



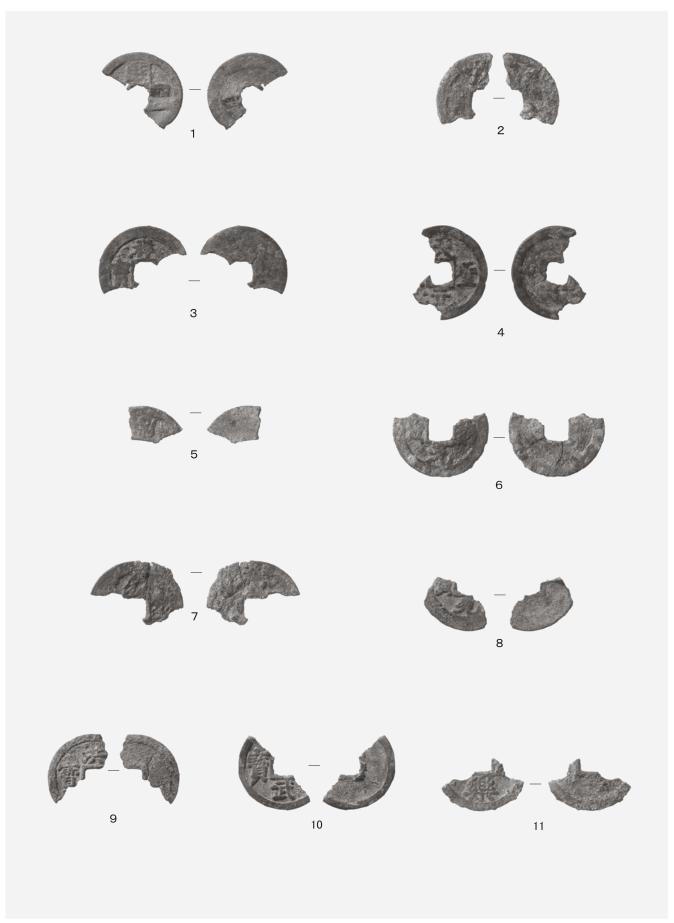
第14図 石積みSA05-B出土品③ 銭貨:9~11

第23表 石積みSA05-B 出土遺物状況(図版外)

第23 <u>级</u> 11假。	, 0, 100 2		<u> </u>	(11/1//		D C 10 11		
			眉广			B•C-10•11		
						SA05-B		合 計
		_		_	造成土3	造成土4	地山(岩盤)直上	п н
	種	類·器種·分類			垣风工3	(明褐色混土礫層)	の褐色土層	
陶質土器	器種不明		胴剖	3	1			1
		合 計			1	0	0	1
	高麗系	平瓦	灰色	漆喰無し	1	1		2
	大和(古)	平瓦	灰色	漆喰無し	1			1
	大和	丸瓦	1115名		2			2
	八和	平瓦	灰色	漆喰有り(片面)	2			2
			灰色	漆喰無し	2			2
屋瓦				漆喰有り(両面)	1			1
<b>全</b> 凡		丸瓦	赤色	漆喰有り(片面)	5			5
	四胡亚			漆喰無し	1			1
	明朝系		褐色	漆喰無し	1			1
				漆喰有り(片面)	1			1
		平瓦	灰色	漆喰無し	4			4
			褐色	漆喰無し	2			2
		合 計			23	1	0	24
漆喰					1			1
		合 計			1	0	0	1
中国産褐釉陶器	壺		胴剖	3	15			15
		合 計			15	0	0	15
タイ産褐釉陶器	壺		胴剖	ζ	6			6
		合 計			6	0	0	6
本土産磁器	近	現	器種不明	胴部	1			1
		合 計			1	0	0	1
ム戸制口	=4=		金物	青銅	1			1
金属製品	具海	鍬	:形	青銅	1			1
		合 計			2	0	0	2
- ジニッ集   ロ	瓶		胴剖	3		1		1
ガラス製品	7,	1	板ガラス		1			1
		合 計			1	1	0	2



図版8 石積みSA05-B出土品① 塼瓦:1、青磁:2・3、青花:4・5、彩釉陶器:6・7、 石器:8、石造製品:9



図版9 石積みSA05-B出土品②・③ 銭貨:1~11

#### (4) 石積み SA07 の出土遺物 (第15図、第24表~第26表、図版10)

石積み SA07 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で86点(≒100%)が得られている。 出土遺物の内訳は、土器 8 点 (9.30%)、瓦類 14 点 (16.28%)、青磁 9 点 (10.47%)、青花 1 点 (1.16 %) 、白磁 1 点 (1.16%) 、中国産褐釉陶器 25 点 (29.07%) 、華南彩釉陶器 2 点 (2.33%) 、本土産陶器 1 点 (1.16%) 、沖縄産無釉陶器 4 点 (4.65%) 、タイ産 (褐釉陶器) 10 点 (11.63%) 、金属製品 4 点 (4.65 %)の14種類が確認されている。輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、60.47%であった。

当該遺構の時期を明確に示すような資料はない。石積み SA07 出土の遺物の大半は細片化した資料が多く、そ の中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第15図)した。

第24表① 石積みSA07 青磁·本土産陶器出土状況

713-124	口頂がたり入り	, LI HAM .			,					
	_		層序				B-13			
							合 計			
	種類	·器種·部位			覆土	畦第4層 褐色土層	第5層	第6層 裏栗	北側トレンチ 第6層裏栗	
		口縁部	外反	蓮弁・箆彫り					1	1
	碗		蓮弁	蓮弁・線彫り						1
	11/7년	胴部		有文				2		2
青磁				無文				1		1
	Ш	口縁部	外反	無文			2			2
	盤	口縁部	鍔縁	蓮弁·櫛描		1				1
	酒会壺	胴部	有	文不明				1		1
		合 計			1	1	2	4	1	9
本土産陶器	大鉢		口縁部					1		1
		合 計			0	0	0	1	0	1

第24表② 石積みSA07 二次的火熱溶解銭貨

	2 41. 22 47	W. H 131 2242	~	
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
	1片	0.94	「通」の一字が残存	
不明銭貨	1片	0.62	判読不可	B-13 第6層裏栗
	1片	1.30	「寳」の一字が残存	
合 計	3			

### 第25表① 石積みSA07 青磁·本土産陶器観察一覧

単位:cm 挿図番号 口径 出土地点 図版番号 名称 • 仮称 部位 器高 観察事項(素地・混入物・色調・釉色等) 出土層 遺物番号 底径 器形:胴部で若干丸味を帯びて口縁に移行する。口縁部が微弱に肥厚する外 蓮 B-13第15図 反口縁碗。文様:口縁部の肥厚帯直下まで幅広の篦彫り(篦幅:4.0~4.8mm)で 15.2 弁 SA07 図版10 口縁部 弁先の尖った蓮弁を描く。素地:淡灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が少量観 文 北側トレンチ 察できる。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半 1 第6層裏栗 碗 書 ~15c前半。 磁 器形: 鍔縁盤。口縁端部を撮み上げて成形する。文様: 内面に五本単位の櫛で IJ 21.2 SA07 蓮弁文を描いている。素地:淡灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が少量観察で 口縁部 畦第4層 IJ 縁 きる。釉色:淡灰緑色の釉を両面に施釉。貫入:細かい貫入が両面でみられる。 盤 褐色土層 2 龍泉窯系。14c終末~15c。 器形:肥厚口縁の大鉢。文様:肥厚帯の上端(口唇部)と下端部に指圧を加えて 本 IJ 土 縄目文を表現する。肥厚帯中央には丸篦(幅2.7mm)で界線を二条施す。素地: B-13 大 産 口縁部 淡灰白色の粗粒子で、粗い黒色鉱物を多く含む。少量ながら粗細な石英が含ま IJ SA07 れている。釉色:茶褐色の釉が口唇部から外面に施されている。内面は釉が薄く 3 陶 第6層裏栗 器 施され、縞目状となる。貫入:なし。薩摩焼。17c後半。

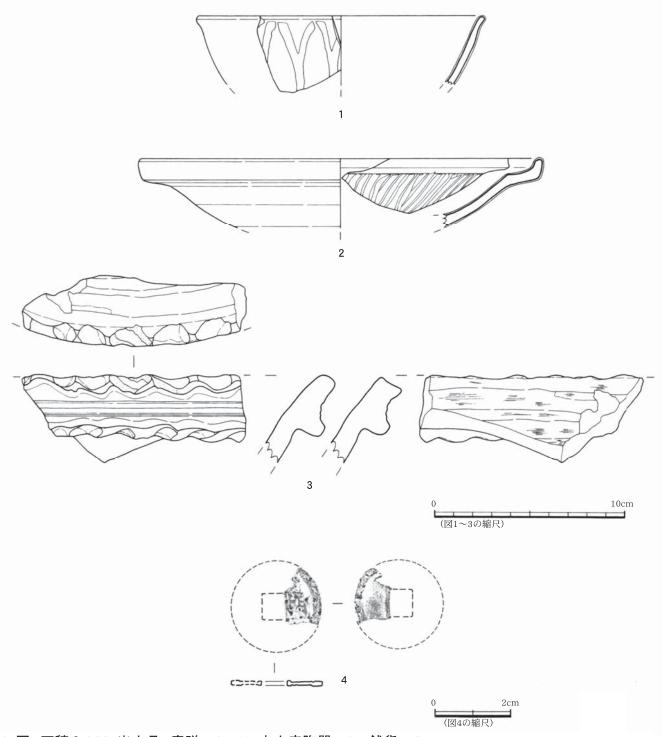
注「一」: 計測不可

# 第25表② 石積みSA07 銭貨観察一覧

337.71.	,	
単位	·mm/g	

-1-								,,,,,								T-1::/ 8
挿図番号 図版番号	팣	鋳造	が	素材	読み	状		肉郭 外径	肉郭 内径	方穿 🏻	断面	断面計測部位			観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類			方	態		A B	C D	E F	1)	2	3	重量	既宗尹也	出土層
第15図 図版10 4	不明	不明	不明	銅銭	不明	破損	篆書	<u> </u>	_ _ _	<u> </u>	1.54	0.66	1.02		3/4が欠落。字款は篆書で「通」の一字が残存。書体から類推すると「周通元寶」(後周、955年初鋳造)に該当するようである。折損部と肉郭の一部に青錆がみられ地金が浸食されている。	SA07 第6層 裏栗

注「一」:計測不可

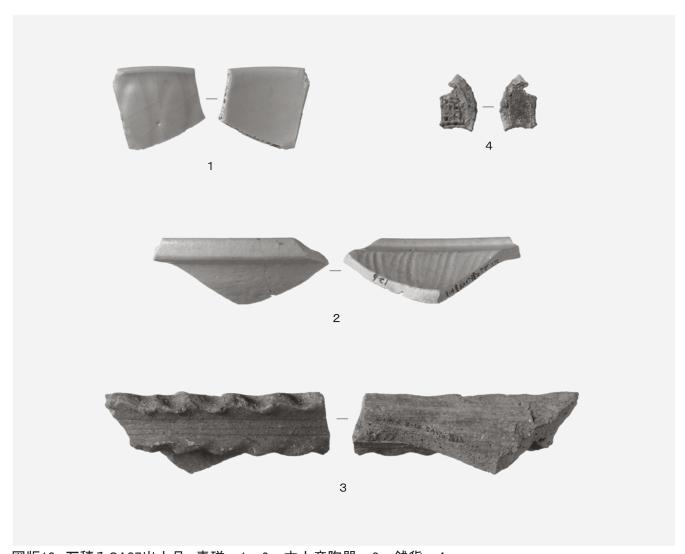


第15図 石積みSA07出土品 青磁:1・2、本土産陶器:3、銭貨:4

第26表 石積みSA07 出土遺物状況(図版外)

3520 <u>4X</u> 1	「積みSAO	17 山上	_退物1	人沈(区	<u> 幻                                   </u>			D 10			
			,	層序				B-13 SA07			
	種	類·器種	·部位			覆土	畦 第4層 褐色土層	第5層 裏栗直上	第6層 裏栗	北側 トレンチ 第6層 裏栗	合計
			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	胴部	3					7	7
土器	器種不	下明		部位不	明				1		1
		合 討	†			0	0	0	1	7	8
	高麗	系	平瓦	灰色	漆喰無し				1		1
	大和(	古)	丸瓦 平瓦	灰色	漆喰無し				1	1	1
屋瓦			軒平	褐色	漆喰無し				1		1
	明朝	₹.	丸瓦	灰色	漆喰無し			1	1		2
	P/1 P/1	术	平瓦	灰色	漆喰無し		2		2	1	4
		合言	-			0	2	1	6	2	11
 漆喰		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	•			1					1
		合 討	<u> </u>			1	0	0	0	0	1
青花				胴部	3		1				1
		合 討	-			0	1	0	0	0	1
彩釉陶器	盤			胴部	ζ		1				1
		合 割	-			0	1	0	0	0	1
中国産 褐釉陶器	壺			胴部	3		1	1	28		30
		合 討	ļ-			0	1	1	28	0	30
タイ産 褐釉陶器	壺			胴部	ζ	3			7		10
		合 討	<del> </del>			3	0	0	7	0	10
沖縄産 無釉陶器	虚 器種7			胴部	3	1			3		1 3
		合 討	-			1	0	0	3	0	4
石製品	石碑or》	羽目板	細米	並砂岩(	ニービ)					1	1
		合 討	-			0	0	0	0	1	1
石材			色千枚						1		1
		## 	砂岩(ニ -	ービ) 		0	1	0	1	0	2
	一 日	 丸釘	完形	中	鉄	0	1	0	1	0	1
金属製品	工具類· 生産用具	<b>▽□</b> ▼]	刀子	Т	青銅		1		1		1
	分類不明	F	用途不明		青銅		1		1		2
		合 計	<u> </u>			0	2	0	2	0	4

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)



図版10 石積みSA07出土品 青磁:1・2、本土産陶器:3、銭貨:4

#### (5) 石積み SA11 の出土遺物

石積み SA11 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で25点が得られている。

出土遺物の内訳は、青磁3点、タイ産土器1点、金属製品3点を含む8種類(第4表)が確認されている。 当該遺構の時期に伴う遺物として呈示ができる資料は、第27表にみえる華南彩釉陶器やタイ産土器のみであったが、細片資料のため、図化を省略した。

第27表 石積みSA11 出土遺物状況

<b>第4/</b> 衣 1	TICO CON		工退彻从沉									
			層序					E	3•C−12			
									SA11			
		種類・	器種·部位			外側 撹乱層	栗石内 第4層 (撹乱) 不発弾 検出ヶ所	東西トレンチ栗石直上	東西 ドレンチ 中石 中 福 経 八 八 一 一 で そ で る 一 で る 一 で る 一 で る に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に の と の と り に の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	下層 黄褐色 土層 (地山)	裏栗内 (撹乱層)	合 計
	高麗系	平瓦	灰色		食無し						1	1
屋瓦	明朝系	丸瓦 平瓦	<u>灰色</u> 灰色		り(片面) 食無し						1	1
			<b>計</b>	,,,,	Z/III 9	0	0	0	0	0	3	3
	75.44	口縁部	直口	雷文	片切彫り				1	-	-	1
青磁	碗	胴部	,	有文				1				1
	Ш	底部		無文							1	1
		î	計 計			0	0	1	1	0	1	3
彩釉陶器	鶴形水注		胴	部		1						1
		î	計 計			1	0	0	0	0	0	1
タイ産土器 (半練)	蓋		胴	部						1		1
		î	計 計			0	0	0	0	1	0	1
タイ産	壺		胴								8	8 2
褐釉陶器	211.5		底	部							2	
が下が田立た		î	計 計			0	0	0	0	0	10	10
沖縄産 無釉陶器	器種不明		胴	部							3	3
		î	計			0	0	0	0	0	3	3
石材			細粒砂岩(ニート	<u>:`)</u>							1	1
		î	<b>計</b>	,	O.I.	0	0	0	0	0	1	1
△尼	丁目粨, 出		先端部欠損	中	鉄		1					1
金属製品	工具類·生 産用具	角釘	頭部欠損 先端+	サイス・不明	鉄		1					1
2×111	,11,11,73		頭部欠損	中	鉄		1					1
		î	合 計			0	3	0	0	0	0	3

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

#### (6) 石積み SA12 の出土遺物 (第16図、第28・29表、図版11)

石積み SA12 から出土した遺物の種類は、第 4 表に呈示したように総計で 123 点( $\stackrel{.}{=}$ 100%)が得られている。出土遺物の内訳は、土器 3 点(2.44%)、陶質土器 10 点(8.13%)、瓦質土器 1 点(0.81%)、瓦類 35 点(28.46%)、青磁 8 点(6.50%)、青花 1 点(0.81%)、彩釉陶器 1 点(0.81%)、中国産褐釉陶器 36 点(29.27%)、沖縄産陶器 14 点(11.38%)、タイ産褐釉陶器 6 点(4.88%)、本土産陶磁器 5 点(4.07%)、石器・石製品 1 点(1.63%)の 16 種類(第 4 表)が確認されている。輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、42.28%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として呈示ができる資料は、青磁碗及び皿(第 16 図 4・5)と華南彩釉陶器(同図 6)などがある。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第 16 図)した。

第28表 石積みSA12 出土遺物状況

		SA12 出土遺物状況	序				C-12			
						SA	12			-
		種類·器種·部位		延長 トレンチ 第1層	延長 hvンチ 第1層 (覆土)	延長 トレンチ 第3層c	延長 トレンチ 第3層e	延長 トレンチ 第3層e 栗石 直上	延長 トレンチ 第3層g	合 計
土器	器種不明	胴	部		1		2			3
		合 計	1 - 1-10	0		0	2	0	0	3
陶質土器	鍋	原底	部		2 3 1 1		1			3 3 1 1
	不明	蓋胴	44.		1		1			1 1
	1,60	合計	<del>                                      </del>	0	8	0		0	0	_
瓦質土器	鉢	月司	部		1					1
	高麗系	合 計 平瓦	灰色   漆喰無し	0	1	0	0	0	0	2
		丸瓦	灰色   漆喰有り(片面)		2		1			2
	大和	平瓦	灰色   漆喰有り(片面)   漆喰無し		2			1 3		3
PT		丸瓦	灰色 漆喰有り(片面) 漆喰無し		4			1 1		5
屋瓦	明胡玄		褐色 漆喰無し 漆喰無し 漆喰 素色 漆喰 素肉(恵素)		1			0		1
	明朝系		灰色   漆喰有り(両面)   漆喰無し		3			2		2
		平瓦	褐色 漆喰有り(片面)		1					1
			赤色   漆喰有り(片面)   漆喰無し		2		1	3		5
		合 計		0		0		12		
	Ⅱ類	_ 	灰色 漆喰無し 角無し		1		-			1
塼瓦	Ⅲ類	Ba 形状不明a or 形状不明b (厚さ不明)	灰色     漆喰無し     角無し       赤色     漆喰無し     角1		1		1			1
		(字C/197) 合計		0	2	0	1	0	0	3
		口縁部	直口 波濤文						1	1
青磁	碗	胴部	世 波濤文・線彫り 有文 無文	1	1			1		1
<b>育似</b>		底部	無文 無文 印花文	1	1			1		1
	盤	底部	aタイプ 無文		1					1
±2.41*	Treat-	合計 	<del>√</del> 77	2			0	1	1	8
青花	碗		니 기	0	1	0	0	0	0	1
彩釉陶器	型物 鶴形水注	底	溶		1					1
				0	1	0	0	0	0	
中国産	壺	口移前	Len		21		1	11		33
褐釉陶器	鉢	口衫	录部		1			4.0		1
タイ産		合計 	<u>中</u>	0	22	0	2	12		36 5
褐釉陶器	壺	底			1					1
本土産		合計		0	3	0	0	3	0	6
磁器	近現	円筒形容器	口縁部	0		0	0	1	0	1
本土産	碗	月司		U	2		Ü	1		2
陶器	袋物	胴部	白薩摩片		1	^			^	1
	碗		表音S	0	3		0	0	0	3
	小碗	口糸	<b>录部</b>		1					1
沖縄産		底 口紹	部		1					1
一种 施 和 陶器	鍋	□ □   □     □	hi hi		1			1		1 2
	壺	月司	部		1			1		1
	瓶 急須	月   月   月   月   月   月   月   月   月   月			1		1			1
		合計 口紹		0		0		2	0	1
沖縄産	茶釜		<del>=</del> 1\		2	1	0	0		3
沖縄産 無釉陶器	茶釜 器種不明	胴	HIP	Δ.					(A)	
	茶釜 器種不明	合 計 河原石	HI	0	2	1	U	0	0	1
無釉陶器	器種不明	合 計		0	1	0				1
無釉陶器	茶釜 器種不明 工具類・ 生産用具 武具	合 計 河原石	先端部 欠損  中  鉄		1					1

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

**SA12** 

**SA12** 

#### 第29表① 石積みSA12 陶磁器類観察一覧

部位

蓋

胴部

底部

底部

名称•仮称

恊

質

土

器

瓦

質

土

器

青 磁

彩

釉

恊

器

中

玉

産

褐

釉 陱

器

鍋

鉢

濤

文

帯

III.

型

物

鶴

形

水

注

鉢

碗

挿図番号

図版番号

遺物番号

第16図

図版11

1

2

11

3

11

IJ

4

11

5

IJ

7

単位:cm 口径 出土地点 器高 観察事項(素地・混入物・色調・釉色等) 出土層 底径 器形: 浅皿状の蓋。 蓋縁近くで内湾する。 器面調整: 全体的に表裏面とも器面 径 の保持が悪く摩滅する。外面には刷毛目様の擦痕が部分的にみられる。内面の **SA12** 17.2 一部には回転擦痕がみられる。器厚:3.9~4.6mmを測る。胎土:泥質で細かく、 延長トレンチ 手で触れると粉状の粉末が付着する。混入物:微細な石英や黒色鉱物を多く含 第1層 む。稀に粗い茶褐色の物質や微細な雲母片がみられる。色調:淡橙色を帯び (覆土) る。焼成:良好で堅い。 器形:口頸部で「く」の字状に屈曲する鍋。上記の鍋蓋とセット関係にある。器面 20.9 調整:表裏面とも回転擦痕がみられる。器厚:4.2~4.7mmを測る。胎土:泥質で **SA12** 口縁部 細かく、手で触れると粉状の粉末が付着する。混入物:微細な石英を主体に黒 延長トレンチ 色鉱物を含む。稀に細かい茶褐色の物質や微細な雲母片がみられる。色調:淡 第3層e 橙色を帯びる。焼成:良好で堅い。 器形:火鉢などの鉢の胴部片。文様:外面に車輪状の菊花(菊の枚数は、16花 弁)の型押し(型押しの判は、木版とみられ木目が菊花の文様に現れている)と SA12 花弁の上下に界線を施す。器面調整:内面は全体的に摩滅し、器面の保持も 延長トレンチ 悪く判然としないが、ナデ調整が考えられる。器厚:10.5~12.2mmを測る。胎 第1層 土:砂泥質で粗い。混入物:微細な石英を多く含み稀に細かい茶色の物質が混 (覆土) 入する。色調:外面は暗灰色で、内面が灰褐色を帯びている。焼成:堅緻。 器形:内湾直口口縁碗。文様:口縁部に線彫りで波濤文を描き、その上下を界 SA12 線で区画する。波濤文帯直下に線彫りの蓮弁文を描いている。素地:淡灰白色 延長トレンチ 口縁部 の細粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色: 淡灰緑色の透明釉。 貫入: な 第1層 し。龍泉窯系。14c後半~15c後半。 (覆土) 器形:薄造りの浅皿とみられる。文様:見込みの釉を円形に掻き取って露胎と SA12 延長トレンチ し、見込みに印花花文を施す。素地:灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が多く みられる。釉色:淡黄緑色の釉を施す。外面の釉は高台外面下端まで施釉。畳 第1層 5.7 付は露胎する。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c前半。 (覆土) 器形:型物の鶴形水注の底部片とみられる。胴下部の底部となる箇所には円盤 C-12 状の陶土を貼り付けて成形する。文様:なし。器面調整:外底面は雑な指圧をナデ消している。縁辺部の縁に沿うように布目圧痕が確認される。その他縁辺部に 延長トレンチ 第1層 は剥離剤として利用された白色の陶土が付着する。内面は底下部近くがナデを (覆土)+ 8.3 加えている。他は雑な指圧をナデ消している。素地:明黄白色の細粒子で半磁 C-11 胎。素地には粗細な石英が少量含んでいる。釉色:釉は明緑色で外面にのみ フーチン8の 施している。中国南部の窯。15c後半~16c。 北側 器形: 内湾口縁の鉢。内面の口縁部は玉縁状に肥厚させて口縁部を強固とす る。文様:なし。器面調整:外面の口縁部は擦痕を施し、胴部に刷毛目様の擦痕 C-12 がみられる。内面は口縁部が水引きの擦痕(水ナデ)、肥厚帯直下に指圧痕が SA12 口縁部 みられ他はナデ調整が加えられている。素地:明橙白色の細粒子で、粗細な石 延長トレンチ 英を多く含み、稀に細かい茶褐色や黒色鉱物を含む。釉色:茶褐色の釉を内面 第1層 の胴上部から下に施す。外面の口縁部に僅かに帯状に施釉する。二次的な火 (覆土)

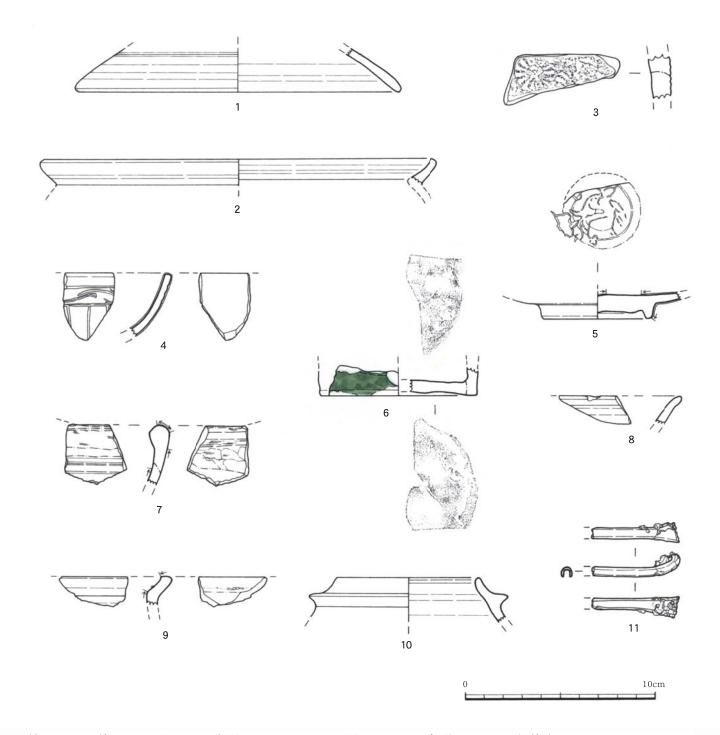
熱を受けて釉上には微細なアバタ状となる。中国南部の窯。14c後半~15c。

C-12 器形:外反口縁碗。口縁を僅かに屈曲させている。文様:なし。器面調整:釉上 から観察すると外面は轆轤整形で、内面は丁寧なナデ調整とみられる。素地: 沖 碗 口縁部 延長トレンチ 淡黄白色の細粒子で、微細な気泡痕が僅かにみられる。釉色:灰白色の透明 縄 第1層 8 釉が両面にみられる。細かい貫入が両面でみられる。壷屋焼。 産 (覆土) 施 器形:口頸部で「く」の字状に屈曲する鍋の口縁。蓋を受ける為に内面口縁が浅 C-12 釉 く窪む。内面口縁に重ね焼きの目跡(胎土目)が帯状に残っている。文様:なし。 IJ 陶 器面調整:内面口縁部の露胎する部分は丁寧な回転ナデである。素地:淡黄白 延長トレンチ 鍋 口縁部 器 色の細粒子で、微細な気泡痕が僅かにみられる。釉色:外面が黄茶色の透明釉 9 第1層 で、内面が白色の透明釉を施している。貫入:なし。壷屋焼。 (覆土) 器形:内傾する鍔釜状の茶釜とみられる。口縁部を僅かに外側に反らせている。 縄 口唇部から下、10.2~19.2mmの範囲内に断面が三角形状となる歪な鍔を造る。 産初 C-12 文様:なし。器面調整:釉上から観察した範囲では、外面が丁寧なナデ、内面は 11 7.6 茶 SA12 無 口縁部 轆轤痕を丁寧にナデ消しているようである。素地:茶褐色の微粒子で、粗細な茶 期 延長トレンチ 褐色の鉱物を僅かに含む。稀に粗い石英がみられる。釉色:茶褐色の釉が両面 10 釉 第3層c に施したようであるが、二次的な火熱を受けて釉の変色(アバタ状となり、白濁す 陶 器 る)や剥落がみられる。湧田焼。

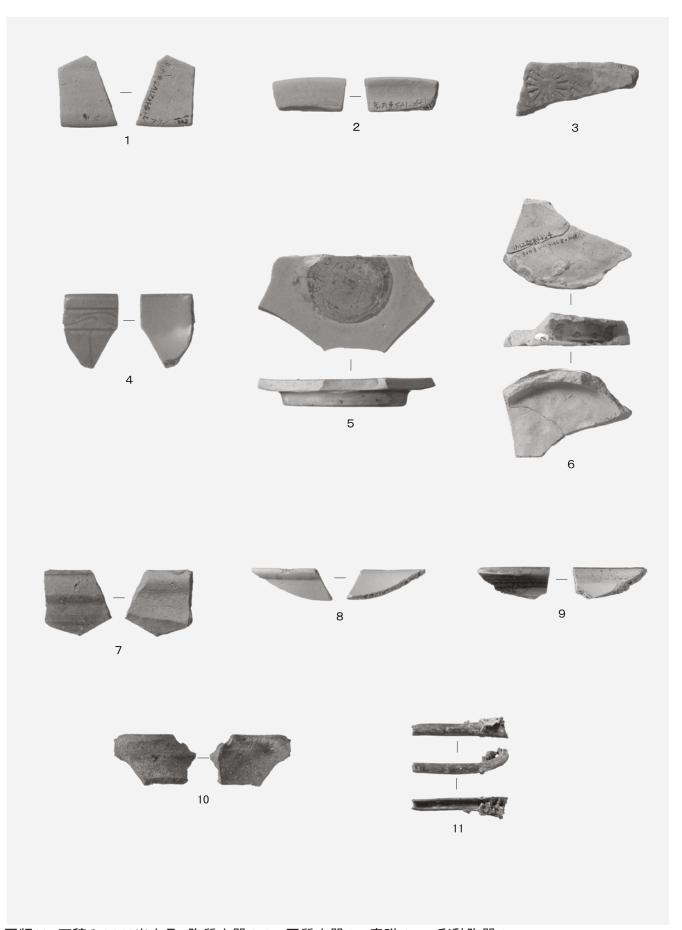
注 「一」: 計測不可、「+」: 接合の意

## 第29表② 石積みSA12 金属製品観察一覧

<b>第4330</b> 亿	/ 11 作具 0 入 く	3 A I	2 亚周表口	口 既 尔 見		単位:mm/g
挿図番号 図版番号 遺物番号	分類 名称·仮称	材質	残存長(縦) 残存幅(横)	残存最大厚 残存最小厚 残存重量		出土地点 出土層
第16図 図版11 11	武具 鎧金物 覆輪	青銅製品	11.1 47.0	1.02 0.82	鎧の障子板、押付、冠ノ板などの覆輪金具の一部とみられる。 鍍金は緑青で剥落したようである。加工は丁寧である。覆輪の 右側が破損時に折れ曲がっていて「U」の字状の断面が変形し てアラビア数字の「3」の様に断面中央部から折れて外側に開い ている。緑青は右側部分に集中し、錆瘤が破裂したようである。 右側内面にはケロイド状に青錆が付着している。	B-12 SA12 延長トレンチ 第1層



第16図 石積みSA12出土品 陶質土器:1・2、瓦質土器:3、青磁:4・5、彩釉陶器:6、 中国産褐釉陶器:7、沖縄産施釉陶器:8・9、沖縄産無釉陶器:10、 金属製品:11



図版11 石積みSA12出土品 陶質土器:1·2、瓦質土器:3、青磁:4·5、彩釉陶器:6、 中国産褐釉陶器:7、沖縄産施釉陶器:8·9、沖縄産無釉陶器:10、 金属製品:11

#### (7) 石積み SA14 の出土遺物 (第17図~第28図、第30表~第49表、図版12~図版22)

石積み SA14 から出土した遺物の種類は、第 4 表に呈示したように総計で 1,561 点 (≒100%) が得られている。 出土遺物の内訳は、土器 22 点 (1.41%) 、瓦類 (屋瓦・塼瓦・煉瓦) 637 点 (40.81%) 、青磁 169 点 (10.83%) 、白磁 10 点 (0.64%) 、中国産褐釉陶器 433 点 (27.74%) 、沖縄産施釉陶器 5 点 (0.32%) 、タイ産褐釉陶器 50 点 (3.20%) 、高麗青磁 1 点 (0.06%) 、ガラス玉 3 点 (0.19%) などの 30 種類が確認されている。

輸入陶磁器(タイ産、中国産、高麗青磁)の占める割合は、44.01%であった。また、当該遺構の時期に比定できる遺物として、青磁酒会壷(第 20 図  $22 \cdot 23$ )と青磁茶托(同図 26)、華南彩釉陶器(第 21 図  $3 \cdot 4$ )、タイ産(土器、炻器、褐釉陶器。第 24 図  $1 \sim 5$ )などがあった。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第 17 図~第 28 図)した。

第30表① 石積みSA14 屋瓦出土状況

- 第30衣( <u>)</u> - □	口 I 艮 ·	,,,,,,	14 <b>座</b> 瓜出。 層序	<u> </u>	<u> </u>	<i>/</i> L											P-	14.	15														Г
			眉厅															A1															
											東	トレ						北				西	トレ				15 トレ	SA	٦15 ا		則卜		
				第 1 層 a	第1層(覆土)	覆土	第1層a(上層淡褐	第	第1層c(覆土	第2層	第2層(淡褐色混土	第2層(上層淡褐色混	第3層a(暗褐色土層	第4層 a (淡褐色混礫土	第 5 層 a	第6層b(黒褐色土層	層。	- ink	第4層 a ( 淡褐色混礫土層	裏栗直上覆	第1層a(覆土	第4層b(栗石	第5層a	第5層g(淡褐色混	第7層b	第3層a(暗褐色土1	第	覆土	c ( 撹	第4層b	第5層a	壁面清掃	合計
	種						色土層)		<u> </u>		土礫層)	混礫土層)	土層)	低礫土層)		1 土層)	土層)	礫土層 )	低礫土層 )	土	土)	4内)		低礫土層 )	土層)	1土層)			乱 )				
	軒丸	灰色	漆喰無し						1						1									1		1							4
	軒平	灰色褐色	漆喰無し		1	0		9		7	17	-		15	1							0		1		C	7	A		0		9	1 75
高麗系	丸瓦	灰色	漆喰無し		1	2		2			17	5		15 1			1					2		1		6	2	4		3		3	10
	平瓦	灰色 褐色 赤色	漆喰無し		1	1	2	13 1	5	1	17	14	1	58	28	2	2	1	2		1		1	9		5	29			2			209 7 1
	有段瓦	褐色	漆喰無し	L																							1						1
大和(古)	丸瓦	灰色	漆喰有り(片面) 漆喰無し		1			1	2	1	2	1		3										1 4		4				3			22 2
八和(白)	平瓦	褐色 灰色	漆喰無し 漆喰無し		3		4	3	1	2	7	2		1 10							1			5		6	_			2		2	51
		褐色		$\vdash$										1										1			1						1 2
	雁振 丸瓦	褐色 灰色	漆喰無し 漆喰有り(片面) 漆喰無し							2	1			1										1									1 3
大和	, , , , ,	褐色	漆喰無し		1			1						2																			4
	平瓦	灰色	漆喰有り(片面) 漆喰無し	2	1			2						2							1				F	F			2				6
大和 (近代のもの)	丸瓦	灰色	漆喰有り(片面)								1																						1
	軒丸	褐色	漆喰無し					1																									1
		灰色	漆喰有り(片面) 漆喰無し		1 3			1 4	2													1				1			2				4 13
	丸瓦	褐色	漆喰有り(片面) 漆喰無し					1 2																					1				1
明朝系		赤色	漆喰有り(片面) 漆喰無し	2	5 3			3	3	2							1			5								7	12 1				35 14
		灰色 褐色	漆崎無〕		1	2		1	1	2											2								4				10 7
	平瓦	赤色	漆喰有り(両面) 漆喰有り(片面)	10	13			3 7	1		1									2					2				17				3 53
			漆喰無し		16			8	5	2							4			3	5				Ĺ				20				70
	合	計			56	9	6	56			52	24	1	93	31	2	9	1	2	13		3	1	22	2	24	43	12	61	11	2	5	624

第30表② 石積みSA14 土器・瓦質土器・塼瓦出土状況

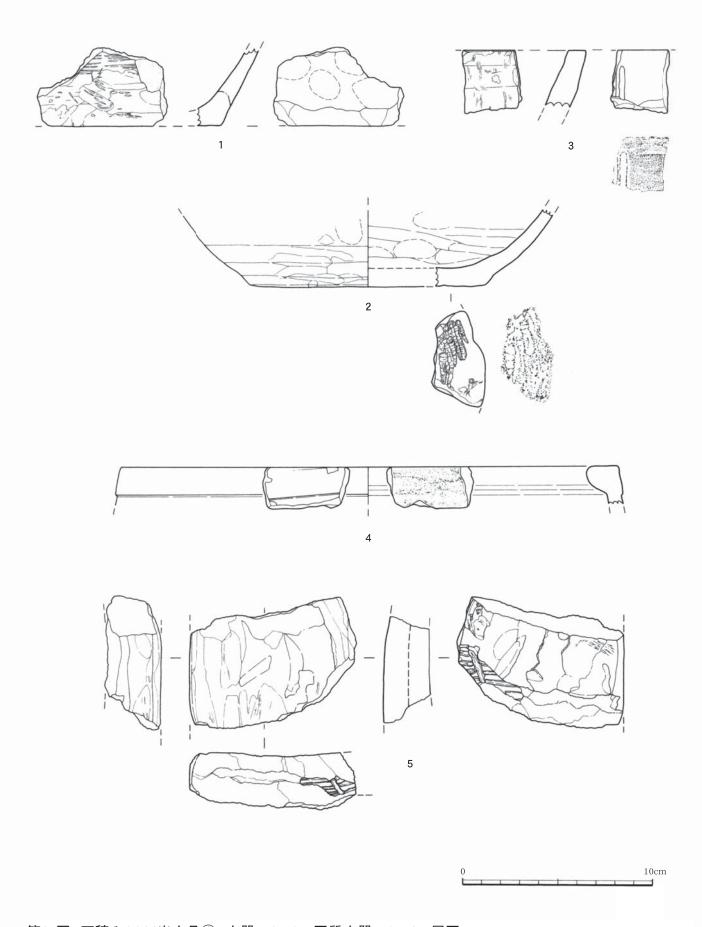
Table   Tab	~		1 P. C. C. C.	<u> </u>	61 以貝工的	1	<del>,,</del> ,,,	-	_	1/1///			Б.									
大田   1   1   1   1   1   1   1   1   1	l ^				層序																	
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1													Sz	414					1			
1						第					東側]				北側ル	SA1	5西側トレ	SA	115南伊	川トレ		
立     頭部 底部     1       場面     底部     1       場面     原部     1       場面     原部     1       日間部     1     4       日間部     1     1       日間部     1     1       本の炉     日縁部     1       「田瀬田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田			種類·器種·音	羽位		1層(覆	1 層	1 層	2	色混礫土層	第2層(淡褐色	□混礫土層 4層 a (淡	(黒褐色土層)第6層b	(暗褐色土層) 第6層c	黄褐色土層 (東半分)	第 3 層 a	色混礫土層)第5層g(淡褐	覆土	(撹乱) 第1層 c	第 4 層 b	面清	
Table   Tab		士		頸部																1		1
Ban	д.	距		底部							1											1
器種不明   原部   2   1   4   3   2   2   1   1   1   1   1   1   1   1	异	鍋													1							1
上	TÍ TÌ	<b>契</b> 種 不 阳				2		1					4	3	2		2	1		2	1	18
体		464里4197		底部	: !	1																1
類			合 計			3	0	1	0	0	1	0	4	3	3	0	2	1	0	3	1	22
Max		솺							1													1
Taylor	万							1									1					3
Table   Ta						1																1
TH	主											1										1
T	器	植木鉢(四角)								1												1
T 類		不明														-						1
I類   B   灰色   漆喰無し   角無し     角1       角無し     角1         角			<u> </u>	川川台り	'					0	^		0	^	0	_		_	0	^	0	6
T		T #55		元点		- 0	U	3	0	U	0	3	0	U	0	1	0	U		0	0	1
T		1 大貝	Б		<i>E</i> -1														1			1
III類	痩		形狀不明。	灰色		1	1	1											1			3
形状不明b   灰色   溶喰無し   角無し   1   3	瓦	Ⅲ類	/// // // // //	赤色			1	1														1
	-		形狀不明b						1	3												4
IV類(煉瓦)					漆喰無し 角無し			1														1
1		respect ( left met )			Æ 1			1														1
<u>수</u> 확		IV 頻 (煉 凡)	-	亦色		1																1
			合 計			3	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	13

# 第31表 石積みSA14 土器·瓦質土器·屋瓦観察一覧

単位:cm

						1 1
挿図番号 図版番号 遺物番号	名和仮		部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第17図 図版12 1	グスク	壷形	底部	_ _ _	器形:底面からの立ち上がりは、直線的に内側へ閉じ気味に胴部へ移行する壷の底部とみられる。器面調整:外面には刷毛目や雑な篦削りがみられる。外底面は平坦にナデで仕上げている。内面は器面の保持が悪いが、ナデで仕上げたようである。器厚:6.7~9.3mmを測る。胎土:砂泥質の粗粒子。混入物:粗細な石英を主体とする稀に細かい黒色鉱物や粗い茶褐色の物質が含まれている。色調:外面が茶褐色で、外底面が褐色となる。内面は灰白色を主体とし、部分的に茶褐色を帯びている。焼成:良好で堅い。	B-14 SA14 第2層 東側トレ 上層淡褐色混礫 土層
" " 2	2系土器	鍋形	底部	_ _ 12.4	器形:底面からの立ち上がり部分で軽くくびれてから丸味を持たせながら内側へ閉じ気味に胴部へ移行する鍋の底部とみられる。器面調整:外面は篦削りをナデ消すが消えきっていない。立ち上がりの部分は雑であり、篦削りの部分は面取りされ、ナデを軽く加えている。外底面には藁筵とみられる圧痕が観察される。内面はナデ仕上げである。器厚:5.4~9.4mmを測る。胎士:砂泥質の粗粒子。混入物:粗細な石英を主体とする。稀に細かい黒色鉱物や粗い茶褐色の物質が含まれている。色調:外面および外底面が黄褐色を主体とし、部分的に茶褐色となる。内面は黒褐色を主体とし、部分的に淡橙色を帯びる。焼成:良好で堅い。	B-14 SA14 東側い第8層a (東半分) 黄褐色土層
,, ,, 3	瓦	擂鉢	口縁部	_ _ _	器形:内湾口縁の浅鉢。口唇部を篦削りで成形している。文様:内面口縁に2.2mm幅の篦で櫛目を深く入れている。器面調整:外面は篦削りを縦位の擦痕でナデ消すが消えきっていない。内面は横位の擦痕で仕上げている。器厚:9.2~12.5mmを測る。胎土:泥質の細粒子。混入物:粗細な茶褐色の物質(粗いものは4.1mmを測る)を多く含む。稀に微細な石英がみられる。色調:外面は灰色で、口唇部と内面が灰茶色となる。焼成:良好で堅い。	B-14 SA14 西側トン第4層a 淡褐色混礫土層
" " 4	<b>近質土器</b>	鉢 or 炉	口縁部	26.2	器形:内湾口縁の鉢、若しくは炉の口縁破片。内面口縁部に断面が歪な梯形状に肥厚させて、口唇部を平坦に幅広(15.2mm幅)に成形する。外面口縁は斜位方向に走る篦削りを加えて疑似肥厚とする。文様:外面の篦削りを界線とみることもできるが判然としない。器面調整:外面および口唇部には擦痕とナデが施されているが、外面の調整が丁寧である。内面は肥厚帯の下半部にのみ雑な篦削りを加えている。他は丁寧な擦痕とナデを加えている。器厚:胴部で8.25mmを測った。胎土:砂泥質の細粒子。混入物:粗細な石英を多量に含む。稀に微細な黒褐色の鉱物と細かい雲母片がみられる。色調:口唇部と外面は明橙色で、内面が淡橙色となる。焼成:良好で堅い。	B-14·15 SA14 第1層 (覆土)
,, ,, 5	大和系屋瓦	平瓦		_ _ _	平瓦の端部破片。凹面は雑なナデを主体とし、部分的に指圧痕がみられる。下端面は雑な 篦削りを主体とする。部分的に擦痕が観察できる。凸面も雑な篦削りのナデと磨きが入り光沢 を持つ面がある。劈開面から有軸羽状の叩き目が入った陶土が観察できる。素地:泥質の細 粒子。混入物:微細な石英を多く含んでいる。色調:外面は灰褐色で、内面が明灰色を帯び る。焼成:堅緻。	B-14 SA14西側トレ 第4層a 淡褐色混礫土層

注「一」: 計測不可



第17図 石積みSA14出土品① 土器:1·2、瓦質土器:3·4、屋瓦:5

第32	衣山 白傾め	SA 14 <b>7</b> 層序	青磁出土状況 :												B-14•3	15												$\neg$	
															SA14														
					hohe				東側	トレ			北側ル				西側トレ					SA15西側	レ			15南側ト	·\u00bb	日本	合
				( 第 7	第 1	第	悪	(第 第 第	第2層	第2層	第4層a	第6層b	第4層a	裏 要 里 直 上	西海側	○第 要 1	第4層b	第5層a	第7層b	第	第3層a	第4層b	第5層g	第	悪	(撹乱) (	第	壁面	計
				土層	1 層 a	1   層	覆土	7 1   第 2   第 2   第 2   第 2   第 3   3	(上層淡褐色 混礫土層)	(淡褐色混 土礫層)	(淡褐色混 礫土層)	(黒褐色 土層)	(淡褐色混 礫土層)	土直	清側 掃壁 面	覆 1 土層	(栗石内)	(灰褐色 土層)	(淡黄色混 土砂層)	3 層	(暗褐色 土層)	(栗石内)	(淡褐色混 礫土層)	5層	覆 土	乱層	層	清掃	
		器種•音	『位 外面:ラマ式蓮弁・片切彫り			С		○ c /=						上	Ш	∪ a				a				h		<u> </u>	b	$\dashv$	
			内面:刻花文・片切彫り																								1	$\dashv$	1
		外反	ラマ式蓮弁 片切彫り 有文			1		1																		$\longrightarrow$	$\dashv$	$\dashv$	1
			無文	3	3 1	1	3	3 2	2	2	4	2					1	1					2	1	4	-	+	1	32
	( <del>-</del> 1		外面:蓮弁・箆彫り 内面:刻花文・片切彫り						1								_											Ť	1
	口縁部		蓮弁 線彫り																					1		$\rightarrow$	+	$\dashv$	
		直口	雷文 片切彫り																							$\overline{}$	1	-	1
			波濤文													1													1
			無文	1			1																						2
		50.00	有文																		1								1
youla.		輪花	有文 外面:有文不明									1															$\rightarrow$	$\dashv$	1
碗			为面:陽花文・型押し																				1						1
			外面:蓮弁・片切彫り 内面:無文								1														1				2
	胴部	3	井切彫り					1				1																寸	2
			世 ・ 一					1	1					1												-	1	$\dashv$	$\frac{1}{3}$
			無文	3	3		5	1	. 4		3				1	1						1	1		1		3		24
			文様不明				1																						1
		cタイプ <sup>°</sup> eタイプ <sup>°</sup>	印花文 無文																					1			1		l
	- La - Late	fタイプ	有文					1																1		-	+	-+	$\frac{1}{1}$
	底部	hタイプ	無文					1				1																	2
			有文								1																		1
		高台なし 外反	無文無文							1									1								-		
	口縁部~底部	内湾	無文									1							1							-	$\rightarrow$	-+	$\frac{1}{1}$
		口折	蓮弁・片切彫り														1												1
	4-10	外反	外面:蓮弁・片切彫り 内面:無文				1																						1
Ш	口縁部		無文		2	2	1	1			1												1		1		1		8
		直口	無文	1	-																					1			2
	 胴部	内湾	無文無文			1	1									1									1	$\longrightarrow$	$\dashv$	$\dashv$	1
			印花菊文								1					1									1		$\overline{}$	-	1
	底部		無文			1	-	1	1				1												1				5
			蓮弁・丸箆				1																				$\rightarrow$		1
			外面:鎬連弁・片切彫り 内面:蓮弁・箆彫り	1	-																								1
			外面:無文 内面:蓮弁・箆彫り								1																		1
		タガ状 鍔縁	外面:無文 内面:蓮弁·丸箆					1				1													1				3
盤	口縁部	<b>业</b> 与形体	外面: 文様不明	1																						-		#	1
			内面:蓮弁·丸箆 外面:蓮弁·丸箆	<del>                                     </del>			1																				-	$\dashv$	
			内面: 文様不明 文様不明								1														1		1	$\dashv$	1
			文様不明								1														1	+	1	$\dashv$	1
			蓮弁・箆彫り																						1	$\rightarrow$	+	$\dashv$	1
		直口	文様不明																								1	$\neg$	1

## 第32表② 石積みSA14 青磁出土状況

第32衣	<u> 4 何何か5</u>	A <b>14 青磁出土状況</b> 層序												B-1	4.15											$\top$
															114											
								東側ト	ν			北側レレ				西側ル					SA15西側	$\nu$		SA15南·		合
			( 覆土 )	第 1 層 a	第 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		2 届	第2層 (上層淡褐色 混礫土層)	第2層 (淡褐色混 土礫層)	第4層a (淡褐色混 礫土層)		第4層a (淡褐色 混礫土 層)	裏 覆栗 土直 上	西 清側 掃壁 面		第4層b (栗石内)	第5層a (灰褐色 土層)	第7層b (淡黄色混 土砂層)	一一一	第3層a (暗褐色 土層)	第4層b (栗石内)	第5層g (淡褐色混 礫土層)	第 5 層 h		9   層   掃	
	器	種·部位			С	→ c						僧)	上	川	∪ a				a				n	<u> </u>	b "	
1		外面:無文 内面:蓮弁·丸箆	1			1														1			1			
		外面:無文 内面:蓮弁·櫛描	1	-	1																		1			
	胴部	外面:無文 内面:蓮弁・型起し																	1							
		有文不明					1												-							_
ris FL		無文	$\frac{1}{1}$			1	2	-		3	5					1			-			1				_
盤		文様不明印花文		1		1	1	1		1															+++	-
		aタイプ。 文様不明				1	1			1																_
		無文	1																						1	-
	底部	印花文																							1	-
		bタイプ。 文様不明																					1			_
		高台なし即花文																					1			
		蓮弁·鎬								1																
		刻花文・片切彫り					1																			
	蓋	蓮弁・丸彫り																							1	
		有文不明								1																
		無文																					1		1	
	頸部	蓮弁・片切彫り																						1		
酒会壺	胴部	蓮弁・片切彫り						1		2																
	NH tritt	有文不明								1										1						
		蓮弁・丸箆																		1						
	底部	蓮弁・箆彫り						1																		
		蓮弁・片切彫り						1																		
	底部(真底)	蓮弁・片切彫り、型起し												1												
		底部(真底)					1																			
大瓶	胴部	陽刻の唐草文・型起こし																								1
大鉢	胴部	有文不明						1																		
蓋?	_	文様不明																						1		
茶托	口縁部~底部	無文																					1			
		合 計	13	4	4	17 6	6 14	14	3	22	2 7	1	1	2	3	3	1	1	. 1	4	1	. 6	9	14	1 15	2 169

# 第33表① 石積みSA14 青磁観察一覧

単位:cm

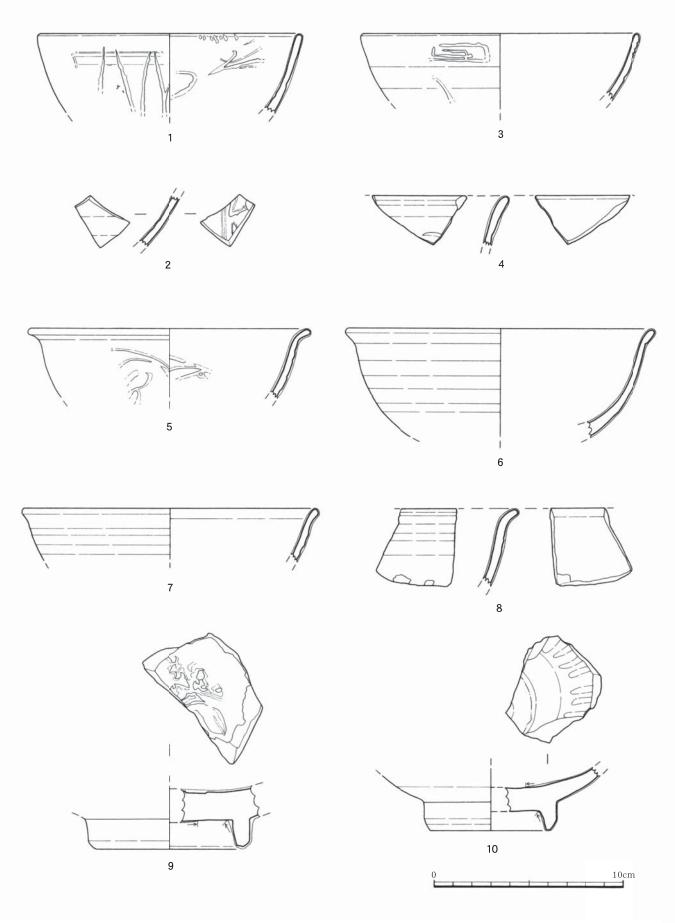
7,,,,,	<i>у</i> н	1長0707	114 月		単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第18図 図版13 1	蓮弁文碗	口縁部	14.0 _ _	器形:直口口縁碗。文様:外面に篦彫りで弁先の開いた蓮弁文を描く。内面にも片切彫りで刻花文を描く。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第2層 (上層淡褐色 混礫土層)
" " 2	型押蓮弁文碗	胴部	_ _ _ _	器形:型押運弁文碗の胴部片。文様:外面には文様は残存しないが、京の内跡土 壌SK01出土の類例からすると間隔の開いた篦彫りの運弁文が施されている。内面 は型押しによる陽文の区画界線(或いは二重線の運弁文)と陽花文を施している。 素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な気泡痕や微細な黒色鉱物が観察できる。 色:濃緑色で、貫入はない。福建系の窯。14c後半~15c中葉。	SA14 (SA15 西側トレンチ) 第5層g (淡褐色 混礫土層)
" " 3	雷文帯碗	口縁部	14.8 _ _	器形:内湾直口口縁碗。文様:外面に片切彫りで反時計周りに雷文を描く。素地: 淡灰白色の細粒子で、微細な気泡痕や微細な石英と黒色鉱物が観察できる。釉色:淡青緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中葉。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 4	ラマ式蓮	口縁部	_ _ _	器形:外反口縁碗。文様:外面に片切彫りでラマ式蓮弁を描く。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な気泡痕が観察できる。釉色:淡青緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中葉。	SA14 第1層c
" " 5	全弁 文 碗	口縁部	15.0 — —	器形:外反口縁碗。口縁の外反は、上記4よりも強く外側に折れる。文様:外面に片切彫りでラマ式蓮弁を描く。内面にも片切彫りで刻花文を描く。素地:淡灰色の細粒子で、粗細な気泡痕が観察できる。釉色:淡青緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中葉。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 6	外反	口縁部	16.4 	器形:外反口縁碗。佐敷タイプの碗(註1)。外面の成形が雑で轆轤痕のまま放置した状態で施釉がなされる。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、粗細な気泡痕と微細な石英および黒色鉱物が観察できる。釉色:淡灰緑色で、両面に粗い貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c初頭。	SA14 (SA15 西側トレンチ) 第5層g (淡褐色 混礫土層)
n n 7	人口縁碗	口縁部	15.6 — —	器形:外反口縁碗。外面の轆轤痕が明瞭である。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、微細な気泡痕と微細な黒色鉱物が観察できる。釉色:黄緑色の透明釉。貫入:なし。中国南部の窯。14c終末~15c前半。	SA14 第1層 (覆土)
" " 8		口縁部	_ _ _	器形:外反口縁碗。文様:なし。素地:淡灰色の細粒子で、粗細な気泡痕が多く観察できる。釉色:淡緑青色の釉で、両面に粗い貫入がみられる。中国南部の窯。 14c終末~15c前半。	SA14 第1層 (覆土)
" " 9	Tolic	底部	- - 7.8	器形:高台分類cタイプ。大振りの碗。文様:見込みに印花文を施す。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子で、微細な気泡痕や黒色鉱物が観察できる。釉色:濃緑色の釉を両面施釉に外底面の釉を蛇の目状に掻き取って露胎とする。露胎となった部分に胎土目の重ね焼きの目痕が細く輪っか状にみられる。貫入はない。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 10	碗	底部	- - 6.3	器形:高台分類hタイプ。見込みの釉を円形状に掻き取って露胎させる碗。佐敷タイプの碗の範疇にある。文様:内面胴下部に篦描きの蓮弁文を施す。素地:淡灰色の粗粒子で、粗細な石英を多量に含んでいる。稀に微細な黒色鉱物も観察できる。釉色:淡緑青色の釉を両面に施した後に外底面と見込みの釉を掻き取って露胎とする。両面に細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c初頭。	SA14 東側トレンチ 第4層a (淡褐色 混礫土層)

注「一」:計測不可

#### 参考および註文献

註1. 当真嗣一・宮里末廣『佐敷グスク』 佐敷町教育委員会 1980年3月。

○ 金城亀信「青磁ラマ式蓮弁文碗について」『貿易陶磁研究』No.20 2000年。

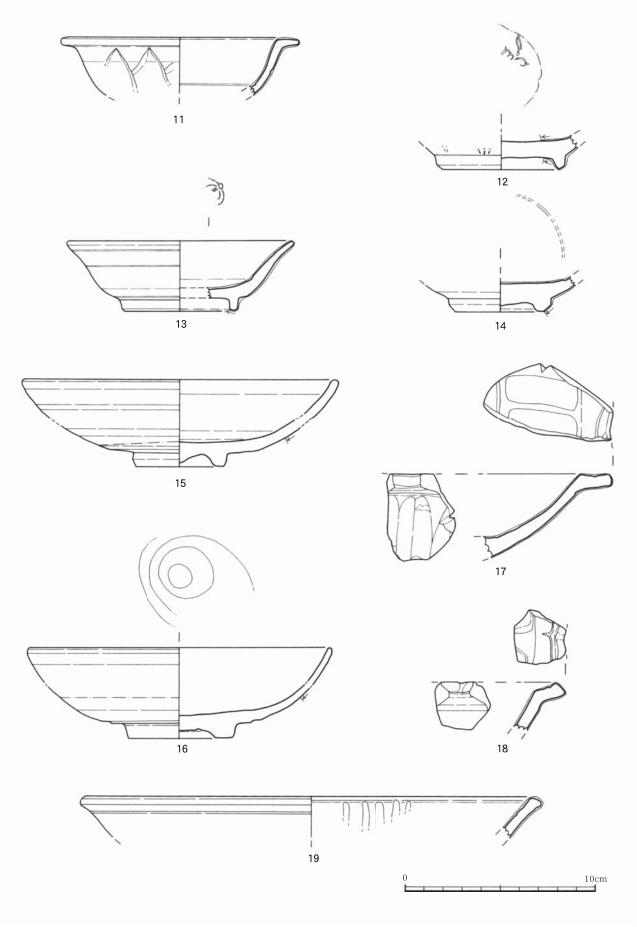


第18図 石積みSA14出土品② 青磁:1~10

# 第33表② 石積みSA14 青磁観察一覧

第33表	2) 石	積みSA	14 青石	滋観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第19図 図版14 11	口 折 皿	口縁部	12.6 _ _	器形:所謂鍔縁皿。文様:外面に片切彫りで弁先の尖った蓮弁文を左から右方向に描いている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色の釉を両面に施す。貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c前半。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)
" " 12	蓮弁文皿	底部	_ _ 6.2	器形: 見込みと外底面の釉を円形状に掻き取って露胎とする皿。文様: 外面の高台脇に片切彫りによる蓮弁文を描くが釉が厚く溜まり不鮮明である。 見込みに印花菊文を施す。 素地: 光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色: 淡青緑色の釉を施す。 細かい貫入が両面で観察できる。 龍泉窯系。 14c終末~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第4層a (淡褐色 混礫土層)
" " 13	外反口縁皿	口縁部~底部	12.0 3.7 5.9	器形:外反口縁皿。胴下部で丸味を持って折れる。文様:見込みに印花花文を施す。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色の釉。外面の釉は畳付から高台内面途中まで及んでいる。内面は総釉。粗い貫入が外面のみ観察できる。龍泉窯系。14c後半~15c前半。	SA14 西側トレンチ 第7層b(淡黄色 混土砂層)
" " 14	Ш	底部	_ _ 4.7	器形:胴下部で丸味を持った皿。高台内刳りが時計回りに雑に刳り抜きを実施しされたため、幅広の畳付が一部極端に幅が狭くなっている。文様:内底面の腰折れとなる箇所に陰圏線がみられる。素地:淡黄白色の細粒子で、粗細な気泡痕が多くみられる。稀に微細な黒色鉱物や粗い茶褐色の鉱物が含まれている。釉色:淡黄茶色の釉を両面に施した後に畳付から外底面までの釉を掻き取って露胎とする。両面に細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c後半~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第2層(上層淡 褐色混礫土層)
" " 15	内湾口	口縁部〜底部	16.6 (4.6) 4.7	器形: 内湾口縁皿で、高台内刳りも雑で時計回りに刳り抜いたため、畳付の幅が定まらない。外底面中央が三角錐状に尖っている。外面に雑な轆轤成形で仕上げている。文様: なし。素地: 淡灰色の粗粒子で、粗細な(黒色・茶褐色)鉱物を多く含む。 劈開面から粗細な気泡痕が観察できる。 釉色: 透明な黄緑色の釉を内面から外面胴下部まで施釉。 細かい貫入が両面でみられる。 泉州窯系。 14c後半~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第6層b (黒褐色土層)
" " 16	縁皿	口縁部~底部	16.0 (4.8) 5.5	器形:内湾口縁皿で、高台内刳りが浅く時計回りに刳り抜いている。畳付の幅は8.2~9.9mmと幅広である。見込みの部分に「の」の字状の回転轆轤痕がみられる。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、粗細な黒色鉱物を多く含む。劈開面から粗細な気泡痕が観察できる。釉色:透明な黄緑色の釉を内面から外面胴下部まで施釉。細かい貫入が両面でみられる。泉州窯系。14c後半~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第1層c + SK02 SA15西トレ 層序第8層b
" " 17	鍔縁	口縁部	_ _ _ _	器形: 鍔縁皿で口唇部を稜花状に成形した盤。 鍔の内面が浅く窪む。文様: 鍔上面の縁沿いの稜花に沿って片切彫りで文様を施す。外面は片切彫りで 弁先が鈍角となる鎬蓮弁文を描く。内面にも篦彫り(篦幅17.1mm)で蓮弁文を 描き、その直下に陰圏線を施している。素地: 光沢のある淡灰色の微粒子で、 粗細な気泡痕が僅かに観察できる。 釉色: 淡黄緑色の釉を両面に施釉。 貫入 はない。 龍泉窯系。 14c中頃~14c後半。	SA14 西側トレンチ 第1層a (覆土) + B-14排水溝①
" " 18	盤	口縁部	_ _ _	器形: "。"。文様:鍔上面の縁沿いの稜花に沿って片切彫りで文様を施す。外面は無文。内面には箆彫りの蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な気泡痕が僅かに観察できる。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉。細かい貫入が両面でみられる。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SA14 東側トレンチ 第4層a (淡褐色 混礫土層)
" " 19	直口口縁盤	口縁部	24.6 _ _	器形:直口口縁盤。口縁部に削りを入れて微弱な肥厚を造る。文様:内面に 篦彫り(篦幅3.4~4.0mm)の蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の微粒子。釉色: 薄緑色の透明釉を両面に施釉。貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中 頃。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 覆土

| 盤 | <sup>気</sup>。
| 注 ():推定、「-」:計測不可、「+」:接合の意



第19図 石積みSA14出土品③ 青磁:11~19

単位:cm

# 第33表③ 石積みSA14 青磁観察一覧

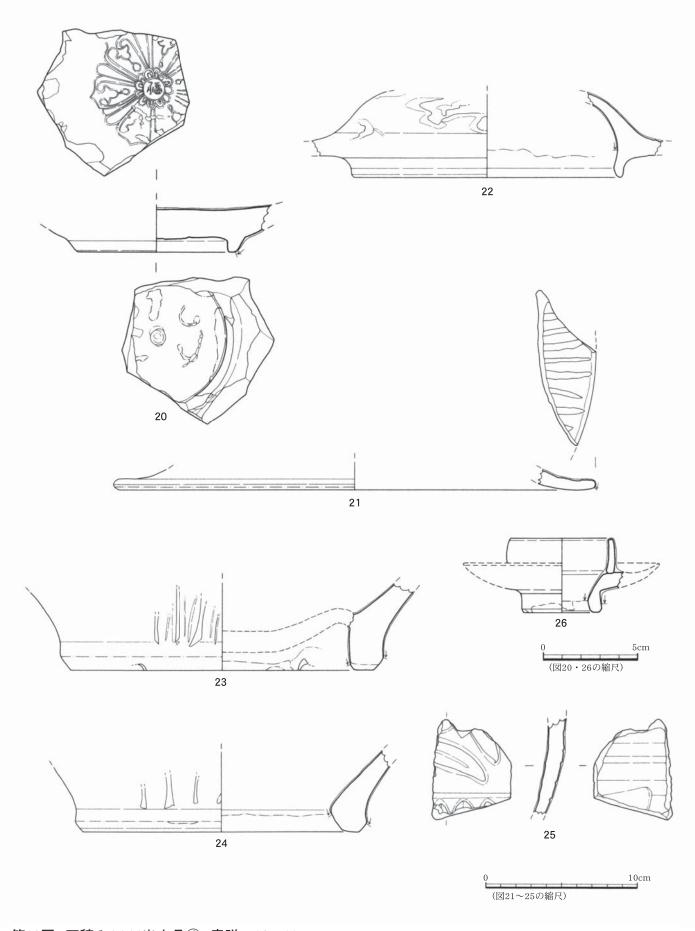
71		(0) (1)		THUS SE	平位.0
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第20図 図版15 20	盤	底部	_ _ 8.4	器形:高台分類aタイプ。高台を有する盤。外底面に胎土目の目痕がみられる。文様:見込みに印花文を施す。花文中央に菊花(12花弁)と花芯に「福」の字款を配置する。菊花周辺にはラマ式蓮弁文の中に垂下三葉文と滴を配置した文様構成となっている。素地:光沢のある淡灰色の細粒子で、微細な黒色鉱物が多くみられる。釉色:淡黄緑色の釉。外面は畳付けまで施釉。内面は総釉。貫入はない。龍泉窯系の地方窯。14c後半~15c中頃。	SA14 東側トレンチ 第2層
" " 21		蓋	外径 32.0 — —	器形: 鍔縁と甲頂部が欠落した蓋。文様: 蓋甲に片切彫りで刻花文を描き、その周辺(縁近く)に片切彫りの圏線を二条描かれている。素地: 光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色: 明緑色の釉。 外面は施釉で、内面は蓋甲部分にのみ施釉。 貫入はない。 龍泉窯系。 14c後半~15c中頃。	SA14 東側トレンチ 第2層
" " 22		蓋	一 一 内径 17.8	器形: 鍔縁のみが残存する薄造りの蓋。文様: 外面に丸彫りの蓮弁文を描くが雑である。素地: 光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色: 濃緑色の釉。 外面は口唇部下端まで施釉。 内面は釉が施されていない。 露胎のままである。 釉下に微細な気泡が多くみられる。 貫入はない。 龍泉窯系。 15c後半~16c。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 23	酒会壷	底部		器形:高台外面から緩やかに立ち上がる壷。高台畳付の一部分が抉り取られていて、その部分にのみ釉が掛かっている。壷内面の高台近くに底面となる陶土の貼り付け痕がみられる。文様:外面の高台近くから片切彫りで蓮弁文を深く描き、蓮弁内に浅い丸彫りの蓮弁を二条描いている。素地:淡灰白色の微粒子で、微細な黒色鉱物が少量みられる。釉色:濃緑色の釉。外面は高台近くまで施釉され、丁寧に釉が掻き取られている。内面は畳付近くまで施釉。両面に粗い貫入がみられる。龍泉窯系。15c後半~16c。	SA14 東側トレンチ第2層 (上層淡褐色混 礫土層)
" " 24		底部	_ _ 18.0	器形:高台外面から緩やかに立ち上がる壷。壷内面に底面となる陶土の貼り付けはみられない。文様:外面の高台近くから篦彫りで蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の微粒子で、微細な黒色鉱物が少量みられる。釉色:淡灰白色の釉。外面は高台近くまで施釉され、丁寧に釉が掻き取られている。内面は高台近くまで施釉。貫入はない。龍泉窯系。15c後半~16c。	SA14 東側トレンチ第2層 (上層淡褐色混 礫土層)
" " 25	大瓶	胴部	_ _ _	器形: 花瓶の胴下部の破片。文様: 外面に型起こし陽刻の唐草文と陽界線、 界線直下に弁先の尖った蓮弁文が施されている。素地: 淡灰白色の細粒子 で、微細な気泡痕がみられる。 釉色: 淡緑色の釉を両面に施釉。 細かい貫入 が両面でみられる。 龍泉窯系。 14c後半~15c中頃。	B−14 SA14 壁面清掃
" " 26	茶托	口縁部~底部	5.6 3.9 4.2	器形:中空の茶托片。類例は黄金御殿跡(註1)や渡地村跡(註2)などから出土している。器台と皿部を同時作成に身部を貼り付けて製作する。文様:なし。素地:橙白色の細粒子で、微細な石英と黒色鉱物が僅かに混入し、稀に粗細な気泡痕が観察できる。釉色:黄茶色釉を両面とも高台途中まで施釉。細かい貫入が両面でみられる。龍泉窯系。15c終末~16c。	SA14 (SA15 西側トレンチ) 第5層h

注「一」: 計測不可

## 註文献

註1.『首里城跡-黄金御殿地区発掘調査報告書ー』沖縄県立埋蔵文化財センター 2007年3月。天目台で報告。

註2.『渡地村跡-臨港道路那覇1号線整備に伴う緊急発掘調査報告書-』沖縄県立埋蔵文化財センター 2007年3月。茶たく茶受けで報告。



第20図 石積みSA14出土品④ 青磁:20~26

第34表 石積みSA14 白磁·青花·彩釉陶器出土状況

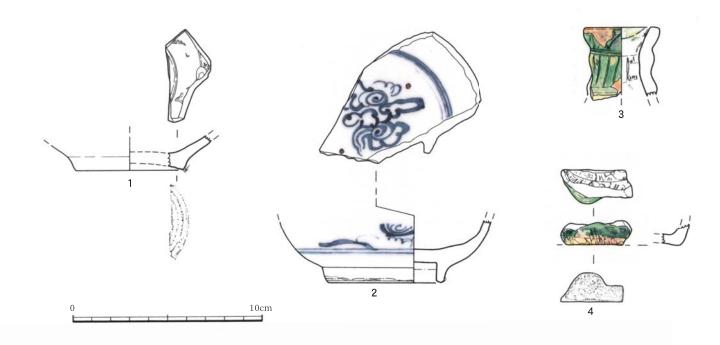
	44 11 1		層序	PAPA   3	U 1/2 1	MI-J HH		17 1770	B-14·15					
			/ 1 / 1											-
									SA14		1	I		. !
				/#: 1 EZ		東側レレ			西側ル		SA15西側ル	SA15	有側トレ	合 計
	種類• 哭	種·部位		第1層 (覆土)	第1層 c	第1層c (覆土)	第2層	裏栗直上 覆土	第1層a (覆土)	第4層b (栗石内)	第4層b (栗石内)	第1層c (撹乱)	第4層b	
		口縁部	外反				1							1
	碗	胴部		3			1							4
白		口縁部	内湾		1	1	1							2
磁										1				1
		底部						1		-				1
	杯	底部			1			-						1
		計	,	3	2	1	2	1	0	1	0	0	0	10
		口縁部	直口	1	1							2		4
	碗	胴音		1				1	2				1	5
青花		底音											1	1
化	Ш	底部	部	1										1
	器種不明	胴音							1					1
		計		3	1	0	0	1	3	0	0	2	2	12
彩	盤	胴部	祁		1									1
釉	鶴形水注	胴音	祁								1			1
陶		口縁	:部3	1										1
器	型物水注	底部	祁		1									1
	合	計		1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4

# 第35表 石積みSA14 白磁·青花·彩釉陶器観察一覧

単位:cm

77001	1	JC - 7	<del></del>	T P444 1 .	16 杉福岡田祝水 先	<b>丰</b> 位.00
挿図番号 図版番号 遺物番号		称· [称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第21図 図版16 1	白磁	杯	底部	_ _ 5.6	器形:高台内刳りが階段状に浅く刳りぬいた杯の底部とみられる。文様:内面に櫛描文と見込みに浅い二条の圏線を施す。素地:淡灰白色の細粒子。釉色:淡灰白色の釉を高台外面まで施釉。畳付は露胎。貫入:なし。景徳鎮窯。14c後半~15c前半。	SA14 東側トレンチ 第1層c
,, ,, 2	青花	碗	底部	_ _ 6.0	器形:外反口縁碗。文様:外面に主文の「雲文」と「草花文」を描き。主文直下に二条の界線で区画する所謂雲堂手の文様。内面の見込みに圏線と如意頭雲(霊芝雲)を描く。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色の釉を総施後に高台外面下端から高台内面途中までの釉を掻き取って露胎とする。貫入:なし。景徳鎮窯。15c前半~15c中頃。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 3	彩釉陶	型物水注	口縁部		器形:鶴型か鴨型の型物水注の口縁。文様:口縁外面の文様は型起こしである。口縁部の上位に二重の蓮弁文、その下位に二条の圏線と線彫りで蛇行気味の蓮弁文を型で起こしている。裏面は雑な指圧痕を主体とし部分的にナデがみられる。型合わせの接合面から外れている。素地:淡黄白色の細粒子で、少量ながら微細な黒色や茶褐色の鉱物などがみられる。釉色:緑色の釉が内面口唇部から外面まで施釉され、部分的に内面の口縁部に釉が垂れている。貫入:なし。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。	B-14 SA14 第1層 (覆土)
" " 4	<b>严</b> 器	型物水注	底部	_ _ _	器形:龍、若しくは亀形の型物水注とみられる。足の部分が残存する底部破片。文様:外面の底部近くに三角形状の甲羅(鱗様に表現)と足の部分が型で抜かれている。裏面は丁寧な指圧痕がナデ様に加えられている。素地:淡黄白色の細粒子で、少量ながら微細な黒色や茶褐色の鉱物がみられる。僅かながら粗細な石英も混入している。釉色:緑色の釉を外面の底部近くまで施されている。貫入:なし。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。	SA14 東側トレンチ 第1層c

注「一」:計測不可



第21図 石積みSA14出土品⑤ 白磁:1、青花:2、彩釉陶器:3・4

第36表 石積みSA14 中国産褐釉陶器出土状況

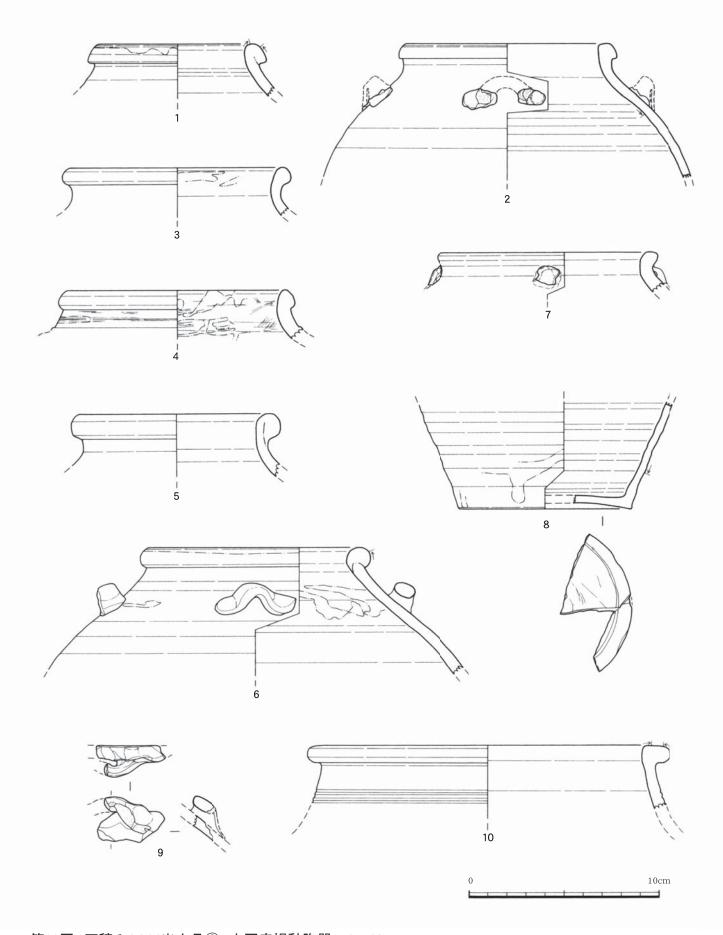
V	10 10	層序			/ <u></u>	<b>υ</b> ημ	ע-יין ו	四日	-	1/ \/.	<i>,</i> ,,		1	3-14	.15												
		<b>眉</b>												3–14 SA1													
$  \  $												北側												SA15	<u> </u>		
`							月	1側ト	V				₫	互側ト	V			SA1	5西位	則トレ				有側卜			
	器 器	種・部位	第1層(覆土)	第 1 層 a	第1層 c	覆土	第1層c(覆土)	第 2 層	第2層(上層淡褐色混礫土層)	第4層 a (淡褐色混礫土層)	第7層a(黒色土層)	第7層a(黒色土層)	裏栗直上覆土	第4層 b (栗石内)	第7層b(黒褐色土層)	西側延長トレ覆土	第 1 層 a	第 3 層 a	第3層a(暗褐色土層)	第5層g(淡褐色混礫土層)	第 5 層 h	第6層b(暗褐色土層)	第1層c(撹乱)	第 4 層 b	第5層g(暗褐色土層)	壁面清掃	合 献
		玉縁状	2	1			1		1	1				1										2			9
		方形状			2			2	1														1	2			8
	口   縁	三角形状			1			1																			2
	部	無肥厚「く」字状				1																					1
	''	逆「フ」字状			1									1						1					1		4
		逆「L」字状																		1							1
壺		頸部	1		1			2	6	1																	11
		肩部							2															1			3
		耳	1		1																						2
		把手							1																		1
	L	胴部	51	9	100		16	50	38	5	1	1	1	7	1	1	1	1	9	13	4	1	4	63		4	381
	胴部	有文																						1			1
L.,		底部			2			2	1	1														2			8
鉢	<u> </u>	口縁部								1																	1
		合 計	55	10	108	1	17	57	50	9	1	1	1	9	1	1	1	1	9	15	4	1	5	71	1	4	433

# 第37表① 石積みSA14 中国産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

第37表(1	<u>/ 111</u>	貝のア	3A14 F	中国産褐釉陶器観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第22図 図版17 1			9.4	器形:口縁部の陶土を外側に折り曲げて縦断面が歪な玉縁状の肥厚口縁となるナデ肩の壷。肥厚帯下端に丸篦状の工具で削り取って成形する。文様:なし。器面調整:外面の大半が釉で覆われて観察できない。内面は轆轤痕を雑なナデを加えてナデ消すが轆轤痕が消えきっていない。肥厚部の一部と口唇部には回転擦痕とナデがみられる。素地:淡橙白色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)を少量ながら混入する。色調:両面に茶褐色の釉を施すが、内面は外面より雑な釉掛けで部分的に露胎する。口唇部の釉もナデで掻き取られている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 東側ルンチ 第1層c
" " 2			11.5 _ _ _	器形:口縁部の縦断面が歪な方形状の肥厚口縁となるナデ肩の壷。肥厚帯下端を轆轤引きで成形した為、下端の陶土が下方尖り気味となる。文様:なし。肩部に横位の紐状の把手を貼り付けていたようである。器面調整:外面の大半が釉で覆われているが部分的に轆轤痕が観察できる。内面は轆轤痕を雑な擦痕でナデ消すが轆轤痕は消えきっていない。口唇部には丁寧な回転擦痕がみられる。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な石英と黒色の鉱物が少量混入する。色調:外面にのみ茶褐色の釉を施す。口唇部の釉は回転擦痕で掻き取られている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14東側ル ンチ第1層c+ SA14(SA15 西側トンチ) 5層h+ SA14(SA15 西側トンチ) 5層g
" " 3			12.0	器形:口縁部の縦断面が歪で小さな玉縁状の肥厚口縁となるナデ肩の壷。肥厚帯下端は丁寧な轆轤引きで成形する。文様:なし。器面調整:外面の大半が釉で覆われて観察できない。内面も大半が釉で覆われているが部分的に雑な擦痕がみられる。口唇部も施釉である。素地:灰白色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色)を少量ながら混入する。色調:外面の下地に白化粧の釉を施した後に淡い緑灰色の釉を薄く施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。15c~16c。	SA14 西側トレンチ 第4層b
" " 4	壺	日 禄 部	12.4	器形:口縁部の縦断面が歪で小さな三角形状の肥厚口縁となる怒り肩の壷。肥厚帯下端は轆轤引きで雑に成形する。文様:なし。器面調整:外面の大半が釉で覆われて観察できない。内面も大半が釉で覆われているが部分的に雑な擦痕がみられる。口唇部も施釉される。素地:淡橙白色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色)が少量ながら混入する。色調:外面に茶褐色の釉を施す。内面にもまだらに施釉する。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 東側トレンチ 第1層c
" " 5	<del>Ы.</del>		11.0	器形:口縁部の縦断面は陶土を折り返して玉縁状の肥厚口縁とする。ナデ肩の壷。 文様:なし。器面調整:両面とも釉で覆われて観察しにくいが釉上から観察できた範囲では肥厚帯下端に雑な回転擦痕がみられる。内面は施釉が薄く轆轤痕を雑な擦痕でナデ消している。素地:淡灰白色の細粒子で、粗い石英と茶褐色の鉱物が少量ながら混入する。劈開面から素地に白色陶土の歪な菱形様の塊(短軸2.9mm、長軸12.9mm)がみられる。色調:両面に緑茶色の釉を施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 第1層a
" " 6			12.0	器形: "。"。文様:なし。肩部に紐状の把手(横幅42.3mm、紐部の縦長10.5mm、紐部の厚さ6.8mm)を横位に貼り付けている。器面調整:外面は釉で覆われて観察しにくいが釉上から観察できた範囲では肥厚帯下端には比較的に丁寧なナデがみられる。内面は無釉で露胎し回転擦痕がみられる。部分的に把手貼り付けの部分には指圧痕が顕著にみられる。素地:淡灰白色の細粒子で、粗い石英と黒色鉱物が少量ながら混入する。色調:外面と口唇部に茶褐色の釉を施すが、口唇部の釉は雑なナデで掻き取られている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
11 11 7			11.6	器形:口縁部を緩く「く」の字状に外反させた怒り肩の壷。文様:頸部に非実用的(アクセントとしての飾りで、把手としての機能はない)な小振りの把手を縦位に貼り付けている。把手の孔は貫通していない。器面調整:両面とも釉で覆われて観察できない。口唇部も施釉される。素地:黄白色の細粒子で、粗細な石英と細かい黒色や茶褐色が少量ながら混入する。色調:両面に茶褐色の釉を施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 東側トレンチ 覆土
" " 8		底部	9.0	器形:前記した同図3と同様の白濁した灰白色の釉を施した壷。外底面からの立ち上がりは外側に若干開きながら直線的に胴部へ移行する。文様:なし。器面調整:外面の大半が釉で覆われているが、釉上から観察すると轆轤成形である。底面近くは轆轤痕を丁寧にナデ消している。内面は轆轤痕を回転擦痕でナデ消している。外底面の縁に沿うように磁器質(灰色の微粒子で粗い黒色鉱物が含まれている)の胎土目の目痕が半円形状にみられる。素地:淡い灰色の細粒子で、粗細な石英が少量ながら混入する。色調:外面に白化粧の釉を下地にして、その上から淡い緑白色の透明釉を施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。15c~16c。	SA14 東側トレンチ 第2層 + 東側トレンチ 第1層 c + 第1層 (覆土)

注「一」:計測不可、「+」:接合の意



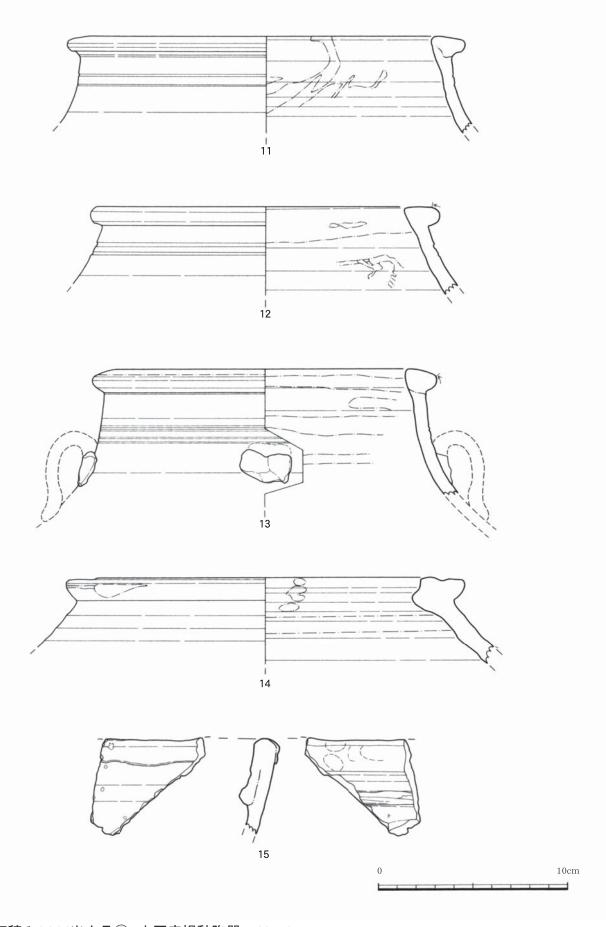
第22図 石積みSA14出土品⑥ 中国産褐釉陶器:1~10

## 第37表② 石積みSA14 中国産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

<u> </u>	/ 111 f	貝のつ	A14 4	中国產褐釉陶器観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第22図 図版17 9		把手	_	器形:ナデ肩壷に貼り付けられる把手。文様:なし。器面調整:外面は釉で覆われて観察できない。内面は露胎し轆轤痕をナデ消している。内面の把手貼り付け部分には指圧痕がみられる。素地:淡茶色の細粒子で、粗細な石英と微細な茶褐色の鉱物が少量ながら混入する。色調:外面に光沢のある茶褐色の釉を施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 東側トレンチ 第2層 (上層淡褐色 混礫土層)
" " 10				器形:口縁部の縦断面が逆「フ」字状の肥厚口縁となるナデ肩の壷。口唇部を幅広に成形する。肥厚帯直下の陶土を箆などで削り取って成形するが雑である。文様:外面の頸部に片切彫りの界線を三条施す。界線の幅は0.9mmを測る。器面調整:轆轤調整は外面が丁寧で、内面は外面よりも雑である。口唇部には回転擦痕がみられる。素地:淡橙白色の細粒子で、粗細な石英と茶褐色の鉱物が少量含む。色調:両面に黄茶色の釉を施すが、内面は外面より雑な釉掛けで部分的に露胎する。口唇部の釉は掻き取られている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)
第23図 図版17 11				器形: "。 "。肥厚帯直下は丁寧に轆轤引きで成形する。文様:外面の頸部に片切彫りで雑な界線を二条施す。界線の幅は0.6~1.0mmを測る。器面調整:轆轤調整は外面が丁寧で、内面は外面よりも雑である。口唇部と内面の一部には轆轤痕以外に釉の掻き取りを兼ねた回転擦痕(口唇部)と雑な擦痕(内面)がみられる。素地:淡橙白色の細粒子で、粗細な石英と茶褐色の鉱物が多く含まれている。色調:両面に淡黄茶色の釉を施すが、内面は外面より雑な釉掛けで部分的に釉の掻き取りで露胎する。口唇部の釉の掻き取りは雑な刷毛目状の掻き取りである。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~16c。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第5層g(暗褐 色土層) + SK02 第3層a
" " 12	壺	口縁部		器形: "。 "。肥厚帯直下に篦削りを加えて成形する。文様:外面の頸部に片切彫りで雑な界線を二条施す。界線の幅は0.6~1.4mmを測る。器面調整:轆轤調整は外面が丁寧で、内面は外面よりも雑である。口唇部と内面の一部には轆轤痕以外に釉の掻き取りを兼ねた回転擦痕(口唇部)と雑なナデ(内面)がみられる。素地:淡灰白色の粗粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)が多く含まれている。色調:両面に茶褐色の釉を施すが、内面は外面より雑な釉掛けであり部分的に釉の掻き取りで露胎する。口唇部の釉の掻き取りは丁寧な回転擦痕による掻き取りである。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~16c。	SA14 (SA15 西側トレンチ) 第5層g (淡褐色 混礫土層) + SK02(SA15) 東側トレンチ 覆土
" " 13			18.2 — —	器形: "。"。肥厚帯直下に丸彫り様の削りを加えて成形する。文様:外面の頸部中央と下部にそれぞれ界線を施している。頸部中央に片切彫りで雑な界線を四条施し、頸下部は途切れ気味の一条の界線(幅0.1~0.2mm)を施している。頸部中央の界線直下から頸下部の界線の一部を覆うように縦位の把手を貼り付けている。器面調整:轆轤調整は外面が丁寧で、内面は外面よりも雑である。口唇部と内面の一部には轆轤痕以外に釉の掻き取りを兼ねた回転擦痕がみられる。素地:淡黄白色の粗粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色)を多く含んでいる。色調:両面に黄褐色の釉を施すが、内面は外面は外離な釉掛けであり部分的に釉の掻き取りで露胎する。口唇部の釉の掻き取りは丁寧な回転擦痕による掻き取りである。口唇内端近くに粗い石英を主体とする砂胎土目の重ね焼きの目痕がみられる。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~16c。	SA14 東側トレン チ第1層c+ SK02 第3層a +SK02 東側 層序第1層d+ SD07-A 第1層e
" " 14			21.0 — —	器形:口縁部の縦断面が歪な隅丸方形状の肥厚口縁とする怒り肩の壷。口唇部を回転指圧で凹ませている。内面口縁部も同様の手法で凹ませて蓋受けの溝を造る。文様:轆轤引きで陽圏線二条を表現か。器面調整:両面とも轆轤痕が顕著にみられる。素地:淡い紫混じりの灰色の粗粒子で、粗細な石英を多量に含む。色調:両面に茶褐色の釉を施すが、内面は外面より雑な釉掛けで部分的に露胎する。焼成:堅緻。中国南部の窯。15c~16c。	SA14 東側トレン チ第2層+東側 トレンチ第1層c +第1層(覆 土)+ SK02(SA15) 東側トレンチ 覆土
" " 15	鉢	日縁部	_	器形:直口口縁の鉢。外面の口縁部に陶土の折り返しによる雑で低平な肥厚を造る。内面口縁にも縦断面が歪な隅丸の三角形状の肥厚を造る。文様:なし。器面調整:外面は釉で覆われているが釉上からの観察では轆轤痕が丁寧に消されているようである。内面は外面よりも雑な成形で轆轤痕を擦痕でナデ消している。口唇部には篦削りと刷毛目様の擦痕がみられる。素地:淡橙白色の細粒子で、粗い石英を多量に含む。黒色鉱物も少量ながら混入する。色調:明茶色の釉を外面にのみ施す。焼成:堅緻。中国南部の窯。15c頃か。	SA14 東側ルンチ 第4層a (淡褐色混礫 土層)

注「一」:計測不可、「+」:接合の意



第23図 石積みSA14出土品⑦ 中国産褐釉陶器:11~15

第38表 石積みSA14 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・タイ産褐釉陶器・高麗青磁出土状況

男38表 石		114 ダイ圧工	14T \ T	小不!	<i></i>	1 )生 /11	百百	プー圧			问庇F	HAA L	<u>ц — 7/</u>	ヘルし			
	層序									14.15							
									S.	A14							
							Ī	東側トレ			西側ル	SA15	西側ル	SA15南	可側トレ		
和	重類·器種·	部位	( 覆土 )	第 1 層 a	第 1 層 c	( 覆 1 ) c	第 2 層	褐色混礫土層)第2層(上層淡	第2層(淡褐色	色混礫土層)	(栗石内)	第 3 層 a	(栗石内)	(撹乱) 第1層 c	第 4 層 b	壁面清掃	合計
		Ⅲ粨					1	1									2
タイ産土器	蓋	蓋端部 ——					1										1
(半練)		胴部			1							1					2
	合 計		0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5
5 / 大口田	土	口縁部													1		1
タイ産炻器	壺	胴部	1														1
	合 計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		口縁部				1	1										2
1. 1-4-		頸部						1							2		3
タイ産 褐釉陶器	壺	肩部								1							1
に対すがある。		耳	1	1													2
		胴部	6	1	11	5	2	3	1	2	2		1	2	5	1	42
	合 計		7	2	11	6	3	4	1	3	2	0	1	2	7	1	50
高麗青磁	皿or碗	胴部	1														1
	合 計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

# 第39表① 石積みSA14 タイ産土器(半練)・タイ産炻器・タイ産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

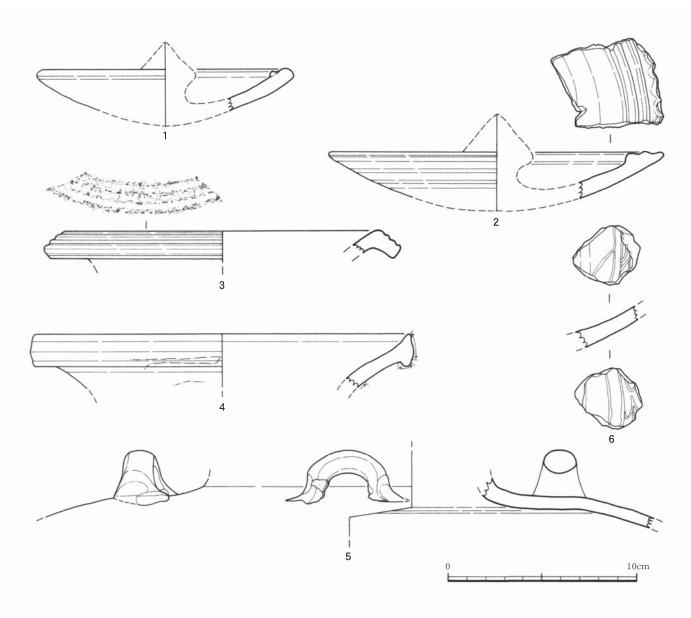
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称	·仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第24図 図版18 1	タイ産土器	Ⅲ 類	端部	13.5	器形:蓋端部近くに縦断面が歪な隅丸台形状の突帯を造る落とし蓋。器面調整:上面は、端部近くから突帯までが丁寧なナデで、他は雑で粗目の刷毛目様の擦痕がみられる。下面は縁近くが回転擦痕で下面中央よりに雑な篦削りが集中する。素地:灰白色の細粒子で、粗い石英を主体にして細かい茶褐色の鉱物を少量含む。色調:両面とも淡橙色を呈する。焼成:良好で堅い。15c~16c。	SA14 東側トレンチ 第2層(上 層淡褐色 混礫土層)
" " 2	半練)	その蓋他	端部	17.6	器形:蓋縁を丸篦状の工具を利用して花弁状に抉り取り、端部近く丸篦状の工具で圏線を二条囲繞する落とし蓋。器面調整:上面及び下面は回転擦痕で調整する。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な石英を主体にして細かい茶褐色や黒色の鉱物を少量含む。色調:両面とも灰白色を呈する。焼成:良好で堅い。15c~16c。	SA15 第3層a + SA14東側ト レンチ第2層
" " 3	タイ産炻器	壺	口縁部	18.8	器形:口縁部が「へ」の字状に折れた外反口縁の炻器壷。口縁が大きく外側に反り返るようである。文様:内面口縁部に丸彫りの圏線(幅2.5mm)を三条囲繞し、口唇部にも浅めの圏線を一条施す。器面調整:器面の大半が剥落するが、外面の一部には丁寧なナデがみられる。外側の器面は大部分が剥落し、口縁部に僅かに箆ナデの痕跡がみられる。内面は丁寧なナデで仕上げている。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)を多く含む。色調:両面とも淡灰白色を帯びるが、器面の大半が剥落しているが、僅かに茶褐色の釉が残存する事から本来は両面に施釉さたものと判断される。焼成:良好で堅い。バンプーン村窯産。15c後半~16c。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
	褐釉陶器	壺	日縁部	19.8 — —	器形:外反口縁の壷。口縁端部を上方と下方に突出させている。文様:ない。器面調整:外面の頸部が丁寧な回転擦痕がみられる。内面は轆轤痕を丁寧にナデ消す。素地:淡茶紫色の細粒子で、粗い茶褐色の鉱物を少量含む。色調:内面には下地に茶紫色の化粧釉を施す。口縁部と頸下部に黒色の釉がみられる。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c~16c。	SA14 東側トレンチ 第2層

注「一」:計測不可、「+」:接合の意

第39表② 石積みSA14 タイ産褐釉陶器·高麗青磁観察一覧

第39表②	) 在	積み	SA14	タイ	崔褐釉陶器·高麗青磁観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称	•仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第24図 図版18 5	タイ産褐釉陶器	壺	胴部	_ _ _	器形:外反口縁壷の胴部破片。文様:なし。肩部に横位の把手(紐状の部分で縦長17.8mmで、厚みが11.9mmを測る)を貼り付ける。器面調整:外面は施釉されているが釉上から轆轤痕のナデ消しとみられる。内面には回転擦痕がみられる。素地:淡茶紫色の粗粒子で、粗細な石英を多く含み稀に粗細な茶褐色や黒色の鉱物を含む。色調:外面にのみ黒色の釉を施す。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c~16c。	SA14東側ト レンチ第2層 (上層淡褐 色混礫土 層) + SA14 第1層(覆 土)
,, ,, 6	高麗青磁	皿 or 碗	胴部	_ _ _	器形:皿、若しくは碗の胴部片。文様:外面は白土象眼の草花文と区画の界線を二条描いている。内面も白土象眼の雷文と蓮弁文を描いている。素地:灰色の細粒子で、微細な黒色鉱物が僅かに観察できる。色調:灰緑色の透明釉を両面に施釉。貫入:両面に細かい貫入がみられる。朝鮮半島産。14c後半~15c前半。	SA14 第1層 (覆土)

注「一」: 計測不可、「+」: 接合の意



第24図 石積みSA14出土品® タイ産土器 (半練):1・2、タイ産炻器:3、タイ産褐釉陶器:4・5、 高麗青磁:6

第40表 石積SA14 本土産陶器·沖縄産施釉陶器·沖縄産無釉陶器出土状況

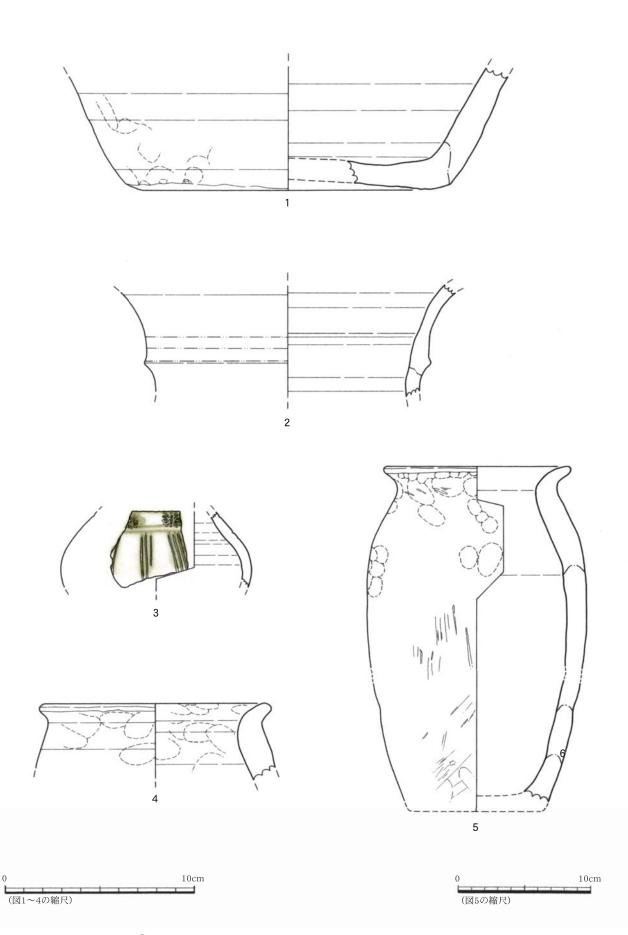
77 10 1	H IN O/ (1		111 7 I IV	电压.	巴不田中型	7 1117	下吨连带和阿钻山.	エバル			
		層序					B-14·15				1
	_						SA14				
						東	(側トレ	西側トレ	SA15	南側ル	合 計
	種類·器種·語	部位	第1層 (覆土)	第1 層c	第1層c (覆土)	第2層	第2層 (上層淡褐色混礫土層)	第4層b (栗石内)	覆土	第4層b	
+ 1.35	壺	胴部		1						1	2
本土産 陶器	花瓶	胴部	1								1
四百百	器種不明	胴部								2	2
	合 計		1	1	0	0	0	0	0	3	5
	碗	口縁部							1		1
沖縄産	小碗	口縁部		1							1
施釉陶器	鉢	胴部					1				1
が巨不田7円7右庁 [	急須?	胴部			1						1
	袋物	胴部	1								1
	合 計		1	1	1	0	1	0	1	0	5
		口縁部~底部				1					1
	壺	口縁部		1							1
沖縄産	52.	耳			1						1
無釉陶器		胴部		4			1	1			6
	壺or甕	胴部		1							1
	器種不明	胴部	1			1			1		3
	合 計		1	6	1	2	1	1	1	0	13

#### 第41表 石積みSA14 本土産陶器·沖縄産施釉陶器·沖縄産無釉陶器観察一覧

単位:cm

<u> </u>	- 1/5		<u> </u>		<b>] 奋· / 中</b>   广   一   克     -   -   -   -   -   -   -   -	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称 称		部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第25図 図版19 1	本土産陶	壷	底部	_ _ 17.2	器形:中世陶器の壷。底面から立ち上がりは内側に閉じ気味に胴部へ直線的に移行する。外底面の縁に砂胎土目の目痕が部分的にみられる。文様:なし。器面調整:外面と内底面に施釉されているが釉上からの観察では外面が雑なナデを主体にし、底面から立ち上がり部分に篦削りを施している。内面は露胎し、外面よりも丁寧なナデで仕上げている。外底面は微弱な起伏のある平坦面ではあるが、器面はアバタ状となり器面調整は判然としない。内底面は雑なナデと指圧痕がみられる。素地:灰色の粗粒子で、粗い石英を多量に含んでいる。稀に細かい黒色鉱物がみられる。色調:外面に茶褐色の釉を施釉する。内底面には白濁した黄緑色の自然釉が溜まっている。信楽焼か。15c。	SA14 東側トレンチ 第1層c
,, ,, 2	器	花瓶	胴部		器形:ラッパ状に開いた施釉陶器の花瓶の胴部。文様:頸下部の縦断面が轆轤引きによる三角形状の陽界線を造る。器面調整:両面に施釉されているが釉上からの観察では外面が丁寧なナデ仕上げで、内面が轆轤痕を主体とし部分的に刷毛目様に擦痕がみられる。素地:淡灰白色の粗粒子で、粗細な石英を多量に含んでいる。稀に細かい茶褐色の鉱物がみられる。色調:両面に灰白色の透明釉を施すが部分的に白濁する。	SA14 第1層 (覆土)
,, ,, 3	沖縄産施釉陶器	急須?	胴部		器形:急須、若しくは袋物の胴部片とみられる。文様:外面に型押しの印花菊文を主文にして菊花文の上位と下位に丸彫りの界線を施す。界線直下に三本櫛で縦位の沈線文を間隔を開けて描いている。器面調整:外面にのみ施釉されているが釉上からの観察では外面が丁寧なナデ仕上げで、内面が轆轤痕と回転擦痕がみられる。素地:光沢のある淡灰白色の細粒子で、微細な黒色鉱物が少量ながら含んでいる。色調:外面の下地に白化粧土を施した後に淡い灰白色の透明釉を施す。湧田焼。	SA14 東側トレンチ 第1層c (覆土)
" " 4	沖縄		口縁部	12.2 _ _	器形: 初期沖縄産無釉陶器で、手捏手法による厚手の外反口縁壷。文様: なし。 器面調整: 外面は雑なナデを主体にして部分的に指圧痕や粗い擦痕がみられる。 内面もナデを主体に指圧痕がみられる。 素地: 茶紫色の細粒子で、粗細な石英を少量含み稀に粗い茶褐色の鉱物がみられる。 劈開面の観察から灰白色の陶土が散在して混じっている。 色調: 両面とも灰褐色を帯びる。 湧田焼。	SA14 東側トレンチ 第1層c
" " 5	産無釉陶器	壷	口縁部〜底部	26.0	器形: "。"。手捏手法による成形であることからすると上記4と同一の個体とみられる。文様:なし。器面調整:外面の口縁から胴部中央までは雑なナデを主体にして部分的に指圧痕や粗い擦痕がみられる。胴下部から下は縦位のナデで調整している。内面は全体的に雑なナデを主体に部分的に指圧痕(胴部)や篦削り(口縁部)がみられる。素地:茶紫色の細粒子で、粗細な石英を少量含み稀に粗い茶褐色の鉱物がみられる。劈開面の観察から灰白色の陶土の大きな塊が混じっている。色調:両面とも灰褐色を帯びる。湧田焼。	SA14 東側トレンチ 第2層

注 ():推定、「一」:計測不可



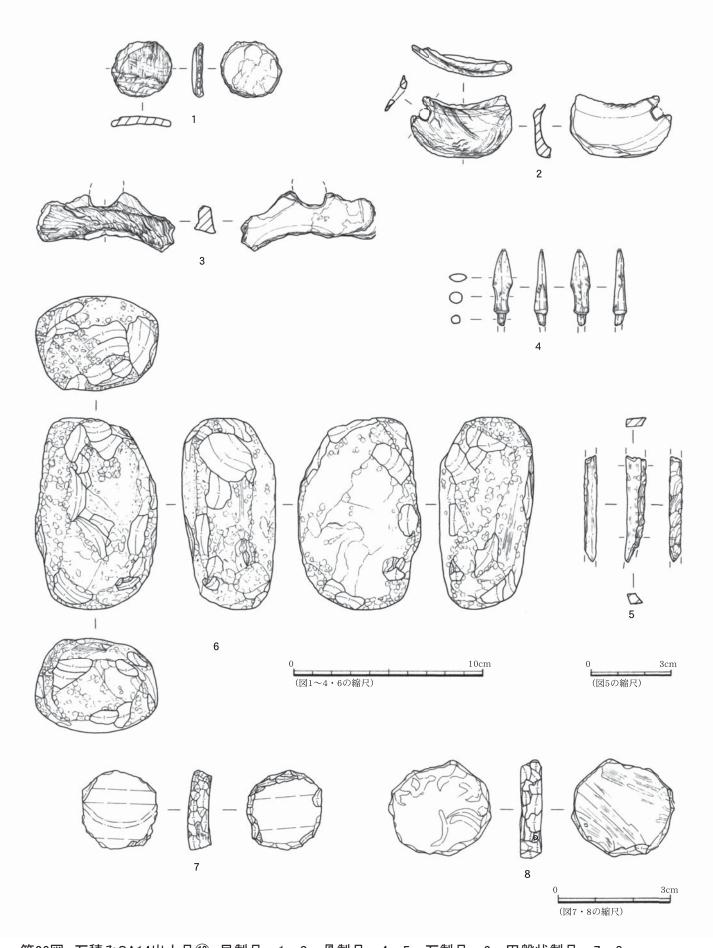
第25図 石積みSA14出土品⑨ 本土産陶器:1・2、沖縄産施釉陶器:3、沖縄産無釉陶器:4・5

#### 第42表 石積みSA14 貝製品·骨製品·石器·石製品·石材·自然石·円盤状製品出土状況

277 T 2X		СНН	<u> </u>	~ нн		нн н	2× HH F	-1 .1.1			3 11111	八衣山	<u> </u>	70				
	層序								E	3-14-15								
\										SA14								
			/o/c			東側ト	ν			西側ル		SA1	15西側トレ		SA	115南側	トレ	合
	種類	( 覆 1 )	第 1 層 a	第 1 層 c	第 2 層	第2層 (上層淡 褐色混 礫土層)	第4層a (淡褐色 混礫土 層)	第 5 層 a	直裏要土	第4層b (栗石 内)	壁面清側掃	第3層a (暗褐色 土層)	第5層g (淡褐色 混礫土 層)	第 5 層 h	覆土	(第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	第 4 層 b	計
	ヤコウカイ製円盤状製品																1	1
貝製品	サラサバティ製有孔製品											1						1
	ヤコウカ「イ製有孔製品												1					1
	合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3
骨製品	骨鏃			1														1
月次印	加工跡のある製品														1			1
	合 計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
石器·	石器片 細粒砂岩(ニービ)											1		1				2
石製品	叩き石			1														1
	合 計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	石英				1													1
石材	緑色千枚岩			1														1
- HAVI	溶結凝灰岩			1														1
	細粒砂岩(ニービ)	4	1	1	4	1		1	1	2		5				2		22
自然石	河原石	1	1	1							1							4
	合 計	5	2	4	5	1	0	1	1	2	1	5	0	0	0	2	0	29
円盤状製	青磁						1											1
品	中国産褐釉陶器	2					1										2	5
нн	瓦			1	1													2
	合 計	2	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8

#### 第43表 石積みSA14 貝製品·骨製品·石製品·円盤状製品観察一覧

第43表	1 傾の	→SA14 貝製品·肯製品·白製品·円盤状製品観祭一覧	
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	観察事項	出土地点 出土層
第26図 図版20 1	貝製品 ヤコウガ イ製 円形 状製品	サザエ科ヤコウガイを円形状に加工された製品。外周縁辺部は背面から孔を穿っている。背面から孔の縁沿いは摩耗するが17箇所穿たれたようである。内面の外周縁辺部には研磨が施されている。製品の用途として考えると素材が脆く、剥離しやすい事から判断すると、その可能性は低い。内面の研磨が気になるがヤコウガイの身を取るために円形状に先行した可能性が高いものと思慮される。穿孔縦:3.2cm、横:3.5cm、厚さ:0.6cm、重量:7.5g。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b
" " 2	テイ製	ニシキウズガイ科サラサバテイの殻底外唇近くの破片を利用した有孔貝製品。左側の外殻面から孔を歪な隅丸 方形状に穿孔(穿孔された孔のサイズや形状からすると穿孔された孔の数は四箇所が推定される。残存する縦 位の孔のサイズは7.4mmを測る。推定された一孔当たりの孔のサイズは直径3.5~3.7mmであった。)するが、孔 の左側が破損する。右側面は打割調整後に研磨を加えた平坦面となる。左側面下半部に剥離痕が4・5箇所存 在するが、剥離痕の観察からすると剥離痕が新鮮な状況であることなどからすると破損や廃棄の際に生じたも のとみられる。縦:3.6cm、横:5.94cm、最大厚:0.76cm、最小厚:0.24cm、重量:14.4g。	SA14 西側トレンチ 第3層a (暗褐色土層)
# # 3	イ製	サザエ科ヤコウガイの身を取るため殻を穿った有孔製品。孔は体層部の肋(筋)近くに穿たれている。残存する孔周縁の穿孔数を数えると4孔が確認できる事から孔は複数回に亘って穿たれたようである。ヤコウガイの身と殻を螺鈿細工に使用するため穿たれた孔(剥き身の孔)とみられる。縁辺部の剥離や割れ面は自然剥離や廃棄後の割れとみられる。縦:3.5cm、横:7.94cm、最大厚:1.44cm、最小厚:0.36cm、重量:21.2g。	SA14(SA15 西側トレンチ)第5 層g(淡褐色混 礫土層)
" " 4	骨製品 骨鏃	ジュゴン、若しくはウシの骨を利用した製品で、鏃身先端部と茎部の先端部を欠いた鏃。鏃身の中央部分の横断面は扁平な菱形、鏃身の下部で抉れて横断面が歪な隅丸三角形状となる。鏃身と茎部の間は、刃物などの工具で削り出しによって茎部を製作する。茎部の横断面は歪な隅丸方形状となる。製品の加工は鉄製の刃物などの工具で丁寧に削り出して製作されているが。鏃身の両側の刃部となる面は、面の保持が悪く、剥落、剥離や摩滅などがみられる。残存部分から刃部は研磨仕上げとみられる。サイズは縦:4.0㎝、鏃身最大幅:1.0㎝、鏃身最大厚:6.78㎜、鏃身基端:4.50㎜、茎部直径:1.93㎜。残存重量:1.75g。	SA14 東側トレンンチ 第1層c
" " 5	骨製品 加工痕の ある製品	縦割りされたウシの骨片に加工を施した資料である。加工痕は右側面に限定され、鉄製の刃物とみられるものを利用して上から下に向かって斜位に削っているが、その用途は判然としないが、素材の厚みなどから推察すると笄、骨篦、骨針などの製作時に発生した不要の廃棄材料とみられる。縦:3.94cm、横:0.78cm、厚さ:0.4cm、重量:0.9g。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 覆土
" " 6	石器 叩き石	平面観が歪な長方形状を呈する叩き石。横断面は隅丸方形状を呈する。拳大のサイズの石を用いている。敲打痕は各側面にみられ特に上下の面は使用頻度が高いようである。表面は自然面が部分的に残存するが大半は敲打痕や剥離面、砥面である。裏面には敲打痕の集中と磨面がみられる。右側面上部の剥離面は、新鮮な面であることから使用時に発生した剥離面ではない。細粒砂岩(俗称:ニービ)。縦:10.0cm、横:6.4cm、厚さ:5.0cm、重量:400g。	SA14 東側トレンチ 第1層c
" " 7	円盤状 製品	中国産褐釉陶器壷(中国南部の窯。14~15c頃の製品)の胴部破片に打割調整を加えて円盤状に加工した製品である。外周縁辺部の打割調整は、主に表面から実施されている。剥離面の縁沿いの摩滅(一箇所のみ)や研磨など少ないことから使用頻度は極めて低かったようである。両面に黄茶色の釉が施されている。外面には釉を掻き取った曲線の文様がみられる。素地は光沢のある淡灰白色の微粒子で、粗い石英や微細な黒色の鉱物が僅かに観察できる。縦:2.05cm、横:1.95cm、厚さ:0.6cm、重量:3.5g。	SA14 東側トレンチ第4 層a(淡褐色混 礫土層)
" " 8	円盤状 製品	"。外周縁辺部の打割調整は、主に表面から実施されている。剥離面は、上記7よりも大きな剥離面が多くみられる。剥離面の縁沿いの摩滅(一箇所のみ)や研磨など少ないことから上記7と同様に使用頻度は極めて低かったようである。外面にのみ黄茶色の釉が施されている。外面には浮文の龍の髭とみられる文様がある。素地は淡灰白色の細粒子で、粗細な石英と茶褐色の鉱物がみられる。稀に微細な黒色の鉱物が観察できる。縦:2.6cm、横:2.7cm、厚さ:0.5cm、重量:5.2g。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第4層b



第26図 石積みSA14出土品⑩ 貝製品:1~3、骨製品:4·5、石製品:6、円盤状製品:7·8

第44表 石積みSA14 金属製品出土状況

第44	14人 11 11	みSA14	亚质	校口	Щ.	上1/	八兀																		
		層序													4·15 14										
								を しゅく	V				則トレ		西侧	則トレ		SA 西便	A15 訓トレ		SA15 有側ト				
	分		第1層(覆土)	第1層 a	第1層 c	第1層c(覆土)	第1層 a (上層淡褐色土層)	第 2 層	第2層(上層淡褐色混礫土層)	第4層a(淡褐色混礫土層)	第6層b(黒褐色土層)	第6層c(東半分)黄褐色土層	第8層a(東半分)黄褐色土層	裏栗直上覆土	西側壁面清掃	第1層a(覆土)	第4層b(栗石内)	第3層a(暗褐色土層)	第5層h	第1層c(撹乱)	第4層 b	第5層g(暗褐色土層)	合計		
		完形	中	鉄	3		1						1												5
		先端部	中	鉄鉄				1										1							1
	丸釘	欠損	不明	鉄	1										1			1							1
		頭部欠損	中 不明	鉄鉄	3										1			1							5 4
工具	角釘	完形	中小	鉄鉄									1						3		1		1	1	6
類 • 生		先端部 欠損	中	鉄							4	1											1		6
産用用		頭部欠損	不明 中	鉄鉄			1							1			1			1					2
具		 先端+	不明 中	鉄鉄				1	1		1	3	1										5		4 8
_		頭部欠損	不明	鉄															1						1
	釘 (形状不明)	先端+ 頭部欠損	不明	鉄			3																		3
		鋲		青銅	1																				1
装	<u>*</u>	<b>录金</b> 具		青銅						1															1
表 身 具		簪		青銅																		1			1
生	鍋	口縁部	部	鉄					1																1
活用	) 기타	底部	5	鉄								1													1
具	鍋?	胴部	5	鉄	1																				1
		子板と札		鉄			1																		1
武		責鞐		青銅			4												1						1
具		量具足 正(骨牌金)		鉄青銅			1						1												1
	11. 元八	青銅									1						1						1		
武	<b>計</b>					1		5								2		2				1			34
器	—————————————————————————————————————	<b>泡弾片</b>		青銅	1																				1
不分	用	途不明		鉄			1														1	1	3		6
明類		青銅	1													1							2		
注:		合 計 由·1 寸半			38	1	8	7	2		十字。 - 5				1	2	1	5	6	1	2	3	10	1	104

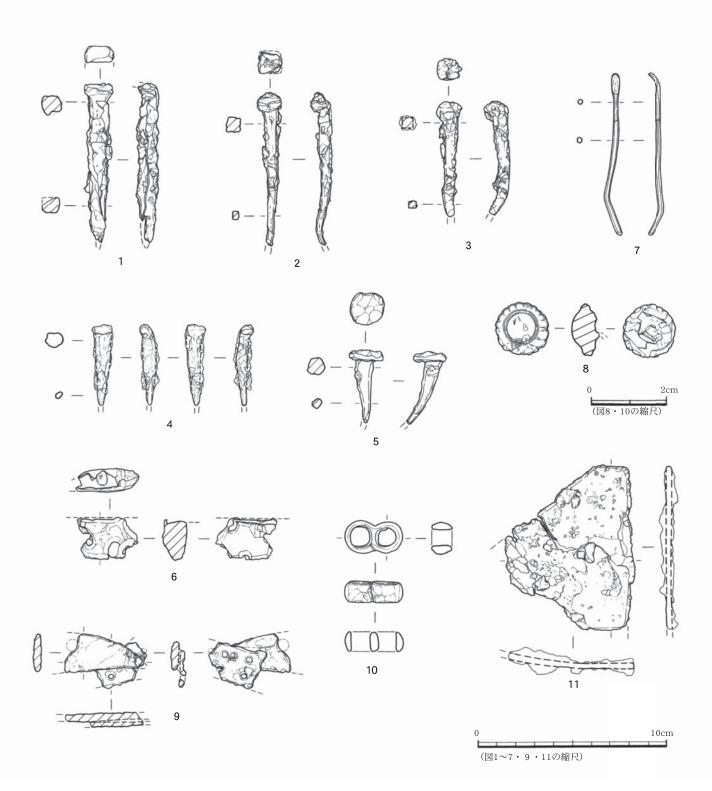
注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)、小:1寸まで(3.75cm未満)

## 第45表 石積みSA14 金属製品観察一覧

単位:mm/g

第45表	有傾める	5A 14	4 金禹製	品観察一	莧			単位:mm/g			
挿図番号	分類	材	残存長(縦)	残存最大厚	頭	部	ARD (Alexander and A	出土地点			
図版番号 遺物番号	名称·仮称	質	残存幅(横)	残存最小厚 残存重量	縦	横	観察事項	出土層			
第27図 図版21 1			84.0 9.35	8.22 4.20 19.2	8.75	14.92	頭部の一部、先端部、身の一部を欠いた皆折釘。各面とも 罅割れや錆膨れなどがみられる。身部正面の中央から下位 にかけて大きな剥離は錆瘤の破裂による破損面である。	SA14 東側トレンチ 第2層(上層淡 褐色混礫土層)			
" " 2	工具類・ 生産用具	鉄製	80.5 5.71	6.10 2.93 10.0	_	11.66	細身の皆折釘。先端部分が折れ曲がっている。頭部と身の 半分程度が剥離している。各面とも罅割れや錆膨れ、錆汁 などがみられる。頭部の剥離は錆瘤の破裂による破損面と みられる。	SA14 西側トレンチ 第4層b(栗石内)			
" " 3	生 座 用 共 釘	彩品	61.0 6.16	7.31 3.80 9.5	11.0	11.0	先端部分のみが欠損する皆折釘。各面に錆膨れ、錆汁などがみられる。身の一部に罅割れがみられる。部分的に錆汁によって砂粒(粗い石英)などが付着する。	SA14 東側トレンチ 第4層a (淡褐色 混礫土層)			
" " 4			42.5 7.80	7.0 3.0 4.8	_	_	頭部の屈曲部から先端までが欠損する皆折釘。各面に錆膨れがみられ先端部を除いて身部が肥大化する。 頭部、身の 上位と下位に微細な罅割れがみられる。 先端部は使用時に 摩滅して丸まっている。	SA14 (SA15 西側トレンチ) 第5層h			
" " 5	" 鋲		38.0 8.04	8.84 3.89 13.7	16.89	17.23	頭部の平面観が辺の有る歪な円形状を呈している。頭部と 身部の位置は、身部が頭部の中心からずれた状態にある鋲 である。頭部は板材などに打ち込む際に変形している。頭部 と身部の変形がみられることから板材などから抜き取る際に 変形したようである。先端部の形状は側面観が斧刃状とな る。刃部の幅は2.5mmを測り、刃縁は潰れや折れにより歪な 円縁となる。各面に緑青がみられ、特に身上半部には錆膨 れがみられる。	SA14 第1層 (覆土)			
" " 6	" 縁金具	青銅製品	22.0 31.8	12.0 — 22.5	_	=	用途が判然としない金具である。形状などから推察すると重量のある縁金具などが考えられるところである。二次的な火熱を受けて左右と裏面が溶解して爛れや形状の変形が著しい。その他に緑青が全体的にみられる。本来の面は、残存面が少なく正面と上面、そして下面に形状を留めている。下面の一部には段差のある縁が残っていることから当該面に対象となるものが入る臍穴とみられる。	SA14 東側トレンチ 第2層			
" " 7	装身具 簪					85.5 4.24	2.56 0.88 3.5	_	_	耳掻き形の簪であるが、先端で捻れる。頭部が耳掻き形で、 竿の首部は断面が円形で、竿本体は六角形となる。竿の先 端部は摩耗して丸味を帯びる。部分的に緑青の付着や緑青 による浸食がみられる。	SA14 (SA15 南側トレンチ) 第1層c(撹乱)
" " 8	武具 鋲		13.9 14.0 5.95 1.17 2.1		_	_	菊花の有る丸頭の鋲。二股の身部は破損し、身部の折れ部と頭部の間に鉄板片が挟まっている状況から判断すると、武具(鎧・兜)などに取り付けられた鋲の利用が考えられる。菊花の花芯は半円形で周縁辺部に二重圏線を刃の幅に狭い鏨で線を入れている。花弁は、部分的に間弁となる箇所がみられる。花弁内には鏨による縦位の線を1・2本入れている。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)			
" " 9	ッ 障子板と札	鉄製品	障子板 21.0 41.0	障子板 25.8 1.81 8.8	_	_	鎧の障子板と札が錆で溶着した資料。表裏面とも錆汁や部分的な錆瘤などがみられる。障子板は、障子板の先端部の破片で覆輪が外れた状態にある。札は、札頭と札足を欠いている。札に穿たれた孔は、残存する孔の位置関係から6孔が残り、左右に孔の痕跡が2孔認められる。札のサイズ:残存長(縦):27.68mm、残存幅(横):18.58mm、残存最大厚:2.14mm、残存最小厚:1.61mm。	SA14 東側トレンチ 第1層c			
" " 10	" 責鞐	青銅製品	縦左: 8.08 "右:8.32 横: 15.3	1.66 1.36 2.2	_	_	鍍金の青鞐。「8」の字状の孔に組紐を二本とおして紐の輪を締めつけて使用する金具である。紐通しの孔は、一孔毎に互い違いに折り曲げて接合して製作されている。接続部分には、0.5mm程度の金具の隙間がみられる。左側の孔が右側より若干大きな孔となっている。孔のサイズは左側(平面観が歪な隅丸方形状を呈する)が、直径5.0~5.2mmを測る。右側(平面観が円形状となる)は直径5.0~5.2mmを測る。左側の孔は裏面で縁の変形がみられる。鍍金の多くは緑青で失われているが、錆び落としの段階で検出されている。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)			
" " 11	" <del>置</del> 具足 (骨牌金)	鉄製品	86.0 66.0	4.60 4.46 73.6	_	_	武具の畳具足(骨牌金)として考えられた資料である。横断面が僅かに内側に湾曲するが、縦断面が直線的な形状となる事から畳具足の可能性が高いものとして判断したが、接続様の孔が欠落しているのが残念でならない。両面の錆の進行は著しく、錆瘤や錆瘤の破裂による器面に剥離、そして罅割れがみられる。その他に錆汁による石灰岩片の溶着がみられる。	SA14 東側トレンチ 第6層b (黒褐色土層)			

注「一」:計測不可



第27図 石積みSA14出土品① 金属製品:1~11

## 第46表 石積みSA14 二次的火熱溶解銭貨

<u> </u>	ークイロコンイル	(101)+20.	~			
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層		
太平通寶(北宋976年)	1片	0.44	「平」の一字が残存	B-14・15 SA14西側トレンチ第4層b(栗石内)		
天聖元寶(北宋1023年)	1片	1.19	「元」・「寳」の二字が残存	B-14・15 SA14東側トレンチ第1層c		
景祐元寶(北宋1034年初鋳)	1片	2.37	「元」・「祐」の二字が残存	B-14・15 SA14 SA15西側トレンチ第5層g(淡褐色混礫土層)		
皇宋通寶(北宋1038年)	1片	1.09	「宋」・「通」の二字が残存	B-14・15 SA14東側トレンチ第1層c		
元符通寶(北宋1098年初鋳)	1片	1.62	「元」・「寳」の二字が残存	B-14・15 SA14東側トレンチ第1層c		
永楽通寶(明1408年初鋳)	1片	0.90	「永」の一字が残存	B-14・15 SA14東側トレンチ第1層c		
	1片	0.06	_	D 14 15 0414		
鳩目銭(初鋳年不明)	1片	0.03	_	- B-14・15 SA14 西側トレンチ第4層b(栗石内)		
	1片	0.08	_			
	1片	0.72	「寳」の一字が残存	B-14·15 SA14		
不明銭貨	1片	0.72	「通」の一字が残存	東側トレンチ第1層c		
	1片	0.26	-	B-14・15 SA14西側トレンチ第4層b(栗石内)		
合 計	12					

#### 第47表 石積みSA14 鍛冶関連・ガラス玉・ガラス製品出土状況

	1 1				
	層序		B-14·15	,	
		SA14	SA14	SA14	合 計
	_	笠1屋(悪土)	笠1屋。	西側トレ	
種類		知1/官(復工/	分1/官a	第1層a(覆土)	
鉄	滓		1		1
合 計		0	1	0	1
I類	茶黒色			1	1
Π 米百	水色		1		1
11 74	白濁			1	1
合 計		0	1	2	3
瓶	破片		1		1
板ガラス	破片		2	3	5
おはじき		1			1
合 計		1	3	3	7
	鉄 合計 I類 II類 合計 瓶 板がラス おはじき	鉄滓 合計 I類 茶黒色 II類 水色 白濁 合計 瓶 破片 板がラス 破片	種類     第1層(覆土)       (表別を)     ( ままり)       (日期)     (本)       (日期)     (本)       (日期)     (本)       (日期)     (本)       (日期)     (日期)       (日期)	種類     第1層(覆土)     第1層a       (計算	種類     第1層(覆土)     第1層a     西側ル 第1層a(覆土)       (ます)     鉄澤     1       日期     水色     1       日期     水色     1       白調     日本       白調     1       白調     1       白調     1       白調     1       佐井     1       おはじき     1

# 第48表① 石積みSA14 ガラス玉観察一覧

挿図番号 図版番号 遺物番号	形状 分類	色調	素材	残存 状況	2次的加 熱の有無	観察事項	出土地点 出土層
第28図 図版22 10	I類	茶黒色	ガラス	良好	無	二次的な火熱を受けて微細なアバタ状の気泡痕がみられる。下面の孔周辺に剥離面がみられ剥離部分から内部の色調を観察すると色合いは淡緑白色である。上面には巻き付け成形時のガラスを切り離した際、歪で微細な突起がみられる。サイズ:長軸6.31mm、短軸6.10mm、厚さ4.77mm、重量0.28g。孔径:最大1.64mm、最小1.58mm。製法:巻き付け。	SA14

# 第48表② 石積みSA14 鍛冶関連・おはじき観察一覧

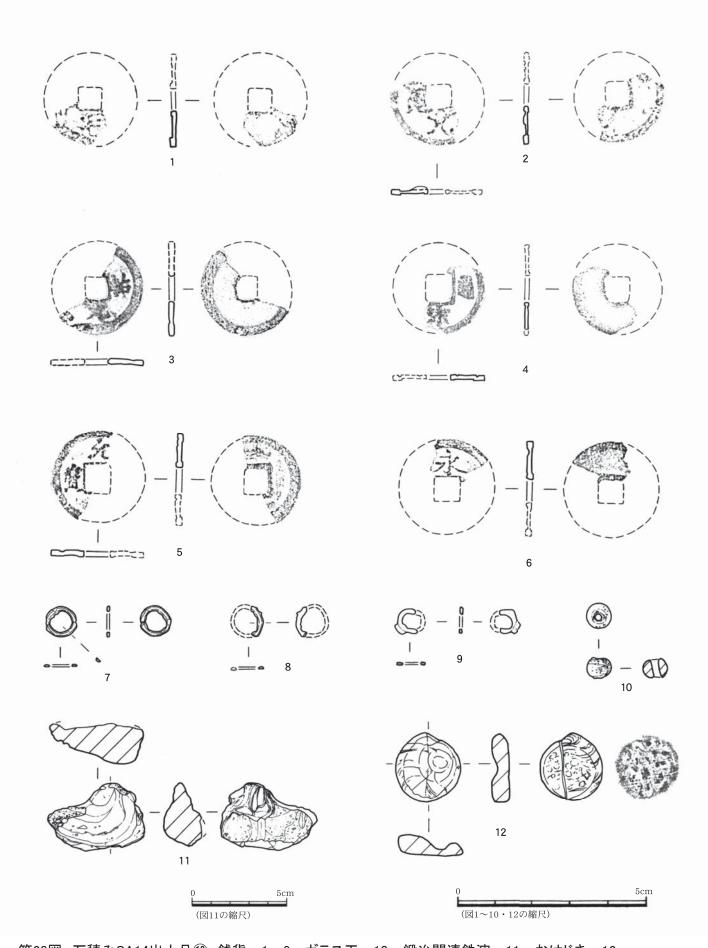
-1-	, , , ,		
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	観察事項	出土地点 出土層
第28図 図版22 11	質	鍛冶関連の資料で磁性のないガラス質鉄滓。溶解した鉄滓が再凝固して形状が歪な滴状となった椀 形滓。表裏面とも茶黒色を呈する。 劈開面から観察すると粗細な気泡痕が多量にみられ、丁度、割 れた軽石のような状態となっている。サイズは、縦:3.5cm、横:5.04cm、厚さ:2.0cm、重量:19.6g。	SA14 第1層a
" " 12	おはじき	製造工程で丸いガラス玉を潰す際に発生した不良品のおはじき。形状も正円ではなく歪である。表面には鍋底状の窪み(直径7.3mm前後、深さ2.61mm)が生じている。裏面には滑り止めを兼ねた不鮮明な型押しの碁盤目がみられる。色調は透明な若草色。縦:17.55mm、横:17.27mm、最大厚:4.91mm、最小厚:3.38mm、重量:2.2g。	SA14 第1層 (覆土)

# 第48表③ 石積みSA14 銭貨観察一覧

単位:mm/g

第48表	3)		責みS	A1	4	烎!	复鹤		- 覧					1		単位:mm/g	
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素材	読み方	状態	書	肉郭 外径	内径	方穿	断译	i計測	部位	重量	観察事項	出土地点	
遺物番号	種	種類	年	材	方	悲	体	A B	C D	E F	1	2	3		1,22,1,4	出土層	
第28図 図版22 1	太平通寶	公鋳銭	北宋 976 年	銅銭	対読	破損	真書			_ _	1.69	1.09	1.46	0.44	1/4弱が残存する。字款は「平」の一字のみ残存。二次的な火熱を受けて変形する。面の肉郭の幅は2.44~2.52mmを測る。背の肉郭の幅2.75mmと面よりも幅広である。破断面にも緑青がみられ地金が浸食されて青白色となる。両面とも緑青が著しい。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)	
" " 2	天聖元寶	公鋳銭	北宋 1023 年	銅銭	対読	破損	真書		_ _		1.77	0.50	1.38	1.99	2/3強が残存する。字款は「元」・「寶」の 二字が残存。二次的な火熱を受けている。面の肉郭の幅は1.69~1.88mmを測る。背の肉郭の幅1.84~2.07mmと面よりも若干幅広である。緑青は両面にみられ、特に面の字款部分が錆で膨れている。背の緑青は微細な錆瘤が散在した状態で観察できる。火熱の影響で微細な罅割れや瘡蓋状となる。	SA14 東側トレンチ 第1層c	
" " 3	景祐元寶	公鋳銭	北宋 1034 年	銅銭	回読	破損	真書	_	<u>-</u>		1.45	0.97	1.14	2.37	1/2近くが欠落する。字款は「元」・「祐」 の二字が残存。面の肉郭は背よりも鮮 明であり、面の肉郭の幅は2.8mmを測 る。面背の一部に緑青による錆膨れや 錆瘤の破裂による微細な剥離面がみら れる。	SA14 (SA15西側 トレンチ)第5 層g(淡褐 色混礫土 層)	
" " 4	皇宋通寶	公鋳銭	北宋 1038 年	銅銭	対読	破損	真書		_		1.10	0.65	0.95	1.09	1/3程度が残存する。字款は「宋」・「通」 の二字が残存するが、字款が摩耗して 潰れている。面の肉郭の幅は1.98~ 1.99mmを測り、幅が均一的である。背 の幅は2.53~3.17mmと面よりも幅広で ある。緑青により微細な亀裂が両面の 肉郭部分で発生している。	SA14 東側トレンチ 第1層c	
" " 5	元符通寶	公鋳銭	北宋 1098 年	銅銭	回読	破損	行書		<u>-</u>	_	1.43	0.78	1.18	1.62	1/2強が欠落する。字款は「元」・「寶」の 二字が残存。銭鋳型のズレにより面の 肉郭の幅は均一的ではなくずれてい る。面の肉郭は幅が1.6~2.4mmと無駄 がある。背も同様に肉郭の幅(2.0~ 3.3mm)に無駄がある。面背とも緑青で 全体的に発生し、緑青による器面の浸 食がみられ微細なアバタ状となる。特に 面で浸食が大きい。	SA14 東側トレンチ 第1層c	
" " 6	永樂通寶	公鋳銭	明 1408 年	銅銭	対読	破損	楷書	_	_	_	1.62	0.86	1.26	0.90	1/4程度が残存する。字款は「永」の一字が残存。面の肉郭は背よりも鮮明である。面の肉郭の幅は2.3mmを測る。背の肉郭は不鮮明で一部に於いて肉郭が消えて無輪郭となる。両面に微細な緑青がみられる。	SA14 東側トレンチ 第1層c	
" " 7		不明	不明	不明	不明	完形		8.23 8.41	_	_	0.74	_	_	0.06	輪銭。孔が円穿となる鳩目銭。銭鋳型が雑で輪郭や厚みに無駄が多く歪である。両面とも緑青による浸食などの影響を受けて非常に脆くなっている。	SA14 西側トレンチ 第4層b (栗石内)	
" " 8		不明	不明	不明	不明	破損	不明	_ _	_	_	0.87	_	_	0.03	2/3近くが欠落した輪銭。孔が円穿となる鳩目銭。銭鋳型のバリが残っている。 両面とも緑青による浸食などの影響を 受けて非常に脆くなっている。	SA14 第4層b (栗石内)	
" " 9		不明	不明	不明		破損	不明	6.94	_ _	_	0.77	_	_	0.08	1/4程度が欠落した輪銭。孔が円穿となる鳩目銭。銭鋳型の大きなバリ(最少幅3.6mm)が残っていて銭の幅よりも大きい。両面とも緑青による浸食などの影響を受けて微細なアバタ状となる。	SA14 第4層b (栗石内)	

注「一」:計測不可

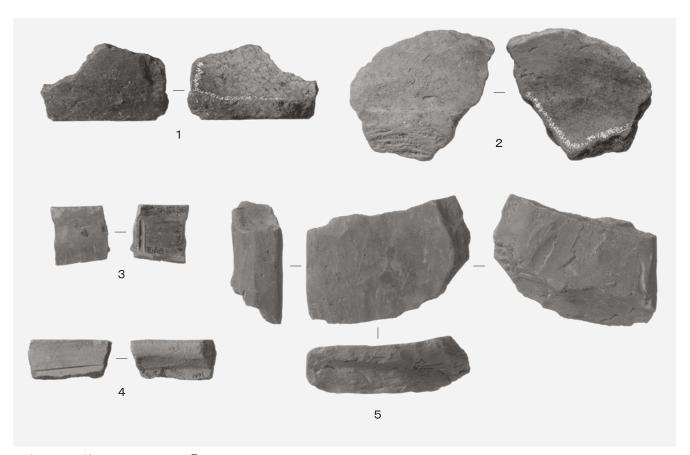


第28図 石積みSA14出土品① 銭貨:1~9、ガラス玉:10、鍛冶関連鉄滓:11、おはじき:12

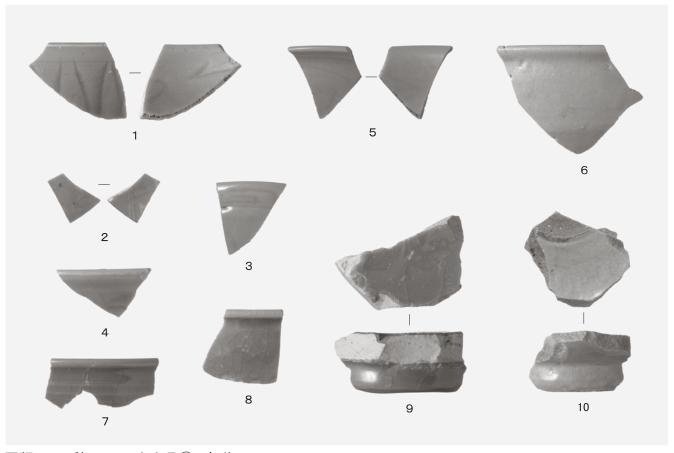
第49表 石積みSA14 出土遺物状況(図版外)

<del>第43</del> 仪 11	付していること	ЩТ	遺物状況(区	I カメクト	<i>'</i>							
			層序					14.15				
							5	SA14				
				第		東側川	/	北側レレ	SA15西	前側トレ	SA15 南側トレ	
	種類·器種	重·部位		1層(覆土)	第 1 層 c	第 2 層	(黒褐色土層) 第6層b	第1層 a	(暗褐色土層) 第3層 a	第 10 層	(第 1 乱 c	合 計
	鉢		胴部		2							2
陶質土器	FE 45 - 7 HD		胴部			1						1
	器種不明		底部		1							1
	合言	十		0	3	1	0	0	0	0	0	4
	焼土	-			1		1					2
	合具	計		0	1	0	1	0	0	0	0	2
黒釉陶器	碗		胴部							1		1
	合 🏻	計		0	0	0	0	0	0	1	0	1
須恵器	壺		胴部		1	1						2
	合 🏻	十		0	1	1	0	0	0	0	0	2
	碗	印判	口縁部								b. 1	1
	小碗	染付	底部								e. 1	1
本土産 磁器	Ш		底部	1								1
	絵の具皿	近現	(砥部焼き?)					1				1
	器種不明 胴部								1			1
	合 🏻	<b>+</b>		1	0	0	0	1	1	0	2	5

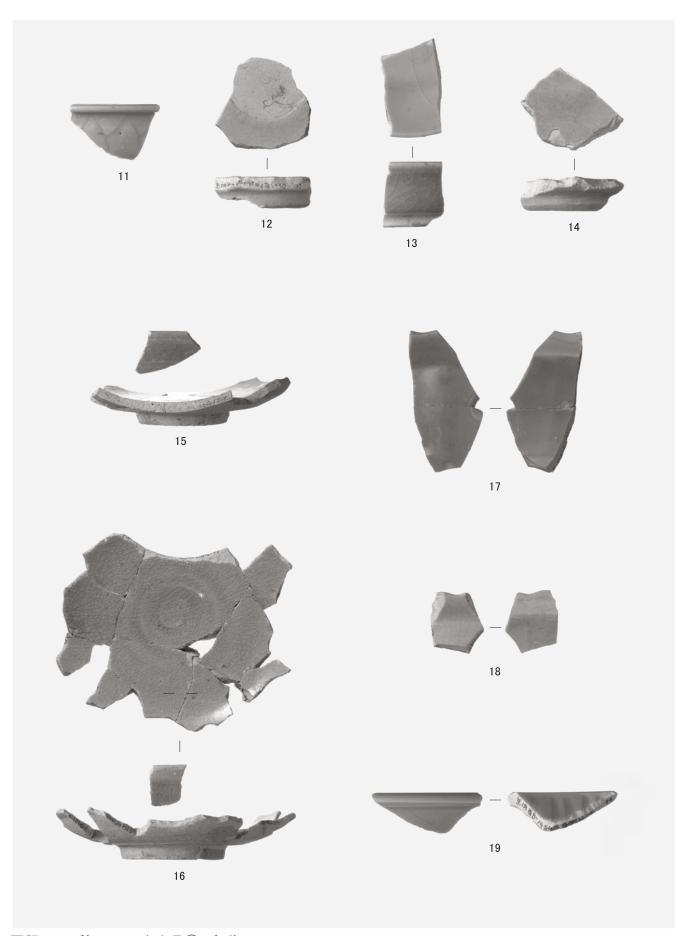
注 印判染付・印判 [b:型紙摺り、e:銅版転写]



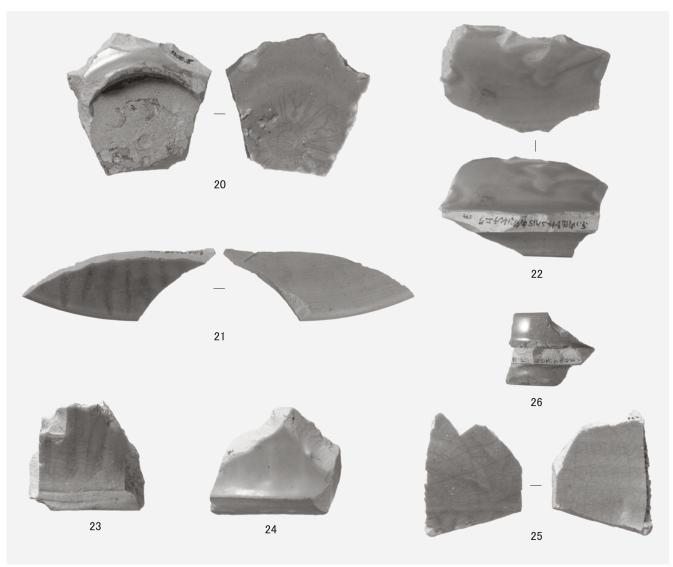
図版12 石積みSA14出土品① 土器:1・2、瓦質土器:3・4、屋瓦:5



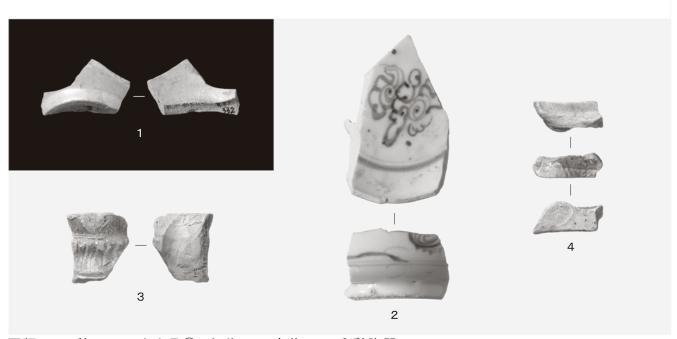
図版13 石積みSA14出土品② 青磁:1~10



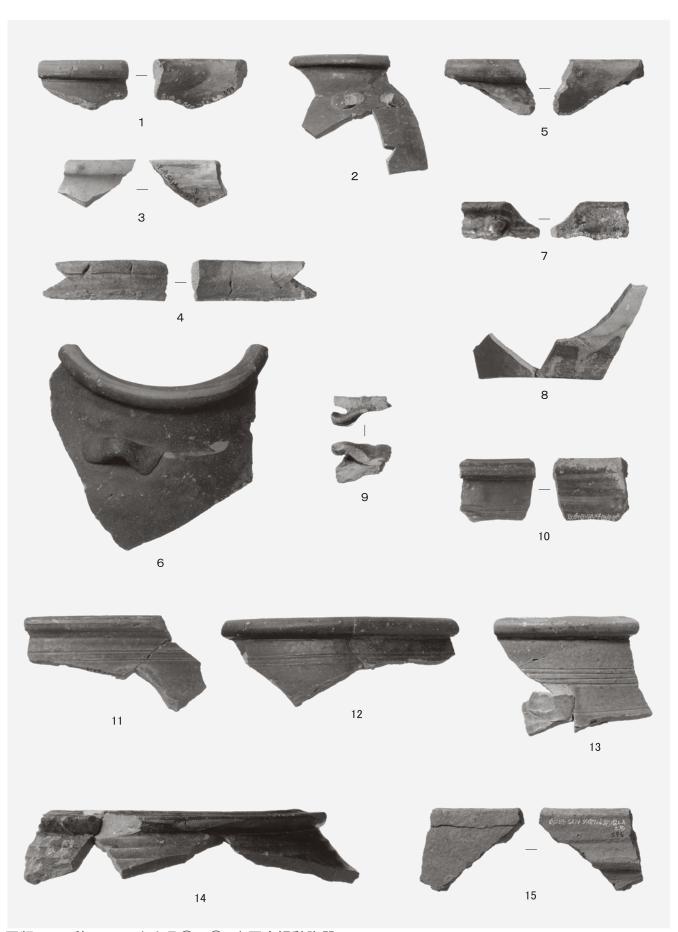
図版14 石積みSA14出土品③ 青磁:11~19



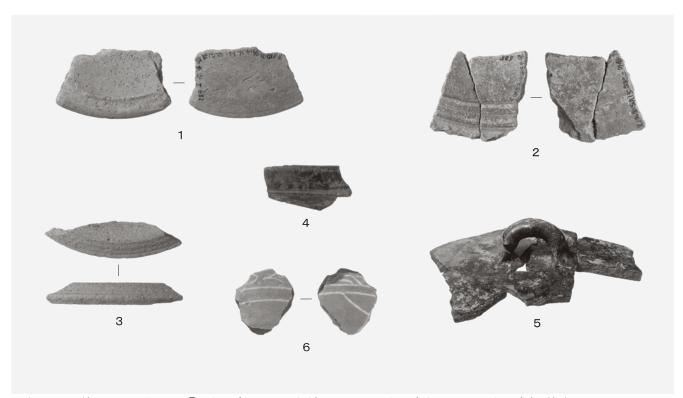
図版15 石積みSA14出土品④ 青磁:20~26



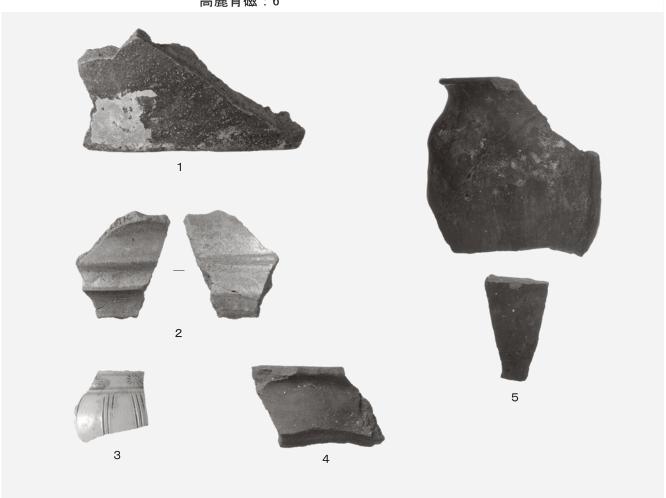
図版16 石積みSA14出土品⑤ 白磁:1、青花:2、彩釉陶器:3・4



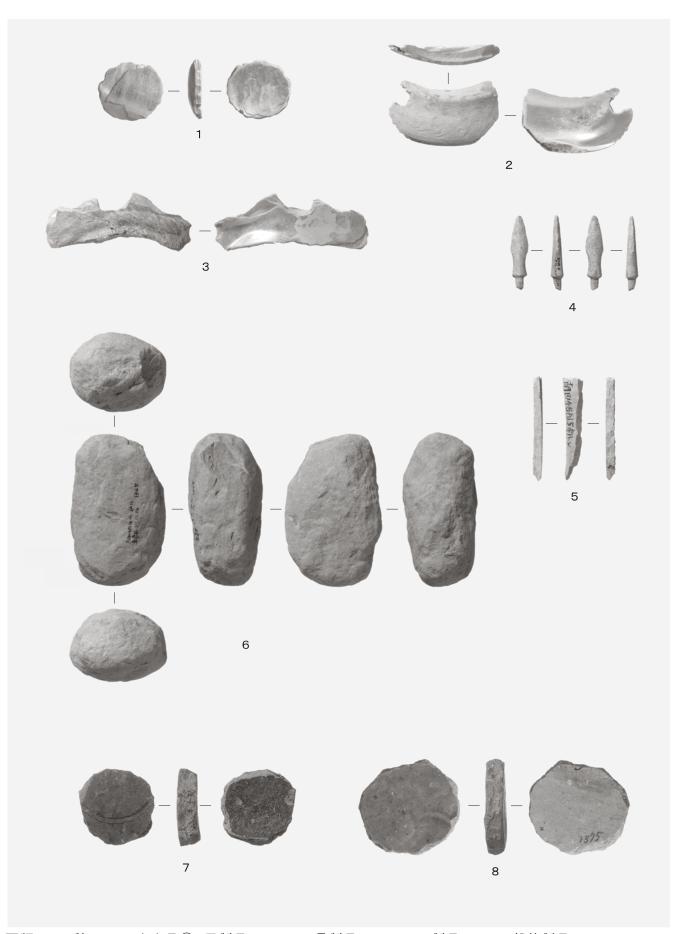
図版17 石積みSA14出土品⑥・⑦ 中国産褐釉陶器:1~15



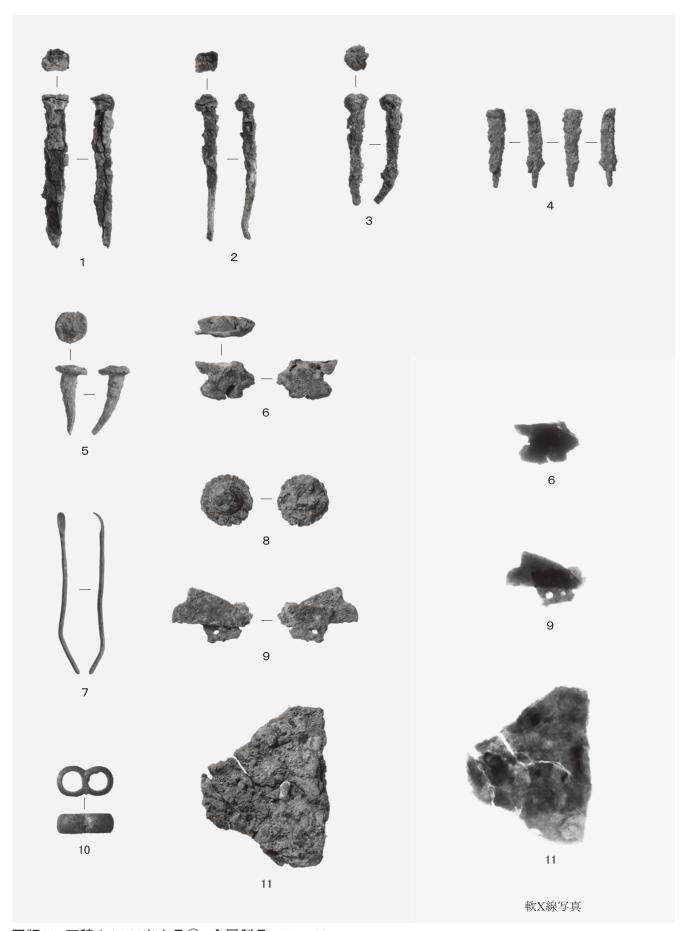
図版18 石積みSA14出土品® タイ産土器 (半練):1・2、タイ産炻器:3、タイ産褐釉陶器:4・5、 高麗青磁:6



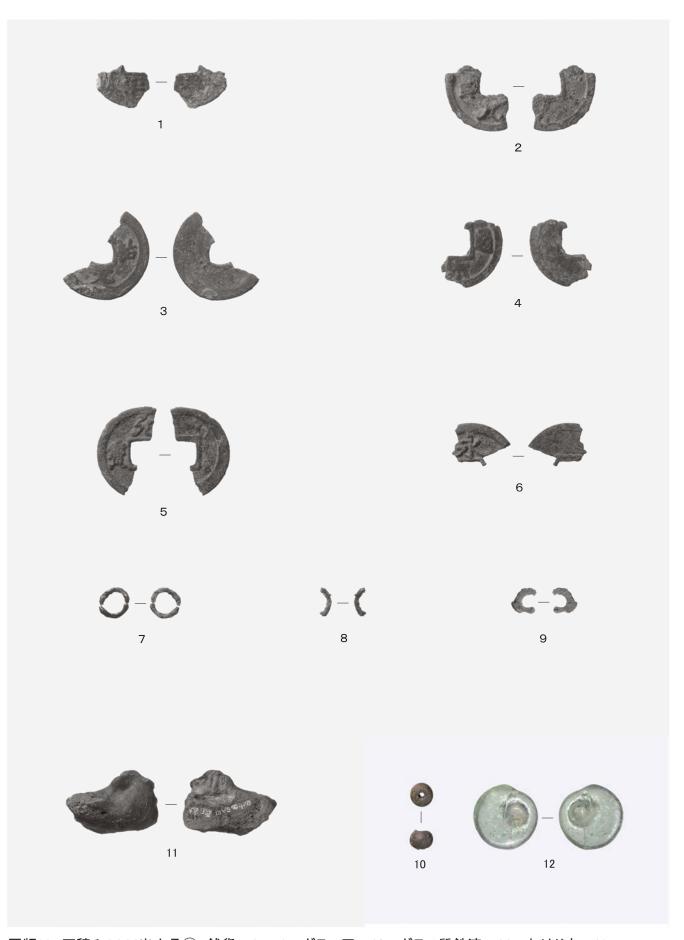
図版19 石積みSA14出土品⑨ 本土産陶器:1·2、沖縄産施釉陶器:3、沖縄産無釉陶器:4·5



図版20 石積みSA14出土品⑩ 貝製品:1~3、骨製品:4·5、石製品:6、円盤状製品:7·8



図版21 石積みSA14出土品① 金属製品:1~11



図版22 石積みSA14出土品⑫ 銭貨:1~9、ガラス玉:10、ガラス質鉄滓:11、おはじき:12

### (8) 石積み SA27 の出土遺物 (第29図~第37図、第50表~第65表、図版23~30)

石積み SA27 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で 1430 点( $\div$ 100%)が得られている。出土遺物の内訳は、土器 25 点(1.75%)、瓦質土器 16 点(1.12%)、瓦類(屋瓦・塼瓦)243 点(16.99%)、青磁 191 点(13.36%)、白磁 7 点(0.49%)、黒釉陶器 4 点(0.28%)、中国産褐釉陶器 637 点(44.54%)、沖縄産施釉陶器 10 点(0.70%)、タイ産褐釉陶器 127 点(8.88%)、ガラス製品 3 点(0.21%)、金属製品 89 点(6.22%)、銭貨 9 点(0.63%)の 23 種類が確認されている。輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、68.39%であった。

当該遺構の時期に比定できる資料は、青磁直口口縁皿(第30図11)、青花碗(第32図4)・青花壺(同図5)、中国産褐釉陶器壺(第33図4・5)、タイ産(土器、褐釉陶器。第34図1~3)などがある。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第29図~第37図)した。

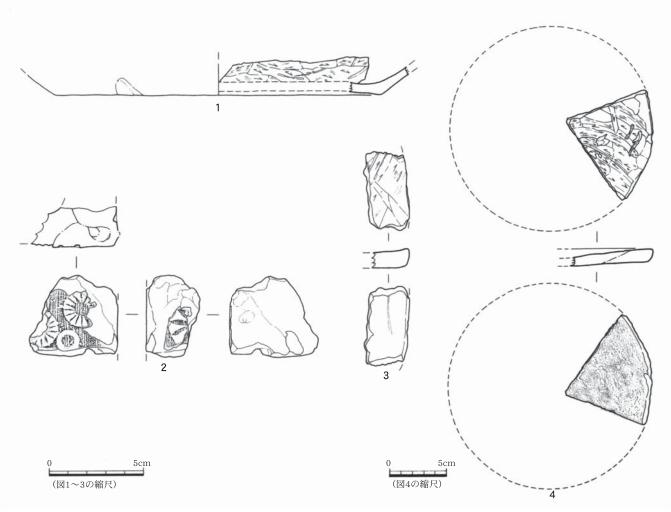
### 第50表 石積みSA27 土器·瓦質土器出土状況

21 24				- н										
	層序						E	3-16-17						
	_							SA27						A ∌I
種类	頂·器種·部位		第1層 覆土	栗石 直下覆土	栗石内	栗石内 表採	第1層a	第1層h (客土)	第3層a	第4層b	第5層a	第6層	壁面清掃	合計
	鍋	底部						1		1				2
土器	器種不明	胴部			3		1	1		2	5	9	1	22
		底部			1									1
	合 計		0	0	4	0	1	2	0	3	5	9	1	25
	火鉢	口縁部	1											1
瓦質土器	蓋			1	8	1			1	1				12
	器種不明	胴部			3									3
	合 計		1	1	11	1	0	0	1	1	0	0	0	16

### 第51表 石積みSA27 土器·瓦質土器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号 遺物番号	名,仮	称· 称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第29図 図版23 1	土器	鍋	底部	_ _ 17.0	器形:底面からの立ち上がりは、外側に大きく開いて直線的に胴部下部に移行する鍋の底部とみられる。器面調整:各面とも器面保持は悪い。外面は篦削りを施すが一部は深く削り込んで浅く窪んでいる。外底面は平坦に成形されているが調整方法については不明瞭で判然としないが篦削りが入っているようである。内面は指圧痕や雑な指ナデが入っている。器厚は、胴部で4.2mm、底面部分が4.4~5.1mmを測る。胎土:砂質の細粒子。混入物:微細な鉱物(石英、黒色)を主体とする。稀に粗い茶褐色や灰褐色の物質も含まれている。色調:外面及び外底面は明橙色。内面が淡灰色を帯びている。焼成:良好で堅い。	SA27 第4層b
" " 2	瓦質土器	火鉢	口縁部	_ _ _	器形: 方形状の角型の火鉢の角部分。文様・器面調整: 表面と右側面に縦位の刷毛目を加えた後に菊花(三種類: 大: 推定復元直径26.3mm、中: 直径18.7mm、小: 直径11.2mm)を施す。内面は僅かに残存し、縦位に細かな擦痕がみられる。器厚: 17.7~29.3mmを測った。胎土: 砂泥質の細粒子。混入物: 微細な石英を微量に含む。稀に微細な雲母片や微細な(茶褐色、灰褐色)物質がみられる。色調: 両面とも明茶褐色を帯びる。 焼成: 良好で堅い。	SA27 第1層 覆土
" " 3	瓦質土器	蓋		_ _ _ _	円盤状の型枠に入れて製作された蓋で酒甕(タイ産や中国産大型褐釉陶器などの蓋)に利用された代用品。上面は篦削りを主体に縁沿いにナデを施している。縁沿いには型枠から僅かに食み出した陶土がバリ状となる。下面及び外周側面は型枠に入る面で、下面は微細な起伏のある平坦面である。外周側面も歪な曲面となっている。胎土:泥質で細かい。混入物:微細な石英を僅かに含む。稀に粗い石英や粗細な茶褐色の鉱物がみられる。色調:両面とも淡橙白色。焼成:良好で堅い。器厚:7.9~9.7mm。	B-16·17 SA27 栗石直下 覆土
" " 4	瓦質土器	蓋		最大 径 18.0	"。上面は雑な指ナデを主体に縁沿いに指圧が僅かにみられる。縁沿いには型枠から僅かに食み出した陶土がバリ状となる。下面及び外周側面は型枠に入る面で、下面は微細な起伏のある平坦面であるが、下面及び外周側面には型枠に陶土を充塡した際に陶土の皺や歪な隙間がみられる。外周側面も歪な曲面となっている。上面に大麦とみられる圧痕(長軸:5.36mm)がみられる。下面には稲藁の圧痕や藁灰とみられる微細な圧痕がみられる。胎土:泥質で細かい。混入物:微細な石灰質砂粒を少量含む。稀に粗細な石英がみられる。色調:両面とも茶褐色を主体とし、蓋縁沿いが灰褐色や灰黒色となる。焼成:堅緻。器厚:9.3~10.6mm。	B-16·17 SA27 栗石内



第29図 石積みSA27出土品① 土器:1、瓦質土器:2~4

第52表① 石積みSA27 青磁出土状況

<u> </u>	- 11	<u> </u>	コイ貝のアン	BAZ/ 月1281山上 層序	1/////				D	-16•17							1
`				眉序													
			_							SA27							
			器種·部	位	第1層 覆土	栗石直上 覆土	栗石内	栗石内 黄褐色 土層	第 1 層 a	第1層a (北側 覆土)	第 3 層 a	第 3 層 b	第 5 層 a	第 6 層	第 7 層	第 8 層	合計
		外反		無文		1	2					2		4		2	11
				文:片切彫り、刻花文 内面:刻花文								1				1	2
	縁	±	蓮弁	線彫り		1										1	2
	部	直口	雷文	片切り彫り												2	2
			由人	スタンプ		1					1	5				12	19
				無文						1				1			2
			内面	重弁・片切彫り 面: 蓮弁文										1		1	2
碗			外面:遺 内	重弁・片切彫り 面:有文												1	1
				言文・片切彫り 面:有文												2	2
	胴			文 内面:無文												1	1
	部		外面:無	文 内面:有文												1	1
		雷文										2					2
		外面:蓮弁・片切彫り、刻花文 内面:有文														1	1
		有文									1	5	1	5		11	23
				無文			4	1				2					7

## 第52表② 石積みSA27 青磁出土状況

<b>弗52衣</b>	② 石碩。	<u> ԳSA27</u>	青磁出土	<u> </u>													
			層序	<u></u>						-16•17							
										SA27							
		Black In U			第1層 覆土	栗石直上 覆土	栗石内	栗石内 黄褐色 土層	第 1 層。	第1層a (北側覆 土)	第 3 層 6	第 3 層 5	第 5 層。	第 6 層	第 7 層	第 8 層	合計
		器種·部位		·+-					a		a	b	a	- 1			-
		aタイプ。		文							1			1			1
		cタイプ゜		· <u>人</u> 不明							1					1	1
		gタイプ゜		文			1										1
			有	文								1		1		2	4
碗	底部	hタイプ°		文												2	2
176	PEXIP	117 (7		不明										1		2	3
			高台のみ	文様不明			-					-		-		1	1
		底面のみ		文    不明			1					1		1		1	4
				(不明    不明			1									1	1
		高台片		文					1					1		1	3
大碗	口縁部	直口	雷文	片切彫り							2		1				3
or鉢	胴部	信	官文	片切彫り			1										1
		外反	花文	丸彫り		1											1
		-12		文	1		3						1				5
	口縁部		外面:運用	r・片切彫り 弁・丸彫り							1						1
	, , , , ,	直口	外面:蓮弁	ド・片切彫り			1										1
				:無文										1			
		从	 面:蓮弁・片り	文の影響を			3					5		1		5	14
Ш		71	内面:無文	JHD 9			1										1
	胴部	外面:	蓮弁・片切彫り、櫛描													1	1
			内面:無文									-		-			
			無文 印花文		1							1		1		1	3
			無文		1		1					1		1		1	4
	底部	4	無文	内底のみ												1	1
		文档	<b></b>	高台のみ												1	1
	43 ±e	タガ状	外面	:無文 弁・箆彫り			1										1
	口縁部	鍔縁		开・路彫り      不明			3										3
							0										
盤	胴部		内面: 蓮弁・楢											1			1
	भागान		外面:無文	lehe			1										1
		ŀ	为面:蓮弁・丸 				1										1
	底部	aタイプ°	文様	不明			1					1					1
酒会壺	胴部		有文不明									1		3		1	4
瓶	胴部	3	刻花文・片切り	影り		1											1
	口縁部		ト面:雷文・箆										1			3	4
	104.111	<u></u>	f:刻花文·片 有文不明	りがん								9		0	1	12	24
大鉢	胴部		刻花文·箆彫	<u>ξ</u> η								3		8	1	12	24 1
ノヘルヤ	WEITH		無文	• /			1					1		1			2
	다 UP	有习	女不明	内底のみ										1			1
	底部		真底	•										1			1
大鉢	胴部	蓮弁	ド・片切彫り、 タ	花文										3		1	4
香炉							1										1
不明	底部 (底面のみ)		·面:無文 ]面:有文不明													1	1
	,	合計			2	5	27	1	1	1	6	31	4	37	1	75	191

### 第53表① 石積みSA27 青磁観察一覧

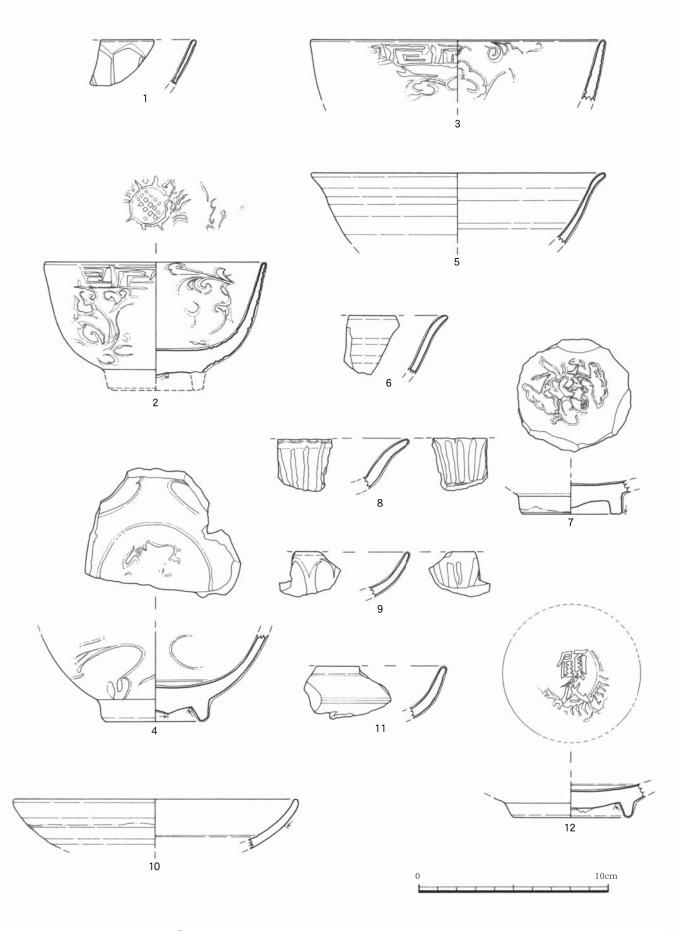
単位:cm

<u> </u>	/ 141	買みSAZ	4/ 月1	<b>丝鲵祭一頁</b>	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点出土層
第30図 図版24 1	線細維主統	口縁部	_ _ _	器形:直口口縁碗。文様:外面に線刻の蓮弁文を描く。蓮弁の弁先は剣先状に描くが、鈍角である。素地:灰白色の細粒子で、微細な石英と黒色鉱物が僅かにみられる。 劈開面から微細な気泡痕が多くみられる。 釉色:淡緑色で、貫入はない。 龍泉窯系。15c中頃~15c後半。	SA27 栗石直上 覆土
" " 2	H	口縁部	11.8 (6.7) (5.2)	器形:直口口縁碗。文様:外面口縁に片切彫りで雷文(雷文は中心で時計回りから反時計回りに反転させて外側に向かって展開している)を描いている。雷文帯直下に刻花文を高台脇近くまで描いている。内面にも口縁部から見込み近くまで片切彫りによる刻花文を描いている。見込みには菊花文が描かれている。素地:光沢のある灰白色の微粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色:淡緑色の釉を両面に施した後に外底面の釉を輪状に掻き取って露胎とする。貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16•17 SA27 第3層b
" " 3	雷文帯碗	口縁部	15.6  	器形: "。文様:外面口縁に片切彫りで雷文(左から左上は時計回りで右が上から右したへ反時計回りとなる雷文を組み合わせている)を描いている。雷文帯直下に刻花文を描いている。内面にも口縁部から胴部まで片切彫りによる刻花文を描いている。素地:光沢のある灰白色の微粒子。釉色:淡緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16·17 SA27 第8層
" " 4		底部	_ _ 5.8	器形:高台分類gタイプ。高台脇から丸味を持って胴部へ移行する碗。文様:外面に 片切彫りで刻花文を高台脇まで描いている。内面にも片切彫りの刻花文を描いてい る。見込みには圏線と花文を施している。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色 で、全面に総釉後に外底面の釉を蛇の目状に掻き取って露胎とする。両面に細かい 貫入がみられる。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-17 SA27 栗石内
" " 5	外反口	口縁部	15.6 — —	器形:外反口縁碗。文様:なし。素地:淡灰白色の細粒子。釉色:淡緑色で、両面に施釉。両面に細かい貫入がみられる。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SA27 第3層b
" " 6	縁碗	口縁部	_ _ _	器形: "。文様:なし。素地:淡灰色の細粒子で、微細な石英が多くみられる。釉色:淡黄緑色で、両面に施釉。貫入はない。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	B-16·17 第3層b
" " 7	碗	底部	_ _ 5.1	碗の高台破片。高台分類aタイプ。文様:見込みに蓮文(花、葉)を施している。素地:灰色の粗粒子で、微細な石英と黒色鉱物を多く含む。釉色:透明な灰緑色の釉を内面と外面の高台途中まで施す。貫入はない。中国南部の窯。14c終末~15c初頭。	B-16·17 SA27 第6層
" " 8	外反 口縁 皿	口縁部	— — —	器形:外反口縁皿。口唇部を細かく抉り取って菊花の弁先を表現する。文様:内外面に丸彫りで花文を描くが口唇部の弁先とは一致しない。素地:光沢のある淡灰色の微粒子。釉色:淡緑色の釉を両面に施している。貫入はない。龍泉窯系。15c。	SA27 栗石直上 覆土
" " 9		口縁部	_ _ _	器形:直口口縁皿。文様:外面に片切彫りで弁先が開いた蓮弁文を描く。内面は丸彫りで弁先の無い花弁を二条一組で描いている。素地:光沢のある淡灰色の微粒子。釉色:淡緑色の釉を両面に施しているが二次的な火熱を受けて釉の爛れや気泡痕がみられる。粗い貫入が両面にみられるが、火熱によって発生した罅とみられる。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SA27 第3層a
" " 10	直口口急	口縁部	15.0 — —	器形:直口口縁皿。文様:内面に圏線を施している。素地:淡黄白色の粗粒子で、粗細な黒色や茶褐色の鉱物を多く含んでいる。釉色:黄白色の釉を内面から外面の胴上部まで施している。両面に非常に細かい貫入がみられる。泉州窯系。14c後半~15c前半。	SA27 栗石内
" " 11	緑皿	口縁部	_ _ _	器形:直口口縁皿。口縁部に削りを入れて小さな玉縁状の肥厚を造る。文様:外面の胴部に界線とみらるものが三条施されている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色:淡緑色の釉が両面にみられる。貫入はない。龍泉窯系。15c後半~16c。	SA27 第3層b
" " 12		底部	_ 6.0	器形: "。上記11と釉や素地などが一致する同一の個体であるが、直接は接合ができなかった。文様:見込みに花弁と花芯に「顧氏」(註1)銘が陽刻で施されている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色の釉が両面にみられる。貫入はない。龍泉窯系。15c中頃。	SA27 第1層 覆土

注 ():推定、「一」:計測不可

#### 註文献

- 註1-a. 亀井明徳「日本出土の明代青磁碗の変遷」『鏡山先生古希記念古文化論攷』1980年発行によると亀井氏は、「顧氏」 銘の落款をもつ碗については、15世紀後半を遡らないことを指摘している。
- 註1-b. 国際交流企画展『碧緑の華・明代龍泉窯青磁一大窯楓洞岩窯址発掘成果展』大阪市立東洋陶磁美術館2011年9月発行の作品解説(小林仁)で青磁刻花蓮唐草文 "顧氏"銘碗の解説文に「・・顧氏といえば、『乾隆龍泉県志』に記載のある正統年間(1435~49年)に龍泉で青磁生産を行った顧仕成が想起されます。 楓洞岩窯址の主に明代早期の地層からは「顧氏」あるいは「顧」銘の資料が少なからず出土しており、顧氏一族は龍泉において早くから力のある窯主であった・・」と記載されている。

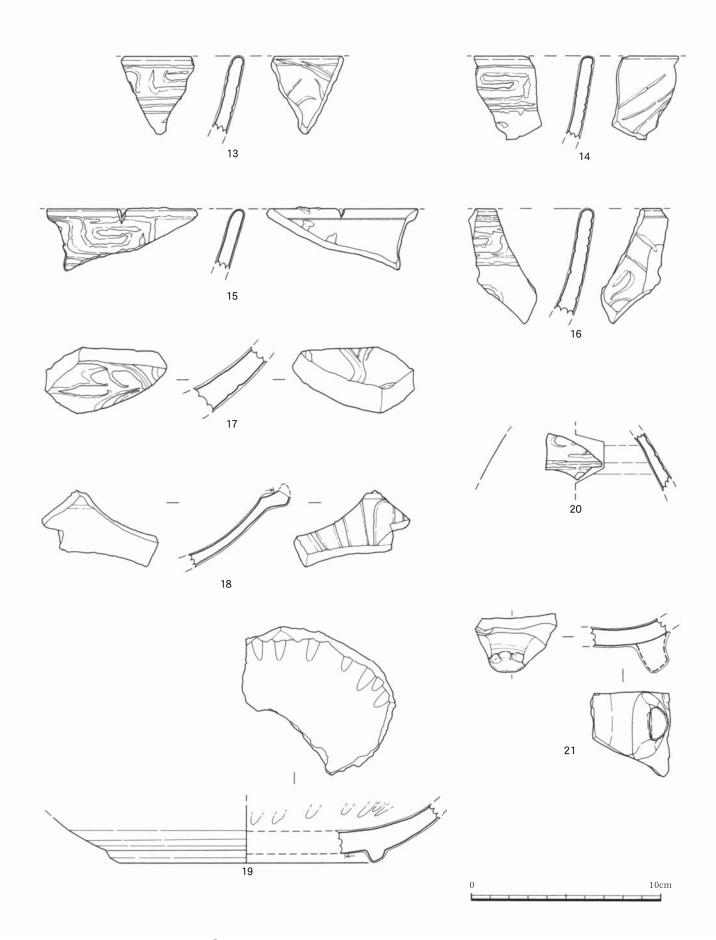


第30図 石積みSA27出土品② 青磁:1~12

## 第53表② 石積みSA27 青磁観察一覧

単位:cm

<u> </u>	<u>// 口作</u>	貝からA	2/ 百位	滋 <b>観祭一</b> 覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第31図 図版25 13			_ _ _	器形:直口口縁の大鉢。文様:外面口縁に篦彫りで時計回りの雷文がみられ、雷文直下に界線と刻花文を描いている。内面にも片切彫りの刻花文が描かれている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色であるが、二次的な火熱を受けて微細な気泡痕や釉が爛れている。貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16 SA27 第8層
" " 14		口縁	_ _ _	器形: "。文様:外面口縁に篦彫りで雷文中央で時計回りから反転する 雷文を描く、雷文直下に界線と刻花文を描いている。内面にも片切彫りの刻花文が 描かれている。素地: "。釉色: "。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~ 15c中頃。	SA27 第5層a
" " 15	大 鉢	部	_ _ _	器形: "。文様: "。内面にも片切彫りの刻花文が描かれている。 雷文の展開方法が上記14と一致する事などから同一個体とみられる。素地: "。 釉色:淡緑色の釉は、二次的な火熱を受けて釉に気泡痕や溶けた釉の気泡が弾けて黒色となる。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16 SA26 栗石内 + B-16·17 SA27 第8層
" " 16			_ _ _	器形: "。文様:外面口縁に篦彫りの雷文を描くが展開手法は不明である。 雷文直下に界線と刻花文を描いている。内面にも片切彫りの刻花文が描かれている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16•17 SA27 第8層
" " 17		胴部	_ _ _	器形:直口口縁の大鉢の胴部片。文様:内外面に篦彫りの刻花文を描いている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SA27 第3層b
" " 18	鍔縁盤	口縁部	_ _ _	器形: 鍔縁盤。文様:外面には文様はみられない。内面には幅広の篦(幅11.3mm)で連弁文を描く。素地:淡灰色の微粒子。釉色:淡緑色。両面に細かい貫入がみられる。龍泉窯系。14c後半~15c。	SA27 栗石内
" " 19	盤	底部	_ _ _ 13.5	器形: 鍔縁盤。高台分類aタイプ。文様:外面には文様はみられない。内面には丸彫り(幅6.2mm)で蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の粗粒子で、微細な黒色鉱物が僅かに混入する。釉色:淡灰白色の失透釉で白濁する。施釉は内面から外底面まで掛かり、外底面の釉を掻き取っている。貫入はない。中国南部の窯。14c終末~15c。	SA27 第3層b
" " 20	瓶	胴部	_ _ _	器形: 瓶の頸下部の破片。文様: 外面には片切彫りによる二条の界線を施し、界線の上位と下位に刻花文を描く。素地: 淡灰白色の微粒子。 釉色: 淡緑色。貫入: なし。 龍泉窯系。 14c後半~15c中頃。	B-16·17 SA27 栗石直上 覆土
" " 21	香炉	底部		器形:大振りの三足(脚付)香炉。文様:外面の脚部は獣足で片切彫りによる指を二本縦位に描いている。脚部近くに花弁形の陶土の貼り付けがみられる。素地:光沢のある灰白色の微粒子。釉色:濃緑色を両面に総釉する。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SA27 栗石内



第31図 石積みSA27出土品③ 青磁:13~21

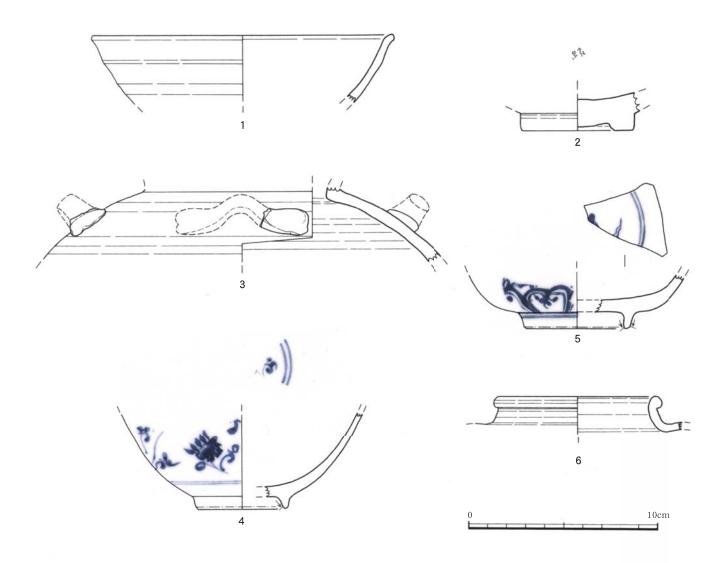
第54表 石積みSA27 白磁·青花·黒釉陶器出土状況

第34 <u>後</u> 位			層序			B-16·17			
						SA27			合計
	種類·器和	 锺·部位		栗石内	第1層a (北側覆土)	第3層a	第5層a	第6層	П
		口縁部	外反					1	1
	碗	胴	部	1				1	2
白磁		底部				1			1
H HAA		口縁部	内湾		1				1
			外反				1		1
	壺	胴	部	1					1
	合	計		2	1	1	1	2	7
		口縁部	直口	1					1
	碗	胴部		2				2	4
青花		底		1			1		2
H 1L		胴			1				1
	壺		部	1					1
	瓶		<b>录部</b>					1	1
	合	計		5	1	0	1	3	10
	碗	胴	部					2	2
黒釉陶器	茶入れ壺	口糸	<b>录</b> 部	1					1
		胴	部					1	1
	合	計		1	0	0	0	3	4

# 第55表 石積みSA27 白磁 青花 黒釉陶器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号 遺物番号	名称·	·仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第32図 図版26 1		外反	口縁部	16.0 — —	器形:外反口縁碗。轆轤成形が顕著で口縁部が外反する。文様:なし。素地:淡灰色の微粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色:淡灰白色の透明釉が両面にみられる。貫入:なし。福建省閩清窯。14c終末~15c初頭。	SA27 第6層
" " 2	白磁	及口縁碗	底部	_ _ 5.8	器形:外反口縁碗の高台破片。高台畳付が幅広くなる所謂蛇の目高台の範疇にある。畳付の幅は5.0~9.4mmを測る。文様:見込みに不鮮明で小さな印花文を施している。素地:淡灰色の微粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色:内面にのみ淡灰白色の透明釉がみられる。貫入:内面に粗い貫入がみられる。福建省閩清窯。14c終末~15c初頭。	SA27 第3層a
" " 3		壺	胴部	_ _ _	器形: 壷の頸下部の胴継ぎ部分から破損した破片で、肩部に横位の把手が貼り付けられている。 文様: なし。素地: 灰色の細粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。 釉色: 淡灰白色の釉が両面でみられる。 貫入: なし。 中国南部の窯。 14c終末~15c。	SA27 栗石内
" " 4	青	碗	底部	_ _ 4.6	器形:高台脇から緩やかに胴部に移行する碗。文様:外面胴部に宝相華唐草文と二条の界線を描く。内面には二重圏線と宝相華唐草文を描く。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色の釉を両面施釉後に畳付と高台内面上部まで釉を掻き取って露胎とする。貫入:なし。景徳鎮窯系。15c中頃~15c後半。	SA27 栗石内
" " 5	花	壺	底部	_ _ 5.2	器形:高台脇から丸味を強くだして胴部に移行する碗。文様:外面胴部に唐草文の一部とみられる文様とラマ式蓮弁と弁内に垂下五葉文を呉須で描いている。高台脇には界線を二条描く。内面には二重圏線と草花文とみられる文様を描いている。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色の釉を両面施釉後に畳付の釉を掻き取って露胎とする。貫入:なし。景徳鎮窯系。16c前半~16c中頃。	SA27 栗石内
" " 6	黒釉陶器	茶入れ壺	口縁部	8.8 _ _	器形:小さな玉縁を造る怒り肩の茶入壷。文様:なし。素地:茶紫色の細粒子で、 粗細な石英を多量に含む。釉色:茶褐色の釉を両面に施す。貫入:なし。中国南 部の窯。時代不詳。	SA27 栗石内



第32図 石積みSA27出土品④ 白磁:1~3、青花:4·5、黒釉陶器:6

第56表① 石積みSA27 中国産褐釉陶器出土状況

7,000		付していて /	丁田庄	1767年17月16日	ш - //	76				
	層序					В	-16.17			
							SA27			
	器種·剖	3位	第1層 覆土	栗石直上 覆土	栗石内	栗石内 表採	第1層 ~第3層a 北側覆土 (植栽穴)	第1層a (北側覆土)	第1層h (客土)	第2層
		方形								
	口縁部	逆L字			2					
	形状不明				1					
		耳		1	1					
壺	<u> </u>	頁部			3	1				
	履	<b>言</b> 部		1	1					
	把手				1		1			
	胴部		15	62	219	9	2	3	1	2
	底部			1	1					
	合 計			65	229	10	3	3	1	2

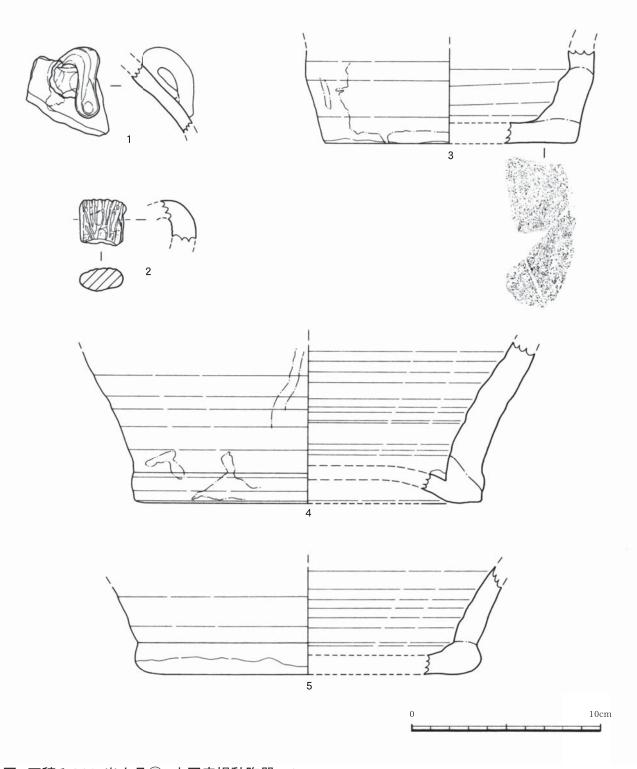
第56表② 石積みSA27 中国産褐釉陶器出土状況

		1只0707127		-1-21-1-2		, ,,,,					
	層序					B-1	6·17				
						SA	.27				合計
	器種·剖	<b>『</b> 位	第3層a	第3層b	第3層b (撹乱)	第4層b	第5層a	第6層	第7層	第8層	口间
		方形		3		1	1		1	1	7
	口縁部	逆L字									2
		形状不明									1
		耳									2
壺	<u> </u>	頁部									4
	屌	<b>言</b> 部									2
	扌	巴手									2
	胴部		16	57	1	14	25	101	6	80	613
	底部		1							1	4
	合 計			60	1	15	26	101	7	82	637

# 第57表 石積みSA27 中国産褐釉陶器観察一覧

単位:cm

为5/10	- 170	, 0,	· -	1年19年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11	卑似:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第33図 図版27 1				器形: 怒り肩の壷の把手とみられる。文様: なし。把手は縦位方向に右側に傾いた状態で雑に貼り付けられ罅割れが生じている。器面調整: 両面とも釉で覆われて判然としないが、裏面には把手を貼り付けた際の指圧痕がみられる。素地: 灰褐色の粗粒子で、微細な石英が多量に混入する。 色調: 二次的な火熱を受けて微細な気泡痕が多くみられる。 釉本来の色調は失われ白濁している。 釉は両面に施釉されている。 焼成: 他と比較して脆い。 中国南部の窯。 14c~15c。	SA27 第1層~第3 層a北側覆 土(植栽穴)
л л 2		把手	1 1 1	器形:ナデ肩の壷の把手。文様:把手の外面に獅子面の髭と前足を0.8~1.5mm幅の棒状の工具で線彫りする。把手の厚みは11.8mm、幅22.5~24.0mmを測る。把手内面は紐状の陶土を折り曲げた際に発生した横位方向の皺(皺の縦長:0.2~0.9mm)が斑状にみられる。器面調整:外面はナデ調整で、裏面はナデ調整と指圧痕が釉上から観察できる。素地:淡灰色の細粒子で、粗い(石英、黒色、茶褐色)鉱物が少量ながら混入する。色調:黄茶色の釉が両面に施されている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA27 栗石内
" " 3	壺		_ _ 13.1	器形:厚手の壷。底面と胴部を貼り付けて製作する。文様:外底面に1.28mm幅の沈線が一条みられる。器面調整:外面は轆轤痕を主体にナデが施されている。外底面は微弱で起伏のある平坦面で調整方法は不明。内面は粗雑な轆轤調整がみられる。素地:淡橙白色の粗粒子で、粗細な石英を主体に粗い黒色や茶褐色の鉱物が多量に混入する。色調:茶褐色の釉を外面の底部近くまで施しているが雑な釉掛けである。内底面にも釉が垂れている。焼成:堅緻。中国南部の窯。14c~15c。	SA27 栗石直上 覆土
" " 4		底部	_ _ 18.4	器形: 怒り肩の壺の底部。文様: なし。器面調整: 釉上からの観察では、両面とも轆轤痕が顕著にみられる。外底面にも釉が施されている。素地: 茶紫色の細粒子で、粗細な石英が少量みられる。 稀に茶褐色の鉱物がみられる。 色調: 黄茶色の釉を内外面から外底面まで施している。 焼成: 堅緻。 中国南部の窯。 15c~16c。	SA27 栗石内
" " 5			_ _ 18.2	器形: "。胴部に外底面を貼り付けて製作している。外底面は上位に大きく窪ませている為、外周縁辺部に畳付(幅19.0mm)となるように成形する。畳付の部分に砂胎土目の目痕がみられる。文様:なし。器面調整:釉上からの観察では、両面とも轆轤痕であるが内面の轆轤痕は起伏が著しい。素地:淡灰色の細粒子で、粗細な石英を多く含んでいる。色調:黄茶色の釉を内外面から外底面まで施しているが、二次的な火熱を受けて釉が内面では白色に変色している。焼成:堅緻。中国南部の窯。15c~16c。	SA27 第3層a



第33図 石積みSA27出土品⑤ 中国産褐釉陶器:1~5

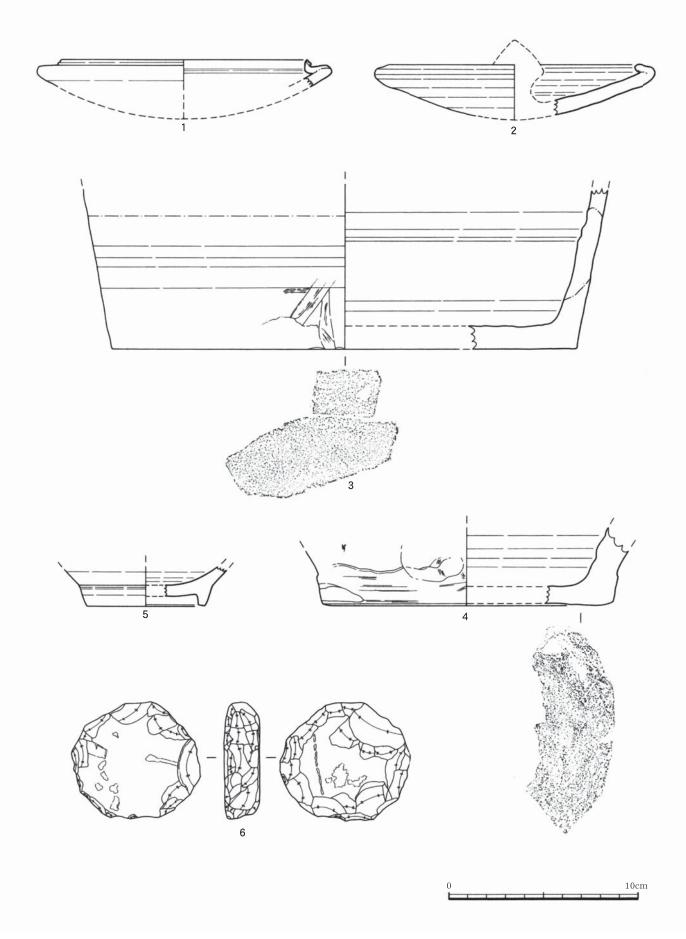
第58表 石積みSA27 タイ産土器(半練)・タイ産褐釉陶器・中世陶器・沖縄産施釉陶器・ 円盤状製品出土状況

	•	層序	B-16·17													
								SA								
種	類·器種·部	5位	第 1 1 層	栗石 直上	栗石内	表 採	第1層 ~第3層a 北側覆土 (植栽穴)	第 2 層	第 3 層 a	第 3 層 b	第 4 層 b	第 5 層 a	第 6 層	第 7 層	第 8 層	合計
タイ産土器	蓋	蓋端部Ⅱ類			1											1
(半練)		IV類			1											1
	合 計		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		口縁部											1			1
タイ産		頸部			3	1			1			1				6
褐釉陶器	壺	肩部			3								1			4
Let dimbed du		胴部	1	14	34	1	2	1	8	11	2	10	16	4	7	111
	1	底部			3	1	1									5
	合 計		1	14	43	3	3	1	9	11	2	11	18	4	7	127
中世陶器	壺	底部	1			1										2
	合 計		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	碗	胴部											1			1
N. I. Arm -fee		底部							1							1
沖縄産	鍋	胴部											1	4		5
施釉陶器	鉢	胴部						1								1
	急須	胴部			1											1
	器種不明	部位不明													1	1
The state of the state of	合 計		0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	4	1	10
円盤状製品	円盤状製品 瓦										1					1
	合 計		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

### 第59表 石積みSA27 タイ産土器(半練)・タイ産褐釉陶器・中世陶器・沖縄産施釉陶器・ 中般比制品観察一覧

円盤状製品観察一覧 単位:cm 插図番号 口径 出土地点 図版番号 名称:仮称 部位 器高 観察事項(素地・混入物・色調・釉色等) 出土層 遺物番号 高台径 器形:Ⅱ類の範疇に含めた落とし蓋。蓋端部を内側に折り返して内面に肥厚帯を造り、肥 端部径 厚帯端部を上方に強く突出させるため、縦断面が歪な「L」字状の肥厚となる。器面調整: 第34図 蓋 B-14 タ 外器面に微弱な起伏や面取の痕跡が窺えることから篦削りと指圧を施した後に方向が一 15.6 図版28  $\Pi$ SA27 イ 定しない指ナデを加えてナデ消している。内面は雑なナデと擦痕がみられる。素地:灰白 高さ 類 栗石内 1 産 色の細粒子で、粗細な鉱物(茶褐色、石英)を多量に含んでいる。色調:淡橙白色。焼 土 成:堅緻。15c~16c。 端 器 部 器形: IV類の範疇にある落とし蓋。 蓋端部を内側に折り返して内面の縁上部を平坦成形 **SA27** した肥厚帯を造る。縦断面が「フ」の字状の肥厚となる。器面調整:外面には器形に併せ 端部径 第1層 半 " た横位の擦痕と刷毛目様の擦痕を施した後に同種の調整方法を斜位や縦位に雑に施し 覆土 14.8 練 11 IV 高さ て仕上げている。内面は丁寧な回転擦痕がみられる。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細 +2 類 (4.2)な鉱物(茶褐色、石英、黒色)を多量に含んでいる。色調:淡橙自色を主体とするが、外 **SA27** 面(蓋下面)が部分的に煤けて黒色を帯びている。焼成:堅緻。15c~16c。 栗石内 器形:底面から内側に強く閉じ気味に直線的に立ち上がる底部破片。底面に陶土の継ぎ 足しによる繋ぎが堅調にみられる。器面調整:外面は底部近くまでナデを施し、胴部には SA27 褐 IJ 轆轤痕がみられる。外底面は平坦な面となっているが不鮮明な布目圧痕とみられるもの 栗石内 釉 壺 底部 が途切れながら観察できる。内面は雑な削りが加えられ陶土の継ぎ足し痕が堅調である 11 + 隔器 3 24.6 内底面は回転擦痕を主体とし指ナデがみられる。素地:淡紫灰色~淡茶色を帯びた細粒 **SA26** 子で、粗細な石英を多く含み、稀に粗い黒色の鉱物がみられる。釉色:外面にのみ茶紫 西側覆土 色の釉が胴下部に施釉。シーサッチャナライ窯。15c後半~16c前半。 器形:底面からの立ち上がりで一端くびれてから外側に閉じ気味に開く壷の底部。器面 調整: 立ち上がりの部分には雑な篦削りとナデにより陶土がくびれの部分に食みだしてい 中 **SA27** る。器面調整:外底面は歪な平坦面で篦削りや指圧痕を指ナデや擦痕でナデ消してい 世 壺 底部 栗石内 11 る。内面は雑な轆轤調整が顕著である。内底面は雑な指ナデで調整されている。素地: 陶 15.4 4 表採 器 淡灰色~灰色を帯びた細粒子で、粗い石英を多く含み、稀に粗い黒色の鉱物がみられ る。釉色:外面から外底面まで淡茶色の釉を施釉。 器形:高台脇から若干丸味を持って外側に開く碗。器面調整:高台外面には回転削りを 心沖 釉が IJ 施し、高台脇から丁寧な回転擦痕である。高台内面から外底面には回転削りによる刳り **SA27** 抜きで外底面を平坦に仕上げる。内面は水引きによる回転擦痕がみられる。素地:淡橙 粗陶器 11 碗 底部 第3層a 5 6.2 白色の細粒子で、微細な石英を少量含み、稀に細かい黒色の鉱物がみられる。釉色:な 製品 施されている。内面(凹面)は剥離面が全体的に摩耗し研磨は確認できない。素地:灰白 IJ **SA27** 色の細粒子で、微細な石英や石灰質微砂粒を少量含み、稀に粗い茶褐色の物質や細 11 品狀 第4層b かい黒色鉱物がみられる。色調:外面は淡灰色で内面が灰褐色を帯びている。サイズ: 6 縦:6.1cm、横:6.8cm、厚さ:1.9cm、重量:83.8g。

注「一」:計測不可、():推定、「+」:接合の意



第34図 石積みSA27出土品⑥ タイ産土器 (半練):1・2、タイ産褐釉陶器:3、中世陶器:4、 沖縄産施釉陶器:5、円盤状製品:6

第60表 石積みSA27 金属製品出土状況

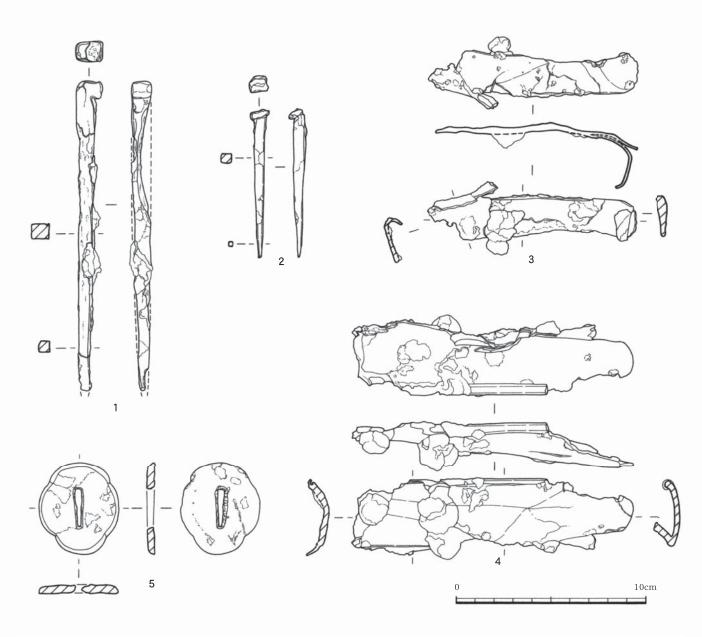
\$500	衣 口恨の	·SA27 金属		<u> </u>	兀										
			層序						B-16						
									SA2	27					
					第 程 1 層	栗 覆石	栗石内	第1層a (北側 覆土)	第 3 層	第 4 層	第 5 層	第 6 層	第 7 層	第 8 層	合計
		分類·種類			7.13	上		122	a	b	a			, H	
	丸釘	完形	中	鉄			1								1
工		完形	大	鉄			1								1
具 類		76/12	中				2					1			3
類・		鉄		2	6				1	3	1	3	16		
生	角釘	先端部欠損	サイズ・不明	些八			1								1
産		頭部欠損	中	鉄		1	4				2	1			8
用目		先端+ 中				5	13			1		5			24
具		頭部欠損	サイズ不明	鉄		1								1	2
	司	問度品縁金具		青銅					2						2
用生	AD.	口縁	部	NI.							1				1
具活	鍋	胴音	书	鉄						1					1
		鎖帷子	-	鉄							2				2
武		覆輪		青銅			2					1			3
具		障子板		鉄							1				1
		切羽		青銅	1						1				1
武		<u> </u>		鉄							1				1
器		砲弾片		青銅				1			1				1
		月如				1							1		
分類		鉄	1		7	1		1		1			11		
不		用途不明													
明				青銅		2	4				3				9
			2	11	41	2	2	3	11	12	1	4	89		

注 釘のサイズは、大:5寸半以上(15.75cm以上)、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

# 第61表 石積みSA27 金属製品観察一覧

単位:mm/g

<del>7011</del>	- 124	7.0712		/国·汉·HH E儿·刀	5 兄		平位:IIII/g
挿図番号 図版番号 遺物番号	分類	名称• 仮称	材質	残存長(縦) 残存幅(横)	残存最大厚 残存最小厚 残存重量	観察事項	出土地点 出土層
第35図 図版29 1			鉄	163.0 9.51	9.78 5.63 40.1	先端と身部を欠いた皆折釘。全体的に錆による罅割れや錆瘤がみられる。特に錆による身部の破損が著しく地金まで浸食されている。頭部:縦1.57mm、横9.55mm。	B-16·17 SA27 栗石内
" " 2	工具類・	釘	製品	77.5 5.38	5.58 1.82 9.5	ほぼ完形の皆折釘。頭部の屈曲部に罅割れが生じている。これは身部上部と頭部製作時に身部の屈曲部分が斜位に成形され、頭部を折り曲げる際に頭部と身の位置がズレたために罅割れが生じたようである。欠陥商品とみることもできる。頭部:縦7.10mm、横9.44mm。	B-16·17 SA27 栗石内
" " 3	生産用具	調度	青	31.0 11.0	2.20 0.45 30.0	板状に割れた青銅製品の調度品などの縁金具とみられる。 上辺の左端近くを内側に折り曲げている。鉄錆の付着と大きな錆瘤がみられる。 錆による影響で身の一部が剥離する。	SA27 第3層a
" " 4	六	及品緣金具	銅製品	41.0 147.9	4.69 0.90 89.9	上記3と同一固体であるが接合ができなかった青銅製の調度品などの縁金具とみられる。上辺に覆輪を取り付けている。下辺は内側に折り曲げている。二次的な火熱を受けて青銅の一部が溶けてケロイド状となる。表面には鉄錆の付着と大きな錆瘤がみられる。錆による影響で身の一部が剥離する。	SA27 第3層a
,, ,, 5	武器	切羽	青銅製品	48.5 42.1	3.05 2.76 34.8	完形の木瓜形の切羽。鋳型成形の切羽で裏面の縁辺部は 斜位となっていることから裏面から溶解した青銅を鋳型に流 し込んで製作されている。全体的に緑青で覆われている。刀 剣の茎が入る茎孔は短軸上部が4.35mm、短軸下部で 1.93mm、長軸は19.96mmを測った。	B-16·17 SA27 第1層覆土



第35図 石積みSA27出土品⑦ 金属製品:1~5

第62表 石積みSA27二次的火熱溶解銭貨

和记载 山頂がのたが一次町	くがい 7日 万十 東ス	. 只		
銭名	片数	重量 (g)	残存状況	出土層
天聖元寶(北宋1023年初鋳)	1枚	3.73	完形	B-16·17 SA27栗石内表採
治平元寶(北宋1064年初鋳)	1片	1.52	「平」・「元」の二字が残存	B-16·17 SA27第6層
元豊通寶(北宋1078年初鋳) or 元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1片	1.05	「元」の一字が残存	B-16·17 SA27第8層
洪武通寶(明1368年初鋳)	1枚	3.26	完形	B-16·17 SA27栗石内表採
供风烟貝(約1300中初納)	1枚	3.78	完形	B-16·17 SA27 第7層
永樂通寶(明1408年初鋳)	1枚	3.97	完形	B-16·17 SA27栗石内
元祐通寶(中世末期~近世初頭)	1片	2.28	「祐」・「通」・「寳」の三字が残存	B-16·17 SA27第8層
開元通寶(中世末期~近世初頭)	1枚	2.77	完形	B-16·17 栗石内表採
加熱溶解の銭貨の塊	1片	1246.84	-	B-16·17 SA27栗石内
合 計	9		<u> </u>	

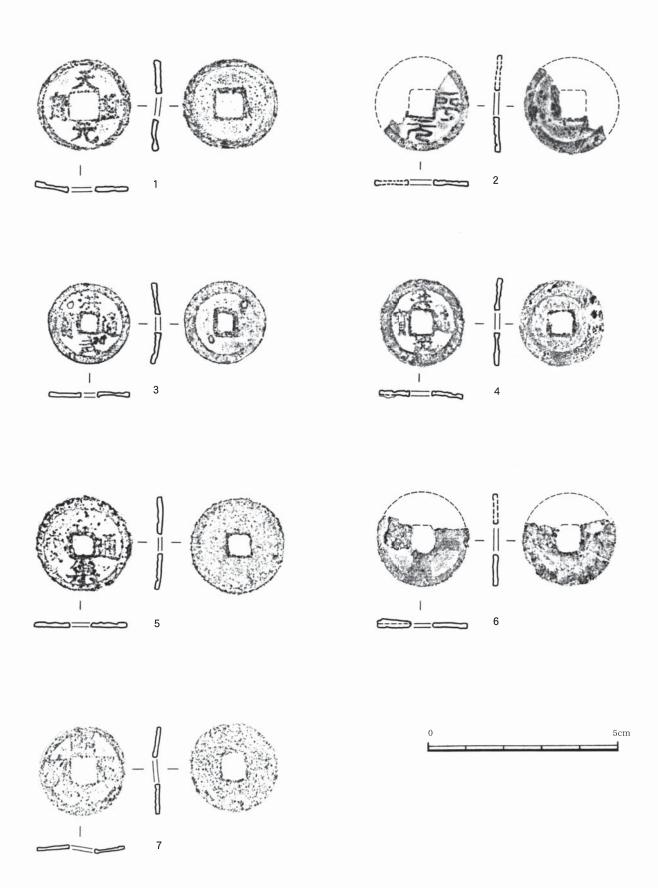
第63表 石積みSA27 ガラス玉・ガラス製品出土状況

<u> </u>	17月070円と1 71	<u> ノヘエ ハ /</u>	/へ表 田山ユ	<u>- 1人 ル</u>							
	_	層序		B-16·17							
				SA27							
	種類·分類		栗石直上覆土	栗石内	栗石内灰褐色土層	第1層a(北側覆土)					
ガラス玉	Ⅱ類	青色	2				2				
カノハ玉	11 大貝	濃緑色		1			1				
	合 計		2	1	0	0	3				
	溶解したガ	ラスの塊			1		1				
カラス製品	瓶					1	1				
	板が	ラス		1			1				
	合 計		0	1	1	1	3				

第64表① 石積みSA27 銭貨観察一覧

畄台	٠.	mm	10
- 里17	. :	mm	/g

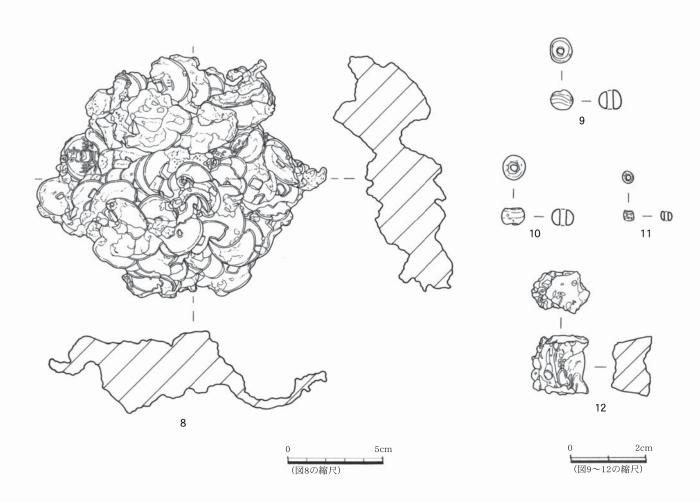
第64表	1	石	積みS	A2	7	銭貨	复勧	察一	-覧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号 遺物番号	銭種	鋳造種類	初鋳年	素材	読み方	状態	書体	肉郭 外径 A	肉郭 内径 C	方穿 E	断面 ①	i計測部 ②	部位	・重量	観察事項	出土地点 出土層
第36図 図版30 1	天聖元寶	知 公鋳銭?	北宋 1023 年	銅銭	回読	完形	真書	24.02 25.06	20.81 20.45	7.2 6.93	1.37		1.13	3.73	完形の天聖元寶。面と背の肉郭の鋳型の ズレが大きい。銭の横断面が変形し歪とな る。背よりも面で緑青で覆われ、字款の部 分には緑青による微細な瘤状の隆起がみ られる。	B-16 SA27 栗石内 表採
" " 2	治平元寶	公鋳銭	北宋 1064 年	銅銭	回読	破損	篆書	_ _			1.08	0.57	1.11	1.52	1/2近くが欠落。字款は「平」・「元」の二字が残存。銭の厚みは肉郭で1.1mm、肉郭と方郭の間が0.5mmと極端に薄い。肉郭の幅は面(肉郭幅:2.09~2.24mm)よりも背で幅広(2.24~3.47mm)となる。両面とも緑青が部分的にみられる。	B-16·17 SA27 第6層
" " 3	洪武通寶	模鋳銭	明 1368 年	銅銭	対読	完形	_	21.45 21.6	16.5 18.11		1.33	0.56	1.05	3.26	完形の洪武通寶。人為的な穿たれたとみられる小さな孔が二箇所対角線上に存在する。左斜め上の孔は歪な円形で、孔のサイズは長軸1.62mm、短軸1.38mmを測る。右斜め下の孔は歪な扁楕円形で、孔のサイズは長軸1.68mm、短軸0.74mmを測った。銭の断面が面側に緩やかに湾曲する。両面に緑青がみられ、特に面に集中し、字熱周辺が著しい。	B-16 SA27 栗石内 表採
" " 4	洪武通寶	公鋳銭	明 1368 年	銅銭	対読	完形	_	23.32 23.05	17.53 17.54		1.57	0.62	1.29	3.78	完形の洪武通寶。 肉郭の幅が他の洪武通 寶よりも幅広(面:2.69~3.19mm、背:3.97 ~4.54mm) である。 字款は深く鋳造されて いる。 面・背とも緑青ががみられ、面におい ては肉郭の一部が微細なケロイド状とな る。 背には鉄錆や粗い石英粒が付着する。	B-16 SA27 第7層
" " 5	永樂通寶	公鋳銭	明 1408 年	銅銭	対読	完形	_	24.77 24.92	20.35 20.21		1.79	1.03	1.38	3.97	完形の永樂通寶。字款は「永」・「寶」の二字が緑青で覆われている。「通」・「樂」の二字が判読できる。背の肉郭は潰れ気味で不鮮明である。二次的な火熱や緑青の影響で微細なアバタ状となる。	B-16·17 SA27 栗石内
" " 6	元祐通寶	模鋳銭	近世初頭中世末期~	銅銭	回読	破損	不明	_ 24.71	_	6.23	1.12	1.03	1.17	2.28	1/4弱が欠落した銭。面・背とも緑青による 浸食などにより器面の保持が悪く、脆弱で ある。面の字款も緑青の影響で潰れてい る。「祐」・「通」の二字が辛うじて判読でき る。「寶」の字款は判読できない。	B-16•17 SA27 第8層
" " 7	開元通寶	模鋳銭	近世初頭中世末期~	銅銭	対読	完形	_		19.03 19.37		1.02	0.76	0.94	2.77	開元通寶(唐、845年初鋳造)の模鋳銭。面の字款は完全に消えかかっていて、銭鋳型のズレや字款の鋳造も浅く不鮮明である。背は肉郭が無く、無郭のままである。完全なる偽金である。	SA27 画工内
第37図 図版30 8	火熱溶解の銭貨の塊	不明	不明	銅銭	不明	完形/破損	不明	128.0 152.0			81.03	_	_	1246.84	銭貨が二次的な火熱を受けて溶解して固まった銭の塊。参考までに銭貨の塊を「洪武通寶(明、1368年初鋳造)」の重量4.5gを基準にして、1246.84gを4.5gで割ると、洪武通寶277枚相当分の重量であることが判明した。溶解の銭貨には洪武通寶が三・三枚確認できる。銭の重なり具合から孔に縄などの紐を通して袋や容器に保管された状態が火災などにより二次的に火熱を受けて溶解・変形したようである。表面には石灰岩の細片が緑青などで付着する。裏面には鉄釘の一部や鉄錆が付着する。	B-16·17 SA27 栗石内



第36図 石積みSA27出土品⑧ 銭貨:1~7

第64表② 石積みSA27 ガラス製品(玉·溶解したガラスの塊)観察一覧

挿図番号 図版番号 遺物番号	形状分類	色調	素材	残存 状況	2次的加 熱の有無	観察事項	出土地点 出土層
第37図 図版30 9		青色	ガラス	良好	無	二次的な火熱を受けて玉の上部から下部が変形し、面が取られたような状態となる。 気泡痕が表面の上部に集中する。巻き付け技法で上位と下位の孔周縁部に微細な剥離痕や気泡痕がみられる。 サイズ: 長軸6.43mm、短軸6.17mm、厚さ5.31mm、重量0.34g。 孔径: 最大1.66mm、最小1.61mm。 製法: まきつけ。	B-16 SA27 直上覆土
" " 10	Ⅲ類	濃緑色	ガラス	良好	無	二次的な火熱を受けて玉の上端部と下端部が破損する。全体的に火熱により微細な罅割れが発生している。上下の孔の破損した面から観察するとガラスが層状に重なっていることから巻き付け技法であることが判明した。下部サイズ:長軸6.25mm、短軸6.20mm、厚さ4.19mm、重量0.23g。孔径:最大2.26mm、最小2.20mm。製法:まきつけ。	B-16 SA27 栗石内
" " 11		青色	ガラス	良好	無	側面観から観察すると溶解したガラスをそのまま巻き付け状態でガラスを切り離して製作している。分析を必要とするが、表面には銀色に輝く付着物がみられることからガラス素材に混和した苛性ソーダなどの成分が表面に現れたものとみられる。サイズ:長軸2.88mm、短軸3.01mm、厚さ2.46mm、重量0.02g。孔径:最大1.66mm、最小1.57mm。製法:まきつけ。	B-16 SA27 栗石内
" "	ラスの塊 溶解したガ	_	ガラス	_	_	紐などで連結されたガラス小玉が二次的な火熱を受けて溶解して再凝固した塊である。小玉は大半が溶けて灰褐色に変色しているが、僅かに緑色を帯びた玉もみられる。サイズ:縦長16.12mm、短軸13.36mm、厚さ8.72mm。重量3.11g。	B-16 SA27 栗石内 灰褐色 土層

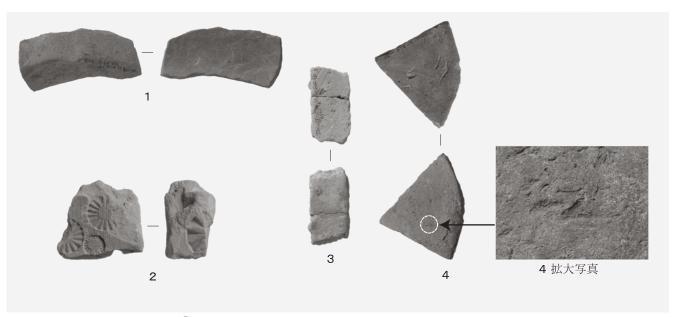


第37図 石積みSA27出土品⑨ 溶解銭貨の塊:8、ガラス玉:9~11、溶解したガラスの塊:12

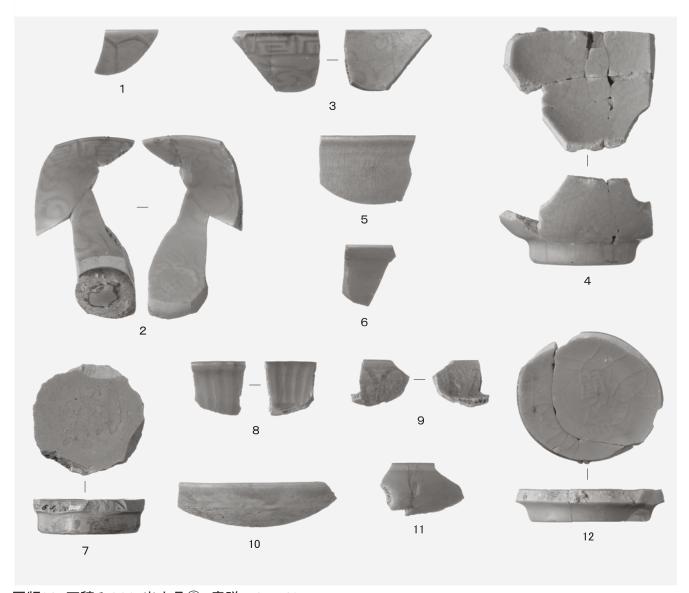
第65表 石積みSA27 出土遺物状況(図版外)

第65表	石積み	SA27 出:	土遺物		山版外											
	_			層序						B-16•17						
										SA27						
		<b>任</b> 田廷 /	izu (-l-z		_	第 程 土 層	栗 石 土直上	栗石内	第1層 ~第3層a 北側覆土 (植栽穴)	第1層a (北側 覆土)	第3層。	第 3 層 b	第 4 層 b	第 5 層 6	第 6 層	合計
陶質土器	器種不明	種類·器種·音	部位	<b>不</b> 服			上		(他秋八)		a	D	D	а	1	1
	<b></b>	合 計	山小小	1199		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
			灰色			U	3	4	0	1	0	0	1	3	1	12
		丸瓦	褐色	漆喰無	<b>禁し</b>		4	4	1	1	2		1	J		11
	高麗系	平瓦 (成形処理)	灰色	漆喰無	#L		-	1	0		1			0		1
		平瓦	灰色褐色	漆喰無	#L		5 1	29	3		1			3		41
	大和(古)	丸瓦 平瓦	灰色	漆喰無し			3	7 14		1				3		9 20
		丸瓦	灰色	漆喰有り(	片面)				1							1
	大和	7011		漆喰無				1								1
	平瓦 灰色 漆喰無し				2	2							4			
		軒平	赤色							1						1
屋瓦			灰色	漆喰有り(					3	1						4
	丸瓦   漆喰無し									1						1
	満角   漆喰有り(片面)							15	2	3					20	
			91· L	漆喰無					5	2						7
				漆喰有り(					10	2						12
	明朝系		灰色	漆喰有り(		1			7							8
				漆喰無					4						2	6
		平瓦	褐色 赤色	漆喰無し					7							7
				漆喰有り(両面) 漆喰有り(片面) 漆喰無し (片面、セメント)					2		5					7
								2	11		13				1	27
									2							2
				漆喰無				3	26	3	3					35
		合 計				1	16	67	99	14	27	0	1	10	3	238
			灰色	漆喰無し	角1				1							1
		形状不明a	人已		角無し				1							1
塼瓦	Ⅲ類	//24/(\1\0)1a	赤色	漆喰無し (セメント 付着)	角無し				1							1
		形状不明b	灰色	漆喰無し	角無し				1							1
	IV類(煉瓦		赤色	漆喰無し	角1				1							1
		合 計				0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
本土産 磁器	印判染付・ 印判			口縁部											h. 1	1
1241.00	近現	器種不明		胴部				1								1
		合 計	n-	Jerr		0	0	1	0	0	0		0	0	1	2
沖縄産 無釉陶器	壺or甕    胴部						1				1			1	3	
八八八四十四十百十	器種不明 胴部 合 計						0	-1		0	0	-1	0	0	2	1
	砂岩(北部地域)					0	- 0	1	0	0	0	1	0	0	1	2
石器	用途不明 細粒砂岩(ニービ)						2		1						1	3
	合計					0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	5
	細粒砂岩(ニービ)					0	6	10	2	0	2	0	3	6	6	35
石材	和極切着(ニーレ)						1	10					3	O	0	35
自然石	河原石						1		1	1						2
口以八日						0	7	10	3	1	2	0	3	6	6	
		会計 盗器・印判沈付・印判「 h・スタンプ )						10	3	1	4	U	J	U	-0	50

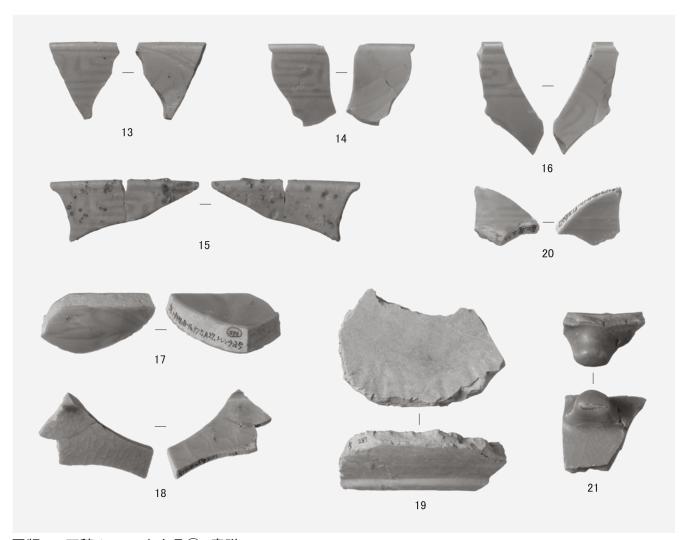
注 本土産磁器 印判染付:印判 [h:スタンプ]



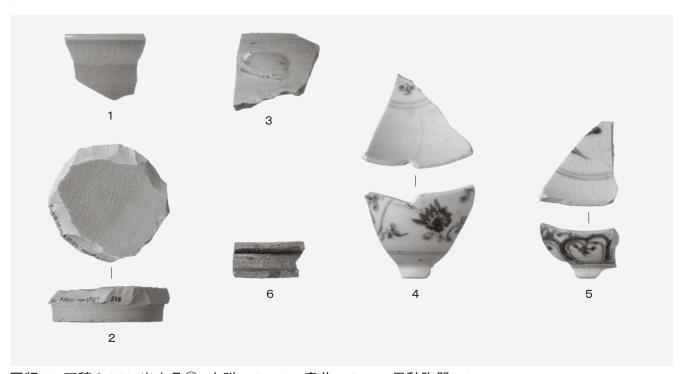
図版23 石積みSA27出土品① 土器:1、瓦質土器:2~4



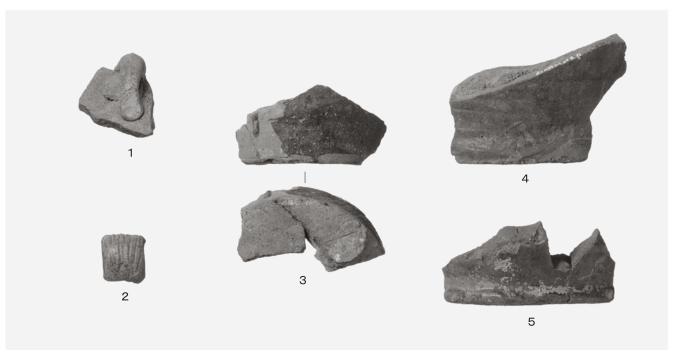
図版24 石積みSA27出土品② 青磁:1~12



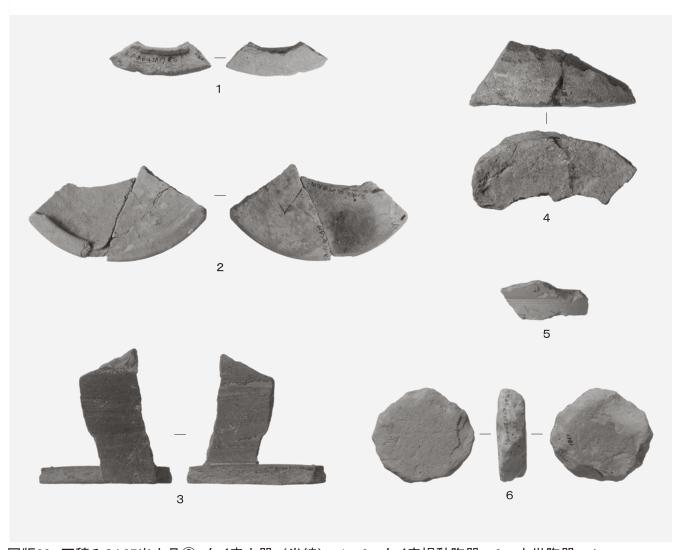
図版25 石積みSA27出土品③ 青磁:13~21



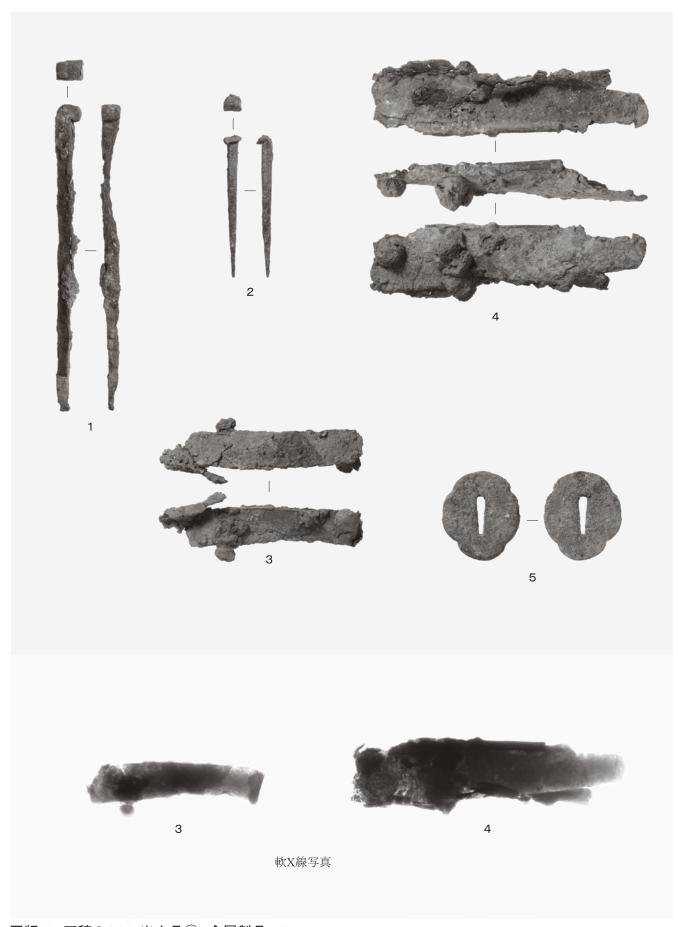
図版26 石積みSA27出土品④ 白磁:1~3、青花:4·5、黒釉陶器:6



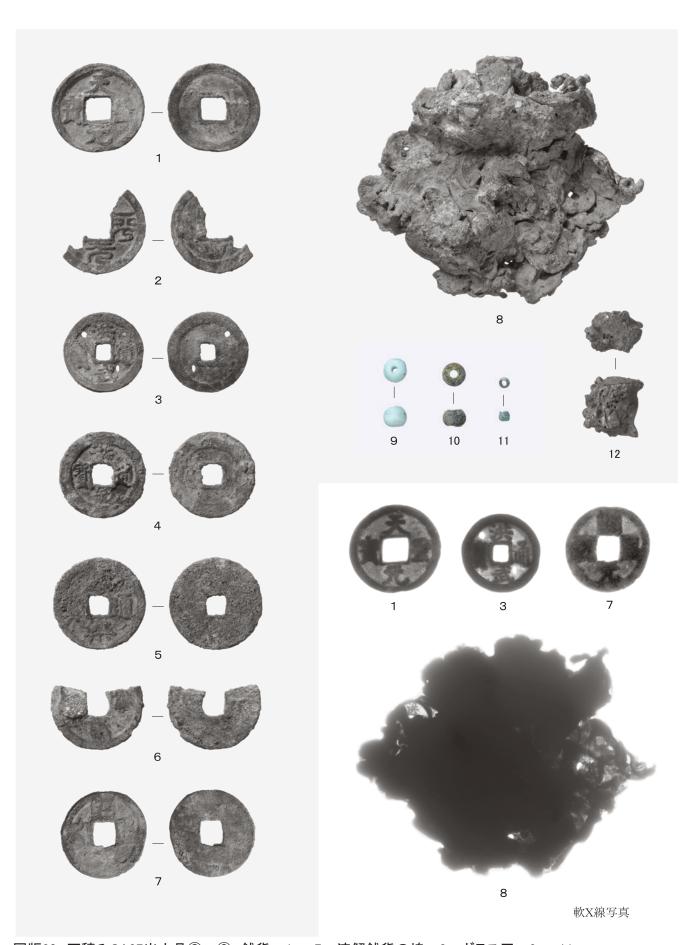
図版27 石積みSA27出土品⑤ 中国産褐釉陶器:1~5



図版28 石積みSA27出土品⑥ タイ産土器(半練):1・2、タイ産褐釉陶器:3、中世陶器:4、 沖縄産施釉陶器:5、円盤状製品:6



図版29 石積みSA27出土品⑦ 金属製品:1~5



図版30 石積みSA27出土品8・9 銭貨:1~7、溶解銭貨の塊:8、ガラス玉:9~11、溶解したガラスの塊:12

### (9) 石積み SA30 の出土遺物 (第38図、第66·67表、図版31)

石積み SA30 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で 70点 (≒100%) が得られている。 出土遺物の内訳は、土器 5点 (7.14%)、瓦質土器 1点 (1.43%)、瓦 2点 (2.86%)、青磁 8点 (11.43%)、白磁 4点 (5.71%)、中国産褐釉陶器 18点 (25.71%)、タイ産褐釉陶器 2点 (2.86%)、骨製品 1点 (1.43%)、金属製品 12点 (17.14%)、ガラス玉 9点 (12.86%)の 12種類が確認されている。輸入陶磁器 (タイ産、中国産)の占める割合は、48.57%であった。

当該遺構の時期を示す明確な資料は得られていない。出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から 比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第38図)した。

第66表① 石積みSA30 出土遺物状況

第66表①	<u>) 石木</u>	責みSA30	出土遺物	<u> </u>							
				層.	序			B-16			
					_			SA30			合計
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	種類·器種·部位		T les	第1層	トレンチ第3層b	第4層b	トレンチ第7層	表採	
土器	岩	器種不明			司部		5	^	0	0	5
瓦質土器	1 5	<b>器種不明</b>	合 計	Я	同部	0	5	0	0	0	5
<u> </u>	10	104年71791	合 計	/1	יום ויי	0	1	0	0	0	1
모모	Τ	高麗系		F 7	internal form		1	0	1		1
屋瓦	7	大和(古)	平瓦	灰色	漆喰無し				1		1
			合 計			0	0	0	2	0	2
				外反	有文		1				1
			口縁部	- , , , , ,	無文 外面:雷文·片切彫り		1				1
		碗		直口	外面: 苗又・万切彫り   内面: 有文				1		1
							1				1
			胴部				1				1
青磁		Ⅲ.	口縁部	外反	無文		2				2
			11/3/61	7100	外面:無文						
		盤	胴部		内面:蓮弁・丸箆		1				1
		盆金	加山山		外面:無文		1				1
					内面:蓮弁・櫛描		1				1
		大合子	口縁部		無文		1				1
	<del>                                     </del>		合計			0	9	0		0	10
			口縁部		<u>外</u> 反 直口		1		1		1
白磁		碗		Я	同部 同部		1 2				2
LI HAA				/I	<b>玄部</b>		1				1
			口縁部	,	内彎			1			1
			合 計			0	4	1	1	0	6
中国産		壺		<u> </u>	頁部				1		1
褐釉陶器				Я	同部	1	0	1	14	1	17
タイ産	T		合 計			1	0	1	15	1	18
タイ度 褐釉陶器		壺		月	同部				2		2
四个四个四个			- 合計			0	0	0	2	0	2
石材	T		細粒砂岩	(ニービ)			1	0	1	- U	2
*H-1/2]			合計	( )		0	1	0		0	2
骨製品	T		妻子の制・	作涂中		U	1	0	1	U	1
н ахии			合計	11 ~~ 1		0	1	0	0	0	1
	生工		先端部欠損	中	鉄		1				1
	産具	角釘			***						1
金	用類		頭部欠損	中	鉄		1				1
並 属	具・		鋲		青銅		1				1
製			八双金物		青銅		1				1
品	武具										1
			八双亚物了		青銅		1				1
	不分		用途不明		青銅		7				7
	明類		合 計				10				1.0
		Ⅱ類	百百			0	12 4	0	0	0	12 4
				F	ョ啕 青色	1	1				1
おニって		Ⅲ類		7.	k色		1				1
ガラス玉		IV類		-		1				1	
		V類	白濁				1				1
	<u> </u>	分類不明	A =1	7.	k色		1				1
			合 計			0	9	0	0	0	9

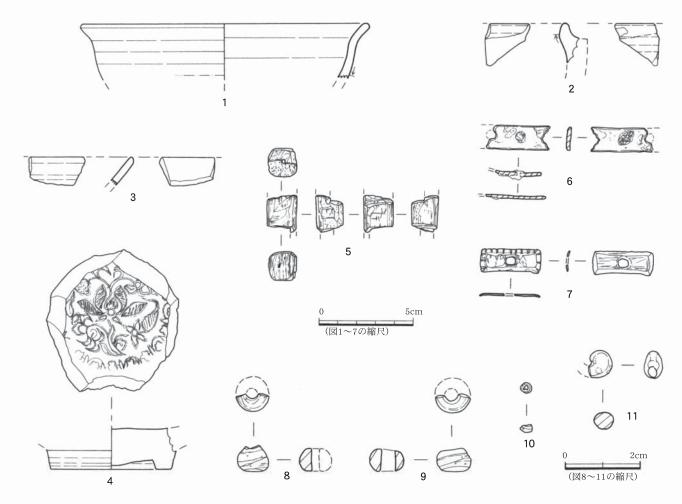
注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

# 第66表② 石積みSA30 二次的火熱溶解銭貨

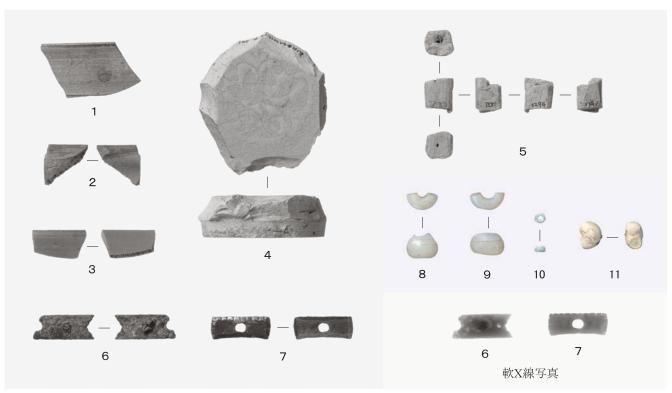
<u> </u>	2102211	***		
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
不明銭貨	4片	2.92	_	B-16 SA30トレンチ第3層b

## 第67表 石積みSA30 青磁・白磁・骨製品・金属製品・ガラス玉観察一覧

第67表	11 T.	貝のうい	430 F	f磁·日磁·骨製品·金属製品·カラス玉観祭一覧							
挿図番号 図版番号 遺物番号	名	称•仮称	∵•部位	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層						
第38図 図版31 1		口外碗	口縁部	器形:口径15.2cm。無文外反口縁碗。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、粗細な黒色鉱物と石英を多量に含む。 劈開面から微細な気泡痕が僅かに観察できる。 釉色:透明な黄緑色の釉を内面から外面胴部の途中まで施釉。 貫入:なし。泉州窯系。 14c後半~15c前半。	SA30 トレンチ 第3層b						
" " 2	青磁	大合子	身部の口縁部	器形:大合子の身部の口縁破片。外面が破損するが、蓋受けの部分(タガ)は外面から深く削り出している。削り出された部分は細かい擦痕が横走する。内面の口縁端近くにも同様の擦痕がみられる。文様:なし。素地:淡灰白色の粗粒子で、劈開面から微細な気泡痕が多く観察できる。釉色:透明な黄緑色の釉が内面にみられる。口唇端部が露胎する。貫入:内面に細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c後半~15c前半。	SA30 トレンチ 第3層b						
л л З		口禄而	口縁部	器形:直口口縁碗。文様:なし。素地:淡灰色の粗粒子で、微細な石英と黒色鉱物を少量含む。釉色:透明な黄緑色の釉が両面にみられる。貫入:なし。中国南部の窯。14c後半~15c前半。	SA30 トレンチ 第3層b						
" " 4	白 磁	外反口縁碗	底部	器形:底径6.4cm。無文外反口縁碗の高台破片。高台畳付を蛇の目状に成形する。高台内刳りは浅く、外底面中央が刳り抜きの際に盛り上がっている。文様:見込みの中央に牡丹文と周辺に唐草文を施す。素地:淡黄白色の細粒子で、劈開面から粗細な気泡痕がみられる。釉色:内面にのみ透明な淡灰色の釉がみられる。貫入:内面に粗細な貫入がみられる。福建省の窯。14c終末~15c初頭。	SA30 トレンチ 第3層b						
" " 5	骨製品		子の F途中	ウシの肋骨とみられる部位を賽子などの遊具として利用する目的で長方形状に加工したものであるが、制作途中で廃棄されたものとして考えられる。正面下端の右側突出部を平坦に削り取り際に途中で中断している。正面上部は裏面から平坦加工の削り取りを実施しているが途中で終了している。形状から類すると賽子を作成する予定が素材の海綿質の骨質部が出現した為、制作目的を別の用途に変更(下面に歪な扁楕円形の孔がみられる。下面の孔のサイズは長軸1.86mm、短軸0.93mmを測る。上面は海綿質の部分に方形状の孔を削り出しているが中断する。上面の孔のサイズは、長軸4.02mm、短軸3.42mmを測る)し、途中で放棄したものとみられる。各面に削りの際に生じた微細な段差や条痕がみられる。縦:19.9mm 横:15.5mm 厚さ:14.0mm 重量:3.6g。	SA30 トレンチ 第3層b						
" " 6	武具・	八ヌ	又金物	左側は孔(直径4.83mm)の部分から欠落している。右側を魚尾鰭状に抉っている。表裏面の中央寄りに鋲の身部が残存する。緑青により鍍金は残っていない。残存長(縦):12.5mm、残存幅(横):32.9mm、最大厚:1.88mm、最小厚:1.59mm、重量:3.6g。	B-16 SA30 トレンチ 第3層b						
,, ,, 7	青銅製品	八双	金物?	八双金物か、若しくは調度品などの飾り金具とみられる。平面観は歪な長方形状を呈する。外面から 内側に向かって上下左右の縁近くを軽く折り曲げて、上位と左右の縁沿いに鏨で刻みを入れて菊花 状に成形する。中央に歪な隅丸方形の孔(サイズ:長軸5.48mm、短軸4.51mm)を内面から開けてい る。緑青の発生防止を兼ねた鍍金が施されいるが大半が剥落する。残存長(縦):12.7mm、残存幅(横): 32.0mm、最大厚:0.94mm、最小厚:0.75mm、重量:2.1g。	B-16 SA30 トレンチ 第3層b						
" " 8		г	I類	玉の1/2強が縦方向にわれた資料である。破損面が磨面様の平坦であることと縁辺部に角が無く丸味を帯びている事などから再利用(飾りとして嵌め込む為に加工)を兼ねて破損面や縁辺部に研磨を加えた可能性が高い。上面に巻き付けた後に切り離しの際に生じた微細な突起が残っている。下面は丁寧に成形されている。形状分類:Ⅱ類。色調:白濁。素材:ガラス。残存状況:脆い。二次的加熱の有無:無。サイズ:長軸推定9.40mm、短軸9.00mm、厚さ6.04mm、重量:0.23g。孔径:最大推定3.30mm、最小推定2.95mm。整法:巻き付け。	B-16 SA30 トレンチ 第3層b						
" " 9	ガラス玉	I	I 3 <u>4</u>	玉の1/2強が縦方向にわれた資料である。破損面と縁辺部に研磨を加えたようであるが研磨が徹底せず破損面の側面観が「ヘ」の字状となる。外面の大きな気泡痕の窪みの周辺には微細な線状痕がみられる。当該製品も再利用(飾りとして嵌め込む為に加工)を兼ねて破損面や縁辺部に研磨を加えたようである。上面と下面は巻き付け丁寧に成形されている。形状分類:II 類。色調:白濁。素材:ガラス。残存状況:良好。二次的加熱の有無:無。サイズ:長軸推定9.45mm、短軸推定9.17mm、厚さ5.78mm、重量:0.32g。推定孔径:最大3.8mm、最小3.40mm。整法:巻き付け。	B-16 SA30 トレンチ 第3層b						
" " 10	_15	П	I類	二次的な火熱を受けて表面が白濁し、外面に粗細な気泡痕が観察できる。巻き付け成形も上下の面とも丁寧に平坦に成形されているが、孔の平面形状が歪な隅丸三角形状(長軸1.29mm、短軸1.07mm)となる。形状分類:Ⅲ類。色調:青色。素材:ガラス。残存状況:脆い。二次的加熱の有無:有。サイズ:長軸2.99mm、短軸:2.69mm、厚さ1.57mm、重量:0.01g。孔径:最大1.25mm、最小0.63mm。整法:巻き付け。							
" " 11		V類		ガラス製品加工時に発生した不用となった廃材、若しくは飾金具から外れたガラス製品などが考えられるが判然としない。平面観が勾玉の尾が折れた形状となるが二次的な火熱を受けて表面が白濁する。表面には粗細な気泡痕が少量みられる。その他に炭化した黒色物質の付着が観察できる。形状分類: V類。色調:白濁。素材:ガラス。残存状況:良好。二次的加熱の有無:有り。サイズ:長軸7.17mm、短軸5.20mm、厚さ4.76mm、重量0.21g。整法:巻き付け。	B-16 SA30 トレンチ 第3層b						



第38図 石積みSA30出土品 青磁:1・2、白磁:3・4、骨製品:5、金属製品:6・7、 ガラス玉:8~11



図版31 石積みSA30出土品 青磁:1・2、白磁:3・4、骨製品:5、金属製品:6・7、 ガラス玉:8~11

## (10) 石積み SA27・30 の出土遺物 (第39 図、第68・69 表、図版32)

石積み SA27・30 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で82点(≒100%)が得られている。

出土遺物の内訳は、土器 2 点 (2.44%) 、瓦類 24 点 (29.27%) 、青磁 12 点 (14.63%) 、中国産褐釉陶器 27 点 (32.93%) 、タイ産褐釉陶器 4 点 (4.88%) 、ガラス玉 3 点 (3.66%) の 10 種類が確認されている。輸入陶磁器 (タイ産、中国産) の占める割合は、52.44%であった。

当該遺構の時期を示す資料は得られていない。出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第39図)した。

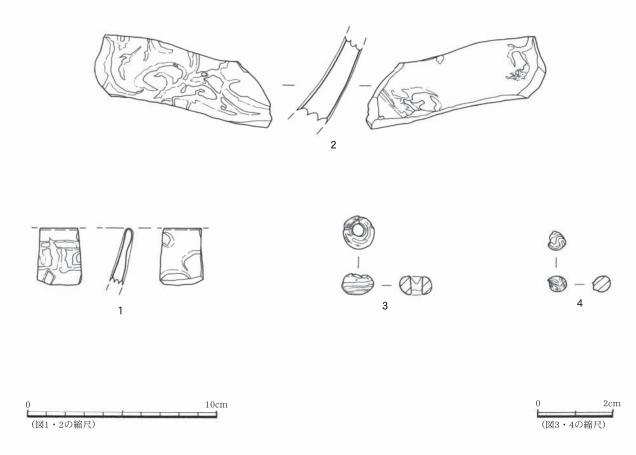
## 第68表 石積みSA27·30 青磁・ガラス玉観察一覧

	H 120. 7 cm. 12.			1114111			
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称·仮称·部位			観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)			
第39図 図版32 1	青磁		口縁部	器形:直口口縁碗。文様:外面口縁に片切彫りで時計回りの雷文と反時計回りの雷文 を単独で描いている。雷文直下にも片切彫りで刻花文とみられる文様を描く。内面にも 刻花文を片切彫りで描いている。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡緑色の釉が両面 にみられる。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。			
" " 2			胴部	器形:大鉢の胴部片。文様:外面に片切彫りで牡丹唐草文とみられる文様を描く。内面にも刻花文を片切彫りで描いている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子であるが、微細な気泡痕が少量ながら観察できる。釉色:淡緑色の釉が両面にみられる。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	B-16 SA27·30 遺構内表採		
,, ,, 3	ガー	Ⅱ類 ガ ラ ス 玉 V類		二次的な火熱を受けて器面全体が剥離し、本来の形状を失っている。孔内部には別個体のガラスが溶けて塞がっている。形状分類:Ⅱ類。色調:白濁。素材:ガラス。残存状況:脆い。二次的加熱の有無:有。サイズ:長軸8.41mm、短軸8.20mm、厚さ5.13mm、重量0.19g。孔径:2.85mm。製法:巻き付け。	B-16 SA27•30 第5層		
" " 4	ス			平面観の形状からするとガラス製品加工時に発生した滴状(滴下滓状)の廃材かと考えられる。二次的な火熱を受けて表面には白濁や剥離がみられる。その他に表面には粗細な気泡痕が少量みられる。その他に炭化した黒色物質の付着が劈開面から観察できる。形状分類: V類。色調: 白濁。素材:ガラス。残存状況: 脆い。二次的加熱の有無: 不明。サイズ: 長軸4.39mm、短軸4.28mm、厚さ4.12mm、重量0.10g。	B-16 SA27•30 第5層		

第69表 石積みSA27·30 出土遺物状況

第69表	石積	責みSA	27·30 ¦	<u> </u>		]	1								
			_		層序					B-16 ·					
							第2層e	第3層b	第5層	第5層b	第6層	第6層	遺構内	壁面	合計
	_		·類·種類·器	種·部位			(客土)	(撹乱)	弗 <sup>3</sup> 層	第3層 D	(撹乱)	<b>第0</b> 層	表採	清掃	
土器		壺 重不明			頸部 胴部		1	1							1
	石合作里	2/1/97	合 計	•	메디다		1	1	0	0	0	0	0	0	
		del -75		灰色 漆喰		食無し	2								2
	同)	麗系	平瓦	褐色		食無し	2								2
			丸瓦	灰色		食無し	1 1								1
	大	で和	平瓦	灰色		漆喰有り(片面) 漆喰無し									1
屋瓦				灰色		良無し 食無し	1								1
			丸瓦			<u> </u>	1								1
	明』	朝系		赤色	漆	食無し	2								2
			平瓦	赤色		「り(片面)	6								6
						食無し	6	2					0		6
塼瓦	П	I類	合 計 形状不明b		漆喰無し	角1	23	0	0	0	0	0	0	0	23 1
净儿	Ш	1 75H	形状不明 b 計		お下、民無し	円1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
				外反	蓮弁	その他							1		1
	1	碗	口縁部	直口	外面:雷	文・片切彫り			1						1
		胴部		世日 内面:刻れ 有3		三文・片切彫り			1					1	
	大碗	ior鉢	胴部	雷文									1	1	1
	7 (1)	LOI DT	胴部									1	1		1
± 1744	Ш.		胴部		部:内、外面										
青磁			~底部		底部:有7		1								1
			底部	不明		台のみ						1			1
	力	\ <u> </u>	口縁部	直口		無文							1		1
	酒:	会壺	胴部		有文不 (真底)	明	1		1	1					2
	1.41					 文・片切彫り	1								
	大	(鉢	胴部		面:刻花文								1		1
			合 計	•			2	0	2	1	0	2	4	1	12
中国産 褐釉陶器	1	壺			胴部		19				1	1		6	27
ТФ/диреуни			合 計	•			19	0	0	0	1	1	0	6	27
タイ産	į	壺			胴部		3							1	4
褐釉陶器			合 計	•			3	0	0	0	0	0	0	1	
沖縄産	,	鉢	н н		胴部									1	
無釉陶器	3	野科			세미 메		1								1
円盤状			合 計 中国	· 産褐釉	海器		1	0	0	0	0	0	0	0	1
製品				産無釉			2								2
			合 計				3	0	0	0	0	0	0	0	3
	工具	丸釘	先端+		中	鉄	1								1
	具 類 _	J □ ₽ I	頭部欠	損	1	201									
金			 完形		中	鉄	1								1
属制	生産	角釘				-21									
製品	用		先端+		中	鉄						2			2
	具		頭部欠		*										
	武器		砲弾片			青銅 鉄	1								1
						於人	4	0	0	0	0	2	0	0	
			Ⅱ類			白濁			1						1
ガラス玉	V類				白濁			1						1	
	不明 淡青色					0		1						3	
	合計							0	3	0	0	0	0	0	3

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)



第39図 石積みSA27・30出土品 青磁:1・2、ガラス玉:3・4



図版32 石積みSA27・30出土品 青磁:1・2、ガラス玉:3・4

### (11) 石敷き SS01 の出土遺物 (第40 図~第52 図、第70表~第90表、図版33~図版43)

石敷き SS01 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で1,554点(≒100%)が得られている。

出土遺物の内訳は、陶質土器 8 点 (0.51%) 、土器 4 点 (0.26%) 、瓦類 屋瓦・塼瓦 652 点 (41.96%) 、青磁 47 点 (3.02%) 、青花 10 点 (0.64%) 、華南彩釉陶器 6 点 (0.39%) 、中国産褐釉陶器 410 点 (26.38%) 、沖縄産無釉陶器 27 点 (1.74%) 、沖縄産施釉陶器 42 点 (2.70%) 、タイ産 (土器) 2 点 (0.13%) 、本土産磁器 43 点 (2.77%) 、貝製品 1 点 (0.06%) 、円盤状製品 3 点 (0.19%) 、金属製品 81 点 (5.21%) 、銭貨 52 点 (3.35%) 、の 26 種類が確認されている。輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、35.33%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として比定される資料は、青花碗(第43図3)・青花小碗(第45図4)、華南彩釉陶器(同図6・7)などがある。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第40図~第52図)した。

## 第70表 石敷きSS01 陶質土器·瓦質土器出土状況

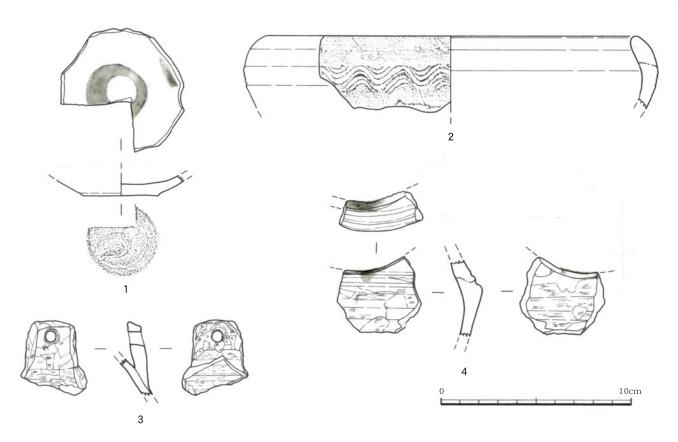
		層序		C-11	
				SS01	合 計
種類	質・器種・部位		第1層	北側第4層b	
	鉢	胴部		2	2
P-6-	水鉢	口縁部		1	1
陶	鍋	耳	1		1
質土	邓印	胴部	1		1
器	急須	把手	1		1
,	火炉	胴部		1	1
	灯明皿	底部		1	1
	合 計		3	5	8

70					
		層序		C-11	
				SS01	合計
種类	頁·器種·部位		第1層	北側第4層b	
	鉢	口縁部	1		1
	业	底部		1	1
瓦質土	植木鉢	口縁部		1	1
十	火鉢or炉	口縁部		1	1
岩	茶壺	口縁部	1		1
	蓋			3	3
	器種不明	胴部		1	1
	合 計		2	7	9
	合 計		2	7	9

### 第71表 石敷きSS01 陶質土器観察一覧

単位:cm

713			1-02-		±11.cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第40図 図版33 1	灯明皿	底部		器形:ベタ底の皿で、内面に煤が付着することから灯明皿として判断できる。外底面に反時計回りの糸切り痕が顕著にみられる。文様:なし。器面調整:内外面に回転擦痕がみられる。外面の調整は雑で内面が丁寧に仕上げている。素地:明橙色の細粒子で、微細な石英や黒色の物質が多くみられる。僅かながら微細な雲母や粗い黒色の物質がみられる。色調:表裏面とも明橙色を呈するが、内面の見込み部分に輸状の煤痕、胴部にも煤痕がみられる。焼成:良好で堅い。	SS01 北側 第4層b
л л 2	水鉢	口縁部	19.6	器形:内湾口縁の水鉢(俗称:ミジクブサー)で、口唇部を舌状に尖らせて成形する。文様:外面胴上部に7本櫛で波状文を描く。器面調整:内外面に回転擦痕がみられる。素地:淡黄色の細粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)が多くみられる。僅かながら微細な雲母や粗い茶褐色の物質がみられる。色調:表裏面とも淡黄色を呈する。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b
,, ,, 3	急須	把手		器形: 轆轤成形の急須本体に貼り付けられた固定の把手で、正面観が歪な梯形状の型枠に陶土を押し込んで成形している。固定把手の上部には、可動把手が取り付けられる孔がある。孔のサイズは、外面の孔が直径6.10~6.74mm、内面の孔は直径5.93~6.24mmを測る。孔は外側から穿っている為、外面の孔周辺が窪んでいる。文様:なし。器面調整:外面は身部を貼り付ける際に生じた横位のナデや雑なナデが施されている。両側面及び上面にナデが部分的にみられる。内面は孔周縁部に雑な指圧痕がみられ下半分は横位のナデがみられる。身部の内面には轆轤痕が顕著にみられる。素地:淡橙色の細粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)や微細な雲母が少量観察できる。色調:表裏面とも淡黄色を呈する。焼成:良好で堅い。	SS01 第1層
" " 4	火炉	胴部	_	器形:口縁部が内傾する火炉。当該製品は轆轤成形と文様施文後に口縁部を半円状に篦状の工具で抉り取って新たな口唇部を造る。半円状に抉られた部分に煤が付着する。文様:口縁部と肩部にかけて幅2.8mmの丸篦状の工具で界線を二条施す。器面調整:外面は内面よりも丁寧でナデを主体として調整する。内面には回転擦痕がみられる。素地:淡橙色の細粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色、黒色)が多くみられる。僅かながら微細な雲母や粗い茶褐色の物質がみられる。色調:外面が黄褐色で、内面が茶褐色を帯びている。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b



第40図 石敷きSS01出土品① 陶質土器:1~4

## 第72表① 石敷きSS01 瓦質土器観察一覧

単位:cm

为 / 2 1 (1)	<u> </u>	放こ	<del>,</del>	以其工价既尔 見	単似:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第41図 図版34 1	植木鉢	口縁部	_ _ _ _	器形:内湾口縁の植木鉢で、口唇部を幅広く成形する為、内面の口縁端近くが突出する。文様:口縁部の凸帯に指圧を上下に加えて波状文とする。口唇部の中央寄りに指圧による陽圏線を施す。器面調整:両面とも器面の保持が悪いが、丁寧なナデ調整が施されていたようである。素地:灰黒色の粗粒子で、粗細な石英や黒色鉱物が少量含む。稀に粗い茶褐色の鉱物がみられる。劈開面から微細な気泡痕が多くみられる。色調:両面とも明茶色を帯びる。焼成:良好で堅い。	SS01 北側 第4層b
" " 2	鉢	底部		器形:底面からの立ち上がりが外側に軽く傾いた状態で直線的に開く鉢(植木鉢、こね鉢、擂鉢)の底部破片。文様:なし。器面調整:外面は丁寧な篦削り、外底面は器面の保持が悪く不明。内面も器面の保持が悪いが回転擦痕をナデ消している。素地:灰褐色の粗粒子で、粗細な黒色鉱物が少量含む。劈開面から微細な気泡痕が多くみられる。色調:両面とも黒褐色を帯びる。外底面は灰色を呈している。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 3	火 鉢 or 炉	口縁部	_ _ _	器形:内湾口縁の火鉢or炉が考えられる。口唇部に丸味を持たせて成形する。輪積み痕が外面から観察される事から輪積み成形。文様:内面の口唇から下、35.16cmの箇所に丸彫りの工具で横位に沈線が2条観察できる。器面調整:外面に雑な指ナデを施すため、輪積み痕が消えきっていない。口唇部および内面は外面よりもやや丁寧にナデを施すがナデは徹底しない。素地:淡橙色の粗粒子で、細かい石英と黒色鉱物が少量含む。稀に粗い石英がみられる。色調:両面とも明茶色を主体とする。口唇部は暗褐色を基調とするが部分的に煤けて帯びる。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 4	茶	口縁部	8.9 	器形: 肩部で内側に折れて強く屈曲(水平)させた後に更に頸部で垂直に立ち上がる。所謂肩衝(かたつき)茶入れ(註1)に近似する器形が想定される。肩衝茶入れを模倣した可能性が高いが、取り敢えず一般的な茶入れとするには口径が大きいので茶壷として報告する。文様: 胴部に幅の異なる丸彫りの界線が三条施されている。器面調整: 内面は轆轤痕をナデ消すが消えきっていない。外面は胴部から頸部近くまで丁寧に水ナデを加えて成形するが、頸部から口縁部には回転擦痕がみられる。口唇部は微弱に起伏がみられ、雑な回転擦痕で終了している。素地: 灰色の粗粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色)や粗い茶褐色の物質がみられる。その他に巻貝の圧痕がみられる。貝殻サンプルと照合した結果、フトヘナタり科のカワアイ(河口干潟ーマングローブ域 潮間帯中・下部 礫/砂/泥底)と判明した。色調: 外面が艶のある明茶色で、内面が明橙色を帯びている。焼成: 良好で堅い。	C-11 SS01 第1層

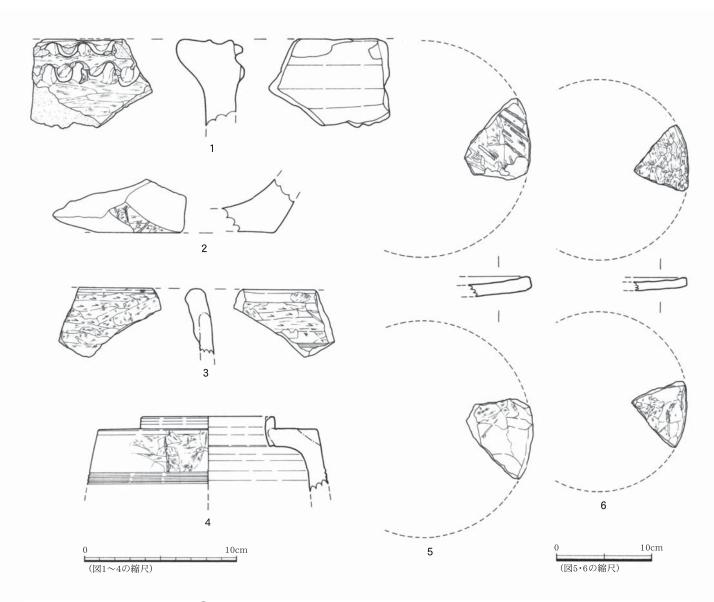
## 第72表② 石敷きSS01 瓦質土器観察一覧

-1-			
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第41図 図版34 5	蓋	円盤状の型枠に陶土を入れて作成された蓋。タイ産や中国産の大型褐釉陶器壷などの蓋として利用されたものである。外周縁辺部には型枠からはみだした陶土が使用時に潰されている。器面調整:上面は植物(稲藁)の茎を潰した状態で一定方向からナデを加えた為、粗密な幅広の線条痕を施した後に雑な指ナデを加えて終了している。下面は型枠に陶土が入る面で微弱な起伏を持った平坦面である。下面および劈開面には籾殻圧痕(下面籾殻のサイズ:長軸7.13mm、短軸2.11mmを測る。)がみられる。胎土:泥質で細かい。混入物:粗細な茶褐色の物質が僅かに含まれる。稀に粗い石英や微細な雲母がみられる。色調:上面は黄茶色、下面が灰白色を帯びるが、部分的に暗褐色となる。推定復元直径22.8cm、器厚11.55~13.91mm。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 6		"。"。"。 "。器面調整:上面は粗雑な指ナデを主体的に施し、縁沿いには刷毛目様のナデがみられる。下面は型枠に陶土が入る面で全体的に陶土の皺(陶土をそのまま押し込んだ状態)が観察できる。部分的にナデがみられる。上面には籾殻圧痕(籾殻のサイズ:長軸5.14mm、短軸1.96mmを測る。)がみられる。胎士:泥質で細かい。混入物:粗細な石英と細かい茶褐色の物質が僅かに含まれる。色調:上面は茶白色で、下面が暗褐色を帯びる。推定復元直径18.8cm、器厚8.56~11.57mm。	C-11 SS01 北側 第4層b

注「一」:計測不可

### 註文献

註1-a、岡田嘉一・矢部良明『日本陶磁大系 16 薩摩』平凡社 1989年11月刊行収録の堅野窯系の17世紀前半肩衝茶入(高さ8.3cm)と器形が近似。 註1-b、吉戸 直『沖縄の古陶』古美術 観宝堂 2002年9月刊行の壺屋焼の19c前半~中葉の飴釉肩衝茶入(口径3.2、高7.0、底径4.7cm)と器形が近似。



第41図 石敷きSS01出土品② 瓦質土器:1~6

第73表 石敷きSS01 屋瓦·塼瓦出土状況

PE	_				層序				C-11		
# 日本			新水. //*				笠1屋			乙數市經郊公	合言
					漆喰無し		カ1/官	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4 放胆工	4 放果	
大和(古)   東京   次色   赤岐無し   2   1   1   1   1   1   1   1   1   1		高麗系						2			
大和(古)   大和		– .		火色	灰色   徐唄悪し						
	İ			F: 72	Saks n A. Amr. 1		2	1			
大和   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一		大相(百)	平瓦	灰色			3	14			
大和	Ī			褐色							
大和   平元   下代   下代   下代   下代   下代   下代   下代   下			+ F		漆喰有り(片)	面)	1	6			
平瓦   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下		- <del>L</del> -∓n	→ LDL		漆喰無し		2				
接換性   1   1   1   1   1   1   1   1   1		八和		灰色				1			
(京の 中央			平瓦			面)		1			
野京   野京   野京   野京   野京   野京   野京   野							4				
特別							1				
単元				灰色		面)		1			
野朝系   京成日の(中間)			車F 力。					1			
下水不明    下水下明    下水下    下水下  下水  下水			1125		漆喰有り(両	面)					
野東				赤色		宜)					
中国						<i>T</i> ^\	1				
明朝系	至凡		ਜ਼ਿਲ ਹਨ	火色				2			
明朝系			₽†- <u>\</u>	赤色		囯)					
明朝系   大元   大元   大元   大元   大元   大元   大元   大						<i>√</i> ; \	2				
明朝系				反布			10			1	
Ba				灰色		且/					
Re		明朝系	4 F.			石)	10	34			
本色			Λι ΣL	褐色		ш/		Q		1	
下央   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下央						新)	5			1	
P		_		赤色		ш/					
F						哲)			3	4	
平瓦   「本産   下水不明   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下				灰色						1	
平瓦						ш/				7	_
Part		<del></del>	10.6		面)	00					
Part			半丸	褐色	漆喰無し		2			3	
Figure					漆喰有り(両面) 漆喰有り(片面)				_		
日類				赤色			10	20	5		
II類					漆喰無し		13	37	1	2	
II 類			合 計				136	373	38	27	5
Fix		Ⅱ類	<del>-</del>	灰色   漆喰無し							
Aa		11 //	<del>-</del>		IN KMO		2				
Aa   添食   添喰無し   角1   2   1   1   1   1   1   1   1   1				灰色				2			
Ba			Aa	7.0	漆喰無1	角無し					
Ba   灰色   漆喰無し   角1   1   1   1   1   1   1   1   1			1 100	赤岳	100 KW						
下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明b   下央   下状不明b   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下央   下						角無し		2			
下形状不明a   下形状不明a   下形状不明a   下形状不明a   下形状不明a   下形状不明b   下戶   下戶   下戶   下戶   下戶   下戶   下戶   下			Ra		漆喰無1	鱼1	1				
形状不明a   形状不明a   下形状不明a   下形状不明a   下形状不明b   下形状不明a or 形状不明b   下形状不明b   下形状不明a or 形状不明b   下形状不明b   下形状不明a or 形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下形状不明b   下色   下形状不明b   下形   下形   下形   下戶色   下午   下戶色   下戶   下戶   下戶   下戶   下戶   下戶   下			Da	赤色	14"RMU			1			
下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明a   下状不明b   下表色   下去色   下去				灰名							
東瓦   III類			形狀不明。		漆哈無			4	1	2	
III類			7124/X:1:191a	- 赤石	水"及ぶし						
III類	車口.			₩, □		角無し	3	7			
形状不明b	ناسر و.	Ⅲ類				—— 毎1					
形状不明b   (セルト付着)   角無し   1   10		//d				77.1	1	3			
形状不明b				灰色			1			_	
形状不明b						角無し					
赤色   添喰有り(両面)   角1			形狀不明b				1	10			
赤色   赤色   赤色			11.07 L.0310		漆喰有り(両面)			1			
ボセ   カエ   カエ   カエ   カエ   カエ   カエ   カエ   カ					漆喰有り(片面)		1				_
				赤色	~ 11 × V/1 III/						
カ無し   1 4   1					漆喰無1		1				
不明     灰色     漆喰無し     角無し     1       唐瓦     W類     -     赤角     漆喰無し     角2     1							1	4			
南瓦   W								1			
			不明	灰色	漆喰無し	角無し		1			L
11794	歯 ラー	17/米百	_	赤色	漆哈無1			1			
合計 22 52 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	水止	1 7 大只			12代"及無し	角無し	1				

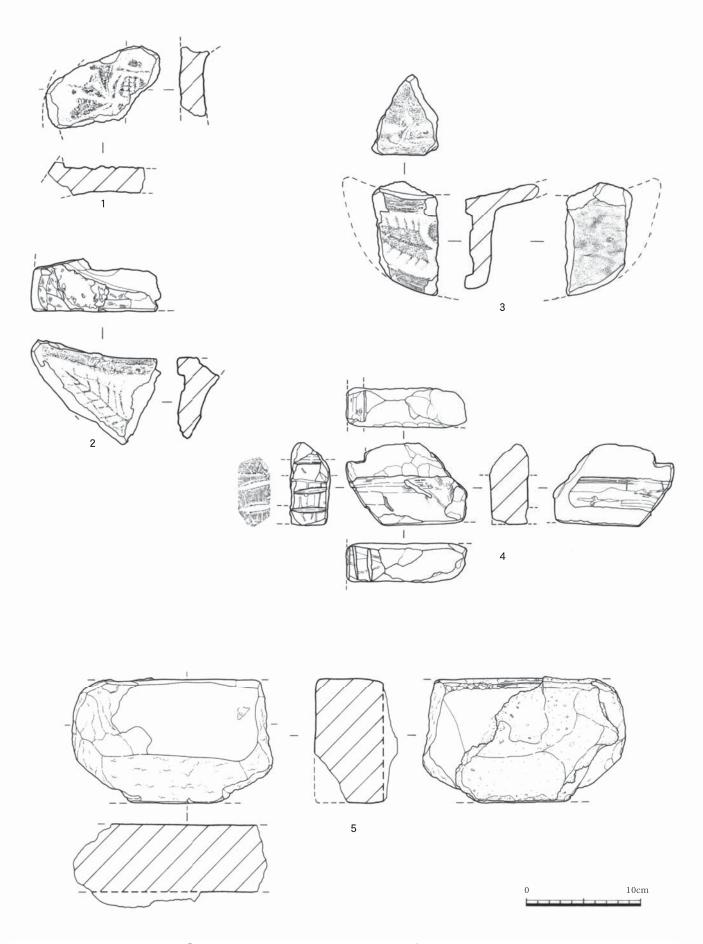
## 第74表 石敷きSS01 屋瓦・塼瓦・煉瓦観察一覧

単位:cm

弗 / 4衣	H //// C -	SUI ELI PAI PAI RALLAS EL	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称• 部位	観察事項	出土地点 出土層
第42図 図版35 1	屋瓦· 明朝系· 軒丸瓦· 瓦当	軒丸瓦の瓦当部の破片で、丸瓦の凸面と瓦当面の継ぎ足し部分(接合部分)から破損している。瓦当部の外周縁は破損により外周縁の幅は不明である。瓦当文様は牡丹花文と珠文を施した瓦型から起こしているが、丸瓦との継ぎ足しの際に瓦当文様を逆さまにした状態で接合したようである。上原静分類の第 I 文様系B式(IBa01灰色)の範疇(註1)にある。器面調整:裏面は刷毛目様のナデを主体にして部分的に指圧を施す。器厚:21.69~22.74mm。胎土:泥質で粗い。混入物:微細な石英が多くみられ、稀に粗い茶褐色の物質が含まれている。色調:外面は淡茶灰色で、内面が灰白色。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 2	屋瓦· 明朝系· 軒平瓦· 瓦当	軒平瓦の瓦当部の破片で、平瓦の凹面が僅かに瓦当に取り付いている。瓦当部の上辺外周縁の幅は11.07~15.62mmを測る。左辺外周縁は破損のため不明である。瓦当文様は葉のみが残存する。上原靜分類の第Ⅲ文様系B式(ⅢBa01灰色)の範疇(註1)にある。器面調整:裏面は主に平瓦接続部分は平瓦と平行するようにナデが施されている。その他に雑なナデと指圧がみられる。平瓦の凹面部分は瓦当と平行する雑な箆ナデが主体で部分的に指ナデでナデ消している。平瓦た側面にも雑な箆ナデとナデがみられる。平瓦の凹面と瓦当の一部には漆喰が付着する。器厚:瓦当面は9.15~22.03mm、平瓦が16.80~18.46mm。胎土:泥質で粗い。混入物:微細な鉱物(石英、黒色)が多くみられ、稀に粗い灰色や茶褐色の物質が含まれている。色調:外面は灰白色で、内面が淡茶灰色。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 3	屋瓦· 明朝系· 軒平瓦	"。瓦当部の上辺外周縁の幅は11.97mmを測る。下辺外周縁の幅が9.92~10.85mmを測る。瓦当文様は花弁(丸文が半円状に残る)と葉のみが残存する。上原靜分類の第Ⅲ文様系B式(ⅢBa01赤色)の範疇(註1)にある。器面調整:裏面は瓦当縁沿いと平瓦の凸面に沿うよう刷毛目様のナデが施されている。平瓦凸面は丁寧なナデがみられる。平瓦凹面には布目圧痕と桶板留紐痕がみられ、部分的に雑な削りとナデがみられる瓦当裏面と平瓦凸面には漆喰が部分的に付着する。器厚:瓦当面は12.54~17.12mm、平瓦が14.18~15.15mm。胎土:泥質で細かい。混入物:微細な鉱物(石英、黒色)が僅かにみられる。稀に粗い茶褐色の物質が含まれている。色調:外面は明橙色を基調とするが、全体的に石灰分の付着がみられる。内面及び平瓦が淡橙色。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 第1層
" " 4	塼瓦	屋根用の下駄状の突起を有した塼(註2)。下駄状の突起部のみが残存する。下駄状突起の下端部で小突起を造るが、小突起の部分で欠落する。下駄状突起の側面は「L」字状となるようである。下駄状突起の左側面は篦削りで斜位に成形され、左側面には屋根に塼を敷並べる際の番号とみられる漢数字の「二」が篦状工具で深く刻まれている。下駄状突起の幅は、30.48~32.97mmを測る。上原靜分類のIV式の範疇(註1)にあるが、下駄状突起を斜位に成形する点などから考えると、新たなタイプとして設定が可能かもしれない。器面調整:下駄状突起の正面は篦削りをナデ消すが徹底していない。裏面は顕著な篦削りで調整する。下駄状突起の下面は篦削り後に丁寧なナデ消しを加えたようである。胎土:泥質で細かい。混入物:微細な石英が少量含まれ、稀に粗い茶褐色の物質が含まれている。色調:内外面とも黒褐色を帯びる。焼成:良好で堅い。	C-11 SS01 第1層
" " 5	煉瓦	近現代の煉瓦(平面観が長方形状となるが、正面の下半分と左右が欠落する)とみられるもので、裏面にモルタルが厚く(5.45~15.56mmを測る)塗布されているが厚みに無駄がみられる。器面調整:型枠成形で、裏面及び上下の側面が型枠に入る面となる。上側面には緻密な刷毛目が丁寧に施されている。下側面は微細な起伏があることから、篦削り後にナデ消しを行うが部分的に器面の一部が削られて素地が露胎する。裏面は型枠の底面にあたる平坦面であるが、横断面から観察すると微弱に中央で浅く窪んでいる。正面は型枠に陶土を詰め込んだ面であり、型枠からはみ出した陶土を上から下に向かって削り取っているが、中央寄りで陶土が微弱に盛り上がっている。胎土:砂質で粗い。混入物:粗細な石英を多量に含んでいる。稀に粗い黒色の物質がみられる。劈開面から植物の茎(タケやススキなど)の圧痕(直径3.22mm)がみられる。色調:各面とも明橙色を帯びる。焼成:悪く脆い。	C-11 SS01 第1層

### 註文献

- 註1. 上原 靜「沖縄諸島における琉球瓦の再編年」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』第11巻 第2号 通巻第14号 沖縄国際大学総合学術学会 2008年1月。
- 註2. 上原 靜「琉球の塼と煉瓦」『南島考古』第30号 沖縄考古学会 2011年5月。



第42図 石敷きSS01出土品③ 瓦類:屋瓦:1~3、塼瓦:4、煉瓦:5

## 第75表 石敷きSS01 青磁・青花・彩釉陶器・中国産褐釉陶器・タイ産土器(半練)出土状況

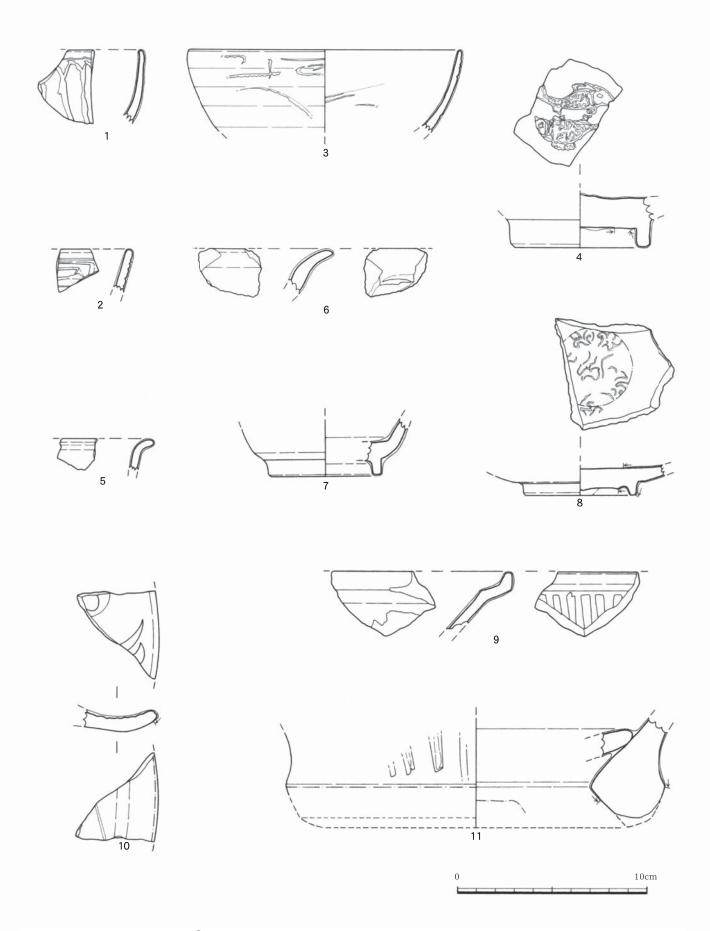
717.02		<u> </u>	24   1   1		<b>同器•中国産褐釉</b> 障 <sup>屠序</sup>	-		C-11	/////	
								SS01		合計
		種類	頁·器種·	部位		第1層	北側第4層b	石敷直上	石敷東端部分	
			外反		無文	2	4			6
				蓮弁	片切彫り		1			1
		口縁部		外面 内面	面:雷文・片切彫り :刻花文・片切彫り	1				1
		日水印	直口		片切彫り	1	1			2
				雷文	文様不明	1				1
	碗				有文	1				1
				蓮弁	片切彫り				1	]
		胴部		その	他・蓮弁	1	2			]
					無文	4	7	1	1	13
				シタイプ。	無文無文	4	1	1	1	1
		底部		-/ 1/ ≥タイプ°	有文	1	1			1
					無文	1				1
青磁			外反	亥	花文・片切彫り		1			1
		口縁部	直口	外面:蓮ź	ト・片切彫り、内面:無文		1			1
					無文	1				1
			稜花		樣不明、內面:有文不明	1				1
		胴部	外		切彫り、内面:無文				1	1
			ri	有文不明		1				1
		底部	タガ状	り花文 外 西・文様	内底のみ 不明、内面:蓮弁・丸箆		1		1	1
		口縁部	鍔縁	/下曲.人材	蓮弁·櫛描		1			1
	d 100	1 1 1/20 (14)	稜花	外面:文	様不明、内面:刻花文	1	1			1
	盤				花葉文				1	1
		底部			無文	1				1
			文	様不明	高台なし		1			1
	酒会壺	蓋			文・丸彫り	1				1
		底部	A =1	蓮	牟・箆彫り				1	1
			合 計		T7	17	23	1	6	
	碗					1	1			2
	175			底部			1			1
青花						1	*			1
	小碗	底部								1
	m			胴部		1	1			2
				底部			1	1		2
			合 計			4	5	1	0	10
	瓶			胴部		1	1			1
彩釉陶器	盤			口縁音	<u> </u>	1	2			1
	鶴形水注			胴部		-	3			3
			合 計			1	5	0	0	
		<i>,</i>	Н			1	3	0		4
		口縁部			台形状	1	1			1
中国産	壺			頸部		2	5	1		8
褐釉陶器				胴部		96	231	45	1	373
				底部		1	3			4
	器種不明		^ -/	胴部			20			20
			合 計		17.4元	100	263	46	1	410
タイ産土器(半練)	蓋	端部		胴部	IV類	1	4			1 1
	1			게미리)		1	1		İ	1 1

# 第76表 石敷きSS01 青磁観察一覧

単位:cm

<b>弗/0</b> 衣	口籾さ	0001	月 100 100 1	☆一見 	単位:cm		
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層		
第43図 図版36 1	蓮弁文碗	口縁部	_ _ _	器形: 口唇部は丸味を持たせて成形する直口口縁碗。文様: 外面は口縁部に片切彫りで蓮弁文を描くが弁先の表現は雑に描く。素地: 淡灰白色の微粒子で、微細な気泡痕が少量観察できる。 釉色: 淡青緑色の釉を両面に施釉。 貫入: 両面に粗い貫入がみられる。 龍泉窯系。 14c後半~15c中頃。	SS01 北側 第4層b		
" " 2	雷文	<b>(=</b> 1	_ _ _	器形: "。文様:外面口縁部に片切彫りで雷文を描くが施文の展開は不明。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	C-11 SS01 北側 第4層b		
" " 3	帯碗	口縁部	14.6 	器形: " 。文様:外面口縁部に片切彫りで時計回りと反時計回りで雑な雷文を描き、雷文帯直下に片切彫りで幅広の丸味のある蓮弁文を雑に描いている。内面にも片切彫りで刻花文を描いている。素地:灰白色の細粒子で、僅かに微細な黒色鉱物がみられる。釉色:淡黄緑色の釉を両面に施釉。貫入:なし。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SS01 第1層		
" " 4	碗	eタイプ 底部	_ _ 7.4	器形:大振りの碗の破片。文様:見込みに陰文の双魚文が型押しで施されている。素地:淡灰白色の粗粒子で、微細な黒色鉱物が多くみられる。釉色:淡灰緑色の釉を両面に施釉後に外底面の釉を輪状に掻き取って蛇の目状とする。貫入:両面に細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SS01 北側 第4層b		
" " 5		口縁部	_ _ _	器形:外反口縁皿。口縁部が大きく外側に折れている。文様:なし。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉。貫入:両面に細かい貫入がみられる。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SS01 第1層		
" " 6	外反口縁皿				_ _ _ _	器形: "。口縁部が緩やかに外反する。文様:内面の胴下部に片切彫り刻花文を描く。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉。貫入:なし。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SS01 北側 第4層b
" " 7		底部	- - 6.0	器形:外反口縁皿の高台破片とみられる。高台脇から丸味を持たせて胴部へ移行する。文様:なし。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡青緑色の釉を両面に施釉後に外底面の釉を掻き取って露胎とする。貫入:両面に細かい貫入がみられる。龍泉窯系。14c終末~15c中頃。	SS01 第1層		
" " 8	Ш	底部	_ _ 5.8	器形:皿の高台破片。高台脇から大きく外側に開きながら若干丸味を持たせて胴部に移行する。文様:見込みに印花葉文を施した後に見込みの釉を円形状に掻き取って露胎とする。素地:淡灰色の微粒子で、微細な黒色鉱物が多くみられる。釉色:淡黄緑色の釉を外面が畳付まで施釉する。内面は見込みの釉を掻き取って露胎とする。貫入:なし。中国南部の窯。14c終末~15c中頃。	SS01 石敷 東端部分		
" " 9	鍔 縁 盤	口縁部	_ _ _	器形: 鍔縁盤。口縁端部を上方に摘まみ上げてタガ状に成形する。文様: 内面に2本櫛で蓮弁文を描いている。素地: 淡黄白色の微粒子で、微細な気泡痕が少量観察できる。釉色: 淡緑黄色の釉を両面に施釉。 貫入: なし。 龍泉窯系。 14c後半~15c。	C-11 SS01 北側 第4層b		
" " 10	酒	蓋		器形: 鍔縁のみが残存する薄造りの蓋。文様: 外面に丸彫りの刻花文を描く。素地: 光沢のある淡灰白色の微粒子。 釉色: 淡青緑色の釉を蓋上面から口唇部下端まで施釉。 内面は施釉が施されていない。 露胎のままである。 釉下に微細な気泡がみられる。 貫入: 細かい貫入がみられる。 龍泉窯系。 14c終末~15c。	SS01 第1層		
" " 11	会畫	底部	_ _ (18.4)	器形:高台外面で一端くびれてから緩やかに外側に開いて胴部に移行する壷。高台畳付が破損している。壷内面に底面となる陶土の貼り付けがみられる。文様:外面の高台近くから篦彫りで蓮弁文を描く。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡青緑色の透明釉。内外面の高台下端が露胎。貫入:なし。龍泉窯系。14c後半~15c中頃。	SS01 石敷 東端部分		

注 ():推定、「一」:計測不可

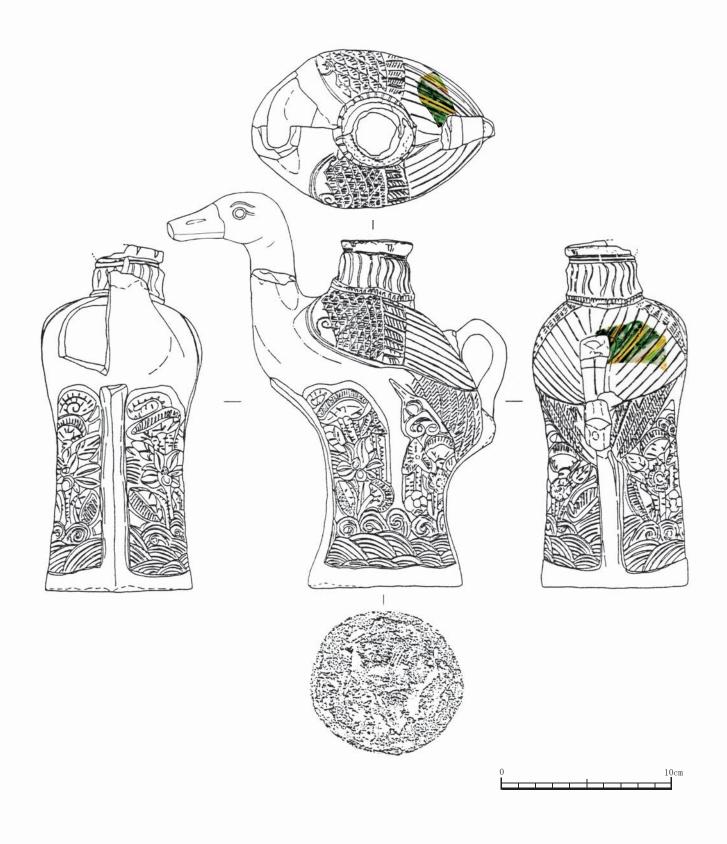


第43図 石敷きSS01出土品④ 青磁:1~11

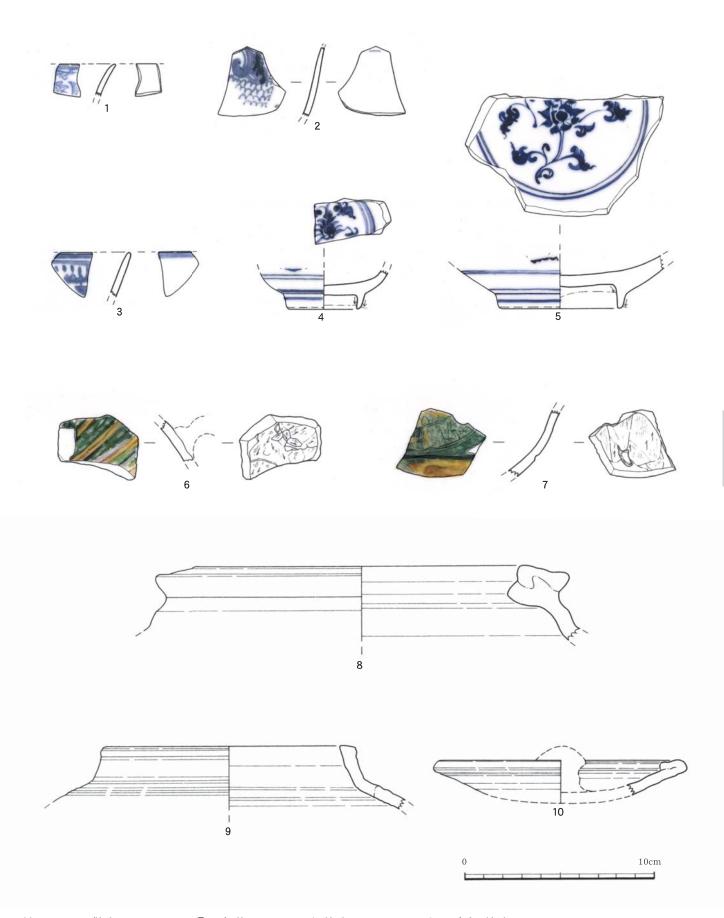
### 第77表 石敷きSS01 青花·彩釉陶器·中国産褐釉陶器·タイ産土器(半練)観察一覧

単位::cm 挿図番号 口径 出土地点 図版番号 名称•仮称 器高 部位 観察事項(素地・混入物・色調・釉色等) 出土層 遺物番号 高台径 器形:外反口縁小碗。文様:外面に呉須で口縁部に二条一組の界線を描き、そ C-11 第45図 の直下に細線の草花文とみられる文様を描く。素地:光沢のある白色の微粒子。 口縁部 SS01 図版37 碗 釉色:淡青白色の釉が両面にみられる。貫入:なし。景徳鎮窯。18c終末~19c 第1層 器形:外反口縁碗の胴部片。文様:外面に主文の「雲文」と「滝」とみられる文様 IJ を描く。内面に界線が一条確認できる。所謂雲堂手の文様。素地:淡灰白色の SS01 IJ 微粒子。釉色:淡灰白色の釉が両面にみられる。貫入:なし。景徳鎮窯。15c前 第1層 2 半~15c中頃。 碗 口縁部 器形:直口口縁碗。文様:外面口縁に二条の界線と波濤文を描き、その直下に C-11 IJ 如意頭唐草文とみられる文様を描いている。内面に界線が一条確認できる。素 SS01 11 地: 淡灰白色の微粒子。 釉色: 淡灰白色の釉が両面にみられる。 貫入: なし。 景 北側 3 徳鎮窯。16c前半~中頃。 第4層b 花 器形:高台脇から丸味を持たせて内側に閉まり胴部に移行する碗。文様:外面 11 は胴部と高台外面にそれぞれ二条の界線を描く。胴部の界線直上には主文と SS01 IJ 底部 みられる文を描いているが構図が判然としない。内面の見込みには二重の圏線 碗 第1層 3.6 と宝相華唐草文を描いている。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色の釉 4 は畳付を除いて両面に施す。貫入:なし。景徳鎮窯。15c頃。 器形:高台脇から若干丸味を持たせて外側に開き気味に胴部に移行する碗。文 様:外面は胴部に主文の一部とみられる草花文を描き、その直下に二条の界線 C-11 11 を施す。高台脇と高台外面にも圏線を施す。内面の見込みには二重の圏線と宝 SS01 碗 底部 IJ 相華唐草文を描いている。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:淡灰白色の釉を両 北側 6.5 5 面に施釉後に畳付と高台内面途中までを露胎とする。貫入:両面に粗い貫入が 第4層b みられる。景徳鎮窯。15c(明初)。 器形:型物水注で、鶴型の羽の部分にあたる破片。文様:型で羽を沈線文で表 C-11 鶴 現したものを起こしている。 裏面は雑なナデと指圧がみられる。 素地: 淡黄白色 11 形 SS01 胴部 の細粒子で、粗細な石英を少量含むが僅かに微細な黒色鉱物もみられる。釉 水 北側 6 色:外面にのみ施釉。外面の羽の部分に緑色と黄色の釉を交互に施釉。貫入: 注 第4層b 微細な貫入がみられる。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。 彩 釉 器形:型物水注で、鴨型の羽の部分にあたる破片。文様:型で羽(羽の輪郭は 陱 重沈線で曲線となる。羽の一枚一枚は、沈線と短沈線を組み合わせて表現) 鴨 C-11 器 と胴下部を横位の深い沈線文で表現したものを起こしている。裏面は雑なナデ IJ 形 SS01 胴部 がみられる。裏面には陶土の小さな塊と白化粧土の付着がみられる。素地:淡橙 11 水 北側 色の細粒子で、粗細な石英と黒色鉱物が僅かにみられる。釉色:外面にのみ施 7 注 第4層b 釉、外面の羽の部分は緑色で、胴下部が黄色を施す。貫入:微細な貫入がみら れる。中国南部(福建・広東)の窯。15c後半~16c。 器形:口縁部の縦断面が歪な隅丸方形状の肥厚口縁とする怒り肩の壷。口縁部 の肥厚は陶土の継ぎ足しで製作されている。口唇部を回転指圧で浅く凹ませて C-11 21.7 いる。内面口縁部も同様の手法で凹ませて蓋受けの溝を造る。文様:なし。器面 SS01 中 調整:外面の釉上からの観察では轆轤痕が顕著にみられる。内面は轆轤調整 北側 国 が丁寧にナデ消されている。素地:淡灰白色の粗粒子で、粗細な石英を多量に 8 第4層b 産 含む。色調:両面に茶褐色の釉を施した後に口唇部の釉を雑に掻き取って露胎 褐 赤 口縁部 とする。焼成:良好で堅い。中国南部の窯。15c~16c。 釉 器形:口縁部の縦断面で小さく歪な台形状の肥厚を造る怒り肩の壷。文様:な 恊 C-11 IJ 13.4 し。器面調整:外面の轆轤痕は内面より顕著にみられる。外面の轆轤痕は雑で 器 SS01 肥厚帯及び肥厚帯直下にも篦ナデ様の轆轤痕が雑に加わっている。素地:淡 北側 橙色の細粒子で、粗細な石英や茶褐色の鉱物を少量含む。色調:両面に茶色 9 第4層b の釉がみられる。焼成:良好で堅い。中国南部の窯。16c。 器形:蓋端部近くの縦断面が歪な隅丸台形状の突帯を造る落とし蓋。器面調 整:上面は、端部近くから肥厚部までが丁寧なナデで、他は雑でナデがみられ タ (半産) る。下面は外周縁近くに丸篦で沈線様の削りを加えて縁端を強調する。外周縁 13.4 C-11 罢 IV 近くから下面上半部が刷毛目様のナデを加え、下面上半部から下半部までが 端部 SS01 10 類 丁寧な擦痕がみられる。素地:灰白色の粗粒子で、粗い石英を多く含み稀に細 第1層 器 かい茶褐色の鉱物がみられる。色調:両面とも暗褐色を帯びるが、外周縁が部 分的に黒褐色を帯びる。焼成:良好で堅い。15c~16c。

<u>---</u> 注「-」:計測不可



第44図 石敷きSS01出土品の資料の重ね図 金城亀信「豊見城村内確認の明代三彩鶴形水注」『文化課紀要』第6号1990年3月発行



第45図 石敷きSS01出土品⑤ 青花:1~5、彩釉陶器:6·7、中国産褐釉陶器:8·9、 タイ産土器(半練):10

## 第78表 石敷きSS01 本土産陶磁器出土状況

	0衣	口刻さら	301 /	サード	EI声似品	山土仏	兀
			層序		C-11		
					SS01		^ =1
	種類	<ul><li>器種·部位</li></ul>	Ĭ.	第1層	第4層a 石敷壁面	北側 第4層b	合計
			口縁部	b. 1		b. 1	2
		碗	胴部			d. 1	1
			底部			a. 1	1
			口縁部			i. 1	1
		小碗	胴部			e.h.f. 3	3
	印判	/ J 149/E	वाच एगाए			f. 1	1
	染付		底部			h. 1	1
本			口縁部			a. 1	1
土産	印判	Ш	다 까지 다			b. 2	2
産			底部	c. 1			1
磁		大鉢	口縁部	d. 1			1
器		蓋				e. 1	1
		器種不明	口縁部			d.e. 2	2
			胴部	i. 1		g. 1	2
	へ「口藍	器種不明	胴部	1			1
		碗	口縁部			1	1
	クロム	小碗	胴部	1			1
	青磁	香炉	口縁部	1			1
		袋物	胴部			1	1

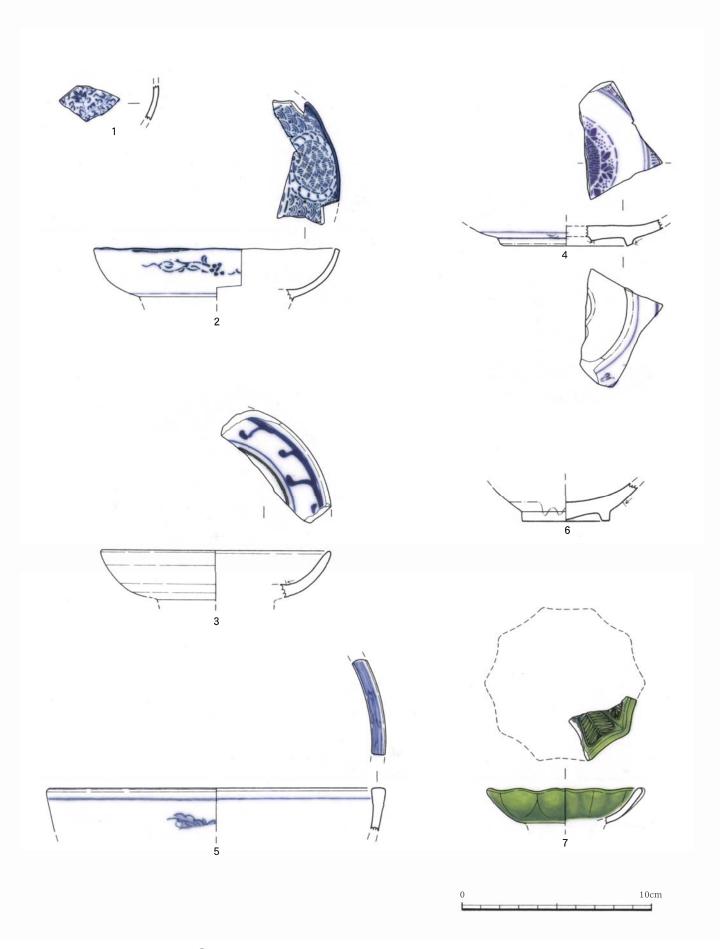
_							
			層序		C-11		
						A =1	
	種類•器	種·部位	第1層	第4層a 石敷壁面	北側 第4層b	合計	
	122/91 PH		1	1		2	
		碗	口縁部 底部	_	1	1	1
		小碗	底部	1			1
本			底部	2		1	3
	近現	鉢	口縁部			2	2
土産		円筒形容器	口縁部			1	1
磁			底部			1	1
器		4D: 10F	部位不明			1	1
		絵の具皿	_			1	1
		器種不明	胴部	1		3	4
		有的生活(1、ウ)	部位不明			1	1
	合	計		12	1	30	43
	九州産か?	小碗	底部			1	1
本土	珉平焼	Ⅲ.	口縁部	1			1
正産	肥前	鉢	胴部	1			1
陶	唐津系、肥前		이타마			1	1
器	薩摩	壺	胴部			1	1
ДН	薩摩	甕	胴部			1	1
	合	計		2	0	4	6

注 印判染付:印判 [a:印判染付、b:型紙摺り、c:型紙転写、d:型紙+ダミ、e:銅版転写、f:銅版転写+ダミ、g:銅版転写+型紙転写、h:スタンプ、i:シール転写(近現)]

# 第79表 石敷きSS01 本土産陶磁器観察一覧

単位:cm

<del>77/01X</del>	/3/			个工作问题证明, 免						
挿図番号 図版番号 遺物番号		名称・ 仮称       部位       日径 器高 高台径		器高	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層				
第46図 図版38 1		小碗	胴部	_ _ _	器形:胴部で丸味を帯びた小碗の胴部破片とみられる。文様:外面に細筆描で蔓 唐草文を描いている。素地:淡灰白色の微粒子。釉色:白色。銅版転写+ダミ。 18c末~19c前半。	C-11 SS01 北側 第4層b				
" " 2			口縁部	13.0 	器形:型抜き成形の皿。文様:文様は内外面とも印判手型紙摺で、外面に花唐草文と界線を施している。内面は花文、波文(青海波)を起こしている。見込みには途切れた短沈線で二条の圏線がみられる。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:白色。型紙摺り。肥前。明治・大正期。	SS01 北側 第4層b				
" " 3	本土産		口縁部	12.0 _ _	器形:直口口縁皿。文様:内面に逆さの波文を口縁部から胴部にかけて雑に描いている。見込みは二重圏線で囲繞する。素地:淡灰白色の細粒子。釉色:淡灰白色。印判染付。肥前系or薩摩焼。明治頃。	C-11 SS01 北側				
" " 4	磁器	■.	底部		器形:高台脇から大きく外側に開いて若干丸味を保持したまま胴部へ移行する 皿。文様:外面に筆書きで胴部と高台脇に界線を一条施されている。内面は胴下 部に短沈線文を組み合わせた文様がみられるが構図は不詳である。見込みには 二条の圏線(筆書き)と印判手型紙転写による菊花、葉文、圏線(短沈線で表現) が起こされている。素地:光沢のある白色の微粒子。釉色:淡青白色。型紙転写。 肥前系。明治・大正期。	C-11 SS01 第1層				
,, ,, 5		大鉢	口縁部	18.0 — —	器形:直口口縁の大鉢とみられる。口唇部を幅広く成形する。文様:口唇部に扁平で歪な雷文とみられる文様を描く。口縁部には界線と葉文を描いている。内面口縁にも界線を一条描いている。素地:光沢のある淡灰白色の微粒子。釉色:両面に淡青白色の釉を施す。貫入:なし。型紙+ダミ。肥前。明治期。	C-11 SS01 第1層				
,, ,, 6	本土産	小碗	底部	_ _ 4.6	器形:高台脇から若干外側に開いて胴部で丸味を帯びた小碗。高台畳付が平坦に成形、高台内刳りは斜位に刳りぬかれ中央が三角錐状に浅く盛り上がっている。文様:なし。素地:淡黄灰白色の細粒子で、微細な気泡痕が多くみられる。釉色:白濁した淡黄白色の釉を内面から高台際まで施す。貫入:なし。九州産か。18c~19c前半。	C-11 SS01 北側 第4層b				
" " 7	陶器	Ш	口縁部	8.4	器形:推定復元を試みたところ多角(十角)形の皿となった。型物成形。文様:内面には扇(軍配)と構図不詳の文様が陽文で起こされている。素地:淡黄白色の微粒子。釉色:内外面に草緑色の釉が施されている。貫入:両面に微細な貫入がみられる。 珉平焼。 19c	SS01 第1層				



第46図 石敷きSS01出土品⑥ 本土産磁器:1~5、本土産陶器:6·7

第80表 石敷きSS01 沖縄産陶器出土状況

弗80表 白紫	なら201 冲縦	i 種医陶器出土:	1人/兀		
		層序		C-11	
			5	SS01	合計
	種類·器種·部位		第1層	北側第4層b	
		口縁部	3	1	4
	碗	胴部	1	1	2
		底部	3	2	5
	小碗	口縁部	1		1
	7 1 11/12	底部	1	1	2
		口縁部	1	1	2
	1111.	底部	1		1
	鉢	胴部		1	1
	鍋	胴部	1	1	2
	壺	胴部	1	1	2
沖縄産	壺or鉢	胴部		1	1
施釉陶器	鉢or香炉	口縁部		1	1
летирыть		口縁部		1	1
	急須	頸部		1	1
		胴部	2	4	6
		底部		2	2
		蓋		1	1
	酒器	底部	1		1
	瓶	口縁部	1		1
	火炉	口縁部	1		1
	火取	口縁部		1	1
	袋物	蓋		1	1
	器種不明	胴部	1	1	2
	合 計		19	23	42
	鉢	口縁部	1	1	2
	水鉢	口縁部	1		1
沖縄産	擂鉢	底部	1		1
無釉陶器	甕	口縁部		1	1
ソルオがある力は	酒器or甕	胴部		1	1
	器種不明	胴部	5	14	19
		底部	1	1	2
	合 計		9	18	27

# 第81表① 石敷きSS01 沖縄産施釉陶器観察一覧

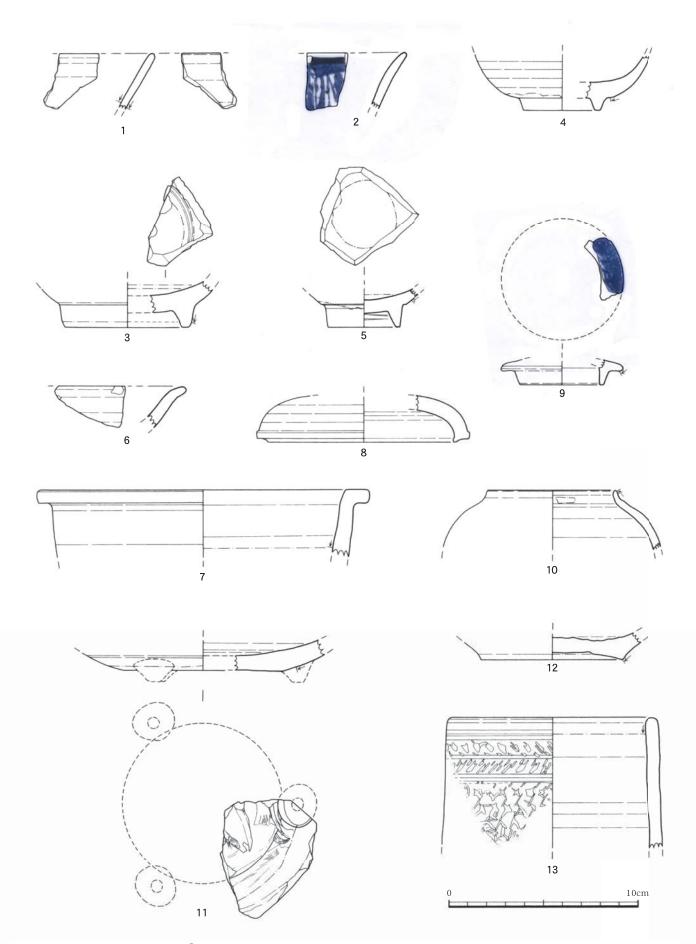
単位:cm

712 - 740	<u> </u>	<u> </u>	. , , ,	他在100年前的成分 先	平15.011
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第47図 図版39 1	灰釉碗	口縁部	_ _ _	器形:直口口縁碗。文様:なし。器面調整:釉上からの観察では、外面が丁寧な轆轤調整で、内面には回転擦痕がみられる。素地:淡灰色の細粒子で、微細な石英や黒色の鉱物を少量含む。劈開面から微細な罅割れ状態の気泡痕が多くみられる。釉色:緑灰色の透明釉を両面の胴部中央付近まで施す。フィガキー(器の高台を摘まんで口縁を逆さにして釉薬に浸して釉掛けをおこなう)手法。貫入:なし。	SS01 北側 第4層b
" " 2	染付碗	口縁部	_ _ _	器形:外反口縁碗。文様:外面に呉須で草花文を描く。素地:淡灰色の細粒子で、微細な石英や黒色の鉱物を少量含む。稀に茶黒色の粗い鉱物がみられる。釉色:白化粧後に透明釉を施す。貫入:両面に粗細な貫入がみられる。	SS01 第1層
" " 3	染付 碗	底部	_ _ 6.6	器形:外反口縁碗の底部とみられる。文様:外面に呉須で花文を描くもので、花弁のみ残存する。器面調整:釉上からの観察では、両面とも轆轤調整である。素地:淡橙白色の細粒子で、微細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)を多く含む。釉色:下地に白化粧後に透明釉を両面施釉後に見込みの釉を輪状(蛇の目状)に掻き取って露胎とする。畳付釉も掻き取られ露胎となるが重ね焼きの白色(石灰質)の目痕が帯状に付着する。貫入:両面に細かい貫入がみられる。	C-11 SS01 北側 第4層b

## 第81表② 石敷きSS01 沖縄産施釉陶器観察一覧

第81表②	7	⋾敷	きSS01	沖糸	<b>串産施釉陶器観察一覧</b>	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名和仮		部位	口径 器高 底径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第47図 図版39 4	白釉	小碗	底部	_ _ 4.0	器形:直口口縁のr外反口縁の小碗の底部とみられる。文様:なし。器面調整:釉上から観察では、両面とも丁寧な轆轤調整とみられる。高台内刳りは深い。畳付は平坦に仕上げる。素地:淡黄白色の微粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色)が僅かにみられる。釉色:白濁した灰白色の釉を内面から外面高台際まで施釉。フィガキー手法の範疇に含まれる。貫入:なし。	C-11 SS01北側 第4層b+ フーチン8北
" " 5	灰釉	小碗	底部	_ _ 3.8	器形: "。文様:なし。器面調整:両面とも丁寧な轆轤調整。高台内刳りは深く、外底面が微弱に盛り上がっている。畳付の幅(1.76~2.75mm)は狭いが、平坦に仕上げる。素地:淡橙白色の細粒子で、微細な石英が僅かにみられる。釉色:白濁した灰色の釉は、外面高台際まで施釉し、内面は釉を施釉後に蛇の目状に掻き取って露胎とする。貫入:なし。	SS01 第1層
" " 6	白釉	Ⅲ.	口縁部		器形:外反口縁皿。文様:なし。器面調整:釉上から観察では、両面とも丁寧な轆轤調整とみられる。素地:淡黄白色の微粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色)が僅かにみられる。釉色:両面とも白化粧土から透明釉を施す。貫入:両面に粗い貫入がみられる。	SS01 第1層
" " 7	灰釉	鉢or香炉	口縁部	17.6 — —	器形:口縁部の縦断面が逆さ「L」字状となる鉢or香炉。口唇部が幅広(12.16mm)に成形する。外反口縁皿。文様:なし。器面調整:釉上からの観察では、両面とも丁寧な轆轤調整とみられる。素地:淡橙白色の微粒子で、微細な鉱物(石英、茶褐色)が僅かにみられる。釉色:灰緑色の透明釉を内面口縁から外面まで施す。貫入:なし。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 8	白	袋物	蓋	11.2	器形:袋物(壷類)の被せ蓋。蓋甲上面が饅頭の様に盛り上がっている。蓋の外周縁を小さく方形状に外側に突出させて成形する。蓋の内面縁沿いに身部の口縁と合致させる目的で三角形状に突出させて成形する。文様:なし。器面調整:釉上からの観察では、内面に丁寧な回転擦痕がみられる。素地:淡橙白色の微粒子で、微細な石英が少量みられる。劈開面から微細な気泡痕が多くみられる。釉色:両面に白化粧土を施した後に外面にのみ透明釉を施す。貫入:外面にのみ微細な貫入がみられる。	SS01 北側 第4層b
" " 9	釉	急須	蓋	6.4	器形:急須蓋。被せ蓋。蓋甲下面の縁沿いに身部の口縁と合致させる目的で高台状に細長く突出させて成形する。文様:蓋甲上面に呉須で文様を描くが構図は判然としない。器面調整:蓋甲内面に丁寧なナデと回転擦痕がみられる。素地:淡灰白色の細粒子で、微細な石英や黒色の鉱物が僅かにみられる。劈開面から微細な気泡痕が僅かにみられる。釉色:蓋甲上面にのみ施釉。白化粧土を施した後に透明釉を施す。貫入:外面にのみ粗い貫入がみられる。	SS01 北側 第4層b
" " 10	鉄釉	急須	胴部		器形:鉄釉急須の身部。短頸急須で、口縁は垂直に成形し、全体的に内湾気味の下膨れの急須とみられる。文様:なし。器面調整:内面の口縁部のみナデで、胴部は回転擦痕が顕著にみられる。素地:淡灰色の細粒子で、微細な石英や黒色の鉱物が多くみられる。釉色:茶褐色の釉を外面にのみ施す。貫入:なし。	SS01 北側 第4層b
" " 11	白釉染付	急須	底部	_ _ 8.4	器形:白釉染付の急須の底部。文様:外面に僅かに呉須が垂れている。器面調整:釉上から観察では、外面胴部は丁寧なナデ調整とみられる。足(脚部)を貼り付けた周辺には半円形状にナデが施されている。外底面には糸切りの可能性があるが白化粧土が厚く施され確認しにくい。内面も白化粧土が判然としないが回転擦痕が刷毛目様となる。素地:白色の細粒子で、微細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)の鉱物が多くみられる。稀に粗い赤茶色の物質(サイズ:4.72~5.46mm)がみられる。釉色:内外面に白化粧土を塗布した後に外面にのみ透明釉を底面近くまで施釉。貫入:外面にのみ細かい貫入がみられる。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 12	灰釉	酒器	底部	_ _ 7.4	器形:カラカラと俗称される酒器の底部。高台内刳りが畳付外端から斜位に削り出して蛇の目状に成形する。文様:なし。器面調整:内面は反時計回りの轆轤痕が顕著にみられる。素地:灰色の細粒子で、細かい石英や黒色の鉱物が僅かにみられる。釉色:外面にのみ施釉。下地に白化粧土を塗布し、その上から透明釉を施してから外底面の釉を雑に蛇の目状に掻き取って露胎とする。貫入:外面に粗細な貫入がみられる。	C-11 SS01 第1層
" " 13	白土象眼	火取	口縁部	_ _ 11.0	器形:円筒形の火取の口縁部。口唇部を舌状に厚みを持たせて成形する。文様:外面は工具による文様を彫り込んだ後に白土で象眼とする三島手技法を採用。文様構成は、口縁部に有軸羽状(蘇鉄の葉状)の文様を彫り込んでいる。有軸羽状の文様帯の上下に丸彫りによる二条一組の界線で区画する。有軸羽状文帯の直下には線彫りで崩れた格子目の文様を彫り込んでいる。器面調整:内面は回転擦痕が顕著にみられる。素地:灰色の細粒子で、粗細な石英と微細な黒色の鉱物が少量含まれる。釉色:外面から内面口縁まで施釉。灰色の透明釉を施しているが白濁する。貫入:なし。	SS01 北側 第4層b

注「一」:計測不可、「+」:接合の意

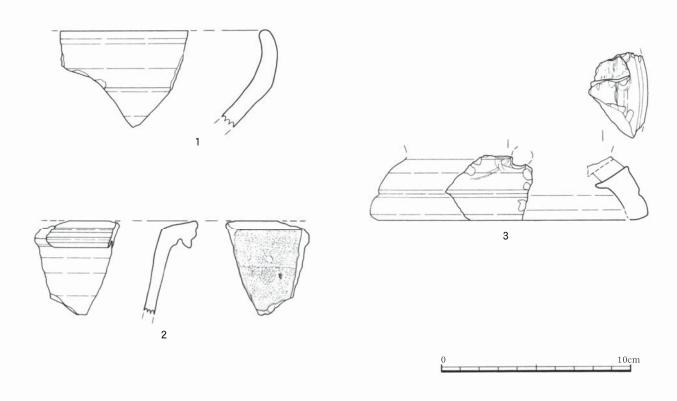


第47図 石敷きSS01出土品⑦ 沖縄産施釉陶器:1~13

第82表 石敷きSS01 沖縄産無釉陶器観察一覧

第82表	石敷き	SS01	沖縄	産無釉陶器観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称• 仮称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第48図 図版40 1	水鉢	口縁部	_ _ _	器形: 内湾口縁の水鉢。口縁部に微弱な段差を付けて口縁部を肥厚させている。文様: なし。器面調整: 両面に丁寧な回転擦痕がみられる。素地: 橙色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)を少量含む。色調: 外面は口縁部のみが暗褐色で、肥厚帯直下が橙色を帯びる。内面は橙色。焼成: 良好で堅い。	C-11 SS01 第1層
" " 2	鉢	口縁部	_ _ _	器形:外傾する擂鉢か捏ね鉢の口縁破片。陶土を口縁部分で外側に丁寧に折り曲げて成形する為、口唇部が幅広(17.97mm)となる。文様:口縁部の肥厚帯部分に二条一組の界線を丸彫りで施す。肥厚帯直下に段差を付けて肥厚部を強調する。器面調整:両面に丁寧な回転擦痕がみられる。素地:淡橙色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)を少量含む。稀に粗い茶褐色の鉱物(サイズ:3.93~5.40mm)がみられる。色調:両面とも橙色を帯びる。焼成:良好で堅い。	SS01 第1層
" " 3	擂鉢	底部	_ _ 14.8	器形:擂鉢の脚台部。脚部に隅丸長方形状の粗孔を穿っている。穿孔の際に2・3回穿った為、陶土が内外面にバリ状に突出する。文様:脚部下端(畳付)から上方に片切彫りで界線を一条(幅3.47mm)囲繞する。器面調整:外面には茶褐色の自然釉が被っているが釉上からの観察では、回転擦痕と粗目の刷毛目様の擦痕がみられる。内面は回転擦痕のみが観察される。素地:淡茶紫色~淡橙色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、茶褐色)を僅かに含む。稀に細かい茶褐色の鉱物がみられる。色調:外面は茶褐色(自然釉)で、内面が淡茶白色となる。焼成:上記1・2よりも焼成が良好で堅い。	C-11 SS01 第1層

注「一」:計測不可



第48図 石敷きSS01出土品⑧ 沖縄産無釉陶器:1~3

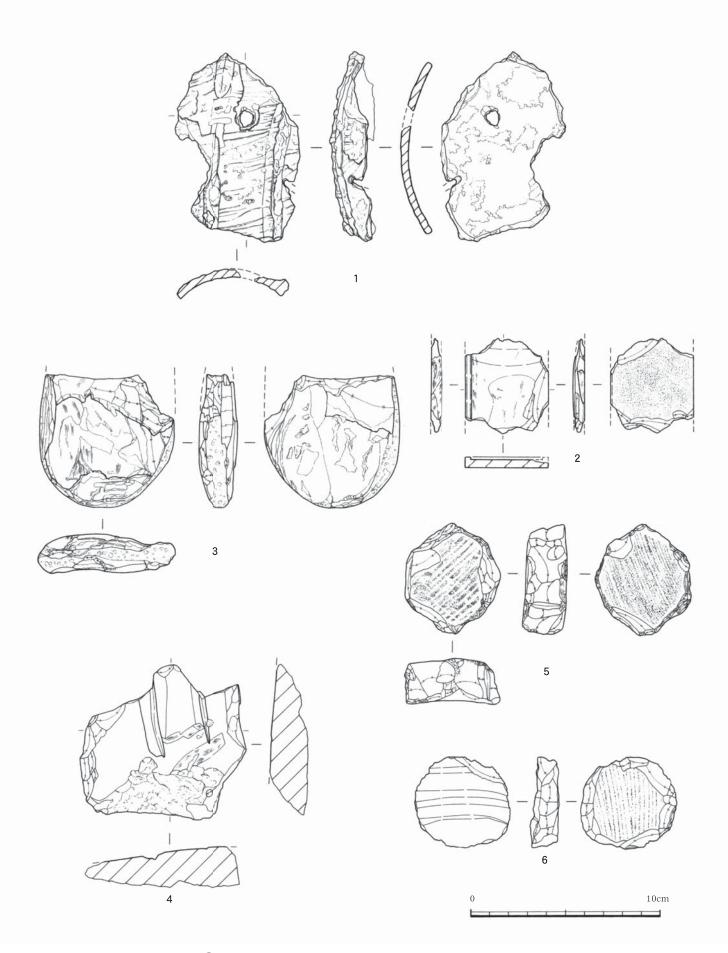
# 第83表 石敷きSS01 貝製品·石製品·石材·自然石·円盤状製品出土状況

	<u> </u>			-				
		層序		C-	11			
]				SS01				
	<b>1</b>	重類	第 1 層	第 4 相 層 b	石敷直上	東 端石敷	合計	
貝製品		未製品		1			1	
	台	計	0	1	0	0	1	
		黒色頁岩		1			1	
	硯	赤色頁岩(中国か韓半 島産の可能性あり)		1			1	
	石器片 (羽目板片)	細粒砂岩(ニービ)	1				1	
	石皿片	黒色千枚岩				1	1	
石製品	石器片	本部石灰岩(古生代今 帰仁層)		1			1	
	1月46月	細粒砂岩(ニービ)		3			3	
		琉球石灰岩		1			1	
		緑色千枚岩			1		1	
	砥石片	砂岩	1				1	
		細粒砂岩(ニービ)		1	1		2	
	台	計	2	8	2	1	13	

	層序		C-1	1		
			SS0	1		合
	種類	第 1 層	第 4 北 層側 b	石敷直上	東岩部別分	計
	角閃石安山岩	1				1
石材	細粒砂岩(ニービ)	15	23	1	4	43
	石灰岩				1	1
自然石	河原石	4	6			10
	合 計	20	29	1	5	55
円盤状	瓦		1			1
製品	沖縄産無釉陶器	2				2
	合 計	2	1	0	0	3

# 第84表 石敷きSS01 貝製品 石製品 円盤状製品観察一覧

挿図番号 図版番号 遺物番号	名	称•仮称	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第49図 図版41 1	貝製品	未製品	サザエ科ヤコウガイの殻の外周縁を粗割し、孔を二孔穿った製作途中の製品とみられる。正面の上部には外側から孔を複数回穿って穿孔する。孔の平面観が歪な隅丸三角形状となる。他の孔は右側縁辺近くにみられ、外側から内側に向かって2・3回実施した為、抉れた溝状の孔となる。研磨や研磨面は観察できない。外周縁部にみられる剥離面の縁が潰れている箇所が若干観察できる。正面上部の孔はヤコウガイの身を取るために穿孔した可能性が高いものと思慮されるが、右側縁辺部の孔は製品加工を目的とした孔とみられる。サイズ:縦:10.0cm 横:6.59cm 厚さ:0.53cm 重量:50.9g。正面上部の孔:外径:長軸:9.83mm、短軸:9.18mm。内径:長軸:8.11mm、短軸:7.14mm。右側縁辺近くの孔:外径:長軸:3.62mm、短軸:一。内径:長軸:2.06mm 短軸:一。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 2	石製	硯	薄造りの砥石片で、陸部が主に残存し、墨池が僅かに残存する。陸部には固形墨を水で磨りおろした際の使用痕が陸部から墨池方向に微細な線状痕がみられる。左側硯縁と陸部の間には、硯縁の製作痕が線状痕となって平行する。硯縁に桃色の物質が付着することから固形墨以外の赤色墨汁が使用された可能性が高い。右側は硯縁が破損するが側面が僅かに残存する。両側面には製作時の加工痕である線状痕が斜位方向に顕著にみられる。裏面には製作時の微細な研磨痕が身部と平行に線状痕を主体に右側面から左側面下に向かって微細な線状痕が斜めに入っている。その他は使用時の傷や意図的に針などで彫り込んだ傷がみられる。黒色頁岩。サイズ:縦:4.98cm、横:4.4cm、厚さ:陸部:4.64mm、硯縁:6.17mm、墨池:3.05mm。重量:18.8g。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 3	品品	砥石	扁平な川原石を砥石として利用したようである。砥石以外に叩石としての利用もあり側面に敲打や潰れ、そして剥離面がみられる。表面の破損面には研磨がみられる。裏面は主に砥面として利用されている。砂岩(頁岩の薄層が挟まっている)製。サイズ:縦:7.08cm、横:7.1cm、厚さ:2.05cm、重量:137.1g。	SS01 第1層
" " 4		, , , ,	細粒砂岩(俗称:ニービヌフニ)製の砥石の破片。表面は砥面で、金属製品の刃を研ぎ直す際の溝が二条残存する。裏面は破損面である。右側に僅かに砥石本来の面が残っている。サイズ:縦:8.2 cm、横:8.74cm、厚さ:2.1cm、重量:168.3g。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 5	円盤	高麗瓦	高麗系平瓦の破片を打割調整を加えて円盤状に加工した製品で遊具として使用された。打割調整は主に凸面から実施されている。凹面からの打割調整は3~4回程度実施されているようである。剥離面の縁沿いの潰れや摩滅面が多いようである。使用頻度はある程度は、高かったようである。凹面には布目圧痕がみられる。凸面は羽状の叩き目が一部重なって格子目状となる。素地:淡灰色の細粒子で、微細な鉱物(石英、黒色)が僅かに観察できる。サイズ:縦:5.68cm、横:5.1cm、厚さ:2.2cm、重量:61.4g。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 6	状製品	沖縄産無釉陶器	沖縄産無釉陶器の擂鉢の胴部片に外側から打割調整を集中的に加えて円盤状に加工した製品で遊具として使用された。外周縁辺部の打割調整は、主に表面から実施されている。裏面からの打割調整は1回のみ実施されている。剥離面の縁沿いの潰れや摩滅面が少ないことから使用頻度は極めて低かったようである。両面には八条一組の摺目がみられる。素地:淡橙色の細粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)が僅かに観察できる。サイズ:縦:4.74cm、横:5.1cm、厚さ:1.5cm、重量:34.5g。	C-11 SS01 第1層



第49図 石敷きSS01出土品⑨ 貝製品:1、石製品:2~4、円盤状製品:5・6

# 第85表 石敷きSS01 金属製品観察一覧

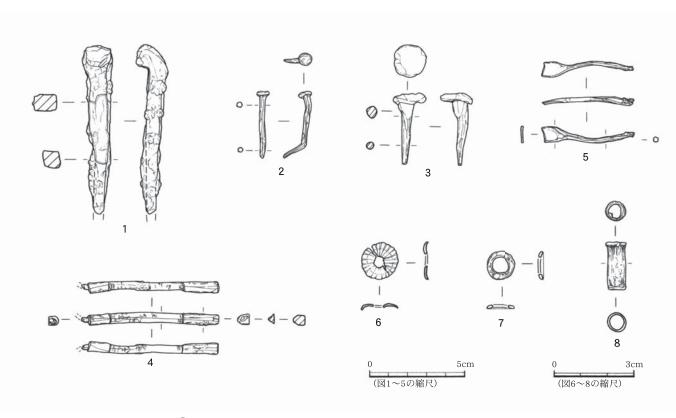
単位:mm/g

<b>弗80</b> 衣	Η љ.	メラック	•	立周器	HH 1470 73	<u> </u>			T	単位:mm/g
挿図番号 図版番号 遺物番号	分類	名称• 仮称	材質	残存長 (縦)	残存幅 (横)	残存最大厚 残存最小厚 残存重量	頭	[部	観察事項	出土地点 出土層
第50図 図版42 1		釘	鉄製品	89.0	12.56	8.74 5.45 33.5	11.5	13.76	ほぼ完形の皆折釘。頭部の厚みが身よりも薄く製作された為、板材への打ち込みや抜き取りの際に頭部先端が身部と接近するほどに内側に強く折り曲げられている。また、身部上部や身部中央で湾曲がみられる。身部の先端は使用により潰れている。各面とも錆により罅割れがみられる。身部の正面中央と裏面の頭部から身部中央までは、錆の膨張で剥離した為、身部が痩せて厚みが失われている。	C-11 SS01 第1層
" " 2	工具類・			24.8	2.04	2.26 0.96 0.5	4.30	4.64	青銅製の釘。頭部と身部の位置が鋳型(或いは頭部と身部接合時)のズレにより頭部中心から身部がズレた(釘としてのバランスが崩れた)状態となっている。頭部と身部のズレに起因して、身部上部に屈曲がみられる。先端近くの屈曲部分には使用時に発生した罅割れによって生じた微細な空洞がみられる。身部の先端は微弱に折れている。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 3	生産用具	釖	青	37.0	5.47	7.45 2.20 8.7	16.5	16.23	二次的な火熱を受けて頭部が溶解してケロイド状となる。頭部の平面観が辺の有る歪な隅丸方形状を呈している。頭部と身部の位置は、身部が頭部の中心からずれた状態にある。頭部は板材などに打ち込む際に変形している。頭部と身部の変形がみられることから板材などから抜き取る際に変形したようである。先端部は使用により潰れている。頭部と身部に緑青がみられ、特に頭部は緑青による浸食で部分的に欠落する。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 4		引手金具	銅	72.0	4.92	5.26 2.42 6.9	_	_	引手の受け軸金具。箪笥などの引手通し座金に取り付けられる引手の受け軸金具とみられる。受け軸金具の両端に引手可動用の軸(直径1.99~2.19mm)を入れるが右端は外れている。軸の両側の断面は縦長の半円形となる。軸の中央から両端近くは断面が三角形状に加工されていることから引手通し座金と一体化させるなど複雑な構造で製作された製品の一部である。	C-11 SS01 第1層
" " 5		覆輪		48.8	7.45	2.38 0.59 1.1	_	_	鎧などの縁に取り付けられる覆輪。覆輪が潰れ捻れている。本来は如意頭文を型取っているが、潰れて匙状に開いている。武具の縁に填める「U」の字状の溝も潰れて捻れている。鍍金は緑青などにより全て剥落したようである。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 6	武	八双金	製	14.0	13.7	0.60 0.43 0.5	_	_	八双金物とセット関係にある留め金具。 菊花文を施した菊座(座金具)で外面に鍍金を施す。 内面は緑青がみられる。 菊花は鏨による毛彫りで表現する。 中央に歪な隅丸方形状の粗孔(一辺の長さ2.30mm、最大縦長3.71mm)を穿つが孔の部分から割れて破損する。 孔は主に外側から穿孔したようである。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 7	具	物の留め金具	品	10.4	2.45	0.96 0.86 0.4	_	_	八双金物とセット関係にある留め金具の菊座と組み合わせて使用する輪金具。上記6の菊座の上に重ねて使用するもので、鍍金が施されている。内面は緑青がみられる。表面に接合面とみられる部分が潰されて微弱な起伏のある面が観察されることから鍛造製品である。青銅を細い板状のものを円形に加工した後に外周縁や孔周縁にヤスリなどの工具を使用して仕上げたようである。中央の孔のサイズは、6.13~6.48mmを測った。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 8		茱萸金物		18.0	6.81	0.93 0.70 2.0	_	_	鎧の押付に付属する袖付の茱萸金具。或いは鎧の胴側面にある壷の緒に付属する茱萸金具とみられる。鍍金された円筒形で両端が玉縁状に肥厚する。茱萸金具の上下の孔を観察すると厚みに無駄があることから鍛造による製法と思慮される。上位の孔:外径6.87~7.11mm、内径5.02~5.12mm。下位の孔:外径6.53~6.72mm、内径4.88~5.04mm。	C-11 SS01 北側 第4層b

第86表 石敷きSS01 金属製品出土状況

<b>弗86表 ←</b>	放しい	301 亚属农		工状况						
			層	予		C-11				
						SS01				
	5	→類・種類			第1層	北側第4層b	石敷直上	石敷東端部分		
		完形	中	鉄		1			1	
	丸釘		中	青銅		1			1	
		完形	小	青銅		1			1	
		完形	中	鉄	1	2			3	
工具類・		先端部欠損	中	鉄		2			2	
生産用具	角釘	頭部欠損	中	鉄			1		1	
工/生/11人		先端+	中	鉄	1	3		1	5	
		頭部欠損	不明	鉄				1	1	
		引手金具		青銅	1				1	
	近 (飾り	代?の凸型金具 金具か留め金具	具)	真鍮		1			1	
		札		鉄		1			1	
_, _		覆輪		青銅	1	5			6	
武具	八刃	(金物の留め金	具	青銅		2			2	
		茱萸金物		青銅		1			1	
		75-324 LL		鉄	5	10			15	
>		砲弾片		青銅	4	2		2	8	
武器		弾丸		青銅		4			4	
		薬莢		青銅		4			4	
分類		四人子四		鉄				1	1	
不明	用途不明			青銅	1	19			20	
)E 79.15		ボタン		青銅		1			1	
近•現代	鉄管			鉄	1				1	
		合 計		.,,,	15	60	1	5	81	
			0.55		1. \\	- Librar (0.55	L. Mish			

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)、小:1寸まで(3.75cm未満)



第50図 石敷きSS01出土品⑩ 金属製品:1~8

## 第87表 石敷きSS01 二次的火熱溶解銭貨

第87表 石敷きSS01 二次	的火烈	谷胜线具				
銭名	片数	重量 (g)	残存状況	出土層		
開元通寶(唐621年初鋳)	1片	2.13	「開」・「通」・「寳」の三字が残存	C-11 SS01第1層		
咸平元寶(北宋998年初鋳)	1片	1.41	「咸」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01石敷東端部分		
天聖元寶(北宋1023年初鋳)	1片	0.79	「天」の一字が残存	C-11 SS01北側第4層b		
明道元寶(北宋1032年初鋳)	1片	1.57	「明」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01北側第4層b		
	1片	1.54	「皇」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01石敷直上		
皇宋通寶(北宋1038年初鋳)	1片	0.95	「宋」の一字が残存	C-11 SS01石敷東端部分		
	1片	0.61	「宋」の一字が残存	〇 11 55017日		
	1片	0.79	「熈」の一字が残存	   C−11 SS01第1層		
	1片	1.33	「熈」・「寧」の二字が残存	·		
熈寧元寶(北宋1068年初鋳)	1片	0.49	「熈」の一字が残存	C-11 SS01北側第4層b		
	1片	1.50	「熈」・「寳」の二字が残存	   C-11 SS01石敷東端部分		
	1片	0.77	「熈」の一字が残存			
	1片	1.96	「元」・「豊」の二字が残存			
元豊通寶(北宋1078年初鋳)	1片	1.70	「豊」・「通」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
	1片	1.56	「豊」の一字が残存			
元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1片	2.32	「元」・「通」・「寳」の三字が残存	C-11 SS01北側第4層b		
	1片	1.26	「元」・「祐」の二字が残存	C-11 SS01石敷直上		
紹聖元寶(北宋1094年初鋳)	1片	1.75	「元」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
聖宋元寶(北宋1101年初鋳)	1片	1.95	「聖」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
大観通寶(北宋1107年初鋳)	1片	1.35	「大」・「通」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
政和通寶(北宋1111年初鋳)	1片	1.21	「政」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01石敷東端部分		
宣和通寶(北宋1119年初鋳)	1片	0.84	「和」の一部、「通」の一字が残存	C-11 SS01第1層		
淳熈元寶(南宋1174年初鋳)	1片	1.62	「熈」・「元」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
	1片	2.67	「洪」・「武」・「通」・「寳」の四字が残存	   C-11 SS01石敷東端部分		
洪武通寶(明1368年初鋳)	1片	1.00	「洪」の一字が残存			
	1片	1.25	「洪」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
	1片	0.53	「寳」の一字が残存			
	1片	1.68	「○」・「寳」の二字が残存			
	1片	0.93	「寳」の一字が残存			
	1片	0.71	「寳」の一字が残存			
	1片	1.56	「元」・「寳」の二字が残存	C-11 SS01第1層		
	1片	2.03	「元」・「寳」の二字が残存			
	1片	0.81	「通」の一字が残存			
	1片	0.73	判読不可			
	5片	3.41	-			
	1片	1.04	「元」の一字が残存			
不明銭貨	1片	0.68	「通」の一字が残存			
	1片	0.60	「寳」の一字が残存			
	1片	0.72	「元」の一字が残存			
	1片	0.49	「元」の一字が残存	C-11 SS01石敷東端部分		
	1片	0.50	「元」の一字が残存			
	1片	0.76	「寳」の一字が残存			
	1片	0.51	「寳」の一字が残存			
	-	2.55	_			
	2片	1.04	-	a de agos II milita . E .		
	0/  1.11		_	C-11 SS01北側第4層b		
_ ^ =1	-	1.24	_			
合 計	52					

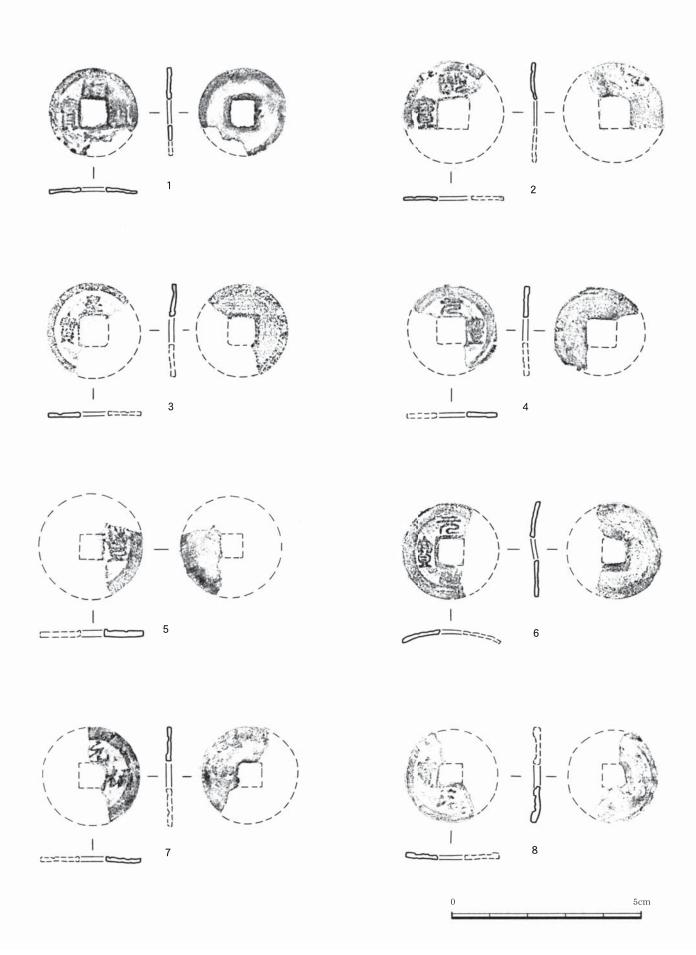
第88表 石敷きSS01 ガラス製品出土状況

MAC -		· • 2/11 —	D 110 -							
層序	C-11									
	SS01	SS01	SS01	SS01	合 計					
種類	第1層	北側第4層b	石敷直上	石敷東端部分						
削器(ナイフ)	1				1					
瓶 胴部				1	1					
板ガラス			1	1	2					
おはじき		1			1					
不明	1	_			1					
合 計	2	1	1	2	6					

第89表① 石敷きSS01 銭貨観察一覧

単位:mm/g	単1	立	:	mm/	É
---------	----	---	---	-----	---

第89表	U	10	親さ <sup>い</sup>	50	1	塖.	貝隹	見祭一	- 筧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭種	鋳造種	初鋳年	素材	読み方	状態	書体	肉郭 外径 A	肉郭 内径 C	方 穿 E		計測	T	重量	観察事項	出土地点 出土層
遺物番号 第51図 図版43 1	開元通寳	類不明	唐 845 年	銅銭	対	破損	直头 書旨	B — 23.45	D _ 19.62	7.05 7.54	1.10	0.36	0.51	2.13	銭の一部が欠落する。残存する字款は 「開」・「通」・「寶」の三字がみられる。「元」の字款が半分以上欠落する。銭鋳型の字款が浅い為、字款が薄く鋳造されている。その他「寶」の字款と肉郭の間に小さな粗孔(長軸1.15mm、短軸0.54mm)がみられる。当該粗孔は鋳造時に溶かした青銅が鋳型全体にいきわたらなかった事により自然に開いた状態で型から抜かれたものとみられる。面(肉郭幅2.01~2.27mm)よりも背(肉郭幅2.20~2.62mm)の肉郭が幅広である。背の肉郭は面よりも不鮮明である。表裏面とも緑青がみられるが、特に面は浸食が著しく微細なアバタ状となる。	C-11 SS01 第1層
" " 2	明道元寶	公鋳銭	北宋 1032 年	銅銭	回読	破損	篆書		<u> </u>		1.21	0.80	1.11	1.57	1/2以上が破損する銭。字款は「明」・「寶」 の二字が判読できる。孔および孔郭が隅丸 方形状となる。面と背には緑青が一部で錆 瘤がみられる。	C-11 SS01 北側 第4層b
" " 3	皇宋通寳	不明	北宋 1038 年	銅銭	対読	破損	真書		_	_	1.10	0.46	0.84	1.54	1/2近くが破損する銭。字款は「皇」・「寶」の 二字が判読できる。肉郭は面よりも背が幅 広(2.65~2.84mm)であるが、摩滅して不鮮 明である。面と背には緑青がみられるが、特 に面の肉郭は緑青で微細なアバタ状とな る。	C-11 SS01 石敷直上
" " 4	元豊通寶	不明	北宋 1078 年	銅銭	回読	破損	篆書		<u>-</u> -		1.32	0.67	1.10	1.96	1/2近くが破損する銭。字款は「元」・「豊」の 二字が判読できる。面の肉郭が背よりも幅広 (2.61~3.24mm)である。「豊」の右側に鋳 造時のバリがみられる。面と背には緑青が みられる。	C-11 SS01 第1層
,, ,, 5	元豊通寶	模鋳銭	北宋 1078 年	銅銭	回読	破損	篆書	_	_	<u> </u>	1.62	1.04	1.44	1.56	1/4近くが残存する銭。字款は「豊」の一字が判読できる。面の肉郭は幅広(3.48mm)であるが、背の肉郭はほとんど摩滅して確認しにくい。二次的な火熱を受けて面の一部が微細なケロイド状となる。割れた破断面からは微細な気泡や溶解した部分がみられる。緑青は背よりも面で多くみられる。	C-11 SS01 第1層
" " 6	元祐通寶	公鋳銭	北宋 1086 年	銅銭		破損	篆書	25.72 _	19.66	_ 6.42	1.19	0.70	0.89	2.32	3/4近くが残存する銭。字款は「元」・「通」・ 「寶」の三字が判読できる。面の肉郭は幅広 (3.37mm)であるが、背の肉郭の段差が不 鮮明で確認しにくい。二次的な火熱を受け て面や背が部分的に微細なケロイド状とな る。割れた破断面からは微細な気泡や溶解 した部分がみられる。緑青は面よりも背で多 くみられる。	C-11 SS01 北側 第4層b



第51図 石敷きSS01出土品⑪ 銭貨:1~8

## 第89表② 石敷きSS01 銭貨観察一覧

単位:mm/g

2)	1	秋さ	500	1		貝饵	元宗一	莧							単位:mm/g
銭種	鋳造種	初鋳	素材	読みら	状態	書体	肉郭 外径 A	肉郭 内径	方 穿 E				重量	観察事項	出土地点 出土層
元祐通寶	不明 不明	北宋 1086 年	銅		破		B — —	D	F - -					1/2弱が残存する銭。字款は「元」・「祐」の 二字が判読できる。面の肉郭は幅広(3.30 ~3.39mm)であるが、背の肉郭は不鮮明で 平坦面となり孔郭もない。背は無文銭のよう な状態にある。緑青は面よりも背で多くみら れる。緑青以外に緑青の上からタール状の	C-11 SS01 石敷直上
紹聖元寳	不明	北宋 1094 年	銅銭	不明	破損	行書				1.69	0.65	1.01	1.75	物質が両面に付着している。 1/2強が残存する銭。字款は「元」・「寶」の 二字が判読できる。面の肉郭の幅は 1.67mmと狭い。背の肉郭は鋳型のズレで幅	C-11 SS01 第1層
大観通寶	不明	北宋 1107 年	銅銭	対読	破損	真書			_	1.40	0.75	1.06	1.35	2/3強が残存する銭。字款は「大」・「通」の 二字が判読できる。肉郭の幅は面で1.23~ 1.76mm、背が1.23~1.95mmを測る。二次 的な火熱を受けていて面と背が溶解してケ ロイド状となる。破断した劈開面も溶解して いる。緑青は面と背の両面でみられる。	C-11 SS01 第1層
政和通寶	公鋳銭	北宋 1111 年	銅銭	対読	破損	篆書			_	1.75	0.76	1.21	1.21	1/3弱が残存する。字款は「政」・「寶」の二字が残存する。肉郭の幅は、面が2.08~2.27mm、背で2.25mmを測る。二次的な火熱を受けて銭が変形する。緑青は両面でみられ、特に背は緑青により器面が微細なアバタ状となる。	C-11 SS01 石敷東端 部分
淳熈元寶	公鋳銭	南宋 1174 年	銅銭	回牆	破損	真書			_	1.39	0.82	1.07	1.62	1/2弱が残存する銭。字款は「熙」・「元」の 二字が残存する。肉郭の幅は面で2.41~ 2.70mmと幅広であるが、背の肉郭は鋳型の ズレで幅(3.11~4.97mm)が広くなってい る。鋳型のズレで孔郭の一辺(一部)が失わ れている。緑青は両面でみられる。	C-11 SS01 第1層
洪武通寶	公鋳銭	明 1368 年	銅銭	対読	破損	楷書	_	<u> </u>	6.3 6.52	1.56	0.61	1.15	2.67	銭の肉郭の一部が欠落する銭。字款は「洪」・「武」・「通」・「寶」の四字が判読できる。肉郭の幅は面(1.34~1.99mm)及び背も幅広(1.40~2.24mm)となる。二次的な火熱を受けて割れた劈開面が溶解する。面と背の一部には緑青による微細な錆膨れがみられる。	C-11 SS01 石敷東端 部分
	銭種 元祐通寶 紹聖元寶 大観通寶 政和通寶 淳熙元寶 洪武通		銭種     元祐通寶     紹聖元寳     大観通寶     政和通寶     淳熈元寶     洪武通       鋳造種類     不明     不明     不明     公鋳銭     公鋳銭     公鋳銭       不明     宋11年     東11年     東14年     明35年       水砂毒     宋24年     宋35年     宋35年       大観通覧     政和通實     淳熈元寶     洪武通       大銀通覧     水11年     東74年     明35年       大銀通覧     水11年     東74年     明35年       大銀通覧     水11年     東74年     明35年       大銀通覧     水11年     東74年     明35年       大田     東24年     東74年     東74年     東74年       大田     東74年     東74年     東74年     東74年       大田     東24年     東74年     東74年     東74年       大田     東74年     東74年     東74年     東74年       大田	銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       初鋳年     北10年     北10年     北111年     宋11年     南117年     136年       素材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭	銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       赤材     銅銭     石明     不明     不明     公鋳銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭       素材     銅銭     石明     不明     公鋳銭     山銀     一個銭     一個銭     一個銭       素材     回読     不明     公鋳銭     一個銭     一個銭     一個銭     一個銭       素材     回読     不明     対読     一個銭     一個銭     一個銭	銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       初寿年     北10年     不明     不明     不明     公寿銭     到銭     回読     対読       素材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭       素材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭       素材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭       素材     銅銭     銅銭     銅銭     一次計       東京     北11年     中11年     中11年       136     136     136       東京     136	銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       赤材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     一級損       素材     銅銭     銅銭     銅銭     銅銭     一級損     一級損	转选程期          元 市通管          和聖元寳     大観通寳          取和通寳          河馬亞          中央工廠          中工工廠          中工工厂室          中工工厂室 <td< td=""><td>銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       財子     本     行書     行書     一     一     一     一       財子     財子     日</td><td>鉄種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       財子     日本     10年     10日     10日<!--</td--><td>  数種</td><td>  数種</td><td>  大観通寶   大観通寶   大観通寶   大銀通寶   大銀河   大河   大</td><td>  State</td><td>数         が         表         初         表         内容         所面計測部位         重量         重量         観察事項           元         本         本         A         C         E         ①         ②         ③         量量         1/2弱が残存する銭、字款は「元」「箱」の一字が判論できる。面の肉郭は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部が幅出ている。緑青は面よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりもおろのとないまでが判論できる。面の肉郭が幅は一たります。まが判論を、背の肉部が降離している。緑青は面と背の両面でみられる。一字が判論できる。内部の幅は面でれられる。         1.23mが残存する銭、字款は「元」「賣」の一字がおおう。二次的なた外熱を受けていて面とおお溶解している。緑青は面と背の両面でみられる。         本         表         1.35mmを消息できる。内部の幅は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とお溶解している。緑青は面でみられる。場に青は海青で2.05mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面を診れるが、背の肉部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なり、熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変形したがながまる。次のかなが表を受けている。森青は高面でみられ、なる、大きでは、まずに、上では、大きで、大きで表が変形している。森青は海上で2.5mmを測え、二次的なりが変形したが変形している。森青は海上で3.25mmを測え、二次的なりが変形したが変形したが変形したが変形した。まずに、上で1.21         1.21         1.21         1.22         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.2</td></td></td<>	銭種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       財子     本     行書     行書     一     一     一     一       財子     財子     日	鉄種     元祐通寶     紹聖元寶     大観通寶     政和通寶     淳熙元寶     洪武通       財子     日本     10年     10日     10日 </td <td>  数種</td> <td>  数種</td> <td>  大観通寶   大観通寶   大観通寶   大銀通寶   大銀河   大河   大</td> <td>  State</td> <td>数         が         表         初         表         内容         所面計測部位         重量         重量         観察事項           元         本         本         A         C         E         ①         ②         ③         量量         1/2弱が残存する銭、字款は「元」「箱」の一字が判論できる。面の肉郭は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部が幅出ている。緑青は面よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりもおろのとないまでが判論できる。面の肉郭が幅は一たります。まが判論を、背の肉部が降離している。緑青は面と背の両面でみられる。一字が判論できる。内部の幅は面でれられる。         1.23mが残存する銭、字款は「元」「賣」の一字がおおう。二次的なた外熱を受けていて面とおお溶解している。緑青は面と背の両面でみられる。         本         表         1.35mmを消息できる。内部の幅は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とお溶解している。緑青は面でみられる。場に青は海青で2.05mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面を診れるが、背の肉部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なり、熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変形したがながまる。次のかなが表を受けている。森青は高面でみられ、なる、大きでは、まずに、上では、大きで、大きで表が変形している。森青は海上で2.5mmを測え、二次的なりが変形したが変形している。森青は海上で3.25mmを測え、二次的なりが変形したが変形したが変形したが変形した。まずに、上で1.21         1.21         1.21         1.22         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.2</td>	数種	数種	大観通寶   大観通寶   大観通寶   大銀通寶   大銀河   大河   大	State	数         が         表         初         表         内容         所面計測部位         重量         重量         観察事項           元         本         本         A         C         E         ①         ②         ③         量量         1/2弱が残存する銭、字款は「元」「箱」の一字が判論できる。面の肉郭は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部は幅広(3.30~3.39mm)であるが、背の肉部が幅出ている。緑青は面よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背で多くみられる。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりも背での大している。緑青は四よりもおろのとないまでが判論できる。面の肉郭が幅は一たります。まが判論を、背の肉部が降離している。緑青は面と背の両面でみられる。一字が判論できる。内部の幅は面でれられる。         1.23mが残存する銭、字款は「元」「賣」の一字がおおう。二次的なた外熱を受けていて面とおお溶解している。緑青は面と背の両面でみられる。         本         表         1.35mmを消息できる。内部の幅は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とお溶解している。緑青は面でみられる。場に青は海青で2.05mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面を診れるが、背の肉部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部が確は、面が2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なり、熱を受けていて面とおが変解してかるが、背の内部は面で2.08~2.27mm、青で2.25mmを測え、二次的なた外熱を受けていて面とおが変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変解している。緑は、葉はは上げ、一旦のこと、一部が変形したがながまる。次のかなが表を受けている。森青は高面でみられ、なる、大きでは、まずに、上では、大きで、大きで表が変形している。森青は海上で2.5mmを測え、二次的なりが変形したが変形している。森青は海上で3.25mmを測え、二次的なりが変形したが変形したが変形したが変形した。まずに、上で1.21         1.21         1.21         1.22         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.23         1.2

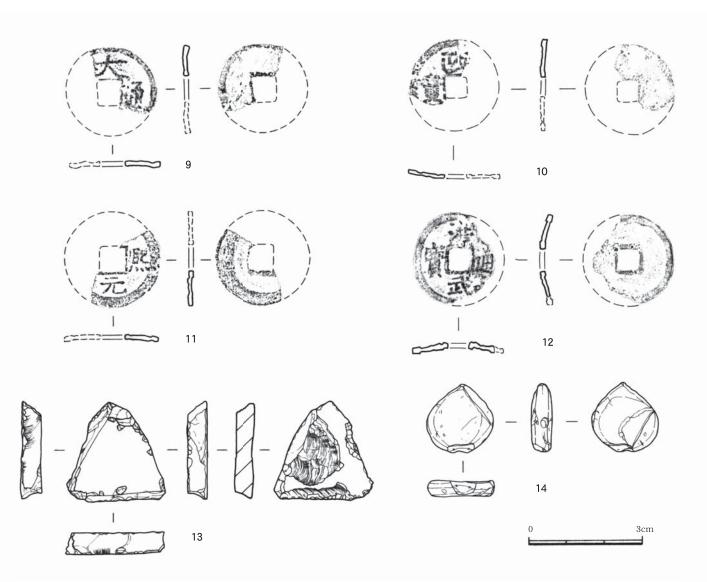
注「一」: 計測不可

# 第89表③ 石敷きSS01 ガラス製品観察一覧

単位:cm

-1-			- 1-22 · Cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称· 仮称	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第52図 図版43 13		平面観が三角形状を呈する資料で、ガラス板の一辺を微細な押圧剥離を加えて鋸歯状に加工して 刃を付けている。刃とやや垂直に使用痕が観察できる。恐らく鉛筆削りで代用(注)したものとみられ る。他の二辺には、割れたガラスの縁沿いを押圧剥離後に剥離面の角が潰れている。縦:2.88cm 横:2.5cm 厚さ:0.53cm 重量:4.4g。	C-11 SS01 第1層
" " 14	おはじき	製造工程で丸いガラス玉を潰す際に発生した不良品のおはじき。形状も正円ではなく歪で半円に二辺が構成された形(桃の実形)となっている。表面の一部と裏面にはプレス機械のものとみられる圧痕が段差のある線となって残っている。下辺中央の抉れは剥離によってなされるが、剥離面の縁沿いは角が潰れている。滑り止めを兼ねた型押しの碁盤目などはみられない。色調は透明な淡緑色。縦:1.8cm 横:1.74cm 厚さ:0.5cm 重量:2.2g。	C-11 SS01 北側 第4層b

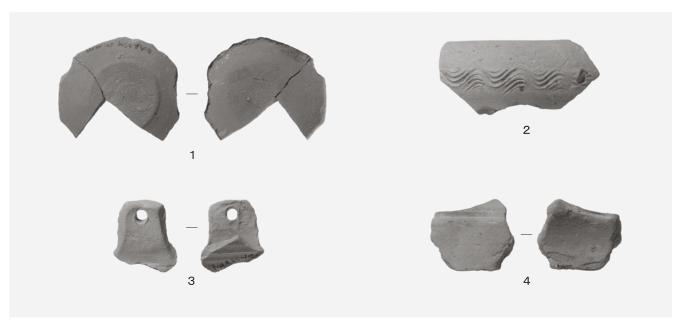
注 1960年代後半頃まで小学校高学年生や中学生が鉛筆削り用の折りたたみ式のナイフ「肥後の守」や「安全カミソリ」を使用していたが、ナイフなどを忘れた際はガラス片を拾って転用して鉛筆を削っていた。



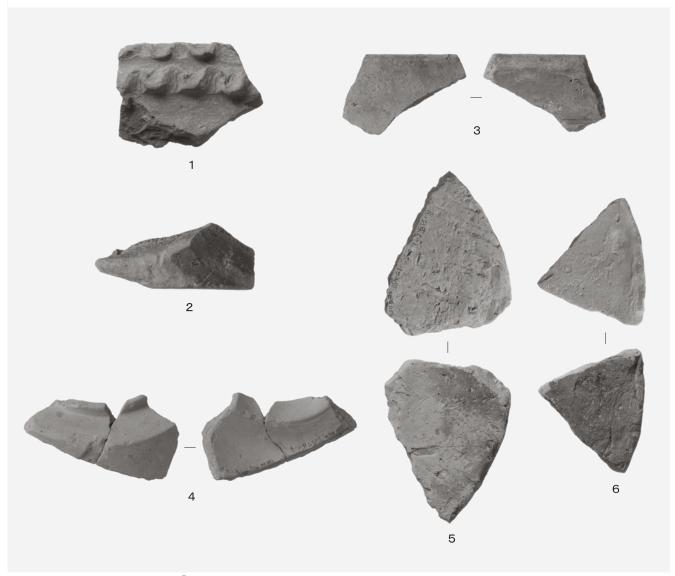
第52図 石敷きSS01出土品⑫ 銭貨:9~12、ガラス製品:13・14

第90表 石敷きSS01 出土遺物状況(図版外)

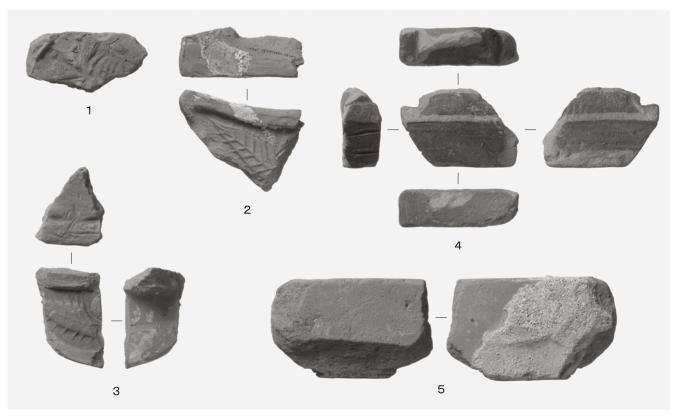
<u> </u>	3XC 0001 F	4-2017	D 430 (     1									
	_	層序		(	C-11		合 計					
				SS01								
種	重類·器種·部位		第1層	北側第4層b	石敷直上	石敷東端部分						
土器	不明	胴部		4			4					
	合 計		0	4	0	0	4					
白磁		底部		1			1					
	合 計		0	1	0	0	1					
瑠璃釉	瓶	胴部		1			1					
	合 計		0	1	0	0	1					
黒釉陶器	碗	胴部		1			1					
	合 計		0	1	0	0	1					
		口縁部	1		2		3					
タイ産			頸部		4		1	5				
褐釉陶器	壺	肩部		1			1					
757和190分		胴部	12	39	8		59					
		底部		2	1		3					
	合 計		13	46	11	1	71					
鍛冶関連	青銅浴	宰				1	1					
	合 計		0	0	0	1	1					
·	炭化した木片		2				2					
	合 計		2	0	0	0	2					



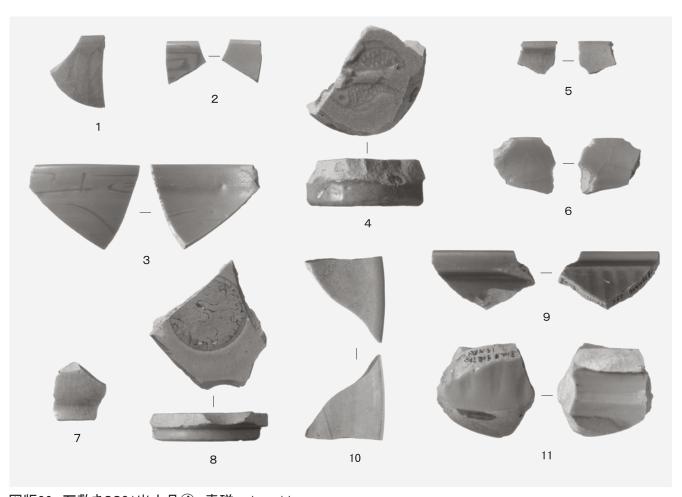
図版33 石敷きSS01出土品① 陶質土器:1~4



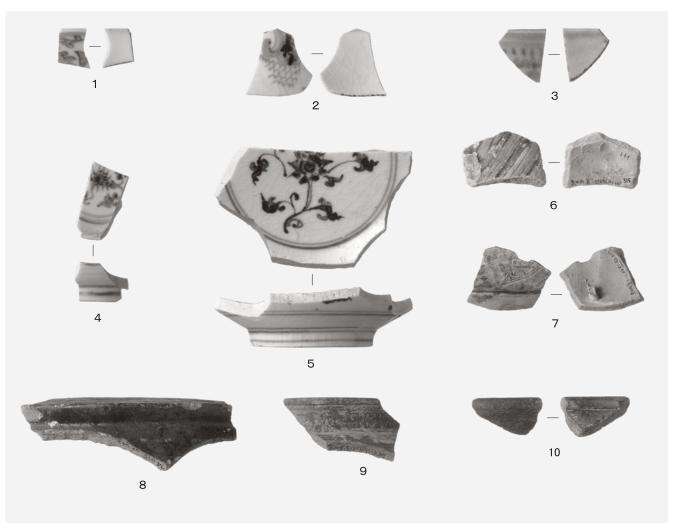
図版34 石敷きSS01出土品② 瓦質土器:1~6



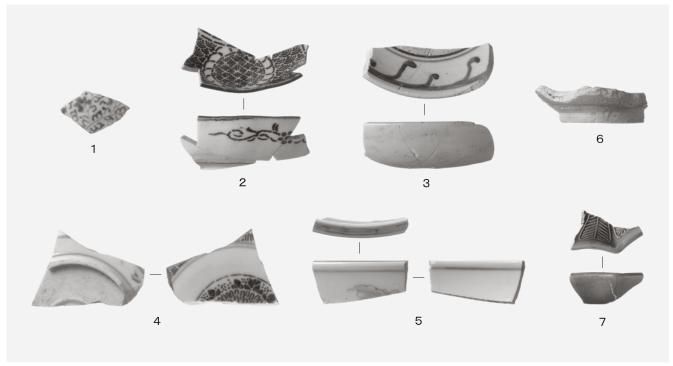
図版35 石敷きSS01出土品③ 瓦類 屋瓦:1~3、塼瓦:4、煉瓦:5



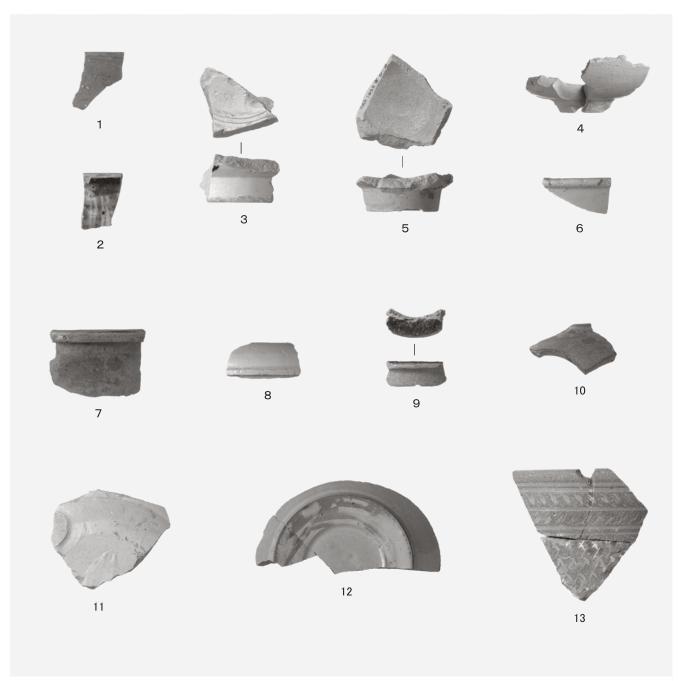
図版36 石敷きSS01出土品④ 青磁:1~11



図版37 石敷きSS01出土品⑤ 青花:1~5、彩釉陶器:6・7、中国産褐釉陶器:8・9、 タイ産土器(半練):10



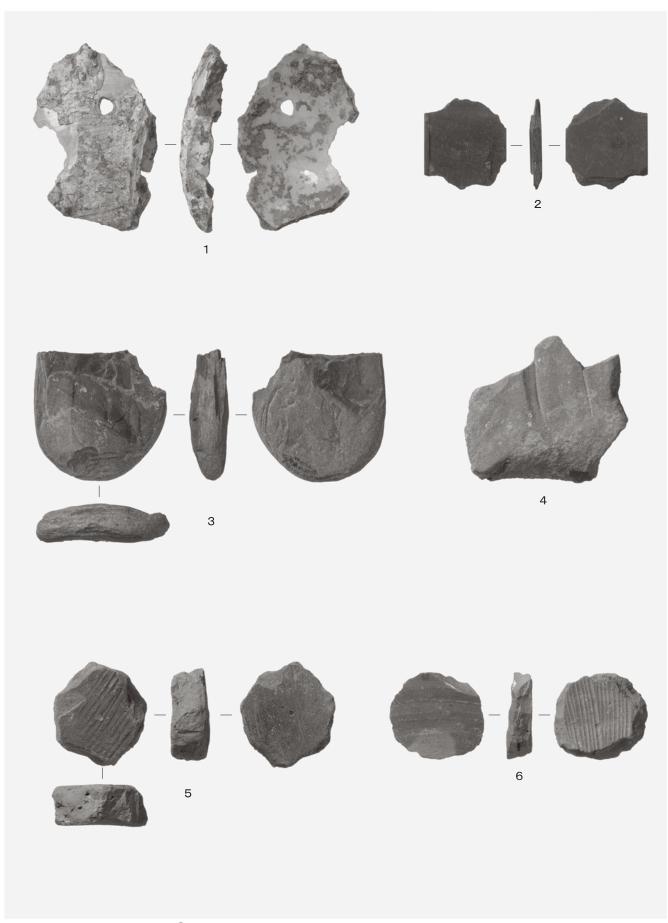
図版38 石敷きSS01出土品⑥ 本土産磁器:1~5、本土産陶器:6·7



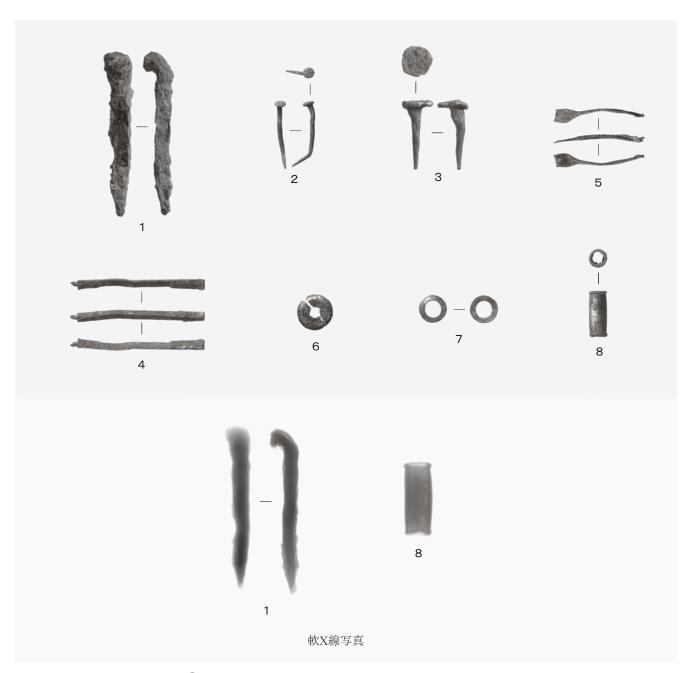
図版39 石敷きSS01出土品⑦ 沖縄産施釉陶器:1~13



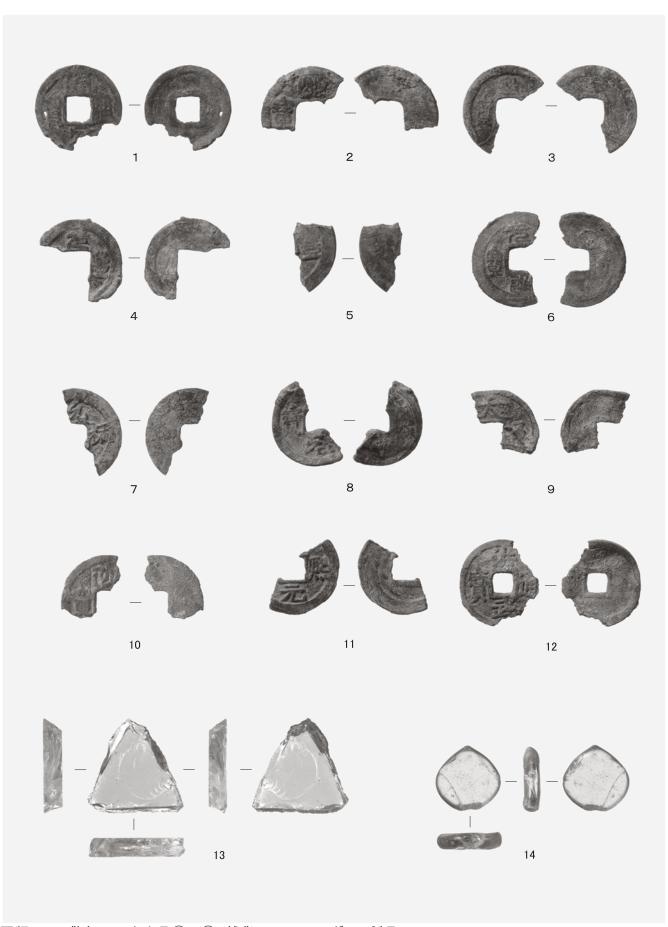
図版40 石敷きSS01出土品⑧ 沖縄産無釉陶器:1~3



図版41 石敷きSS01出土品⑨ 貝製品:1、石製品:2~4、円盤状製品:5·6



図版42 石敷きSS01出土品⑩ 金属製品:1~8



図版43 石敷きSS01出土品①・② 銭貨:1~12、ガラス製品:13·14

#### (12) 石敷き SS03-B の出土遺物 (第53・54 図、第91 表~第93 表、図版44)

石敷き SS03-B から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で147点(≒100%)が得られている。

出土遺物の内訳は、土器 3 点 (2.04%)、瓦類 31 点 (21.09%)、青磁 5 点 (3.40%)、白磁 1 点 (0.68%)、中国産褐釉陶器 40 点 (27.21%)、沖縄産施釉陶器 1 点 (0.68%)、タイ産褐釉陶器 6 点 (4.08%)、貝製品 1 点 (0.68%)、石器 3 点 (2.04%)、銭貨 23 点 (15.65%)の 19 種類が確認されている。輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、36.05%であった。

当該遺構の時期を示す資料はない。出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破 片資料や特徴的な資料を図示(第 54 図)した。

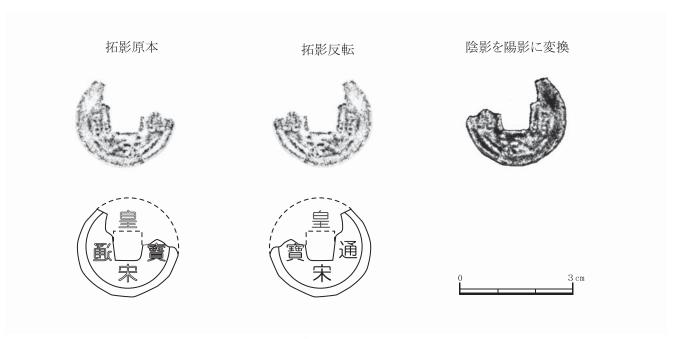
第91表① 石敷きSS03-B 青磁·沖縄産無釉陶器·貝製品·石器·石製品·石材·金属製品出土状況

第3140 41	,,, <u> </u>	PH) HH 2	- 只表明-146-14表明-147-並属表明山工1///// C-10													
			層序								503-B					
									試排		試排		:/信	掘④		
							<u></u>	南	D-71/	11(1)	H~77	ц <i>©</i>	II-V.	ЩФ		
						覆土	漁茶色土層 第2層i	側 畦試 表掘	第	第 3	第	第 3	第	(コー)第	SS03-Bと SS04-A	合計
					_		土信 層)	採① ③ の	1 層	層 a	1 層	層 a	1 層	ラ 2 ル 層 層	の畦表採	
	種類	<b>i</b> •器種	・部位											)		
	碗		胴部	無文	ζ	2							1			3
青磁			底部	cタイプ	印花文	1										1
	盤	無文					1						1			
		合言	+			3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	5
沖縄産無釉陶器	碗			口縁部		1										1
		合言	+			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
貝製品						1										1
		合言	+			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	砥石:	?		凝灰岩					1							1
石器•石製品	石碑or羽	目板	破片	細粒砂岩	(ニービ)				1							1
	石敷き	片	破片	細粒砂岩	(ニービ)				1							1
		合言	+			0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
<b> </b> 石材		糸	細粒砂岩(ニ	:L,)		8			1		4			2		15
2 H 45 J			石灰岩			1										1
		合言		9	0	0	1	0	4	0	0	2	0	16		
	工具類・	丸釘	頭部欠損	鉄								1			1	
金属製品	生産用具	調	度品などの	飾り金具	青銅						1					1
	分類不明		用途不	明	青銅					1						1
			0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3			

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

第91表② 石敷きSS03-B 二次的火熱溶解銭貨

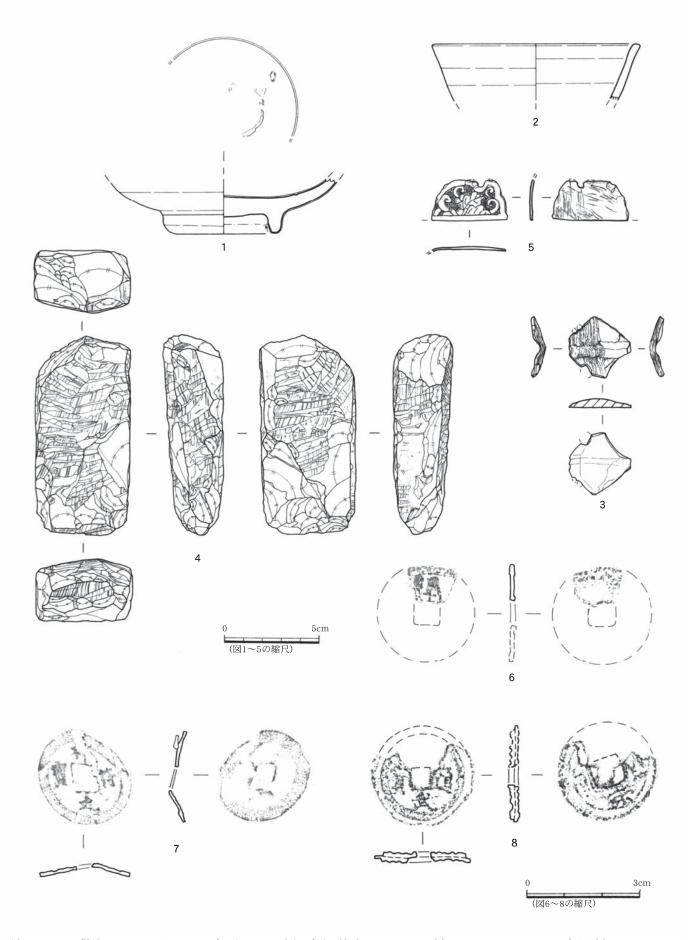
第91表② 石敷きSS03-B	二次的火	く熱溶解釒	<b>美貨</b>	
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
開元通寶 (唐621年初鋳) or (唐845年初鋳) or (南唐960年初鋳)	1片	0.68	「開」の一字が残存	C-10 SS03-B 試掘②第1層
天禧通寶?(北宋1017年初鋳)	1片	1.57	「通」・「寳」の二字が残存	C-10 SS03-B 覆土
皇宋通寶(北宋1038年初鋳)、 洪武通寶(明1368年初鋳)	2片	3.47	2枚裏面同士付着。 皇宋通寶→「皇」の一字のみが欠落 洪武通寶→「武」・「通」・「寶」の三字が残存	C-10 SS03-B SS03とSS04の畦表採
祥符元寶(北宋1009年初鋳)	1枚	3.13	完形	C-10 SS03-B SS03とSS04の畦表採
元豊通寶(北宋1078年初鋳)	1片	1.88	「元」・「寳」の二字が残存	C-10 SS03-B 試掘②第3層a
元祐通寶(北宋1086年) or 元豊通寶(北宋1078年)	1片	0.20	「元」の一字が残存	C-10 SS03-B 試掘①第1層
聖宋元寶(北宋1101年初鋳)	1片	0.95	「聖」・「宋」の二字が残存	C-10 SS03-B 覆土
政和通寶 折二銭(北宋1111年)	1片	0.40	「通」の一字が残存	C-10 SS03-B 試掘①第1層
	1片	0.78	判読不可	C-10 SS03-B
	3片	3.91	判読不可	で 10 3303 B
	1片	0.50	「寳」の一字が残存	18.1.
不明銭貨	1片	0.80	「通」の一字が残存	C-10 SS03-B 試掘②第1層
	1片	0.42	「元」の一字が残存	C-10 SS03-B
	1片	0.44	「寳」の一字が残存	試掘①第1層
^ ¬1	6片	2.25	_	
合 計	23	I		



第53図 皇宋通寶の銭形 (第54図8) の拓影を陰影から陽影に変換

## 第92表 石敷きSS03-B 青磁·沖縄産無釉陶器·貝製品·石製品·金属製品·銭貨観察一覧 単位:cm

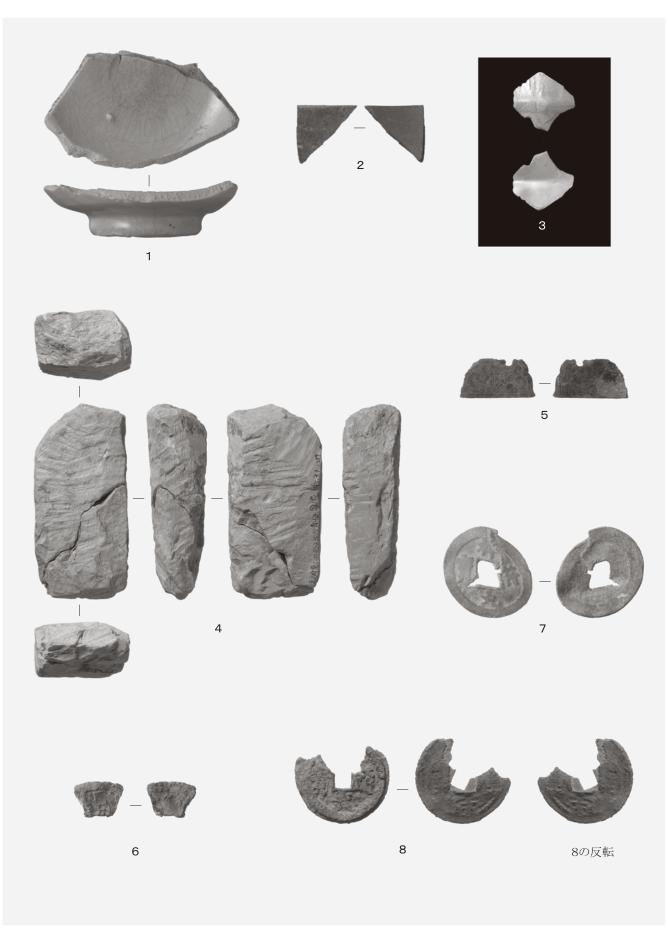
37 JZ JZ	- <i>///</i>		0 0 1	H244 7 1	<b>吨性黑阳侧铅 只衣吅 40 衣吅 亚周衣吅 或具既尔 克</b>	単似:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称•6	反称	部位	口径 器高 底径	観察事項等	出土地点 出土層
第54図 図版44 1	青磁	碗	Cタイプ 底部	_ _ 5.3	器形:無文碗の高台とみられる。高台際から開き気味に丸味を持たせて胴部へ移行する。文様:見込みに圏線と印花を施す。印花は不鮮明である。素地:淡黄白色の細粒子で、微細な黒色鉱物が多くみられる。劈開面から微細な気泡痕も多く観察できる。釉色:明緑色の透明釉で、内面から外面の高台内側途中まで施釉。貫入:外面に粗い貫入で、内面は細かい貫入がみられる。中国南部の窯。14c終末~15c。	C-10 SS03-B 第2層i (濃茶色 土層)
" " 2	沖縄産無釉陶器	碗	口縁部	11.0 _ _	器形:直口口縁碗。口唇部は篦削り後に軽く擦痕を加えて平坦に仕上げる。内面は丁寧な回転擦痕が仕上げている。外面には灰褐色の釉が施釉されている。口唇と内面は露胎。文様:なし。素地:茶紫色の細粒子で、細かい石英と石灰質砂粒が僅かに観察できる。稀に粗い茶褐色の物質がみられる。劈開面から微細な気泡痕も僅かに観察できる。釉色:灰緑色の失透釉で、外面にのみ施釉。貫入:なし。	C-10 SS03-B 覆土
" " 3	貝製品		_	_ _ _	サザエ科ヤコウガイの殻の外周縁を粗割調整後に加工を施したようであるが、最終的に破損により歪な菱形状の形状となる。製作途中で廃棄された用途不明の製品。研磨は上方の交点部分と上方左側面で主に観察できる。特に上方の右側面に研磨面が多く残る。上方の左側面下寄りに孔を二孔穿っているが、孔が半分欠落する。孔の半欠した割れ面部分にも研磨を加えたようである。左側面にも研磨が観察できるが、研磨が徹底していない。下方の左側面中央にも孔を穿っているが、この孔も半分欠落する。孔の欠落した割れ面にも研磨がみられる。下方右側面は破損し、割れ面は自然に摩滅したようである。縦:3.2 cm、横:3.3 cm、厚さ:0.43 cm、重量:4.2 g。	C-10 SS03-B 覆土
" " 4	石器	砥石	_	_ _ _	短冊形の砥石とみられる製品であるが、各面に削り痕が多く観察できる。上部の破損面にも削り痕がみられる。金属製の刃物(刀子、鑿など)を本来、研磨すべき砥石が削られて溝状となる。砥面は辛うじて右側面にのみ観察できる。削り痕が多く観察される事からすると砥石を削って砥石の粉を研磨材などに利用した可能性も考えられるが判然としない。凝灰岩製。縦:10.5cm、横:5.1cm、厚さ:3.22cm、重量:251.6g。	C-10 SS03-B 試掘① 第1層
" " 5	金属製品	青銅製品	工具類・生産用具	_ _ _	調度品などの飾り金具。底辺と右側の一部を除いて、その他の縁は破損による破断面である。文様は鏨で底辺の縁と右側の抉れた縁に沿うように毛彫りの細線で区画する。区画された内側には主文となる植物の葉と波濤文を毛彫りで文様を施す。主文の隙間には円形の魚々子を丁寧に施している。区画線近くの魚々子は半円形にして区画線と重ならないように施している。上辺右側の抉れは魚尾状となるように加工した部分である。裏面には当該製品が廃棄後に付された溝状の太線が多くみられる。残存長(横):40.0mm、残存幅(縦):21.5mm、残存最大厚:0.91mm、残存最小厚:0.62mm、重量:4.4g。	C-10 SS03-B 試掘② 第1層
" " 6		開元通寶		重量 0.68g	開元通寶の「開」の一字のみが残存する。二次的な火熱や緑青の錆膨れで面と背が微細なケロイド状となる。面の肉郭の幅は、1.84mmを測る。背は面よりも若干、幅広(2.91mm)である。鋳造種類:公鋳銭。初鋳年:唐621年or845年、南唐960年。素材:銅銭。読み方:対読。状態:破損。書体:真書。①1.41mm、②1.22mm、③1.33mm。	C-10 SS03-B 試掘② 第1層
" " 7	銭但	祥符元寶		重量 3.13g	北宋の1009年初鋳造の祥符元寶。銭の変形の要因は、意図的(二次的な製品の原材料として使用する為に鉄鑿などによる細断を試みたが、細断途中で廃棄)に背の孔郭から肉郭の間に外圧(11.71mm幅の鉄鑿などによる打撃で2回程度加えている)が加わり罅割れと窪みが発生したことによるものとみられる。鉄鑿などによる打撃痕(幅1.02mm)が面の肉郭部分で確認できる。破壊に使用された鉄鑿などの工具の刃幅は、11.71mm、刃の厚みが1.02mmのものが使用されたようである。肉郭の幅は、面が2.69~3.08mm、背で3.65~3.80mmを測る。緑青は両面でみられ、特に背は緑青により器面が微細なアバタ状となる。	SS03-Bと SS04-Aの 畦より採 集
,, ,, 8	- <b>池</b> 太元	洪武通寶		重量 3.47g	「洪武通寶(明、1368年初鋳造)」の裏面に字款が反転した「皇宋通寶(北宋、1038年初鋳造)」が重なって付着する。洪武通寶は、「武」・「通」・「寶」の三つの字款が残存する。反転文字の皇宋通寶は、「皇」の一字のみが欠落する。「皇宋通寶」は銭鋳型の銭形となるものが何らかの理由で廃棄されたのかもしれない。首里城内で模鋳銭(島銭)を鋳造していた事を示す貴重な資料である。残存縦長20.70mm、横長:(洪武通寶:21.97mm、皇宋通寶:25.41mm)、孔のサイズ:洪武通寶4.25mm、皇宋通寶6.95mm、厚さ1.97mm(2個分)。	SS03-Bと SS04-Aの 畦より採 集



第54図 石敷きSS03-B出土品 青磁:1、沖縄産無釉陶器:2、貝製品:3、石器:4、金属製品:5、 銭貨:6~8

### 第93表 石敷きSS03-B 出土遺物状況(図版外)

第93表 7		C-10													
			層序		C-10 SS03-B										
								試挑		803-B 試排		14€	屈④		
		_				南		武功	#(I)	武功	#(2)	武儿	出生)		
						側 畦試	(濃茶色土層 第2層i		Arte		Arte		7	SS03-Bと	合計
					覆	表掘	** 2 色 =	第	第 3	第	第 3	第	1 第	SS04-A	H H I
					土	表掘採①	土膚	1 層	層	1 層	層	1 層	ラ 2 ル 層	の畦表 採	
						(3) O	層	眉	a	眉	a	眉	層層	1/10	
	*	種類・器種・部				V)							Ū		
土器	不明		胴部				1				2				3
		合 計			0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
瓦質土器	蓋		4= 4	17						1					1
	不明		口縁音	<u> </u>  }	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	古丽女	合 計	115 4	≥d≤ nΔ /mr.1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	高麗系	平瓦 丸瓦	灰色 灰色	漆喰無し	1								1		1
	大和(古)		灰色	   漆喰無し		1						1	1		2
	7016(11)	平瓦	褐色	134.157/// 0		1				1		1			1
		軒平	灰色	漆喰無し	2					-					2
				漆喰有り(片面)	5										5
B. C.		丸瓦	赤色	漆喰無し	2										2
屋瓦				漆喰有り(両面)	1										1
	明朝系		灰色	漆喰有り(片面)	2										2
	121 ±31 212			漆喰無し	2							4			6
		平瓦		漆喰有り(両面)	1										1
			褐色	漆喰有り(片面)	1										1
			-1. F	漆喰無し	_							1			1
		合 計	赤色	漆喰無し	3 20		0	0	0	1	0	6	1	0	3 29
	I類orⅡ類	不明		角無し	20	1	U	0	U	1	U	1	1	0	1
塼瓦	Ⅲ類	形状不明b	漆喰無し	角1								1			1
	ш ж	合計		/	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
白磁	碗		胴部							1					1
	<u> </u>	合 計			0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
青花	Ⅲ.		胴部									1			1
		合 計			0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
中国産	壺		胴部		10					1	2	25	1		39
褐釉陶器	壺	A1	底部									1			1
) >l		合 計			10	0	0	0	0	1	2	26	1	0	40
タイ産 褐釉陶器	壺		胴部		1						1	4			6
1-AVI HILLANDI		合 計			1	0	0	0	0	0	1	4	0	0	6
本土産	m			2斤相											1
磁器	Ш	口縁部		近現	1										1
		合 計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
本土産陶器	甕	胴部		薩摩	2										2
が下 や田 十六		合 計			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
沖縄産 施釉陶器	碗		胴部		1										1
カロイエドリカは		合 計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	瓶	н н	胴部		2										2
ガラス製品	/Jex	Ľ	三王		1										1
			ガラス		3										3
		合 計			6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
近·現代			/クリート		1										1
		合 計			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1



図版44 石敷きSS03-B出土品 青磁:1、沖縄産無釉陶器:2、貝製品:3、石器:4、金属製品:5、 銭貨:6~8

#### (13) 石敷き SS02 の出土遺物 (第55 図、第94·95 表、図版 46)

石敷き SS02 から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で89点(≒100%)が得られている。 出土遺物の内訳は、瓦類7点(7.87%)、青磁5点(5.62%)、白磁1点(1.12%)、中国産褐釉陶器20 点(22.47%)、沖縄産施釉陶器1点(1.12%)、タイ産褐釉陶器9点(10.11%)の11種類が確認されている。 輸入陶磁器(タイ産、中国産)の占める割合は、39.33%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として確認されたのは、白磁直口口縁皿(第55図2)のみであった。

なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示 (第55図) した。

第94表① 石敷きSS02 出土遺物状況

			屈点				I		
		_	層序			C-1			
	_					SS0:	2		Δ⇒L
					北側 縁石内	第2層f (東側覆土)	南側 第3層b	南側 縁石内	合計
		種類·分類·器種			第2層b	(//\//\/\/\/		第3層b	
瓦質土器		^ =1	蓋				1		1
		合 計		) + +	0	0		0	1
모도	00 ±0 -7	丸瓦	赤色	漆喰有り(片面)			3		3
屋瓦	明朝系	平瓦	赤色	漆喰有り(片面) 漆喰無し			1 2		1 2
		合計		徐唄無し	0	0		0	6
塼瓦	Ⅲ類	形状不明a	漆喰無し	角無し	0	0	1	0	1
7471	111 754	合 計	PR'ESTA	<u> </u>	0	0		0	1
				外面:雷文・型起こし	0	U	1	0	1
	***	口縁部	直口	内面:刻花文・型起こし				1	1
	碗	旧女7	蓮弁	片切彫り				1	1
青磁		胴部		有文				1	1
	Ш	口縁部	外反	外面:無文				1	1
				内面:有文不明				1	1
	盤	胴部	外面:無	ξ文、内面:蓮弁・丸箆			1		1
		合 計			0	0	1	4	5
白磁	Ⅲ.	口縁部		直口				1	1
		合 計			0	0	0	1	1
中国産 褐釉陶器	壺		胴部	3	1	9	2	8	20
		合 計			1	9	2	8	20
タイ産	壺		口縁				1		1
褐釉陶器	74.		胴剖	3		3		5	8
		合 計			0	3	1	5	9
沖縄産 施釉陶器	器種不同		胴部	3	1				1
		合 計			1	0		0	1
			岩(鹿児島県産	:)			19		19
石材		Ĭ	緑色岩				1		1
1. 1.6			砂岩(ニービ)		1				1
自然石			河原石			^	1		1
		合計     先端部欠損	サイズ不明		1	0	21	0	22
	<b>工目松</b>	角釘 頭部欠損	サイズ不明	_ 				1 2	1 2
	工具類· 生産用具	一類部欠損   先端+頭部欠損		<u></u>			1		1
	上注用云	元端王與部入復   鋲	ų T	青銅			1	1	
金属製品		兜の立物中9	上船り	月 列				1	
	武具	据文金物の		青銅				1	1
	₩V <del>/</del>	笠鞐	/19/ <del>L</del>				1	1	1
	分類不明	用途不明	1	青銅			1	4	4
	21 254. L	合 計	•	L1 %Ind	0	0	2	10	12
ガラス製品	瓶		胴部	3		1			1
	7.0.3	合 計	v [4]		0				

注 釘のサイズは、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)

## 第94表② 石敷きSS02 二次的火熱溶解銭貨

		H		
銭名	片数	重量 (g)	残存状況	出土層
開元通寶(唐621年初鋳) or(唐845年初鋳) or(南唐960年初鋳)	1片	0.64	「開」の一字が残存	C-11 SS02南側縁石内第3層b
熙寧重寶(北宋1071年)or 皇宋元寶(南宋1253年)	1片	0.47	「寧」or「宋」の一字が残存	C-11 SS02第2層f(東側覆土)
元豊通寶(北宋1078年初鋳)	1枚	4.50	完形	C-11 SS02南側縁石内3層b
宣和通寶(北宋1119年初鋳)	1片	0.72	「和」の一字が残存	C-11 SS02第2層f(東側覆土)
<b>て</b> 明秋化	1片 1片	0.71 1.22	「寳」の一字が残存 「通」の一字が残存	C-11 SS02第2層f(東側覆土)
不明銭貨	1片 3片	0.75 2.03	「寳」の一字が残存	- C-11 SS02南側縁石内第3層b
合 計	10			

#### 第95表① 石敷きSS02 青磁·白磁·金属製品観察一覧

単位:cm

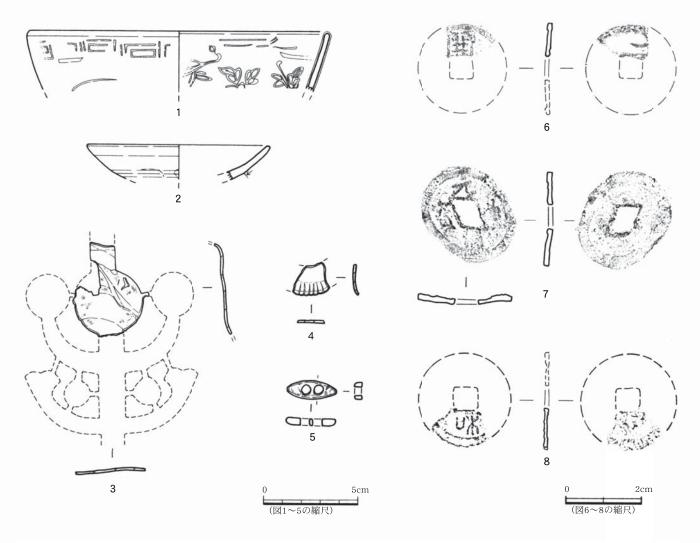
						- 122. CH
挿図番号 図版番号 遺物番号	仮	称• 奪	部位	口径 器高	観察事項等	出土地点 出土層
第55図 図版45 1		青磁	口縁部	16.0 	器形:直口口縁碗。文様:外面の雷文は型で起こされていて反時計回りと時計回りの雷文を施す。雷文帯直下に片切彫りでラマ式蓮弁文の弁先が描かれている。内面も型で刻花文を起こしている。素地:淡灰白色の微粒子で、劈開面から微細な気泡痕がみられる。釉色:淡緑色の釉が両面にみられる。貫入:なし。龍泉窯系。15c初頭~中頃。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 2	直口口縁皿	白磁	口縁部	9.7 _ _	器形:直口口縁皿で、抉入高台皿の口縁[京の内跡土壙SK01出土の白磁抉入高台皿(註1)の5個体の平均口径は9.4cmあり、口径の最少と最大は9.2cm~9.8cmであった。]とみられる。外面は轆轤痕が顕著にみられる。口径内面は丁寧に仕上げられている。文様:なし。素地:白色の微粒子。釉色:淡黄白色の釉が内面から外面胴部まで施釉。貫入:微細な貫入が両面でみられる。福建省邵武窯系。15c後半~16c。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 3	金属	青	中 兜 の 立 り 物	1 1 1	兜鉢の眉庇に固定された立物(三鍬形台中央祓立台に取り付けられた立物中央部にあたる)飾りの破片で、京の内跡土壙SK01から出土した立物が「瑞雲日月星文」(註2)として推定復元されている。当該資料は太陽(国王)を現す「日(日輪)」で、大きな円で表現する。円形文の上位と下位が立物中心の板材である。右の小さなバリが「星」に繋がる。左側のバリは折れている。緑青は表面より裏面が著しい。錆止めを兼ねた鍍金は、緑青の影響を受けて全て剥落する。残存長(縦):50.0mm、残存幅(横):39.6mm、最大厚:0.83mm、最小厚:0.54mm、重量:6.0g。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 4	<b>馬製品・武</b>		の菊座据文金物	1 1 1	鍍金は残っていない。縁辺部を菊花の弁先となるように加工する。弁先と弁軸は一致する。弁軸は鏨で細線を毛彫りで施す。表裏面と緑青がみられ、特に裏面の緑青は目立っている。残存長(縦):17.5mm、残存幅(横):18.5mm、最大厚:1.17mm、最小厚:0.98mm、重量:1.7g。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 5	具	銅	<u>笠</u> 鞐	_ _ _	鍍金された笠鞐。下端の側面観が、中央部で湾曲して左右の端が上に向いている。孔のサイズは、正面(左側の孔が4.96~5.12mmを測り、右側の孔は4.88~5.17mmを測った。)と裏面の孔(左側は5.25~5.46mm、右側が5.02~5.45mmを測る。)のサイズが微妙に異なっていて、裏面の孔が正面よりも広く開いている。孔の穿孔は両面から穿たれたものとみられる。緑青が表裏面及び外周の各側面で部分的に観察できる。残存長(縦):9.0mm、残存幅(横):26.0mm、最大厚:3.69mm、最小厚:3.22mm、重量:3.1g。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b

- 註文献 註1. 金城亀信、上原 靜ほか『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(I)-』沖縄県教育委員会 1998年3月。 註2. 金城亀信『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(I)-』沖縄県立埋蔵文化財センター 2009年3月。

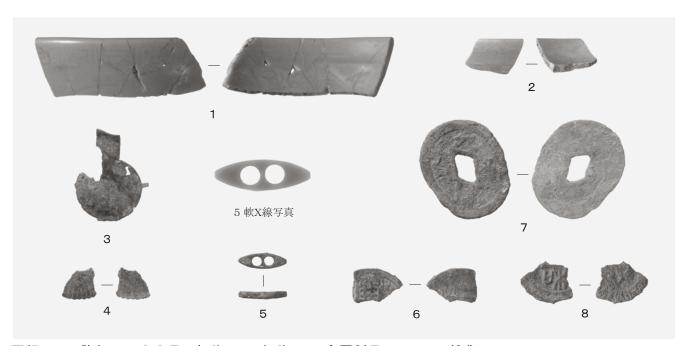
#### 第95表② 石敷きSS02 銭貨観察一覧

単<u>位:mm/g</u>

挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読み	状	書:	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断门	面計測部	76位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	-1-1-1-1	MINT X	出土層
第55図 図版45 6	開元通寶	模鋳銭	唐845 年 or 唐621 年	銅銭	対読	破損	真書		1 1		1.25	0.86	1.17	0.64	「開」一字のみが残存する。背には月文がみられ、月文の位置関係から「背上月」となる。背の肉郭は無い。二次的な火熱を受けて破断した劈開面が溶けてケロイド状となる。面も微弱なアバタ状となる。緑青も面で多くみられる。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 7	元豊通寶	公鋳銭	北宋 1078年	銅銭	回読	完形		25.81 21.77		4.83 7.32	1.53	1.40	1.47	4.50	二次的な火熱を受けて銭が歪な扁楕円 形となる。字款は「元」・「豊」・「通」・「寶」 の四字が確認できるが、火熱や緑青の 影響を受けて字款が不鮮明である。	C-11 SS02 南側縁石 内第3層b
" " 8	宣和通寶	公鋳銭	北宋 1119年	銅銭		破損	篆書			1 1	1.38	0.57	0.84	0.72	1/4弱が残存。字款は「和」の一字が確認できる。二次的な火熱や緑青の影響を受けて器面の保持が悪い。面の肉郭が縁に沿うように浅く窪んでいる。背は全体的に火熱で微細な皺が多くみられる。	C-11 SS02 第2層f (東側 覆土)



第55図 石敷きSS02出土品 青磁:1、白磁:2、金属製品:3~5、銭貨:6~8



図版45 石敷きSS02出土品 青磁:1、白磁:2、金属製品:3~5、銭貨:6~8

#### (14) 石敷き SS04-A の出土遺物 (第56図~第58図、第96表~第99表、図版46~図版48)

石敷き SS04-A から出土した遺物の種類は、第4表に呈示したように総計で238点(≒100%)が得られている。

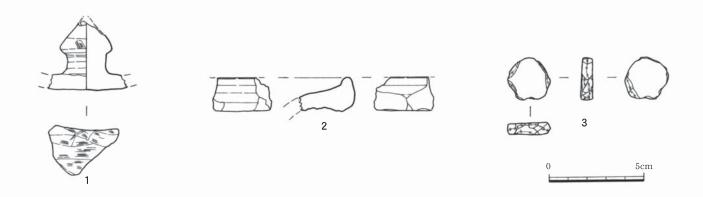
出土遺物の内訳は、瓦類 5 点 (2.10%) 、青磁 3 点 (1.26%) 、中国産褐釉陶器 89 点 (37.39%) 、タイ産 褐釉陶器 4 点 (1.68%) 、銭貨 132 点 (55.46%) 、円盤状製品 1 点 (0.42%) 、ガラス製品 1 点 (0.42%) の 10 種類が確認されている。輸入陶磁器 (タイ産、中国産) の占める割合は、40.76%であった。

当該期の遺構の時期として確認ができた遺物は、タイ産(土器・褐釉陶器。第56図1・2)の資料であった。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第56図)した。

第96表 石敷きSS04-A タイ産土器(半練)・タイ産褐釉陶器・円盤状製品観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号 遺物番号	名称•	仮称	部位	口径 器高 高台径	観察事項(素地·混入物·色調·釉色等)	出土地点 出土層
第56図 図版46 1	タイ産土器	蓋	撮み	_	器形:蓋中央に取り付けられた宝珠形の撮の破片で、撮の先端部が欠落する。器面調整:側面観で三角形状となる撮部分は指ナデで調整する。三角形状の撮下端から蓋甲上面までの撮の根元部分は時計回りの雑な回転擦痕や指ナデを加えている。蓋甲下面は方向の定まらない擦痕を雑に施す。素地:淡灰白色の細粒子で、粗細な石英を主体にして細かい黒色や茶褐色の鉱物を少量含む。色調:上下の面とも淡橙白色を呈する。焼成:良好で堅い。15c~16c。	SS04-A 東側 第3層a
" " 2	褐釉陶器	壺	口縁部		器形:外反口縁の壷。口縁端部を上方に突出させている。文様:なし。器面調整:肥厚帯下端は無釉であり、雑な轆轤痕を回転擦痕でナデ消すが徹底しない。内面は施釉されているが、釉上からの観察では器面が滑らかである状況からすると丁寧なナデが施されたようである。素地:淡茶白色の細粒子で、粗細な石英と茶褐色の鉱物を少量含む。色調:黄茶褐色の釉が内面から外面の肥厚帯まで施す。焼成:堅緻。シーサッチャナライ窯。15c~16c。	
" " 3	円盤状製品		中国産褐釉陶器		中国産褐釉陶器壷(中国南部の窯。14c~15c)の胴部破片に打割調整を加えて円盤状に加工した製品である。外周縁辺部の打割調整は、主に内面から実施されている。剥離面の縁沿いの摩滅が多くみられることから使用頻度は高かったようである。外面に淡黄白色の釉が施されている。内面は露胎のままである。素地は淡橙白色の細粒子で、粗い鉱物(石英、茶褐色、黒色)を多く含んでいる。縦:1.2cm 横:2.3cm 厚さ:0.6cm 重さ:3.9g。	C-10 SS04-A 東側 第3層a



第56図 石敷きSS04-A出土品① タイ産土器(半練):1、タイ産褐釉陶器:2、円盤状製品:3

### 第97表① 石敷きSS04-A 二次的火熱溶解銭貨

<u>第97表① 石敷きSS04-A</u>	<u>一人</u>	ソ人がか	件	
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
開元通寶(唐621年初鋳)	1片	0.27	「開」の一字が残存	
or (唐845年初鋳)	1片	0.79	「寳」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
or (南唐960年初鋳)	1片	1.58	「開」・「通」の二字が残存	
開元通寶(背上月)(唐621年初鋳)	1片	0.96	「開」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
宋通元寶(北宋960年初鋳) or 嘉祐元寶(北宋1056年初鋳)	1片	0.76	「元」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
至道元寶(北宋995年初鋳)	1片	0.58	「道」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	1.39	「景」・「德」の二字が残存	
景德元寶(北宋1004年初鋳)	1片	0.60	「景」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
   祥符通寶(北宋1009年初鋳)	1片 1片	1.42 0.40	「景」・「徳」の一字が残存 「祥」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
祥符元寶(北宋1009年初鋳) or 祥符通寶(北宋1009年初鋳)	1片	0.56	「符」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
天聖元寶(北宋1009年初鋳)	1片	2.52	 「聖」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
景祐元寶(北宋1034年初鋳)	1片	0.81	「景」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
皇宋通寶(北宋1038年初鋳)		宋0.89	皇宋通寶→「宋」の一字が残存	
十 治平元寶(北宋1064年初鋳)	2片	+ 治1.03	治平元寶→「治」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
白小泽第(小小1000年初年)	1片	1.48	「皇」・「通」・「寳」の三字が残存	
皇宋通寶(北宋1038年初鋳)	1片 1片	2.69 1.12	「皇」・「宋」・「通」の三字が残存 「宋」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
皇宋通寶(北宋1038年初鋳) or	1片	0.87	「皇」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
皇宋元寶(南宋1253年初鋳)	1片	1.24	「和」の一字が残存	
至和元寶(北宋1054年初鋳)	1片	0.49	「至」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
嘉祐元寶(北宋1056年初鋳) 治平元寶(北宋1064年初鋳)	1片	0.42	「嘉」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
or 紹聖元寶(北宋1094年初鋳)	1片	0.97	「治」or「紹」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
加至元县(北八八〇八)	1枚	3.87		
	1片	0.51	「元」の一字が残存	
熈寧元寶(北宋1068年初鋳)	1片	1.36	「元」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片 1片	1.28 0.95	「熈」・「寳」の二字が残存	
	1片	0.30	「祐」の字款の一部が残存	
元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1片	0.93	「元」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	0.65	「元」の一字が残存	
紹聖元寶(北宋1094年初鋳)	1片 1片	1.67 0.99	「紹」・「聖」の二字が残存	   C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
76 E 76 St (16) (17) (17)	1片	0.30	「紹」の一字が残存	- 10 0001 11N MC1 1/M HELT 1 / MULLEM
	1片	0.82	「聖」の一字が残存	
聖宋元寶(北宋1101年初鋳)	1片	0.48	「元」の一字が残存	- C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片 1片	0.61 1.16	「宋」の一字が残存 「宋」の一字が残存	
	1片	0.63	「政」の一字が残存	
政和通寶(北宋1111年初鋳)	1片	0.60	「政」の字款のみ残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	1.63	「和」の一字が残存	
宣和通寶(北宋1119年初鋳)	1片	1.24	「和」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
正隆元寶(金1157年初鋳)	1片 1片	0.69 3.28	「和」の一字が残存 「正」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
淳熈元寶(南宋1174年初鋳) or	1/1	0.20	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	○ IO OUOT THYDACTIDATUE   VONE 上田
淳化元寶(北宋990年初鋳) or	1片	0.76	「淳」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
淳祐元寶(南宋1241年初鋳)			「白、「中、ヘーキ	
皇宋元寶(南宋1253年初鋳)	1片	1.70	「皇」・「寳」の二字、 僅かに「元」の一字が残存	C-10 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面

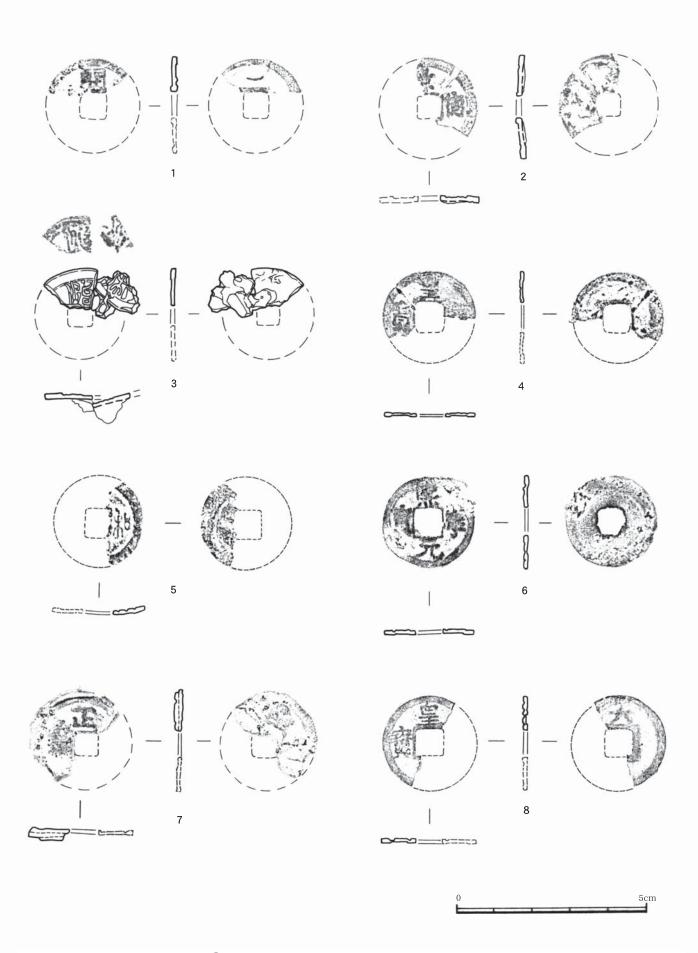
第97表② 石敷きSS04-A 二次的火熱溶解銭貨

第97表② 石敷きSS04-A		可火熱落		
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層
至大通寶(元1310年初鋳)	1片	2.24	「大」・「通」の二字、 「寳」の一部も僅かに残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
天定通寶(天完1359年初鋳)	1片	5.15	「定」・「通」・「寳」の三字、 「天」の字も半分ほど残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	0.76	「寳」の一字が残存	
	1片	2.11	「洪」・「武」・「通」の三字が残存	
	1片	1.76	「武」・「通」の二字が残存	
洪武通寶(明1368年初鋳)	1片	2.92	「洪」・「通」・「寳」の三字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	0.77	「武」の一字が残存	
	1片	1.63	「洪」・「寳」の二字が残存	
洪武通寶(明1368年初鋳)	1片	0.39	「洪」の一字が残存 洪武通寶→「洪」・「通」・「寳」	
快风通真(例1300年初奶) 十	2片	3.76	の三字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
淳化元寶(北宋990年初鋳)	-/-		淳化通寶→「化」の一字が残存	
洪武通寶(明1368年初鋳)	2片	3.87	「洪」・「寳」の二字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
2枚付着銭	2/1	0.01		0 11 0001 A時放び1放石區   少加工面
	1片	1.84	「樂」・「通」・「寳」の三字、 「寳」の字も半分ほど残存	
	1片	1.22	「永」の一字が残存	
永樂通寶(明1408年初鋳)	1片	0.70	「樂」の一字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	0.81	「永」の一字が残存	
	1片	3.35	「永」・「樂」・「通」の三字が残存	
	1片	1.00	「樂」の一字が残存	
永樂通寶(中世末期~近世初頭)	1片	2.22	「樂」・「寳」の二字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
無文銭(初鋳年不明)	1片	0.73	-	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片	0.69		C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
	1片 1片	1.57	「通」・「寳」の二字が残存	
	1片	1.24	「元」・「寳」の二字が残存 「元」・「寳」の二字が残存	
	1片	0.69	「元」の一字が残存	
	1片	0.76	「元」の一字が残存	
	1片	0.37	「元」の一字が残存	
	1片	1.40	「〇」・「通」の二字が残存	
	1片	1.34	「○」・「寳」の二字が残存	
	1片	2.25	「〇」・「通」の二字が残存(付着物あり)	
	1片	1.20	「通」の一字が残存	
	1片	0.57	「通」の一字が残存	
	1片	0.88	「通」の一字が残存	
	1片	0.45	「通」の一字が残存	
	1片	1.61	「通」の一字が残存	
	1片	0.68	「通」の一字が残存	
	1片	0.72	「通」の一字が残存	
	1片	0.45	「通」の一字が残存	C-11 SS04-A磚敷き内敷石直下の焼土面
不明銭貨	1片 1片	1.22	「通」の一字が残存	∪ 11 3304-A(特別なP)別4 但 F(V)焼土田
177184. 貝	1万	0.76	「寳」の一子が残存	
	1片	0.76	「寳」の一字が残存	
	1片	0.89	「寳」の一字が残存	
	1片	1.04	「寳」の一字が残存	
	1片	0.69	「寳」の一字が残存	
	1片	1.23	「寳」の一字が残存	
	1片	0.61	「寳」の一字が残存	
	1片	0.68	「寳」の一字が残存	
	1片	0.69	「寳」の一字が残存	
	1片	0.67	「寳」の一字が残存	
	1片	0.37	「寳」の一字が残存	
	1片	1.34	「寶」の字款の一部が残存	
	2片	2.95	判読不可(2枚付着銭)	
	7片	6.07	_	
	23片+X	27.29		
	1 11.	15.38 0.47	- 「寳」の一字が残存	C-10 SS04-A第3層(フーチン近く)
	1片	1.91	- [ ] ( ) 丁//-/(文付 ) -	C-10 SS04 A第3層(フーチン近く)

#### 第98表① 石敷きSS04-A 銭貨観察一覧

単位:mm/g

第98表	<u>U</u> 1	コ	できSS	004	<u> </u>	攻	. 貝1	観察-	一覧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読ュ	状	書	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断面	i計測	部位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	み方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	里里	<b></b>	出土層
第57図 図版47 1	開元通寶	公鋳銭	唐 621年	銅銭	対読	破損	篆書	1 1	1 1		1.31	0.84	1.22	0.96	1/4強が残存。字款は「開」の一字のみ残存。 面の肉郭の幅は1.66mmを測る。背は肉郭の 幅が一定せず1.55~2.73mmと無駄がある。 背に浮文の月が確認できることから「背上月」 の範疇にある。二次的な火熱を受けている。 特に面の一部は火熱の影響でケロイド状とな る。面と背では緑青以外に鉄錆の付着がみら れる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直上 焼土面
" " 2	景徳元寶	公鋳銭	北宋 1004 年	銅銭	回読	破損	真書	1 1	_	_ _	1.84	1.09	1.20	1.39	1/3強が残存する。残存する字款は「景」・「徳」の二字がみられる。「景」の字款が半分近く欠落する。二次的な火熱を受けて破断面や背に溶解・凝固した塊が付着する。特に背は著しく肉郭の位置が確認しにくい。面の肉郭に幅は2.45~2.66mmを測る。表裏面とも緑青がみられるが、特に背は二次的な火熱や緑青の浸食が著しく、ケロイドや微細なアバタ状となる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
,, ,, 3	治平元寶(左)+	公鋳銭	北宋 1038 年(右) + 北宋 1064 年 (左)	銅銭	対読(右)+回読(左)	破損	家書				宋 1.70 + 治 1.88	宋 1.20 + 治 1.64	宋 1.47 + 治 1.35	宋 0.89 + 治 1.03	皇宋通寶と治平元寶の破片が二次的な火熱を受けて溶解して癒着した資料である。2枚とも1/4弱の破片である。右側は皇宋通寶の「宋」の字款がみられる。左側は治平元寶の「治」の字款が残存する。面の肉郭の幅は、左側の治平元寶が2.70mm、右側の皇宋通寶は2.67mmを測った。背の肉郭は、左側が不鮮明であるが3.25~3.99mmと幅広である。右側は肉郭が火熱溶解による癒着箇所のため、不明。面と背には緑青がみられるが、特に背は火熱溶解後に石灰質の砂粒や砂岩(ニービヌフニ)の細片などを取り込んで凝固している。	SS04-A 磚敷内 敷石直下
" " 4	皇宋通寶	公鋳銭	北宋 1038 年	銅銭	対読	破損	篆書	_ 24.99	_ 21.33	8.00	1.03	0.48	0.68	1.48	1/2以上が残存する。残存する字款は「皇」・「通」・「寶」の三字がみられるが、「通」の字款が半分近く欠落する。面の肉郭の幅は1.60~1.95mmを測る。背の肉郭は面よりも1.74~3.50mmと幅広である。面は摩滅し字款がやや不鮮明である。表裏面とも緑青がみられる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 5	至和元寶	不明	北宋 1054 年	銅銭	回読	破損	篆書		1 1		1.34	0.81	1.13	1.24	1/3近くが残存する。残存する字款は「和」の 一字のみ確認できる。面の肉郭の幅は2.04~ 2.58mmを測る。背の肉郭は面よりも幅広 (2.87~4.51mm)であるが鋳型のズレで肉郭 もズレて重なる。面と背に緑青がみられる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
,, ,, 6	熈寧元寶	公鋳銭	北宋 1068 年	銅銭	回読	完形		24.48 24.35			1.29	0.79	1.14	3.87	完形の銭。二次的な火熱を受けて両面が黒く変色する。面には火熱で溶解して再凝固の際に細かい石英や鉄片などが付着する。面の肉郭の幅は1.33~1.92mmを測る。背の肉郭は面よりも幅広(2.15~3.54mm)である。二次的な火熱を受けた影響で緑青の発生が背にのみ限定されている。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 7	正隆元寶	公鋳銭	金 1157 年	銅銭	回読	破損		_	_		2.46	_	_	3.28	1/2強が残存する銭で、別の銭貨が二次的な 火熱を受けて重なって付着する。正隆元寶の 字款で「正」・「寶」の二字が残存する。別個体 の銭は、「寶」の一字のみが確認できる。別画 も二次的な火熱を受けて銭素材が溶解して 完全に癒着している。裏面は特に緑青による 浸食が著しく破断面の銭素材が青白色となり 空洞化が進行している。両面とも緑青や火熱 の影響を受けて面の保持は悪く、ケロイド状 やアバタ状になる部分が散見される。表面の 正隆元寶は肉郭の幅が1.27mmと狭く。裏面 の「寶」は、肉郭の幅が2.61mmと幅広である。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面



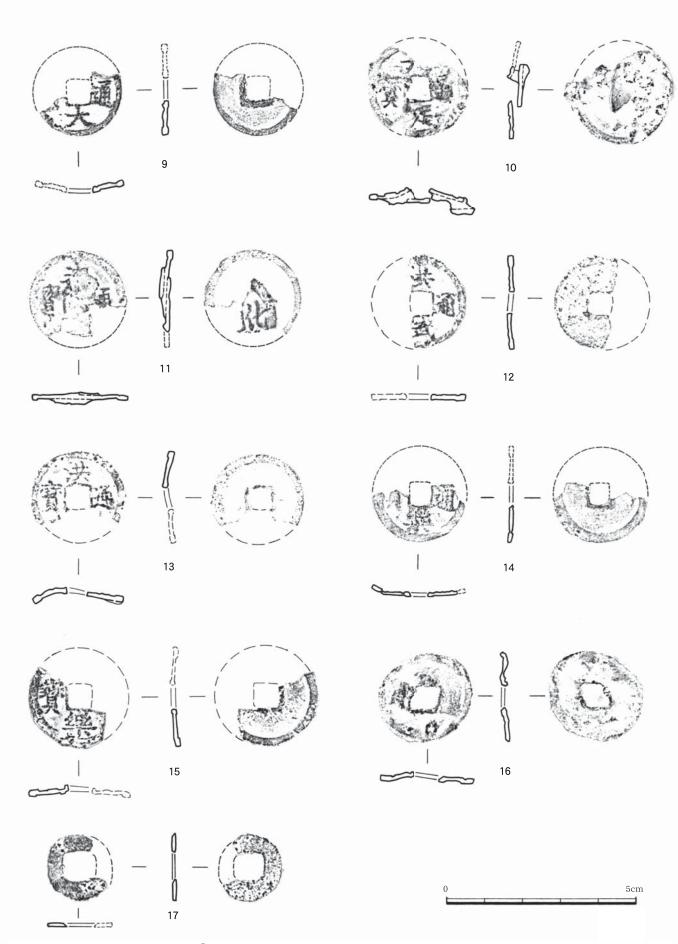
第57図 石敷きSS04-A出土品② 銭貨:1~8

#### 第98表② 石敷きSS04-A 銭貨観察一覧

単位:mm/g

第98表	<u> </u>	コ	きSSO	14 /	٦ .	火天 5	見制	7.57	·覧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読み方	状	書	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断ī	<b>五計測</b> 音	77位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	里里	<b>観</b> 宗 尹 垻	出土層
第57図 図版47 8	皇宋元寶	公鋳銭	南宋 1253年	鉄銭	回読	破損		_ _	<u>-</u>	_ 7.16	0.89	0.65	0.81	1.70	1/2程度残存する。明確に残存する字款は「皇」・「寶」の二字であるが、「元」の字款の一部が僅かに確認できる。背に「六」の字款がみられる。面の肉郭の幅は1.61~2.14mmを測る。背の肉郭は面よりも幅広(1.71~3.09mm)である。面の字款は背よりも鮮明である。緑青は面よりも背で多く観察できる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
第58図 図版48 9	至大通寶	不明	元 1310年	銅銭	対読	破損	楷書	_ _	_		1.87	0.98	1.53	2.24	1/2弱が残存する。明確に残存する字款は「大」・「通」の二字であるが、「寶」の字款の一部が僅かに確認できる。面の肉郭の幅は1.38~1.80mmを測る。背の肉郭は面よりも若干幅広(1.58~2.00mm)である。面の字款は深く鋳造され鮮明である。緑青は背よりも面で多く観察され微細なアバタ状となる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 10	大定通寶or天定通寶	公鋳銭	金 1178年 ・ 天完 1359年	銅銭	対読	破損	楷書				1.89	_	-	5.15	4/5弱が残存する。明確に残存する字款は「定」・「通」・「寶」の三字で、「天」の字款が半分程度欠落する。二次的な火熱を受けて背に割れた銭の細片や破片などが付着する。面も火熱による影響を受けて溶解やケロイドとなる部分が多くみられる。面の肉郭の幅は1.63~1.78mmを測る。背の肉郭は1.48~1.55mmと面より幅が狭い。二次的な火熱を受けた際に面は、遺構面であった細粒砂岩(ニービヌフニ)に付着した状態で焼けた為、細粒砂岩の一部を取り込んでいる。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 11	洪武通寶+淳化元寶	不明	明 1368年 + 北宋 990年	不明	対読+回読	破損	楷書+行書		_ _		1.42	0.48	-	3.76	1/3強が残存。面の字款は「洪」・「通」・ 「寶」の三字を配置するが、「洪」の字款の上に他の銭の細片が重なっている。「通」の字款は半欠し、「寶」は二次的な火熱を受けて溶解して判読できない。背には、淳化通寶の「化」の字款のみが破片として付着し、字款が鮮明に確認できる。面の肉郭の幅は1.65~2.15mmを測る。背は1.51~2.42mmを測った。参考までに淳化通寶の「化」の部分の肉郭の幅は2.51~2.83mmであった。背は面よりも器面の保持が良好で緑青の影響は軽微で緑青が確認しにくい。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 12	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書	24.06	19.85	_ 5.6	1.88	1.10	1.40	2.11	1/2強が残存。字款は「洪」・「武」・「通」の 三字が残存する。面の肉郭の幅は1.59~ 2.52mmを測る。背は1.60~2.15mmを 測った。緑青は両面でみられるが、特に 背が著しく全面に広がっている。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 13	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年		対読	破損	楷書	_ 24.46	_ 20.71	6.79	1.71	0.98	1.45	2.92	幅は1.60~2.21mmを測る。背は1.53~ 2.59mmを測った。緑青の影響により両面 で粗細な錆膨れがみられる。特に背の一 部に鉄錆が付着する。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 14	永樂通寶	公鋳銭	明 1408年	銅銭	対読	破損	楷書	_ _	_	5.99 _	1.25	0.62	0.95	1.84	1/2強が残存。面の字款は「樂」・「通」・ 「寶」の三字を配置するが、「寶」の字款が 半分程度欠損する。面の肉郭の幅は1.95 ~2.26mmを測る。背は1.88~2.82mmを 測った。緑青は背よりも面で多くみられ る。	C-10 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面

| \_\_\_\_\_| | \_\_\_| 注「一」:計測不可



第58図 石敷きSS04-A出土品③ 銭貨:9~17

## 第98表③ 石敷きSS04-A 銭貨観察一覧

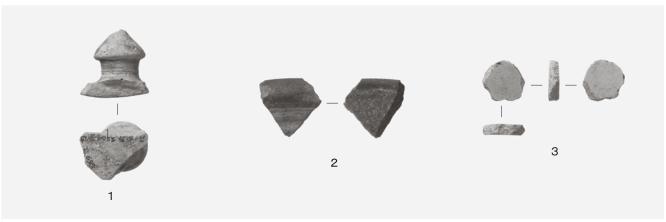
単位:mm/g

TO TO	<u> </u>	<del>-</del> ///		• •	• ;	و مرد	~ =>	/U /J\	元							<u> </u>
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読み方	状態	書	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断面	百計測音	邓位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	里里	既 示 ザ 火	出土層
第58図 図版48 15	永樂通寶	公鋳銭	明 1408年	銅銭	対読	破損	楷書				1.70	1.04	1.49	2.22	1/2強が残存。面の字款は「樂」・「寶」の 二字が残存する。二次的な火熱を受けて 面の一部が溶解し、溶解箇所に緑青が 集中する。背は緑青で薄く覆われてい る。面の肉郭の幅は2.34mmを測る。背は 1.62~1.74mmを測る。	C-11 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 16	不明	不明	不明	銅銭			l		21.12 21.07		1.09	0.57	_	1.57	二次的な火熱を受けて楕円形状に変形した完形の銭。面の字款は「通」・「寶」の二字が確認できるが、肝要な二字が火熱による溶解や摩耗などで判読ができない。背も火熱・溶解や緑青の影響で器面の保持が悪い。	C-11 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面
" " 17	無文銭	模鋳銭	不明	銅銭		破損		_ 17.40		_ _	0.91	_	-	0.73	1/4程度が欠落する無文銭。面・背には 肉郭は無いが、面に孔郭(幅0.40~ 0.76mm)が僅かに薄く観察できる。外周 縁辺部が二次的な火熱や緑青の影響で 部分的に縁辺部が虫食い状態で欠落す る。両面とも火熱や緑青の影響を受けて 器面がケロイド状や微細なアバタ状となる 部分がみられる。	C-11 SS04-A 磚敷内 敷石直下 の焼土面

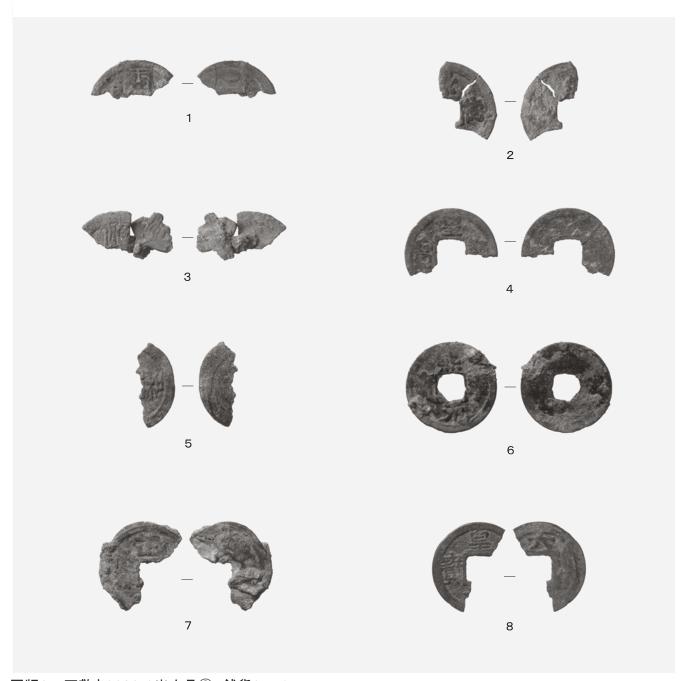
注「一」:計測不可

## 第99表 石敷きSS04-A 出土遺物状況

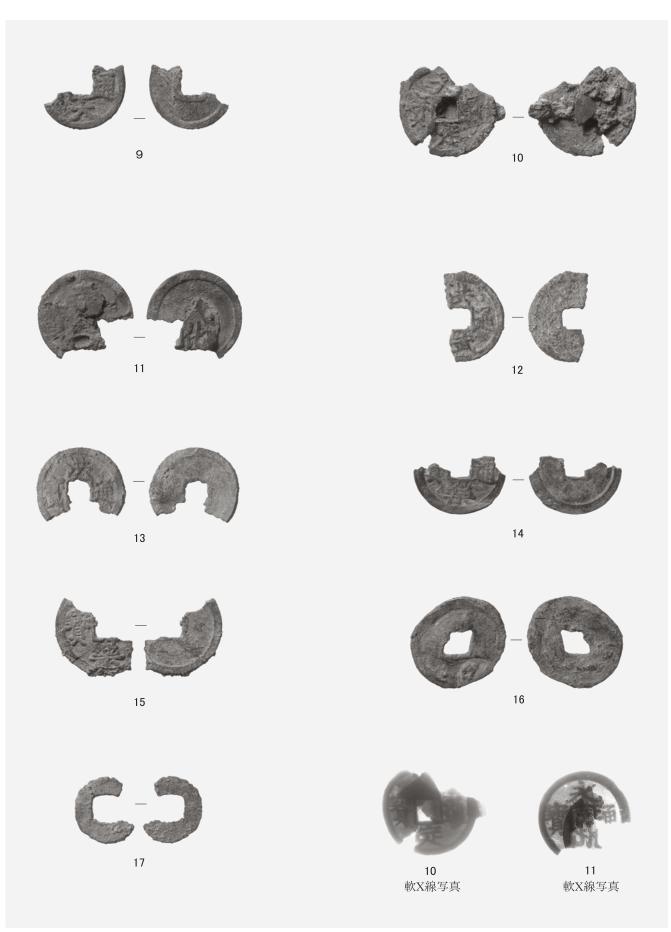
第99表 石敷包	SS04-A 出	土遉物	大况								
				層序			C-10	)			
							SS04-	·A			
	種類・分類・器種	<ul><li>部位</li></ul>			磚敷内 敷石直下 の焼土面	第2層a	第2層f (西側栗石内 遺構直下)	第3層 (フーチン近く)	東側 第3層a	南側 第3層a	合計
	高麗系		灰色	漆喰						3	3
屋瓦	明朝系	平瓦	赤色	無し				2			2
	合 計	<u>'</u>		_	0	0	0	2	0	3	5
	碗	口縁部	外反	無文	1						1
青磁	·	胴部	有						1		1
	盤	胴部	無	文			1				1
	合 計				1	0	1	0	1	0	3
中国産褐釉陶器	壺	口縁部	方	形					1		1
		胴部			12	1	17	7	51		88
	合 計				12	1	17	7	52	0	89
タイ産土器(半練)	蓋	撮み							1		1
	合 計				0	0	0	0	1	0	1
タイ産	壺	口縁部						1			1
褐釉陶器		胴部							3		3
	合 計				0	0	0	1	3	0	4
石材		泣砂岩(ニー	t')					1			1
	合 計				0	0	0	1	0	0	1
円盤状製品		国産褐釉陶	器						1		1
	合 計	_			0	0	0	0	1	0	1
金属製品	工具類· 生産用具 角釘	頭部 欠損	サイズ 不明	鉄	1						1
	合 計				1	0	0	0	0	0	1
ガラス製品		板ガラス						1			1
	合 計				0	0	0	1	0	0	1



図版46 石敷きSS04-A出土品① タイ産土器 (半練):1、タイ産褐釉陶器:2、円盤状製品:3



図版47 石敷きSS04-A出土品② 銭貨1~8



図版48 石敷きSS04-A出土品③ 銭貨:9~17

#### (15) 石敷き SS04-B の出土遺物 (第59図~第61図、第100表~第104表、図版49・50)

石敷き SS04-B から出土した遺物の種類は、第 4 表に呈示したように総計で 412 点 (≒100%) が得られている。 出土遺物の内訳は、土器 3 点 (0.73%)、瓦類 62 点 (15.05%)、青磁 3 点 (0.73%)、中国産褐釉陶器 201 点 (48.79%)、沖縄産施釉陶器 1 点 (0.24%)、タイ産褐釉陶器 8 点 (1.94%)の 13 種類が確認されている。 輸入陶磁器 (タイ産、中国産)の占める割合は、51.70%であった。

当該遺構の時期に伴う遺物として呈示ができた資料は、中国産褐釉陶器(第59図2・3)とタイ産土器(同図4)がある。なお、出土遺物の大半は細片化した資料が多く、その中から比較的に大きな破片資料や特徴的な資料を図示(第59図~第61図)した。

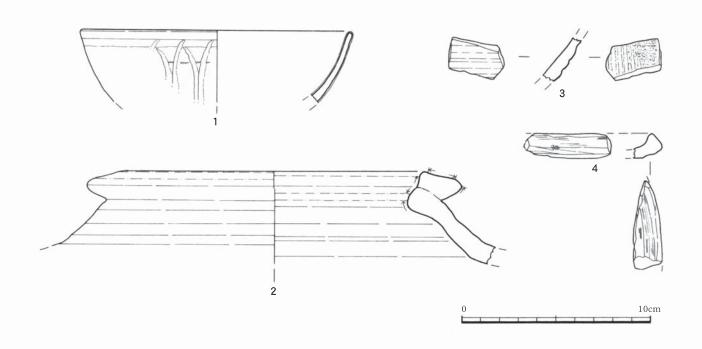
第100表 石敷きSS04-B 青磁・中国産褐釉陶器・タイ産土器(半練)出土状況

THE TAMES		TJ FAA		TO THE POOL	IH / 1/-	<u> </u>
			層序			C-10
						SS04-B
	種類:	·器種·部位	I.			敷石直下 第2層f
	碗	口縁部	直口	蓮弁文	箆彫り	1
青磁	11/713	胴部		無文		1
	Ш	底部		文様不明	]	1
		合 計				3
	擂鉢		胴	部		1
		口縁部		方形状		5
中国産褐釉陶器	壺		頸	部		1
	强		胴	部		193
			底	部		1
		合 計				201
タイ産土器(半練)	蓋	蓋端部		VII類		1
		合 計				1

#### 第101表 石敷きSS04-B 青磁・中国産褐釉陶器・タイ産土器(半練)観察一覧

第101表	石敷を	<u></u> \$SS	04-B	青磁·	中国産褐釉陶器・タイ産土器(半練)観察一覧	単位:cm
挿図番号 図版番号 遺物番号	名称•6	反称	部位	口径 器高 底径	観察事項(素地・混入物・色調・釉色等)	出土地点 出土層
第59図 図版49 1	無鎬蓮弁文	碗	口縁部	_	器形:直口口縁碗。文様:外面に篦彫りで弁先が僅かに開いた蓮弁文を描く。素地:光沢のある淡灰色の微粒子。釉色:明緑色で、貫入はない。龍泉窯系。14c後半~15c前半。	SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 2	中国産	壺	口縁部	19.8 _ _	器形:口縁部の縦断面が歪な隅丸方形状の肥厚口縁とする怒り肩の壷。内面口縁の肥厚帯部分を浅く凹ませて蓋受けの溝を造る。文様:轆轤引きで陽圏線一条を加えて表現か。器面調整:釉上からの観察では両面とも轆轤痕が顕著にみられる。素地:淡灰色~茶紫色の粗粒子で、粗細な石英と茶褐色の物質を少量含む。色調:両面に茶褐色の釉を施すが、口唇部の両端部の釉を掻き取って露胎とする。中国南部の窯。15c~16c。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 3	褐釉陶器	擂鉢	胴部	_	器形:器厚の厚みから判断すると碗形の擂鉢が想定される。文様:内面に櫛目幅が幅広となる櫛状の工具(幅1.70mm)で縦位方向に6条の摺目を施したようであるが、櫛目は6条以上の単位が考えられる。器面調整:外面は雑な轆轤痕がナデ消されるが徹底していない。内面には回転擦痕がみられる。素地:灰色の細粒子で、微細な鉱物(石英、黒色)を少量含む。稀に粗い石英がみられる。釉色:外面の胴部に茶褐色の釉が施されている。内面は露胎する。色調:両面とも淡灰白色を帯びる。中国南部の窯。15c~16c。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 4	タイ産土器	VII 類	蓋の縁	_	器形:蓋の縁辺部の縦断面が歪な隅丸三角形状の突帯を造る落とし蓋。文様:下面の縁沿いに回転擦痕で幅広(4.8mm)に窪ませて圏線様に仕上げる。器面調整:上面は丁寧な回転擦痕を施す。下面は雑な回転擦痕を加える。蓋縁の突帯部分は刷毛目様の擦痕を施してるが雑である。素地:灰白色の粗粒子で、粗細な鉱物(石英、黒色、茶褐色)を多量に含む。色調:下面が明橙色で、上面が黄白色を帯びる。焼成:良好で堅い。15c~16c。	SS04-B 敷石直下 第2層f

注「一」:計測不可



第59図 石敷きSS04-B出土品① 青磁:1、中国産褐釉陶器:2・3、タイ産土器(半練):4

第102表① 石敷きSS04-B 二次的火熱溶解銭貨

銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層		
開元通寶(唐621年初鋳)	1片	1.34	「開」・「寳」の二字が残存			
or (唐845年初鋳)	1片	0.92	「開」・「通」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
or	1片	0.81	「開」・「寳」の二字が残存			
(南唐960年初鋳)	1片	1.01	「開」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
太平通寶(北宋976年初鋳)	1片	1.14	「平」・「通」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
至道元寶(北宋995年初鋳)	1片	0.79	「至」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
咸平元寶(北宋998年初鋳)	1片	2.12	「平」・「元」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1片	0.68	「咸」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
景德元寶(北宋1004年初鋳)	1片	0.68	「景」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1片	0.52	「元」の一字が残存			
祥符通寶(北宋1009年初鋳)	1片 1片	1.09	「祥」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1万	1.31	「元」・「寳」二字が残存	 C-10 SS04-B 敷石直上		
景祐元寶(北宋1034年初鋳)	1万	1.31	「景」・「寳」二子が残存	C-10 SS04-B 敷石直上 C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
景祐元寶 ? (北宋1034年初鋳)	1万	0.37	「元」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
皇宋通寶(北宋1038年初鋳)	1万	2.04	「宋」・「通」二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1片	1.44	「祐」・「通」二字が残存			
嘉祐通寶(北宋1056年初鋳)	1片	0.42	「祐」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1片	1.08	「寧」の一字が残存			
	1片	1.38	「熈」・「寧」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
阿尔 一篇(小小1000年为4)	1片	1.16	「熈」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
熈寧元寶(北宋1068年初鋳)	1片	1.15	「熈」・「寧」の二字が残存			
	1片	2.00	「熈」・「寳」の二字以外に、 「寧」のウ冠が僅かに残存	C-10 5504-D		
元豊通寶(北宋1078年初鋳)	1片	1.44	「元」・「豊」の二字が残存			
儿豆迪貝(北木1076牛奶姆)	1片	1.50	「元」・「豊」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
元豊通寶(北宋1078年初鋳)折二銭	1片	2.00	「豊」・「通」の二字が残存			
元豊通寶(北宋1078年初鋳) or 元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1片	1.54	「元」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
元祐通寶(北宋1086年初鋳)	1片	0.87	「通」の一字以外に「寳」の字の一部 が僅かに残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
元祐通寶(北宋1086年初鋳) or 元豊通寶(北宋1078年初鋳)	1片	1.23	「元」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
元豊通寶(北宋1078年初鋳) or 元祐通寶(北宋1086年初鋳) or 元符通寶(北宋1098年初鋳)	1片	0.97	「元」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
元祐通寶(北宋1086年初鋳) or 元符通寶(北宋1098年初鋳)	1片	2.88	「通」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
or 元豊通寶(北宋1078年初鋳)				<u></u>		
聖宋元寶(北宋1101年初鋳)	1片 1片 1片	1.22 1.79 5.98	「宋」・「元」の二字が残存 「宋」・「元」の二字が残存 折二銭	C-10 SS04-B 敷石直上		
	1片	1.16	「聖」・「宋」の二字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f		
政和通寶(北宋1111年初鋳)	1片 1片	0.86	「政」の一字が残存 「通」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		
宣和通寶(北宋1119年初鋳)	1片	1.31	「宣」・「寳」の二字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上		

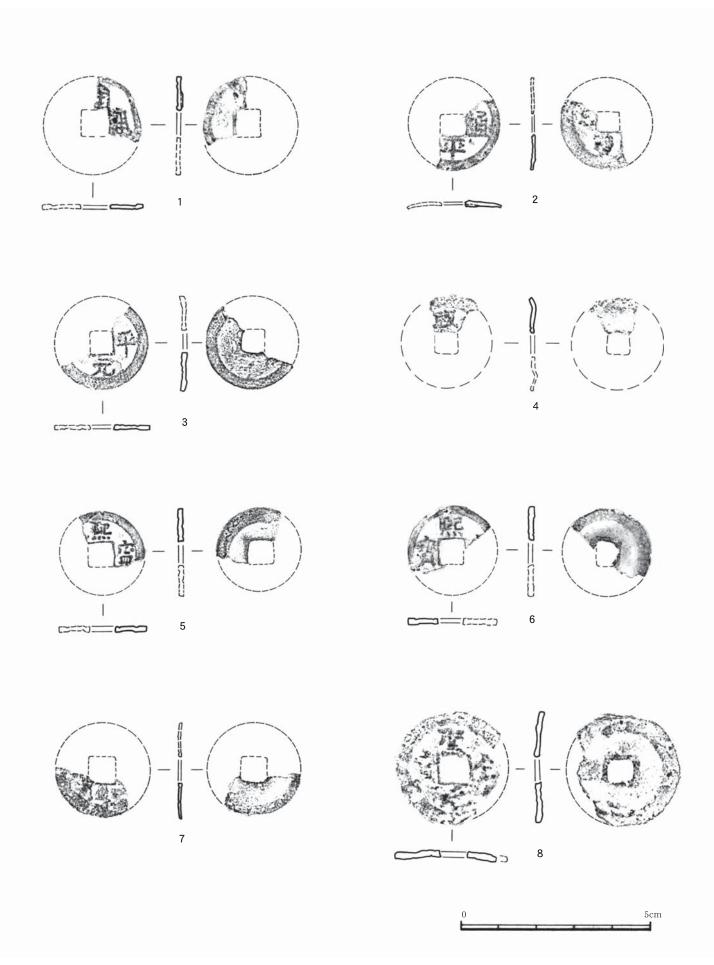
第102表② 石敷きSS04-B 二次的火熱溶解銭貨

第102表② 石敷きSS04-E	一人	リ人が	/ 合件				
銭名	片数	重量(g)	残存状況	出土層			
	1片	2.83	「武」・「通」・「寳」の三字が残存				
	1片	1.63	「洪」・「通」の二字が残存				
	1片	2.03	「洪」・「通」の二字が残存				
	1片	2.40	「洪」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上			
洪武通寶(明1368年初鋳)	1片	0.97	「洪」の一字が残存				
供此題貝(約1300十初两)	1片	2.12	「武」の一字、「通」・「寶」の 二字が半分ずつ残存				
	1片	1.54	「武」・「寳」の二字が残存				
	1片	0.76	「洪」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f			
	1片	2.85	「洪」・「武」・「寳」の三字が残存				
	1片	0.92	「通」の一字が残存				
う. 彼い圣 秦 (181 400 左 770年)	1片	0.44	「樂」の一字が残存	C 10 CC04 P 軟 7 支			
永樂通寶(明1408年初鋳)	1片	0.82	「永」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上			
	1片	0.86	「樂」の一字が残存				
淳化元寶or祥符元寶? (南北朝頃)	1片	0.97	「元」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f			
元豊通寶(中世末期~近世初頭)	1片	1.54	「元」・「豊」の二字が残存				
	1片	0.74	「元」・「寳」の二字が残存				
	1片	1.36	「元」・「寳」の二字が残存				
	1片	1.47	「〇」・「通」の二字が残存				
	1片	1.06	「通」の一字が残存				
	1片	1.03	「寳」の一字が残存				
	1片	0.68	「寳」の一字が残存	C-10 SS04-B 敷石直上			
	1片	0.45	「寳」の一字が残存				
	1片	0.71	「寳」の一字が残存				
	1片	1.20	「寳」の一字が残存				
	1片	0.91	「寳」の一字が残存				
	1片	0.78	「寳」の一字が残存				
	1片	0.84	判読不可				
不明銭貨	1片	0.66	「元」の一字が残存				
	1片	0.93	「通」の一字が残存				
	1片	0.46	「通」の一字が残存				
	1片	0.47	「通」の一字が残存				
	1片	2.89	「通」の一字が残存(2枚付着銭)				
	1片	0.86	「寳」の一字が残存				
	1片	0.49	「寳」の一字が残存	C-10 SS04-B敷石直下第2層f			
	1片	0.51	「寳」の一字が残存				
	1片	0.83	「寳」の一字が残存				
	1片	1.02	「寳」の一字が残存				
	1片	0.57	「寳」の一字が残存				
	16片+X	16.87	-				
	19片+X	16.48	-				
合 計		<b>※</b> 「X」:片	· 大数不明				

第103表① 石敷きSS04-B 銭貨観察一覧

単位:mm/ø

第103表		1	「敷きS	S0 <sup>2</sup>	1-B	重	<b>麦貨</b>	〔観祭	一覧							単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素材	読み方	状	書体	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断司	面計測	部位	重量	组农市百	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	ガ方	態	体	A B	C D	E F	1)	2	3	里里	観察事項	出土層
第60図 図版50 1	開元通寶	不明	唐621年 唐845年 南唐 960年	銅銭	対読	破損	真書		_ _		1.36	0.69	1.35	0.92	1/3弱が残存する。面の字款は深く鋳られ、「開」・「通」の二字が確認できるが、「開」・「通」の二字が確認できるが、「開」の字款が半分以上破損する。面の肉郭は背よりも鮮明であり、面の肉郭の幅は1.23~2.07mmを測る。背の肉郭は2.25mmと幅広である。背の一部に緑青による錆膨れがみられる。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 2	太平通寶	公鋳銭	北宋 976年	銅銭	対読	破損	_	_ _	_ _		1.11	0.42	0.78	1.14	1/3強が残存する。面の字款は深く鋳られ、「平」・「通」の二字が確認できるが銭本体の厚みは0.57mmと薄い。面の肉郭の幅は、2.15~2.65mmを測る。背の肉郭は2.73~3.15mmと面よりも幅広である。背の一部に緑青による地金への浸食がみられる。	C-10 SS04-B 敷石直上
,, ,, 3	咸平元寶	公鋳銭	北宋 998年	銅銭	回読	破損	真書	_ _ _	_ _ _	- 1	1.36	0.60	1.14	2.12	1/2強が残存する。面の字款は深く鋳られ、「平」・「元」の二字が確認できるが、銭本体の厚みは0.68~0.72mmと薄い。面の肉郭の幅は2.23~3.06mmを測り、背の肉郭が2.33~3.07mmを測った。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 4	咸平元寶	公鋳銭	北宋 998年	銅銭	回読	破損	真書			_	1.27	0.66	1.07	0.68	1/4弱が残存する。面の字款は「咸」の一字のみで字款が摩滅して判読しにくい。面の肉郭の幅は2.90mmを測り、背の肉郭は不鮮明で銭本体部分との境目が観察しにくいが3.24mmを測った。両面とも緑青がみられ微細なアバタ状となる。孔郭と外周縁辺部で部分的に緑青により微細な浸食がみられ青白色を帯びている。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
,, ,, 5	熈寧元寶	不明	北宋 1068年	銅銭	回読	破損	真書			_	1.43	0.89	1.36	1.38	1/2弱が残存する。面の字款は「熙」・「寧」の二字が確認できる。面の肉郭の幅は2.06~2.54mmを測る。背の肉郭は面よりも幅広で2.62~3.49mmを測った。背の肉郭の一部には緑青が瘡蓋の罅割れた状態で観察される。	C-10 SS04-B 敷石直上
,, ,, 6	熈寧元寶	公鋳銭	北宋 1068年	銅銭	回読	破損	真書			7.19 6.56	1.59	1.12	1.39	2.00	1/2弱が残存する。面の字款は「熙」・「寶」の二字以外に「寧」の字款のウ冠が僅かに確認できる。面の肉郭の幅は1.52~2.04mmを測る。背の肉郭は面よりも幅広で3.01~3.66mmを測った。外周縁辺部は部分的に緑青の浸食により銭縁の剥離や微細な錆膨れがみられる。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 7	元祐通寳	模鋳銭	北宋 1086年	銅銭	回読	破損	行書		<u>-</u>	_	0.92	0.57	_	0.87	1/3程度が残存する。面の字款は 「通」の一字以外に「寶」の字款の一 部が僅かに確認できる。面の肉郭の 幅は3.32mmを測る。背の肉郭は緑青 の浸食による影響が強く計測ができない。面や背は緑青が著しく器面の保 持が悪く、外周縁辺部(銭の縁)の一 部が微弱に欠落する。	C-10 SS04-B 敷石直上
,, ,, 8	聖宋元寶	不明	北宋 1101年	銅銭	回読	破損	行書	29.54	22.13	7.17 6.52	1.22	1.07	_	5.98	聖宋元寶の折二銭とみられるが、二次的な火熱を受けて面の字款が溶解してケロイド状となる。 肉郭の幅は面が3.04~3.33mm、背で3.95~4.09mmを測る。 背も二次的な火熱を受けてケロイド状となる。	C-10 SS04-B 敷石直上

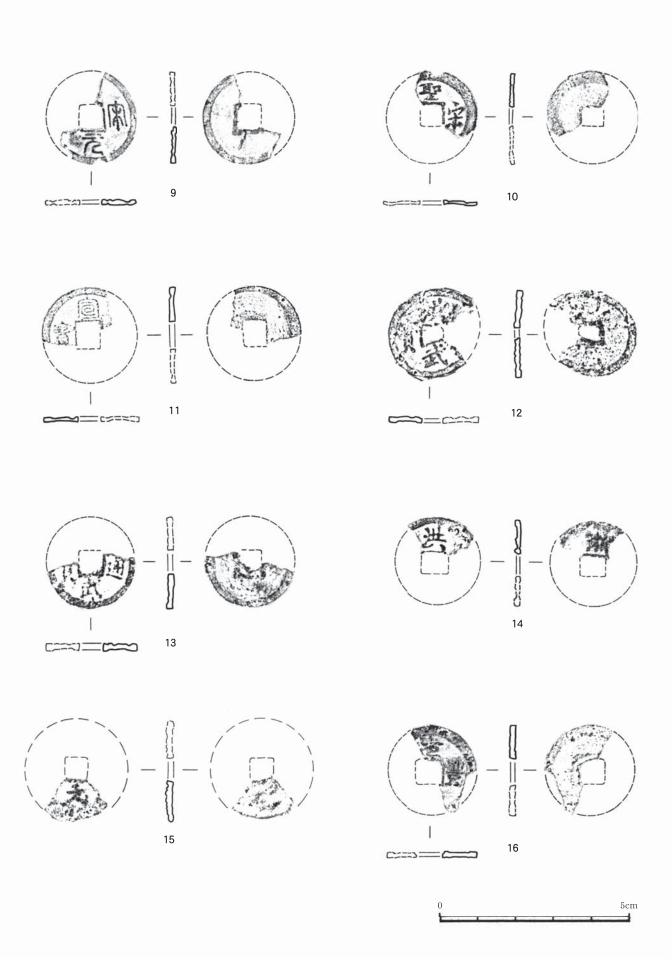


第60図 石敷きSS04-B出土品② 銭貨:1~8

## 第103表② 石敷きSS04-B 銭貨観察一覧

単位:mm/g

第103表	₹(2)	石:	敷きSS	504	<u>-В</u>	釪	し	観察								単位:mm/g
挿図番号 図版番号	銭	鋳造	初鋳	素	読み	状	書	肉郭 外径	肉郭 内径	方穿	断面	i計測	部位	重量	観察事項	出土地点
遺物番号	種	種類	年	材	方	態	体	A B	C D	E F	1	2	3	生生	机尔 于"只	出土層
第61図 図版50 9	聖宋元寶	公鋳銭	北宋 1101年	銅銭	回読	破損	篆書		<u>-</u> -		1.27	0.63	1.16	1.79	1/2強が残存する。面の字款は深く鋳られ、「宋」・「元」の二字が鮮明に確認できる。銭本体の字款がある部分は厚みが1.16mmと薄い。面の肉郭の幅は1.56~1.75mmを測る。背の肉郭は1.81~2.06mmと面よりも若干幅広である。二次的な火熱を受けて面の一部がケロイド状となる。破断した部分に緑青による微細な空洞が発生している。緑青は面・背でみられるが、特に背に集中する。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 10	聖宋元寶	公鋳銭	北宋 1101年	銅銭	回読	破損	行書			_	1.22	0.46	1.05	1.16	聖宋元寶の小平銭。1/3弱が残存する。面の字款は深く鋳られ、「聖」・「宋」の二字が鮮明に確認できる。面の肉郭の幅は2.63~2.75mmを測る。背の肉郭は2.97~3.02mmと面よりも若干幅広である。緑青は面・背でみられる器面が微弱なアバタ状となる。特に背には鉄分の付着もみられる。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 11	宣和通寶	不明	北宋 1119年	銅銭	対読	破損	篆書		1 1	6.20	1.52	0.82	1.22	1.31	1/3弱が残存する。面の字款は「宣」・「寳」の 二字が確認できる。面の肉郭の幅は1.62~ 2.02mmを測る。背の肉郭は1.07~2.49mmを 測る。二次的な火熱を受けて部分的に溶解 した状態で凝固する。緑青は面・背でみられ る。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 12	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書	22.06	18.80	4.82	1.51	0.79	1.39	2.85	洪武通寶の小平銭。1/4弱が欠落する。二次的な火熱を受けて楕円形状に変形して割れている。面の字款は「洪」・「武」・「寶」の三字が確認できる。面の肉郭の幅は1.83mmを測る。背の肉郭は2.01mmを測る。二次的な火熱を受けて部分的に溶解による再凝固や緑青の浸食が著しい。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
" " 13	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書		-		1.90	0.91	1.51	2.12	1/2弱が残存する。面の字款は「武」・「通」・「寶」の三字が確認できるが、「通」・「寶」の二字は半欠する。面の肉郭の幅は1.44~1.64mmを測る。背の肉郭は1.36~1.75mmを測る。二次的な火熱を受けて面の字款や孔郭が溶解による再凝固がみられる。背も緑青の浸食が著しく微細なアバタ状となる。孔郭の穴は溶解した銅素材により部分的に塞がっている。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 14	洪武通寶	公鋳銭	明 1368年	銅銭	対読	破損	楷書	_ _	_ _	1	1.44	0.67	1.17	0.97	1/4弱が残存する。面の字款は「洪」の一字のみ残存する。背の上には「淅(背上淅)」と薄く鋳されている事から背文字から鋳造地は、淅江省杭州で鋳造された洪武通寶と判断できるが背の肉郭が不鮮明であることから模鋳銭の可能性もある。面の肉郭の幅は1.40~1.88mmを測る。背の肉郭は不鮮明であった為、計測を保留した。二次的な火熱を受けて面に砂粒などを取り込んでいる。面は緑青の影響で白色の粉が付着した状態である。背も緑青が全体的に広がっている。	C-10 SS04-B 敷石直上
" " 15	祥符元寶? 淳化元寶 o r	模鋳銭	南北朝頃	銅銭	対読	破損	草書		<u>-</u>	_ _ _	1.14	0.69	0.87	0.80	1/4弱が残存する。字款は「元」の一字のみ確認できる。面の肉郭の幅は3.51mmと幅広であるが、背の肉郭が鋳られていないことから模鋳銭(島銭)として判断できる。二次的な火熱の影響を強く受けた為、面全体が起伏のあるケロイド状態となる。背は火熱の影響が微弱であるがケロイド状となる。両面とも緑青がみられる。	C-10 SS04-B 敷石直下 第2層f
"" 16	元豊通寶	模鋳銭	中世末 期~近 世初頭	銅銭	回読		篆書	_	-	_ _	1.51	0.91	1.25	1.54	1/2弱が残存する。字款は「元」と「豊」の二字のみ確認できる。面の肉郭の幅は2.56~3.09mmで、背が2.36~3.16mmを測る。緑青による面や背の一部で器面の剥落や破断面の一部では緑青による浸食で地金素材が失われて青白色となる。	C-10 SS04-B 敷石直上



第61図 石敷きSS04-B出土品③ 銭貨:9~16

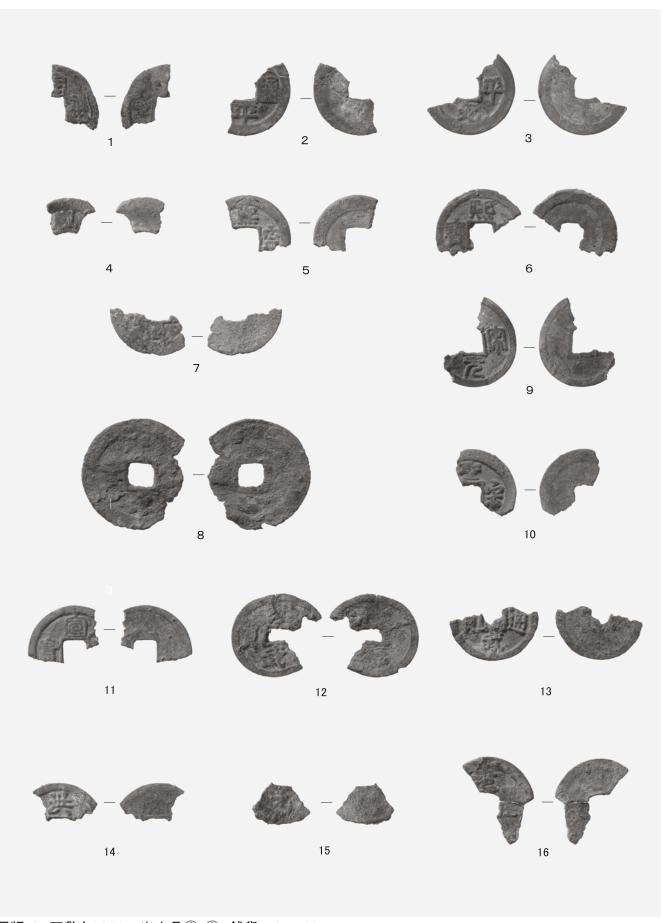
第104表 石敷きSS04-B 出土遺物状況(図版外)

第104表 石製	C 3304-E	0 山上退代	<u> </u>	<u>ノ</u> 層序		C-10
				/EI/1		
				_		SS04-B
		種類·器種				敷石直下第2層f
土器	器種不明		胴部			3
		合 計				3
	高麗系	平瓦	灰色	漆喰		1
	大和(古)	平瓦	灰色	漆喰		1
	大和	丸瓦	灰色	漆喰有り		1
	70/16	平瓦		漆喰有り		1
			灰色	漆喰有り		4
		丸瓦	八己	漆喰		2 8
			赤色	漆喰有り		8
屋瓦			亦巴	漆喰		1
			成各	漆喰有り	)(片面)	3 7
	明朝系		灰色	漆喰		7
			加左	漆喰有り	)(片面)	1
		平瓦	褐色	漆喰	無し	7
				漆喰有り		1
			赤色	漆喰有り		6
				漆喰		12
		合 計				56
		形状不明a	赤色			3
塼瓦	Ⅲ類				for 6-15	1
,,,,		形状不明b	赤色	漆喰無し	角無し	1
 煉瓦	IV類	_		-		
/// 2-0	11 //	合 計				1 6
タイ産褐釉陶器	壺	н н	胴部			8
2 1/至1G//面P976F	HE.	合 計				8
本土産磁器	碗	胴部		<u></u> 丘現		1
7 L/E W/10	H/E	合 計				1
本土産陶器	壺	н н	胴部			1
/T^_L/±\PU\fib	- Hi2.	合 計				1
沖縄産施釉陶器	瓶	ц п	口縁部			1
177/吨/生/心相冲的	JIZI,	合 計				1
 石製品		Ц П	石弾			1
71 次印		合 計				1
 石材			細粒砂岩(ニービ)			5
 自然石		Л	河原石			1
日於口		- 合 計				6
		口 司		大	£4-	
			完形		鉄	1
	工具類•	A AT		中中	鉄	1
△ 艮 集 □ □	生産用具	角釘	先端部欠損	中	鉄	3
金属製品				小	鉄	1
			先端+頭部欠損 砲弾片	中	鉄	1
	武器		鉄	5		
	分類不明		用途不明		青銅	1
		合 計	•			13

注 釘のサイズは、大:5寸半以上(15.75cm以上)、中:1寸半~5寸まで(3.75cm~15.75cm未満)、小:1寸まで(3.75cm未満)



図版49 石敷きSS04-B出土品① 青磁:1、中国産褐釉陶器:2・3、タイ産土器(半練):4



図版50 石敷きSS04-B出土品②·③ 銭貨:1~16

## 報告書抄録

				11/4	• • •										
ふりがな	しゅ	りじょうあ	と												
書 名	首里持	首里城跡													
副書名	京の国	京の内跡発掘調査報告書(V) 平成6年度調査の遺物編(2)													
巻次	_	_													
シリーズ名	沖縄リ	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書													
シリーズ番号	第734	第73集													
編著者名	金城1	金城亀信・瑞慶覧尚美・伊藤恵美利													
編集機関	沖縄!	沖縄県立埋蔵文化財センター													
所 在 地	〒903	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL 098-835-8751・8752													
発行年月日	20144	2014年3月31日													
ふりがな	ふり	りがな	7	ード	北緯	東経	調本期間	発掘面積	調本百日						
収録遺跡名	所	所 在 地 市町村 遺跡番号 。 / // 。 / // 調査期間													
しゅりじょうあと 首里城跡	26° 12′ 127° 43′ 18.24229″   1994. 11. 21   2,000   国営首里城公園整   26° 12′ 127° 43′ 18.93019″   1994. 11. 21   2,000   国営首里城公園整   26° 12′ 127° 43′														
所収遺跡名	種別	主な時代		上 な 遺	<u> </u>	主な	· :遺物	l l	特記事項						
育里城跡	祭。空間	中世・近世	区画石	石積み、塼	敷きなど	中国産(青磁器・関係の できない できない できない できない できない できない できない できない	・ 白磁・青土・ 白磁・産(土・ ) 年本・ 大神 (土・ ) 年本・ 大神 (土・ ) 東州 (北・ ) 東州	し磁たで中首一が定13刊未一と刊検年構世世成世石際て発製得倉類陶162平東を2513刊未一と刊検年構世世成世石際で発製得庫を磁の47京属資产平報で料合では6時中年初き使うにをれたりで、製料(で成業を) で成れて期半頃度頭Sのしばり透り出るの製料(で成者を)と資金を下期半頃度頭Sのしばり透ります。	特記事項 がら1459年の火災により焼失 が終掘された。この倉庫より陶 と体とする一括資料が得られ と類の整理・分類の結果、推定 体を数えた。これらの一沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 は12年6月27日付けで「沖縄県 の内跡出土陶磁器518点 がガラス玉ー括」 は12年3月に東京で、は対 の年3月には、平成21年の下、近半を報告した。平成22年3月によいの下ででで、対 の本数には、平成6年度調平成23は6年度調とは、平成6年度調を成23は6年度調となれた。 に14世紀出土と、第1世紀と半)には第1世紀と半)には第1世紀と半)には、平はの出土品について、東京が、東京のの上、大・第1世紀を半、大・第1が期(15世紀を半)にある3-Bから「原本:字款が、東京されを表示・す貴重なで「皇本・ことを示す貴重なで、東京で、東京が、東京で、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が、東京が						

要 約

昭和61年度に自里城公園計画区内約18haの内、自里城内郭の約4haか国宮公園区域として整備することが閣議決定された。復元整備に伴う遺構確認調査は、昭和63年度から内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所との委託を沖縄県教育委員会が受けて、南殿・北殿・御庭地区などの遺構確認調査を実施し、平成4年度に首里城正殿・南殿・北殿などが復元整備され一部が開園した。未整備地区であった「京の内」地区の復元整備が課題となり、整備に必要な基礎資料を得る目的で平成6年度から平成9年度までの四カ年間に亘って発掘調査を実施した。その内、報告(平成6年度調査の国の重要文化財が出土した土壙8K01及び石積み8A33・34)済みを除く、平成6年度調査の全ての遺構について平成22年度に報告を行った。平成23年度は、平成6年度調査で遺構を6時期に分類した中で、第1期(14世紀前半~14世紀後半)から第Ⅲ期(15世紀中頃)までの出土遺物(造成層や攪乱層を含む)について報告をおこなった。今回は、第Ⅳ期(15世紀後半~16世紀初頭)までの出土品(造成層や攪乱層を含む)を報告する。

沖縄県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第73集

# 首 里 城 跡

一京の内跡発掘調査報告書(V) — 平成6年度調査の遺物編(2)

発 行 年 平成 26 (2014) 年 3 月 31 日

発 行 沖縄県立埋蔵文化財センター

編 集 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 TEL 098 (835) 8751・8752

印 刷 有限会社 ふたば印刷 〒901-0153 沖縄県那覇市宇栄原 3-15-6 TEL 098 (858) 2211

© 沖縄県立埋蔵文化財センター 2014 Printed in Japan 許可無く本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。